

日本の文化

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHU201
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	日本の文化
科目責任者	斉藤 靖之
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	11000501 金1
教室	講義室6
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

日本文化の特色を、有史から現在に至るまでの過程の中で、時間的地理的等から考察する。日常の衣食住や学問や芸術等の歴史や背景を調べたり、資料やDVD等を活用したりして、日本文化の素晴らしさを理解させたい。

学生の達成目標

1.日本人として「日本の文化」について、その内容や歴史等を学ぶことは、人に接する仕事の上で、幅広い知識や教養となり、人間関係を築く上で重要な要因になる。

2.生活文化、地域文化、伝統文化等の学校のカリキュラムと関連づけて、日本の文化の特性を探究し、豊かな人間性と日本人の誇りを身につけてほしい。

授業内容	第1回	15時間の授業の概要について・「文化」とは（目標1）
	第2回	「日本の文化」を学ぶ意味について（目標1）
	第3回	「日本の文化」の分類例について（目標1）
	第4回	「和モノ」（衣食住）について（目標2）
	第5回	「和モノ」（衣食住）について（目標2）
	第6回	「日本のしきたり」について（目標2）
	第7回	「日本のしきたり」について（目標2）
	第8回	学習指導要領と伝統文化の取り扱いについて（目標1,2）
	第9回	学習指導要領と伝統文化の取り扱いについて（目標1,2）
	第10回	学習指導要領と伝統文化の取り扱いについて（目標1,2）

	第11回	学習指導要領と伝統文化の取り扱いについて（目標1,2）
	第12回	代表的な文化(美術・歌舞伎・建築等)（目標1,2）
	第13回	代表的な文化(能と狂言・和歌・短歌等)（目標1,2）
	第14回	日本の文化に関わる人物や遺産等について（目標1）
	第15回	「日本の文化」についてのまとめ（目標1）
予習・復習の内容	予習	次回の講義内容を話し、必要な資料を収集させておく。
	復習	本時の授業の中から大切なことを質問し、その内容を講義資料から見つけ出し、発表させる。
	展開	文化の特性を講義内容から読み取り、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	講義内容の中から、いくつかの課題を事前に与え、その課題の中から学生本人に課題を選択させ、レポートを書いて提出することを基準とする。
	評価の方法	最終レポート(70%)宿題や課題(20%)授業態度(10%)等を考慮して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	参考資料は、プリントを配付する。併せて参考書籍等も授業で紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	文化の範囲は広く、限定した参考書は固定しない予定。プリント用意。	

道徳と福祉の心

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHU101
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	道徳と福祉の心
科目責任者	野口 芳宏
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11001001 水 3
教室	大講義
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	様々な社会的・道徳的・福祉に関わる文献や資料を通して、福祉や道徳教育に積極的に携わろうとする人々の「人間としての生き方・あり方」について考える。また、これまでの自分の生き方・あり方を振り返り、将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲を高める。
-----------	--

学生の達成目標	1.自分の将来の目標を持つことができる。 2.道徳や福祉の専門家の生き方にふれ、自分のこれからの人生と重ね合わせる。 3.新聞や雑誌に掲載された社会事象に関心を高める。
---------	--

授業内容	第1回	オリエンテーション。 「授業の狙い、受講の心得」（目標1）
	第2回	建学の理念。 植草学園短期大学の歴史。（目標1）
	第3回	幸福・福祉・道徳・経済（目標3）
	第4回	道徳に関する文献を読む 十七条の憲法と日本人の心（目標2）
	第5回	五箇条の御誓文と近代（目標2）
	第6回	教育勅語の思想（目標2）
	第7回	日露戦争と乃木希典の人間性（目標2）
	第8回	広池千九郎と道徳科学（1）（目標1,2）
	第9回	広池千九郎と道徳科学（2）（目標1,2）

	第10回	儒教の思想と論語（1）（目標1,2）
	第11回	儒教の思想と論語（2）（目標1,2）
	第12回	儒教の思想と論語（3）（目標1,2）
	第13回	経典と道徳（1）般若心経（目標1,2）
	第14回	経典と道徳（2）父母恩重経（目標1,2）
	第15回	歴史・伝統・古典・現代生活（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	予告に基づき、用語の概念、あらましなどを事典によって調べてくる。
	復習	授業を受けて印象に残る3点を毎回確認、記述する。
	展開	図書館やITを活用し、関連事項についての知識を深める。
成績評価	評価の基準	下記3点を100点満点で採点する。
	評価の方法	正式な礼状（30%）、最上ノート（20%）、課題論文（50%）の提出による。 小テストを加えることがある。
教科書	書籍名	日本の美しい言葉と作法
	著者名	野口芳宏
	出版社	登龍館発行
	価格	561円（税込み）
	ISBN・ISSN	—
推薦図書等		
参考URL	積極的な活用を望む。	
備考	教科書は上記以外必要な資料等を授業中に配布、または板書する。 推薦図書は、適宜紹介する。	

道徳と福祉の心

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHU101
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	道徳と福祉の心
科目責任者	野口 芳宏
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11001002 水3 11001003 水1
教室	(水3)大講義室 (水1)中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	様々な社会的・道徳的・福祉に関する文献や資料を通して、福祉や道徳教育に積極的に携わろうとする人々の「人間としての生き方・あり方」について考える。また、これまでの自分の生き方・あり方を振り返り、将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲を高める。	
学生の達成目標	1.自分の将来の目標を持つことができる。 2.道徳や福祉の専門家の生き方にふれ、自分のこれからの人生と重ね合わせる。 3.新聞や雑誌に掲載された社会事象に関心を高める。	
授業内容	第1回	オリエンテーション。 授業の狙い、受講心得（目標1）
	第2回	建学の理念。 植草学園短期大学の歴史。（目標1）
	第3回	幸福・福祉・道徳・経済（目標3）
	第4回	道徳に関する文献を読む。 十七条の憲法と日本人の心。（目標2）
	第5回	五箇条の御誓文と近代。（目標2）
	第6回	教育勅語の思想。（目標2）
	第7回	日露戦争と乃木希典の人間性。（目標2）
	第8回	広池千九郎と道徳科学（1）（目標1,2）
	第9回	広池千九郎と道徳科学（2）（目標1,2）

	第10回	儒教の思想と論語（1）（目標1,2）
	第11回	儒教の思想と論語（2）（目標1,2）
	第12回	儒教の思想と論語（3）（目標1,2）
	第13回	経典と道徳（1）般若心経（目標2,3）
	第14回	経典と道徳（2）父母恩重経（目標2,3）
	第15回	歴史・伝統・古典・現代生活（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	予告に基づき、用語の概念、あらましなどを事典によって調べてくる。
	復習	授業を受けて印象に残る3点を毎回確認、記述する。
	展開	図書館やITを活用し、関連事項についての知識を深める。
成績評価	評価の基準	下記3点を100点満点で採点する。
	評価の方法	正式な礼状（30%）、最上ノート（20%）、課題論文（50%）の提出による。 小テストを加えることがある。
教科書	書籍名	日本の美しい言葉と作法
	著者名	野口 芳宏
	出版社	登龍館
	価格	560円(税込み)
	ISBN・ISSN	—
推薦図書等		
参考URL	積極的な活用を望む。	
備考	教科書は必要な資料を授業中に配布、または板書する。 推薦図書は、適宜紹介する。	

音楽療法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS301
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	音楽療法
科目責任者	池田 仁美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11003001 月3,4
教室	講義室5
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 高齢者の機能維持・改善，生活の質の向上に向けて，意図的・計画的に活用する音楽療法を学ぶ。

学生の達成目標 入所施設・通所施設利用者が楽しめる音楽活動を身につける。

授業内容	第1回	音楽療法とは
	第2回	精神科病院・高齢者施設・通所施設での音楽療法
	第3回	季節の歌を使った音楽療法
	第4回	唱歌を使った音楽療法
	第5回	ナツメロを使った音楽療法①
	第6回	ナツメロを使った音楽療法②
	第7回	楽器を使った音楽療法
	第8回	まとめ－高齢者が楽しめる音楽活動を想定し発表する。

予習・復習の内容	予習	高齢者の好きな歌（唱歌・ナツメロ等）を想定し，毎回1～2曲歌えるように練習する。
	復習	授業の中で使用した曲は歌詞を見ないで歌えるようにする。
	展開	高齢者と楽しめる音楽活動を提供できるように，より多くの曲を覚える。

成績評価	評価の基準	授業参加への意欲・姿勢等，試験，レポートの内容等を考慮して総合的に評価する。
	評価の方法	試験（40％），レポート（30％），授業内での発表等（30％）
教科書	書籍名	歌の宝石箱
	著者名	呉竹英一編
	出版社	ドレミ音楽出版社
	価格	2,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-285-14276-1
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書については，必要に応じて紹介する。	

法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS302
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	法学
科目責任者	金津 謙
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	12000001 土2
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

社会福祉制度は法律に根拠を置いている場合が多く、社会福祉と法律は密接に関連している。福祉の現場を担当するものとして法律を「知らなかった」では済まされない。本講においては特に社会福祉と密接した法律問題について検討し、次のステップの一助とすることを目的とする。

学生の達成目標

1. 社会福祉制度と法律との関わり
2. 成年後見制度についての習熟
3. 介護現場におけるトラブルと法的対処への習熟

授業内容	第1回	法律の全体像（目標1）
	第2回	憲法に規定される基本的人権概論（目標1）
	第3回	生存権と社会福祉（目標1）
	第4回	高齢者と悪質商法①／消費者契約法，特定商取引法概論（目標2）
	第5回	高齢者と悪質商法②／特定商取引法各論（目標2）
	第6回	悪質商法と損害の回復（目標2）
	第7回	高齢者の権利擁護①／成年後見制度概論（目標2）
	第8回	高齢者の権利擁護②／成年後見制度の実務（目標2）
	第9回	日常生活自立支援事業と法律の関わり（目標2）
	第10回	福祉と行政（法）の関わり（目標2）
	第11回	相続と遺言（目標3）

	第12回	福祉と労働（法）（目標3）
	第13回	福祉現場における事故と法的責任①／損害賠償制度概論（目標3）
	第14回	福祉現場における事故と法的責任②／損害賠償制度各論（目標3）
	第15回	社会福祉法のまとめと今後の課題（目標3）
予習・復習の内容	予習	授業前に指摘した教科書を熟読すること。
	復習	授業で配布したプリント，教科書を活用して授業ノートを整理すること。
	展開	新聞などで報道される福祉に関する問題について，法的視点から考察する。
成績評価	評価の基準	社会福祉に関連する法律の理念について，授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。 特に，成年後見制度について，制度の概要および今後の展望について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	中間テスト(50%)，期末テスト(50%)
教科書	書籍名	新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度 第3版
	著者名	社会福祉士養成講座編集委員会／編集
	出版社	中央法規出版
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4805835685
推薦図書等	書籍名	法学への一歩（第3版）
	著者名	河原 格 編著 高沢 弘明 ほか著
	出版社	八千代出版
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	978-4842915012
参考URL		
備考		

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO101
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	日本国憲法
科目責任者	金津 謙
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	12000101 土3
教室	大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	憲法は法律の頂点に位置する重要な法律である。保育に関する様々な法律、制度も全て憲法に基づいて制定されており、教員、保育士等の職においてその理解は必須とされる。授業では現在注目されている憲法問題を扱いこれまでの知識、理解を深めることを目的とする。
-----------	--

学生の達成目標	1.憲法の概要を理解する。 2.憲法の発展的課題について考察する。 3.教育、保育に関する憲法問題について理解する。
---------	--

授業内容	第1回	憲法の意義（目標1）
	第2回	憲法総論／日本国憲法史（目標1）
	第3回	国民主権という考え方／明治憲法と現行憲法との比較（目標2）
	第4回	平和主義／憲法9条と世界平和（目標2）
	第5回	基本的人権とはなにか／人権宣言の意義／基本的人権の限界（目標2）
	第6回	個人の思想の自由は制限されるか／法の下の平等・精神的自由権①（目標3）
	第7回	表現の自由とはなにか／法の下の平等・精神的自由権②（目標3）
	第8回	中間テスト（目標1）
	第9回	国民の経済活動を保証するルールとは／経済的自由（目標3）
	第10回	犯罪捜査・刑罰を科す上での基本ルールとは／人身の自由（目標3）

	第11回	ホームレスの存在は憲法違反か／社会権／生存権（目標3）
	第12回	義務教育はなぜ無料なのか／社会権／教育を受ける権利（目標3）
	第13回	国会の地位と権限・内閣の構造／統治機構概論（目標3）
	第14回	地方自治の推進と問題点（目標3）
	第15回	憲法のまとめと今後の課題（目標3）
予習・復習の内容	予習	授業時に指定した教科書該当箇所を熟読すること。
	復習	授業時に配布されたプリント，教科書を活用し，授業ノートを整理すること。
	展開	新聞等で報道される憲法問題について注目し，独自の考察を行う。
成績評価	評価の基準	日本国憲法の理念について，授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。 日本国憲法の今後の展開について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	中間テスト(50%)，期末テスト(50%)の総合評価
教科書	書籍名	法学への一歩（第3版）
	著者名	河原 格 編著 高沢 弘明 ほか著
	出版社	八千代出版
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	978-4842915012
推薦図書等	書籍名	ポケット六法 平成28年版
	著者名	井上 正仁／編集代表 山下 友信／編集代表
	出版社	有斐閣
	価格	1,852円+税
	ISBN・ISSN	978-4641009158
参考URL		
備考		

コンピュータ概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO102
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ概論
科目責任者	壁谷 彰慶
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	12000501 水4
教室	PC室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

Windows、MS-Word、MS-Excelについての基本的な使用法を習得する。毎回、テキストを参考に練習問題に取り組み、基礎的な使用法を学んだあと、中間課題などに挑戦し、応用力を身につける。

学生の達成目標

- 1.Windowsの基本操作方法，Word，Excelの実習により文章作成，表計算を学ぶ。
- 2.教科書を理解して、応用力を身につける。
- 3.演習では基礎知識をもとに自由にファイル作成ができるようにする。

授業内容	第1回	コンピュータの周辺機器とWindowsの基本知識（目標1,2）
	第2回	メモ帳，Wordによる入力，保存，ファイル管理（目標1,2）
	第3回	Wordの基本操作 1（文字，文章入力，文書保存）（目標1,2）
	第4回	Wordの基本操作 2（編集機能）（目標2,3）
	第5回	Wordの基本操作 3（表，罫線）（目標2,3）
	第6回	Wordの基本操作 4（ビジュアルな文書，図形）（目標2,3）
	第7回	総合的な文章の作成（目標2,3）
	第8回	Excelの基本操作 1（ワークシート，セル，表）（目標1,2）
	第9回	Excelの基本操作 2（計算式を用いた表の作成，挿入／削除など）（目標1,2）
	第10回	Excelの基本操作 3（グラフの作成）（目標2,3）
	第11回	Excelの基本操作 4（グラフの変更，装飾など）（目標2,3）

	第12回	Excelの基本操作 5（関数の使い方）（目標2,3）
	第13回	Excelで基本操作 6（データベース機能）（目標2,3）
	第14回	WORDとEXCELの操作（差し込み印刷：WORDで作成された文章にEXCELのデータを埋め込む）（目標2,3）
	第15回	まとめ（総合問題の提出）（目標2,3）
予習・復習の内容	予習	教科書の操作機能を理解しておくこと。
	復習	授業で学んだ操作を、教科書を参考すればできる程度にマスターしておくこと。
	展開	PCとインターネットについての周辺の知識も習得する。
成績評価	評価の基準	WORD、EXCELともに、授業で学んだことを適切に使えているかどうかを判定基準にします。
	評価の方法	出席および授業内課題・定期課題で評価します（課題はメールで提出）。 授業内課題50%、定期課題50%とする。
教科書	書籍名	『30時間でマスター Word&Excel2010』
	著者名	実教出版編修部
	出版社	実教出版株式会社
	価格	926円
	ISBN・ISSN	440732094X
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コンピュータ概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO102
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ概論
科目責任者	壁谷 彰慶
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	12000502 水4 12000503 水3
教室	PC室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	Windows、MS-Word、MS-Excelについての基本的な使用法を習得する。毎回、テキストを参考に練習問題に取り組み、基礎的な使用法を学んだあと、中間課題などに挑戦し、応用力を身につける。	
学生の達成目標	1.Windowsの基本操作方法，Word，Excelの実習により文章作成，表計算を学ぶ。 2.教科書を理解して、応用力を身につける。 3.演習では基礎知識をもとに自由にファイル作成ができるようにする。	
授業内容	第1回	コンピュータの周辺機器とWindowsの基本知識（目標1,2）
	第2回	メモ帳，Wordによる入力，保存，ファイル管理（目標1,2）
	第3回	Wordの基本操作 1（文字，文章入力，文書保存）（目標1,2）
	第4回	Wordの基本操作 2（編集機能）（目標2,3）
	第5回	Wordの基本操作 3（表，罫線）（目標2,3）
	第6回	Wordの基本操作 4（ビジュアルな文書，図形）（目標2,3）
	第7回	総合的な文章の作成（目標2,3）
	第8回	Excelの基本操作 1（ワークシート，セル，表）（目標1,2）
	第9回	Excelの基本操作 2（計算式を用いた表の作成，挿入／削除など）（目標1,2）
	第10回	Excelの基本操作 3（グラフの作成）（目標2,3）

	第11回	Excelの基本操作 4（グラフの変更, 装飾など）（目標2,3）
	第12回	Excelの基本操作 5（関数の使い方）（目標2,3）
	第13回	Excelで基本操作 6（データベース機能）（目標2,3）
	第14回	WORDとEXCELの操作（差し込み印刷：WORDで作成された文章にEXCELのデータを埋め込む）（目標2,3）
	第15回	まとめ（総合問題の提出）（目標2,3）
予習・復習の内容	予習	教科書の操作機能を理解しておくこと。
	復習	授業で学んだ操作を、教科書を参考すればできる程度にマスターしておくこと。
	展開	PCとインターネットについての周辺の知識も習得する。
成績評価	評価の基準	WORD、EXCELともに、授業で学んだことを適切に使えているかどうかを判定基準にします。
	評価の方法	出席および授業内課題・定期課題で評価します（課題はメールで提出）。 授業内課題50%、定期課題50%とする。
教科書	書籍名	『30時間でマスター Word & Excel 2010』
	著者名	実教出版編修部
	出版社	実教出版株式会社
	価格	926円
	ISBN・ISSN	440732094X
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コンピュータ演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO103
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ演習
科目責任者	荻原 尚
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12000701（前期）土4（後期）土3
教室	PC室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	一人1台のコンピュータを操作し、様々なソフトウェアを用いて、課題コンテンツを作成することで、マルチメディア表現・技術を習得する。	
学生の達成目標	1. マルチメディアの基本であるコンピュータ・グラフィックとデジタル・オーディオの技術を身につける。 2. Webデザイン技術を使った情報発信手法を学ぶ。 3. Flashアニメーションを用いた総合的なマルチメディア表現・技術を身につける。	
授業内容	第1回	コンピュータの基本操作（目標1）
	第2回	グラフィックの種類と特徴（目標1）
	第3回	画像のファイル形式（目標1）
	第4回	ペイント系 CG（レイヤーの使い方）（目標1）
	第5回	ペイント系 CG（範囲選択）（目標1）
	第6回	フォトレタッチ（画像の合成技術）（目標1）
	第7回	フォトレタッチ（色相、明度、彩度）（目標1）
	第8回	フォトレタッチ（クイックマスク）（目標1）
	第9回	フォトレタッチ（レイヤーマスク）（目標1）
	第10回	フォトレタッチ（自由作品制作）（目標1）
	第11回	Webデザインの基礎知識（目標2）

	第12回	CSS（文字デザイン）（目標2）
	第13回	CSS（レイアウト）（目標2）
	第14回	ホームページの作成（TopPage）（目標2）
	第15回	ホームページの作成（LinkPage）（目標2）
	第16回	コンピュータ音楽の概要（目標1）
	第17回	MIDIのしくみ（目標1）
	第18回	MIDIファイルの作成（Pianoパート）（目標1）
	第19回	MIDIファイルの作成（合奏データ）（目標1）
	第20回	デジタル・オーディオの基礎知識（目標1）
	第21回	PowerPointの基本操作（目標1）
	第22回	プレゼンテーション（資料の作成）（目標1）
	第23回	プレゼンテーション（発表）（目標1）
	第24回	ドロー系 CG（基本操作）（目標1）
	第25回	ドロー系 CG（パス演算）（目標1）
	第26回	Flashアニメーションの基本操作（目標3）
	第27回	Flashスプライトの使い方（目標3）
	第28回	Flashボタンの作り方（目標3）
	第29回	Flash紙芝居の作成（自由作品）（目標3）
	第30回	Flash紙芝居の作成（作品発表）（目標3）
予習・復習の内容	予習	事前に指示したテーマについて、資料を集め、作品のアウトラインを考えておくこと。
	復習	習作と課題作品を管理すること。 未完成の課題がある場合は、完成させておくこと。
	展開	本講義は、プレゼンテーションや教育指導に応用可能なので、様々な内容の独自作品を作成することを推奨する。
成績評価	評価の基準	各課題作品の完成度を基準として総合的に行う。 各作品が正しく動作することを合格基準とする。
	評価の方法	CG、Audio、Web、Flashの課題作品（各25％）の完成度で評価する。 筆記試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。 データ保存用に USBメモリを用意することが望ましい。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンスⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS102
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンスⅠ
科目責任者	川村 博子
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 中西 正人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12000801 水2
教室	(前期)講義室4 (後期)講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標 1.自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。
2.将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション (目標1)
	第2回	情報収集 (キャリア支援室の利用) (目標1)
	第3回	自己理解を深める (目標1)
	第4回	キャリアプラン (目標2)
	第5回	グループワーク (目標1)
	第6回	マナー講座 (目標2)
	第7回	卒業生の話を聞く会 (目標2)
	第8回	アサーティブ講座 (目標2)
	第9回	作文添削 (目標2)
	第10回	講演会 (目標2)
	第11回	ストレスマネジメント講座 (目標2)

	第12回	職場の話を聞く会 (目標2)
	第13回	講演会 (目標2)
	第14回	講演会 (目標2)
	第15回	内定者報告会 (目標2)
予習・復習の内容	予習	授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	指示されたレポート等の課題を期限までに提出のこと。
	展開	最新の図書等を読み、理解を深める。
成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等
	評価の方法	提出レポート（80％）授業参加態度等（20％）を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンスⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO104
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンスⅠ
科目責任者	田村 光子
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12000802（前期）水2（後期）月1
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	本学のキャリア支援のしくみについて理解し、働くことの意義や職業選択の方法について知り、よりよい職業選択につなげることを目的とする。各職場で働く先輩の話、さらにビジネスマナー等の講習会、担任等との面接を通して、自らのキャリアについて考え、行動していく力につなげたい。	
学生の達成目標	1.社会に必要なコミュニケーション力やビジネスマナーを身につけ、望ましい職業選択ができる能力を高める 2.自分の長所・仕事観などに理解を深め、どのような職場で自分の長所を發揮できるか考える 3.講演、講習会および面接等を通して、実際の現場で必要な力を学び、その力を実習やボランティアなど実践の場につなげる	
授業内容	第1回	オリエンテーション・1年間の日程について（目標1）
	第2回	図書館ガイダンス（目標3）
	第3回	進路ガイダンス（1）進路選択について（目標2）

	第4回	面接指導－よりよい大学生活に向けて（目標１）
	第5回	公務員ガイダンス（目標３）
	第6回	作文添削講座（目標３）
	第7回	作文添削講座（目標３）
	第8回	卒業生のお話を聞く会 （公務員講座（１）希望者のみ）（目標３）
	第9回	卒業生のお話を聞く会 （公務員講座（１）希望者のみ）（目標３）
	第10回	キャリアデザインの作成（目標２）
	第11回	マナー講座（目標１）
	第12回	キャリア関連講演会（アサーティブ講座、ストレスマネージメント講座等）（目標３）
	第13回	キャリア関連講演会（アサーティブ講座、ストレスマネージメント講座等）（目標３）
	第14回	内定報告会（目標３）
	第15回	進路ガイダンス（２）２年生にむけて （公務員講座（２）希望者のみ）（目標２）
予習・復習の内容	予習	各回の授業内容を事前に確認しておくこと
	復習	講義、講座等を振り返りレポートを作成する
	展開	社会人としての基礎力を身に着けるために、担任の面接や個別指導、また実習およびボランティア等を経て、各人の目標や課題を明らかにする。
成績評価	評価の基準	授業への意欲や態度と授業内のレポート提出状況およびその内容で評価する。
	評価の方法	授業への意欲や態度（６０％）、授業内のレポート提出状況とその内容（４０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 進路ガイドブック、キャリアデザインノート	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンスⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS303
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンスⅡ
科目責任者	川村 博子
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 中西 正人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12001001 水2
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。	
学生の達成目標	1.自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。 2.将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション、自己理解を深める、職業選択について（目標1）
	第2回	進路について考える（キャリアについて・職場定着について）（目標2）
	第3回	情報収集（目標1）
	第4回	グループワーク（目標1）
	第5回	グループワーク（目標1）
	第6回	アサーティブ講座（目標2）
	第7回	卒業生の話を聞く会（目標2）
	第8回	講演会（目標2）
	第9回	ストレスマネジメント講座（目標2）
	第10回	ライフプラン（保険）講座（目標2）

	第11回	職場定着のための労働・社会保障関係法の知識 (目標2)
	第12回	ハラスメント講座 (目標2)
	第13回	就職に向けての心構え (目標2)
	第14回	グループ面談 (進路希望) (目標2)
	第15回	現場の話を聞く会 (目標2)
予習・復習の内容	予習	授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	指示されたレポート課題等を期限まで提出のこと。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等
	評価の方法	提出レポート(80%)授業参加態度等(20%)を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンスⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO301
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンスⅡ
科目責任者	黒田 静江
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 田村 光子 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12001002 （前期）水2 （後期）月1
教室	大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	社会人としてのコミュニケーション力や就職活動に必要な知識を身につける。また今まで学んだことを活かしながら、保育・福祉・教育などの職場で働いている先輩の話を聞いたり、ゼミ担当者やキャリア支援員との面接を通して、自分に合った進路・適職について考え、積極的に進路を切り拓いていけるようにする。	
学生の達成目標	1. 社会人としてのコミュニケーション力や、就職活動に必要な知識を身につける。 2. 自分の長所・仕事観などに理解を深め、適職について考えたり自己の能力を高める。 3. 社会人として働く際に必要な知識を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション・報告・伝達について（目標1）
	第2回	マナー講座（目標1）
	第3回	保育士公務員模擬試験（目標1）
	第4回	保育士公務員模擬試験（目標1）

	第5回	作文講座（目標2）
	第6回	履歴書の書き方（目標1）
	第7回	卒業生の話聞く会（目標2）
	第8回	卒業生の話聞く会（目標2）
	第9回	就職活動の進め方（目標1）
	第10回	就職試験対策について（目標1・2）
	第11回	模擬面接講座（目標1・2）
	第12回	労働・社会保障関係法講座（目標3）
	第13回	アサーティブ講座（目標1）
	第14回	ハラスメント講座（目標3）
	第15回	ストレスマネジメント講座・まとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	さまざまなボランティアを体験し自己の職業選択に役立てる。積極的に行動する力を身につける。
	復習	授業で学んだことをまとめて実践に活かせるようにしたり、自己の選択した職業に必要な知識・技能を高めようとする。
	展開	「社会人になる」という自覚をもち、「自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的力（＝人間力）」や専門力を高めていく。
成績評価	評価の基準	提出物・授業への意欲や態度
	評価の方法	提出物（70%） 授業への意欲や態度（30%）
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 進路ガイドブック、キャリアデザインノート
推薦図書等		
参考URL		
備考		

環境と人間

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS401
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（自然系）
授業科目名	環境と人間
科目責任者	村上 公信
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	12000901 木3
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	身近な自然環境や環境問題から地球規模で抱える環境問題まで、人間社会や健康とのかかわりから学ぶとともに、この地球を維持するための基盤となる必要な情報について学習する。	
学生の達成目標	1. 自然環境や環境問題に関する基本概念について、身近な生活をととして理解する。 2. 環境問題と人間生活との関わりについて、地球生態系の観点から科学的に学習する。 3. 地球が、すべての生き物にかけがいのない住みかであることを学び、私たち人間の役割について理解する。	
授業内容	第1回	原発事故が引き起こした環境問題とは（目標3）
	第2回	環境とは何か・環境問題とは何か（目標1）
	第3回	環境を形づくるもの－生態系（目標1）
	第4回	自然界の物質循環（目標1）
	第5回	大気の汚染（目標1,2）
	第6回	オゾン層の破壊と地球温暖化問題（目標1,2）
	第7回	水の汚染（目標1,2）
	第8回	酸性雨（目標1,2）
	第9回	土壌の汚染（目標1,2）
	第10回	環境ホルモン（目標2）

	第11回	騒音・振動・悪臭（目標2）
	第12回	環境と食の問題（目標2）
	第13回	環境汚染に対する行政上の対応（目標2,3）
	第14回	環境問題のための新技術（目標2,3）
	第15回	「環境と人間」のまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	授業で予定している内容について、教科書を読み、事前に学習内容のイメージを持つ。
	復習	授業時間に配布されたプリントや教科書で、学習内容を確認し、理解できなかったところは調べる。前時の授業で提出した確認レポートを見直して、学習内容の定着を図る。
	展開	環境問題に関する新聞記事やDVD視聴を通じて、興味・関心を深めるとともに、授業内容の一層の理解を深める。環境問題と人間生活について、基本的な知識を習得するとともに、私たちの日常生活で実践できる環境行動について学ぶことができる。
成績評価	評価の基準	身近な自然環境や環境問題から地球規模で抱える環境問題に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。私たちの日常生活において、自らの考えを持って環境に優しい行動姿勢が身につくことを合格基準とする。
	評価の方法	毎時の確認レポート30%、平常点（授業態度等）10%、期末の筆記試験60%の成績を総合して評価する。ただし、この比率は最終的に若干変更することもある。
教科書	書籍名	改訂新版 地球環境がわかる
	著者名	西岡秀三 宮崎忠國 村野健太郎
	出版社	株式会社技術評論社
	価格	本体1880円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7741-3786-4 C3044
推薦図書等	書籍名	地球の秘密
	著者名	坪田愛華
	出版社	出版文化社
	価格	本体1400円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-88338-307-8
参考URL	http://www.env.go.jp/ 環境省	
	http://www.nies.go.jp/ 国立環境研究所	
備考	授業は講義形式で行う。毎授業時に、資料プリント、新聞記事、確認レポート等を配布するので、保存のためのA4版クリアファイルを用意するとよい。	

総合英語

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS103
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（外国語）
授業科目名	総合英語
科目責任者	北條 洋子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	14000001 月2
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護に関わる身近な話題について、外国語（英語）での簡単なコミュニケーションができるようになる。その為に、英語圏社会を知り、基礎的な英会話を練習し、健康に関する基本的なPresentationの練習を行う。	
学生の達成目標	1 英語を話す人々の生活習慣や考え方を説明できる。 2 英語を使って簡単なコミュニケーションができる。 3 健康生活に関する話題を取り入れながら、易しい英語で自分の考えを発表できる。	
授業内容	第1回	授業目標と進め方/英語の特徴・英語学習の意義（目標1,2,3）
	第2回	世界を見てみよう①/世界が繋がっているイベント（目標1,2,3）
	第3回	世界を見てみよう②/英語圏諸国での文化の変遷（目標1,2,3）
	第4回	困った時の訴え①/病状や症状を聞く温かい声かけ（目標1,2,3）
	第5回	食の国民性①/英語圏諸国の食文化の伝統(1)朝食(目標1,2,3)
	第6回	食の国民性②/英語圏諸国の食文化の伝統(2)お茶(目標1,2,3)
	第7回	日本との違い①/海外の学校比較 非言語コミュニケーション(目標1,2,3)
	第8回	日本との違い②/欧米日本人の生活習慣の違いと比較(目標1,2,3)
	第9回	共に生きる①/イギリス英語とアメリカ英語から見る(目標1,2,3)
	第10回	困った時の訴え①/英語圏の補助犬の役割・日本の現状(目標1,2,3)
	第11回	困った時の訴え②/英語圏のバリアフリー例と比較（目標1,2,3）
	第12回	共に生きる②/空港で見るUDの例から地域の現状考察(目標1,2,3)

	第13回	共に生きる③/英語圏諸国のコミュニティ意識と日本(目標1,2,3)
	第14回	共に生きる④/欧米人の障害を越える努力をする姿(目標1,2,3)
	第15回	共に生きる⑤/まとめ・表現発表批評会 (目標1,3)
予習・復習の内容	予習	① 授業内容に示されている課題について、英語は辞書で、項目については百科事典などで必ず調べて、自分なりの意見を発表できるようにしておく。 ② 次時に行うテキスト本文の下調べをする。
	復習	① 教科書や配布プリントを用いて、授業の要点をまとめておく。 ② 学習した英会話例は、常に友人と対話練習する。 ③ 本時で扱った教科書本文を音読し、練習問題を解く。
	展開	① 外国人の健康に対する意識について、関心を持って調べたり話したりする。 ② 毎時間学習した項目について、自分に当てはめて考えたり、健康について知識を深めたりする。 ③ ラジオやTVの英会話に継続して取り組んだり、英語検定やToeicなどに挑戦したりするなど、英語力を高める努力をする。
成績評価	評価の基準	① 英語を話す人々の社会習慣や考え方を説明できる。 ② 場面に応じた英語での簡単なコミュニケーションができる。 ③ 健康についての英語表現を言うことができる。 以上を合格基準とする。
	評価の方法	① 3回行うPresentation発表・原稿40%, ② 会話発表30%, ③ 英語や英語圏の生活習慣についての期末試験30%の成績を総合する。 ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	How to Stay Healthy
	著者名	Julie Penn
	出版社	Oxford University Press
	価格	850円
	ISBN・ISSN	978-0-19-464445-7
推薦図書等	書籍名	Word by Word イラスト英和辞典
	著者名	Steven J. Molinsky & Bill Bliss
	出版社	Pearson Longman
	価格	2,957円
	ISBN・ISSN	978-0-13-148218-1
参考URL	www.mext.go.jp 文部科学省 外国語活動	
	www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/ 文部科学省 私の健康	
備考	・授業は毎回教科書と補充プリントを使って行う。 ・活動はできるだけ英語で行いたい、不安な学生は申し出るように。 ・授業はPC画像で英語圏の様子を知り、グループやペアでの会話練習を行う。したがって、きびきびと行動し、友人と一緒に「英語学習の雰囲気」を築くようにする。 ・最終回で満足いくような発表をし、自信を持って外国人利用者の介護にも取り組むことができるよう、努力を期待する。	

総合英語 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GFO101
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（外国語）
授業科目名	総合英語 I
科目責任者	北條 洋子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	14000101 火3 14000102 火4 14000111 火3 14000112 火2
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	○ 保育士として児童に英語を親しませることができ、外国人の子どもとも簡単なコミュニケーションを取ることができることを目指す。そのために、英語圏社会を知り、基本的な英会話を練習し、欧米の子どもの好きな歌などを使って英語指導をする練習を行う。
-----------	---

学生の達成目標	1.英語を話す人々の社会習慣や考え方を説明することができる。 2.場面に応じた基本的な英会話をすることができる。 3.欧米の児童に知られている歌やチャンツを題材に、簡単な児童英語指導をすることができる。
---------	---

授業内容	第1回	授業目標と進め方/英語の特徴・英語学習の意義（目標1,2,3）
	第2回	世界を見てみよう①/世界が繋がっているイベント（目標1,2,3）
	第3回	世界を見てみよう②/英語圏諸国での文化の変遷（目標1,2,3）
	第4回	日本との違い①/言語の発達状況/Mother Goose（目標1,2,3）
	第5回	日本との違い②/英語圏諸国の食文化の伝統(1)朝食（目標1,2,3）
	第6回	日本との違い③/英語圏諸国の食文化の伝統(2)お茶（目標1,2,3）
	第7回	日本との違い④/海外の学校比較・非言語コミュニケーション（目標1,2,3）
	第8回	日本との違い⑤/イギリス英語とアメリカ英語から見てみよう（目標1,2,3）

第9回	共に生きる①/病状や症状を聞く・温かい声かけの会話(目標1,2,3)
第10回	困った時の訴え①/英語圏の補助犬の役割・動物の歌指導(目標1,2,3)
第11回	困った時の訴え②/英語圏のバリアフリーとUD・松葉杖の友人と話す(目標1,2,3)
第12回	共に生きる②/コミュニティ意識と日本・指導技術練習(目標1,2,3)
第13回	共に生きる③/数を英語で表す・数を入れる英会話(目標1,2,3)
第14回	共に生きる④/欧米人の障害を越える努力をする姿(目標1,2,3)
第15回	共に生きる⑤/Gesturesの持つ意味・効果的な発表練習(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	① 授業内容のキーワードや課題について、英語は辞書で、項目については百科事典などで必ず調べ、自分なりの意見を発表できるようにしておく。
	復習	① 配布プリントや教科書を用いて、授業内容の要点を、毎回必ずまとめておく。 ② 学習した英会話例は、常に友人と対話練習する。 ③ 教科書で学習した歌や指導方法は、必ず見直し、歌ったり実践したりする。
	展開	① 毎時間学習した英語の歌やチャンツのメロディを検索して、歌ったり指導例を考えたりする。 ② ラジオやテレビの英会話に継続して取り組み、保育検定や英語検定などの目標を持ち、各自英語力を向上させる努力をする。

成績評価	評価の基準	① 英語を話す人々の社会習慣や考え方の例を理解し、説明することができる。 ② 児童との英語での簡単なコミュニケーションができる。 ③ 簡単な児童英語指導をすることができる。 以上を合格基準とする。
	評価の方法	① Presentation発表と提出50%, ② 会話発表10%, ③ 筆記試験(英語圏の背景など)40% 以上3点の成績を総合する。 ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	Songs & Chants
	著者名	松香洋子
	出版社	mpi
	価格	¥ 1296
	ISBN・ISSN	9784896430172

推薦図書等	書籍名	子どもと英語 増補改訂版
	著者名	松香洋子
	出版社	mpi
	価格	¥ 1296
	ISBN・ISSN	9784896434248

書籍名	Song & Chants 歌とチャンツの 「CD」
著者名	松香洋子
出版社	mpi
価格	¥ 2100
ISBN・ISSN	9784896430592

参考URL	www.mext.go.jp 文部科学省 外国語活動
-------	--

備考

- ① 授業は毎回教科書と補充プリントを使って行う。
 - ② 授業はPC画像で英語圏の様子を知り, グループ・ペアでの会話練習, そして音声を伴う歌などを使って行う。きびきびと行動し, 友人と一緒に「英語学習の雰囲気」を築くこととする。
 - ③ 活動はできるだけ英語で行いたい, 不安な学生は申し出るように。
 - ④ 最終回で満足いくような発表をし, 将来自信を持って児童英語に取り組むことができることを意識して, 努力することを期待する。
-

総合英語Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GFO201
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（外国語）
授業科目名	総合英語Ⅱ
科目責任者	マーク レモン
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	14000301 火3 14000302 火2 14000311 火3 14000312 火4
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	総合的な英語の機能を日常の場面で適用する能力を養う。	
学生の達成目標	1. 日常の英語機能の理解と使い方を養う。 2. 積極的に英語を使うことに自信を得る。 3. 英語という言葉と、より親しい関係を築く。	
授業内容	第1回	Getting to know the teacher. (1,2,3)
	第2回	Talking about Japanese holidays/events. (1,2,3)
	第3回	Asking and giving personal information. (1,2,3)
	第4回	Discussing likes and dislikes. (1,2,3)
	第5回	Using countable and uncountables.(1,2,3)
	第6回	Adverbs of frequency/ discussing habits. (1,2,3)
	第7回	Talking about degrees of ability. (1,2,3)
	第8回	Review and presentation. (1,2,3)
	第9回	Describing and defining things. (1,2,3)
	第10回	Talking about experiences. (1,2,3)
	第11回	Talking about a movie story. (1,2,3)

	第12回	Asking about family, relatives and sports. (1,2,3)
	第13回	Discussing family, relatives and sports. (1,2,3)
	第14回	Discussing jobs and job functions. (1,2,3)
	第15回	Review/preparation of final presentation. (1,2,3)
予習・復習の内容	予習	授業で作った会話を暗記で言えるまで復習する。
	復習	前回の授業で習った単語やフレーズを復習する。
	展開	・授業で取り上げられた学習ポイントについて友達と自由に英会話を楽しむ。 ・ラジオ英会話や英会話のCDを繰り返し聞いて口を出したり、ディズニー映画の字幕版やYoutubeの英語番組を見たり、英語の子守唄を聞いたり、ノートに新しい単語やフレーズを書いて復習したり、英語で日記を書く。 ・英語の勉強に対して目標を設定して、毎日少しでも練習や勉強が習慣になるまで、英語での活動が続けることに努力する。
成績評価	評価の基準	授業に取り上げた基礎的な内容が積極的に使用されていること。英語で言っていることが話し相手に通じることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点60%、中間発表20%、期末発表20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。	
推薦図書等	書籍名	マーフィーのケンブリッジ英文法
	著者名	Raymond Murphy
	出版社	Cambridge University Press
	価格	本体2 1 9 0円+税
	ISBN・ISSN	978-4-902290-04-2
参考URL		
備考		

スポーツ・レクリエーション

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS104
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（体育）
授業科目名	スポーツ・レクリエーション
科目責任者	八鍬 拓
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	15000101 月1
教室	体育館，講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し，福祉領域で活用できる能力を身に付けてほしい。各種レクリエーション種目の特性やルール名アドを記入するためのノートを用意し，現場でも役立つような資料作りをする。	
学生の達成目標	1.軽スポーツ・レクリエーションを体験し，その種目に対する知識を得る。 2.組織体のあり方,対人関係のあり方(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての身につける。 3.現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し，福祉領域で活用できる能力を身に付ける。	
授業内容	第1回	ガイダンス（目標1・2・3）
	第2回	アイスブレーキング（目標1・2・3）
	第3回	フライング・ディスク(ドッジビー)（目標1）
	第4回	フライング・ディスク(ドッジビー)（目標1）
	第5回	フライング・ディスク(ドッジビー)（目標1）
	第6回	バドミントン（目標1）
	第7回	バドミントン（目標1）
	第8回	バドミントン（目標1）
	第9回	ソフトバレーボール（目標1）
	第10回	ソフトバレーボール（目標1）

	第11回	ソフトバレーボール（目標1）
	第12回	インディアカ（目標1）
	第13回	ベタンク（目標1）
	第14回	ベタンク（目標1）
	第15回	前期まとめ
	第16回	スポーツとレクリエーション（目標1・2・3）
	第17回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第18回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第19回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第20回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第21回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第22回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第23回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第24回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第25回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第26回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
	第27回	援助実習振り返り（目標1・2・3）
	第28回	ホスピタリティトレーニング（目標1）
	第29回	チャレンジ・ザ・ゲーム（目標1）
	第30回	まとめ、評価
予習・復習の内容	予習	事前に次回テーマに着いて調べておくこと。
	復習	体験した種目について理解度を図るためのレポートを提出すること。 また、集団レクリエーション援助実習において実践すること。
	展開	他の軽スポーツについても資料や図書等で調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で扱った軽スポーツの内容を理解していること。 集団レクリエーション援助実習
	評価の方法	各種目における理解度（30%） 集団レクリエーション援助実習（50%） 授業への意欲・積極性（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料を配付	
推薦図書等	書籍名	やさしいレクリエーション実践
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	（財）日本レクリエーション協会
	価格	2,100円
	ISBN・ISSN	978-4931180611
	書籍名	レクリエーション・インストラクター養成テキスト
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	（財）日本レクリエーション協会編

価格	2,100円
ISBN・ISSN	978-4931180628

参考URL

備考

スポーツ・レクリエーション（講義）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GPH201
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（体育）
授業科目名	スポーツ・レクリエーション（講義）
科目責任者	八鍬 拓
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	15000201 月 4 15000202 月 3
教室	体育館，講義室 4
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	現代社会が抱える問題とスポーツ・レクリエーションの果たす役割について発達段階との関連から取り上げ、それぞれの発達段階において保持・増進をすべき体力要素を理解し、保持・増進のための方策について考察する。また、それぞれの体験や日常生活を省察しながら、ライフステージに合わせたスポーツのあり方や実践方法を獲得してほしい。
学生の達成目標	1.現代社会の問題点とスポーツ・レクリエーションの果たす役割について理解し、発達段階に応じた心身の健康や体力の保持・増進の為の方策を理論的に学習する。 2.生涯にわたってスポーツを指導・実践できる能力を身につけるために、スポーツ活動の必要性を認識し、その実践方法を習得する。
授業内容	第1回 スポーツとは（目標 1・2） 第2回 レクリエーションとは（目標 1・2） 第3回 幼児期になぜ運動が必要なのか（目標 1・2） 第4回 幼児期にどのような運動を行うべきか（目標 1・2） 第5回 より良い運動遊びを実践するために（目標 1・2） 第6回 スポーツアビリティ（目標 1・2） 第7回 障害予防と応急処置（目標 1・2） 第8回 幼児期の運動の必要性和安全管理に対するまとめ（目標 1・2）

予習・復習の内容	予習	スポーツ・レクリエーションの必要性や役割を理解するために、発達段階に応じた心身の健康や体力の保持・増進について関心を持つこと。また、日頃よりスポーツ・レクリエーションに関する報道に着いて理解しておくこと。
	復習	授業の内容を要旨にまとめておくこと。指示されたレポート課題を提出のこと。
	展開	実習等で実技も含めたスポーツ・レクリエーションの研究・実践。
成績評価	評価の基準	現代社会におけるスポーツ・レクリエーションの役割をよく理解し、実践するための知識を理解できていること。
	評価の方法	レポート課題30%・筆記小試験50%・授業への意欲・積極性20%とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特に無し	
推薦図書等	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	(財) 日本レクリエーション協会編
	出版社	日本レクリエーション協会
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4931180819
参考URL		
備考		

スポーツ・レクリエーション（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GPH101
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（体育）
授業科目名	スポーツ・レクリエーション（実技）
科目責任者	八鍬 拓
授業形態	実技
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	15000301 （前期）月3 （後期）月4 15000302 （前期）月4 （後期）月3
教室	（前期）体育館（後期）体育館，講義室4
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し，多方面で活用できる能力を身に付けてほしい。各種レクリエーション種目の特性やルール名アドを記入するためのノートを用意し，現場でも役立つような資料作りをする。	
学生の達成目標	1. 軽スポーツを体験し、その種目に対する知識を得る。 2. 組織体のあり方、対人関係のあり方（リーダーとなった場合の）人材育成のあり方について身につける。 3. 現代社会におけるスポーツの意義、とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し、活用できる能力を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1・2・3）
	第2回	アイスブレイキング（目標1・2・3）
	第3回	フライング・ディスク（ドッジビー）（目標1・2・3）
	第4回	フライング・ディスク（ドッジビー）（目標1・2・3）
	第5回	フライング・ディスク（ドッジビー）（目標1・2・3）
	第6回	ターゲットバードゴルフ（目標1・2・3）
	第7回	ベタンク（目標1・2・3）
	第8回	ベタンク（目標1・2・3）
	第9回	ソフトバレーボール（目標1・2・3）
	第10回	ソフトバレーボール（目標1・2・3）

	第11回	ソフトバレーボール（目標1・2・3）
	第12回	インディアカ（目標1・2・3）
	第13回	ヘルスバレーボール（目標1・2・3）
	第14回	スラックライン（目標1・2・3）
	第15回	前期まとめ（目標1・2・3）
	第16回	支援実習について（目標1・2・3）
	第17回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
	第18回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
	第19回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
	第20回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
	第21回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
	第22回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
	第23回	集団レクリエーション支援実習のまとめ
予習・復習の内容	予習	事前に次回テーマに着いて調べておくこと。
	復習	体験した種目に着いて理解度を図るためのレポートを提出すること。 また、集団レクリエーション支援実習において実践すること。
	展開	他の軽スポーツについても資料や図書等で調べ知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	出席状況、学習態度、意欲等を総合して評価する。
	評価の方法	各種目における理解度（30%） 集団レクリエーション援助実習（50%） 授業への意欲・積極性（20%）
教科書	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	日本レクリエーション協会
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4931180819
推薦図書等		
参考URL		
備考		

海外福祉研修

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS108
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（異文化理解）
授業科目名	海外福祉研修
科目責任者	中西 正人 相磯 友子
担当教員	井口 ひとみ 松原 敬子 布施 千草 大木 みわ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 松井 奈美 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 根本 曜子 堀 彰人 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	16000101
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	海外での見学や演習を通して、海外の福祉、教育、各分野での取り組みを理解する。さらに、異文化コミュニケーションの体験を通して、多様な物の見方や考え方ができるようになる。
学生の達成目標	1. 訪問地の言語、文化、歴史、福祉、教育、各分野での取り組みについて理解する。 2. 海外福祉研修に必要な準備（渡航手続き等）や、訪問地での活動に積極的に参加する。 3. 訪問地での活動、体験を言語化する。

授業内容	第1回	ガイダンス：授業概要及び評価について（目標1）
	第2回	訪問地に関する事前学習（目標1）
	第3回	渡航手続きについて（目標2）
	第4回	現地での活動①（目標1．2．3）
	第5回	現地での活動②（目標1．2．3）
	第6回	現地での活動③（目標1．2．3）
	第7回	現地での活動④（目標1．2．3）
	第8回	現地での活動⑤（目標1．2．3）
	第9回	現地での活動⑥（目標1．2．3）
	第10回	現地での活動⑦（目標1．2．3）
	第11回	現地での活動⑧（目標1．2．3）
	第12回	現地での活動⑨（目標1．2．3）
	第13回	現地での活動⑩（目標1．2．3）
	第14回	研修報告書の作成（目標3）
	第15回	研修報告の発表（目標3）
予習・復習の内容	予習	訪問地における取り組みに必要な事項について調べる。
	復習	適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	訪問地について調べ、知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲など）、課題レポートを総合的に評価する。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）（50%）、課題（レポートほか）（50%）などを総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

海外福祉研修

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GCU101
開講年度	2016年度
科目区分	共通基礎科目（異文化理解）
授業科目名	海外福祉研修
科目責任者	中西 正人 相磯 友子
担当教員	井口 ひとみ 松原 敬子 布施 千草 大木 みわ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 松井 奈美 中坪 晃一 佐藤 愼二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 根本 曜子 堀 彰人 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	16000201
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	海外での見学や演習を通して、海外の福祉、教育、各分野での取り組みを理解する。 さらに、異文化コミュニケーションの体験を通して、多様な物の見方や考え方ができるようになる。
学生の達成目標	1. 訪問地の言語、文化、歴史、福祉、教育、各分野での取り組みについて理解する。 2. 海外福祉研修に必要な準備（渡航手続き等）や、訪問地での活動に積極的に参加する。 3. 訪問地での活動、体験を言語化する。

授業内容	第1回	ガイダンス：授業概要及び評価について（目標1）
	第2回	訪問地に関する事前学習（目標1）
	第3回	渡航手続きについて（目標2）
	第4回	現地での活動①（目標1．2．3）
	第5回	現地での活動②（目標1．2．3）
	第6回	現地での活動③（目標1．2．3）
	第7回	現地での活動④（目標1．2．3）
	第8回	現地での活動⑤（目標1．2．3）
	第9回	現地での活動⑥（目標1．2．3）
	第10回	現地での活動⑦（目標1．2．3）
	第11回	現地での活動⑧（目標1．2．3）
	第12回	現地での活動⑨（目標1．2．3）
	第13回	現地での活動⑩（目標1．2．3）
	第14回	研修報告書の作成（目標3）
	第15回	研修報告の発表（目標3）
予習・復習の内容	予習	訪問地における取り組みに必要な事項について調べる。
	復習	適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	訪問地について調べ、知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲など）、課題レポートを総合的に評価する。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）（50%）、課題（レポートほか）（50%）などを総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

人間の尊厳と自立

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSM201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	人間の尊厳と自立
科目責任者	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20000001 木3
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	人間の尊厳と自立が基本的な人権であることを理解する。事例を通して、自分の問題として理解できるようにする。	
学生の達成目標	1.人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持を自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。 2.人間の尊厳、社会参加と自立の理念を理解し、介護・支援する場面で対応できる倫理観と実践力を養う。	
授業内容	第1回	介護福祉における人間の尊厳の意義 (目標1)
	第2回	介護福祉における自立の意義 (目標1)
	第3回	人間の尊厳と介護の関係 (マズローの欲求段階説) (目標1)
	第4回	介護における自立の持つ意義 (自律と自立) (目標1)
	第5回	介護における自立の持つ意義 (ICF、リハビリテーション、自己実現の視点) (目標1)
	第6回	人権思想に基づいた人間の尊厳と自立 (目標1)
	第7回	理念価値としての人間の尊厳と自立、生活支援における倫理 (目標2)
	第8回	法制度からみた人間の尊厳と自立 (目標2)
	第9回	ライフステージに応じた自立の課題 (目標2)
	第10回	生活支援における倫理 (目標2)

	第11回	介護における尊厳の保持と自立支援 (目標2)
	第12回	人間の尊厳と自立と介護福祉士養成体系 (目標2)
	第13回	権利擁護(高齢者、障害者、児童) (目標2)
	第14回	課題図書を読んで (グループワーク) (目標2)
	第15回	課題図書を読んで (発表)、まとめ (目標2)
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	試験、レポート、受講態度により評価する。
	評価の方法	試験70%、レポート・受講態度30%
教科書	書籍名	「人間の尊厳と自立」
	著者名	黒澤貞夫
	出版社	建帛社
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3347-4
推薦図書等		
参考URL		
備考		

人間関係の形成とコミュニケーション

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSR101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	人間関係の形成とコミュニケーション
科目責任者	川村 博子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20000101 火4
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	自己理解、他者理解、コミュニケーション能力を高めるために演習を中心に行う。	
学生の達成目標	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。	
授業内容	第1回	人間関係の形成：紹介しあう
	第2回	メッセージを共有する意欲を高める
	第3回	言語と非言語でメッセージを共有する
	第4回	利用者満足を高めるメッセージを学ぶ
	第5回	聞き方を身につける
	第6回	メッセージを受け取る能力を高める
	第7回	テクニックをスキルとして使いこなす
	第8回	初心者を読み取る方法を学ぶ
	第9回	成長させるアドバイスの方法を学ぶ
	第10回	自己決定の引き出し方を学ぶ
	第11回	職場の人間関係の基本を学ぶ
	第12回	職場の人間関係の基本を学ぶ

	第13回	5つの心を知る
	第14回	理性的・合理的に話合う
	第15回	自分を知り、相手を知る、ポジティブ・フィードバック・まとめ
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	試験、レポート、受講態度により評価する。
	評価の方法	試験80%、レポート、受講態度20%
教科書	書籍名	「人間関係とコミュニケーション」
	著者名	諏訪茂樹
	出版社	建帛社
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3348-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活と福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSU101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活と福祉
科目責任者	根本 曜子
担当教員	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20000201 木4
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 現在の自分の生活と社会がどうつながっているのかを捉え、社会保障制度と福祉のしくみ、その成り立ちについて必要な知識を習得する。

学生の達成目標

- 1.個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。
- 2.自分と自分の家族がどのように社会とつながっているのかを考え、ライフスタイル変化、社会構造の変容を捉えた上で、高齢者、障害者を含めたすべての人の生活と地域、社会の関わりを理解する。
- 3.それを実現するために我が国の社会福祉制度と社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷の仕組みについて個人と社会の視点から理解する。

授業内容	第1回	オリエンテーション 家庭生活の基本機能(目標1)
	第2回	家族の概念、変容、構造や形態、さまざまな家族の機能や役割と家族の結びつきについて(目標1・2)
	第3回	地域、コミュニティ、社会・組織の概念(目標1・2)
	第4回	社会構造とライフスタイルの変化(目標2)
	第5回	生活の支援と福祉(目標2)
	第6回	社会保障の基本的な考え方(目標3)
	第7回	戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備(目標3)
	第8回	日本の社会保障制度の発達(目標3)

第9回	社会保障制度の見直し期から社会福祉基礎構造改革(目標3)
第10回	社会保障制度を支える考え方や財源について(目標3)
第11回	社会保障の財源(目標3)
第12回	社会保険のしくみと関連制度(目標3)
第13回	社会保障制度が直面する課題(目標3)
第14回	社会保障の給付と負担(目標1・2・3)
第15回	持続可能な社会保障制度(目標1・2・3)

予習・復習の内容	予習	普段から社会状況、自分たちの生活状況について関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に4回程度。
	展開	学びと自分やまわりの生活状況を結びつけ、福祉のあり方、社会保障についての知識、理解を深める。

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな社会事象の資料を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。
	評価の方法	テスト（65%） レポート（20%） リアクションペーパー（15%）により評価する。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書2 人間と社会 社会の理解
	著者名	小澤温 秋元美世
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3163-7
	書籍名	「社会福祉小六法」
	著者名	ミネルヴァ書房編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	1,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-6230-6952-1
	書籍名	「介護福祉用語辞典」
	著者名	住居広士編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-623-03948-7

推薦図書等

参考URL

備考

介護保険制度とその他の諸制度

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSU401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護保険制度とその他の諸制度
科目責任者	松井 奈美
担当教員	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20000301 金5
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護福祉実践の主な根拠法である「介護保険制度」および「障害者総合支援法」の仕組みや内容を把握し、介護を必要とする利用者の生活実態や介護福祉従事者の業務、役割などを理解する。

学生の達成目標

- 1.介護保険制度の仕組みとサービス内容を理解する。
- 2.障害者総合支援法の仕組みとサービス内容を理解する。
- 3.その他関連する諸制度の目的を理解したうえで、利用者の生活や多職種連携の状況がイメージできる。

授業内容

第1回	オリエンテーション:社会保障制度の概要を確認（復習）する。 （目標1）
第2回	我が国の介護保険制度創設の背景と目的，変遷について理解する。 （目標1）
第3回	介護保険制度の仕組みを理解する。（目標1）
第4回	介護保険サービス利用の流れと介護サービスの種類を把握する。 （目標1）
第5回	日本の介護保険制度の課題と展望について考察する。（目標1）
第6回	介護保険制度と関連諸制度との関係及び各専門職の役割を理解する。 （目標1,3）
第7回	障害者総合支援法創設の背景と目的，動向を理解する。（目標2）

	第8回	障害者総合支援法の仕組み①（自立支援給付・利用者負担・障害福祉事業者・施設・専門職と役割について学ぶ）（目標2）
	第9回	障害者総合支援法の仕組み②（障害者福祉サービス利用の流れ・種類と内容、組織・団体の役割について学ぶ）（目標2）
	第10回	介護福祉実践に関連する諸制度①（日常生活自立支援事業・成年後見制度等を理解する）（目標1,3）
	第11回	介護福祉実践に関連する諸制度②（高齢者虐待防止法・高齢者保健医療制度を理解する）（目標1,3）
	第12回	介護福祉実践に関連する諸制度③（介護予防施策・難病対策・感染症予防などの制度を理解する）（目標1,3）
	第13回	介護福祉実践に関連する諸制度④（生活保護法等、生活を支える諸制度の概要を理解する）（目標3）
	第14回	介護福祉実践に関連する諸制度⑤（高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度の概要の理解及び諸外国の社会保障制度を確認する）（目標3）
	第15回	介護福祉専門職が諸制度を理解することの必要性を確認する（まとめ）（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	授業前に該当するテキスト範囲を確認し、概要を把握しておくこと。
	復習	レジュメやテキストを用いて重要であると説明された内容や用語をノートに整理すること。
	展開	各制度の仕組みやサービスが、介護を必要とする人々の生活とどのようにかかわっているか、また、日本における各制度の課題等を理解することができる。
成績評価	評価の基準	担当コマ数と評価持ち点を比例させる形で、教員2名の点数を加算して評価する。 【評価持ち点】松井：80点、川村：20点
	評価の方法	松井：定期テスト（60%） ミニテスト（20%） 川村：定期テスト（20%）
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座2『社会と制度の理解』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規出版
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5110-4
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書2『人間と社会－社会の理解』
	著者名	小澤温・秋元美世（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3163-7
参考URL		

備考

第1回～第6回/第10回～第15回：松井担当
第7回～第9回：川村担当

〈松井〉

- ・ミニテストは4回実施する予定
-

災害・緊急時の介護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS105
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	災害・緊急時の介護
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 中西 正人 松井 奈美 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20004701 水2
教室	(前期)講義室4 (後期)講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 実際の事例等を通し、状況に応じた災害時の介護実践力をたかめるようにする。また自然災害に対する備えを身につけることができる。

学生の達成目標

- 1.災害や緊急時によって生じる直後・中期・長期的な介護の問題を理解し、介護福祉士としての行動がとれるように基礎的知識と技術を養う。
- 2.非常時の生活支援について理解する。
- 3.避難所における支援について実戦的に学ぶ。

授業内容	第1回	災害介護の必要性 {目標1}
	第2回	災害・緊急時の種類と災害サイクル、トリアージの存在 {目標1}
	第3回	人・生活に及ぼす影響 事例に見る生活保障 {目標2}
	第4回	災害時のコミュニケーション支援 {目標2}
	第5回	災害時支援の視点 からだところ 1) 災害の種類別にみた健康や生活の問題、災害時期別・避難生活別に見た健康問題、日常生活問題、生活問題 {目標1・2}
	第6回	災害時の生活支援技術 1) 「環境」 {目標1・2}

	第7回	災害時の生活支援技術 2)「食」{目標1・2}
	第8回	災害時の生活支援技術 3)「排泄」{目標1・2}
	第9回	災害時の生活支援技術 4)「睡眠」{目標1・2}
	第10回	災害時の生活支援技術 5)「清潔」{目標1・2}
	第11回	災害時の生活不活発病の予防{目標1・2}
	第12回	社会福祉施設における災害時の対応と防災計画{目標1・2}
	第13回	災害時の働く障害者への支援と災害後の就労・継続支援{目標1・2}
	第14回	HUG演習・まとめ{目標3}
	第15回	HUG演習・まとめ{目標3}
予習・復習の内容	予習	「災害時の介護」について日常から関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	災害・緊急時の自分の対処法についてその能力を見きわめ、強化していく。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	レポート(70%)、授業の意欲(30%)
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

地域共生論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS106
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	地域共生論
科目責任者	清宮 宏臣
担当教員	宮下 裕一 五十嵐 正人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20000401 火3
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「地域で共に生きる」ということについて、障害のある人が地域で暮らすことやそれを支えることなどについて、講義および学外活動を通して考え、学ぶことを目的とする。

学生の達成目標

- 1.短大周辺や学生自身が暮らす地域への活動参加を促し、社会資源の理解や多様な文化・価値観に触れながら地域社会のありようについて理解する。
- 2.障害のある方が地域で生活することについて、その支援の在り方や共生のあり方について理解する。
- 3.人が自立した生活を営むことについて、個人、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、日々の生活と社会とのかかわりについて理解する。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | オリエンテーション
(科目の内容、授業の進め方など) |
| 第2回 | 障害をもつ人の暮らし方と共生について（1）
制度にとらわれない暮らし；「ばおばぶ」での生活（目標2） |
| 第3回 | 障害をもつ人の暮らし方と共生について（2）
「生活ホーム小島屋」での生活（目標2） |
| 第4回 | 障害をもつ人の暮らし方と共生について（3）
重症心身障害とは（目標2） |
| 第5回 | 障害をもつ人の暮らし方と共生について（4）
重症心身障害児者の暮らし（目標2） |

	第6回	障害をもつ人の暮らし方と共生について（５） 知的障害のある方の暮らし（目標２）
	第7回	福祉実践者の話（目標１、２）
	第8回	グループワーク（１） 学外活動の振り返り（目標１）
	第9回	グループワーク（２） 身近な社会資源を知る；社会福祉協議会ほか（目標３）
	第10回	社会資源（制度や施設など）と支援の現状（１） 精神障害のある方について（目標２）
	第11回	障がいのある子の保護者の方からの話（目標２）
	第12回	社会資源（制度や施設など）と支援の現状（２） 諸外国の様子（目標１、２）
	第13回	社会資源（制度や施設など）と支援の現状（３）権利擁護について （目標２）
	第14回	社会資源（制度や施設など）と支援の現状（４）障害のある人と障 害のある人を支える人との地域共生に向けて（目標２）
	第15回	グループワーク（３） 地域や地域福祉について考える（目標１、３）
予習・復習の内容	予習	・居住地の自治会について、どのような様子であるのか、どのよう な活動があるのかななどを、親や近隣住民の方などから情報を得てお く。
	復習	・施設種別名や制度名などを福祉六法などで確認をする。
	展開	1.居住地の自治会活動に、積極的に参加する。 2.居住地周辺に、どのような福祉施設や地域住民が交流する場が あるのかを調べ、参加可能な活動に積極的に参加する。 3.居住地以外の地域においても、興味関心のある活動に参加す る。
成績評価	評価の基準	授業で扱った基礎的な内容を理解できていること。 障害のある人が地域で生活することや障害のあるか人を支える こと、また一市民として生活することについて、自らの考えを 持ち、それを説明できること。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）や毎講義後のレポート（30%）、 学外活動の時間数、活動後レポートの内容やファイル整理など （70%）、 などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干 変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	三人暮らし
	著者名	五十嵐正人 著
	出版社	水曜社
	価格	1,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-88065-190-3
参考URL		
備考	・学外活動（居住地の自治会活動や福祉施設での活動など）20時間以上を必須として いる。各自が自主的、計画的に活動先を見つけ参加することが必要である。	

介護福祉特論Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS304
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護福祉特論Ⅰ
科目責任者	中西 正人
担当教員	井口 ひとみ 布施 千草 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 松井 奈美 山田 美知代
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	31002701 水2,3
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護福祉士に必要な知識について、不足している部分を理解し、基礎的な学力を身につける。

学生の達成目標 1年次に学んだ科目を中心に、自身の不得意とする分野の再理解ができる。

授業内容	第1回	模擬試験①
	第2回	模擬試験②
	第3回	生活支援技術①（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）
	第4回	生活支援技術②（生活支援技術Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ）
	第5回	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション
	第6回	発達と老化の理解
	第7回	こころとからだのしくみ
	第8回	コミュニケーション技術

	第9回	介護過程
	第10回	認知症の理解
	第11回	障害の理解
	第12回	介護の基本①（介護の基本Ⅰ・Ⅱ）
	第13回	介護の基本②（介護の基本Ⅲ）
	第14回	社会の理解
	第15回	総合問題
予習・復習の内容	予習	1年次開講の各科目の授業で示されたキーワードについて再確認しておくこと。
	復習	指示されたレポート課題等を期限までに提出すること。
	展開	模擬試験を通じて卒業時共通試験について理解を深める。 最新の図書等で知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	各科目の内容が理解できていること。各科目における内容についての的確に説明ができることを合格基準とする。
	評価の方法	授業への取り組み20%、レポート80%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	介護福祉士 受験ワークブック
	著者名	介護福祉士受験ワークブック編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	3,024円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5003-9
参考URL		
備考		

介護福祉特論Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS402
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護福祉特論Ⅱ
科目責任者	中西 正人
担当教員	井口 ひとみ 布施 千草 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 松井 奈美 山田 美知代
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	31002801 金2,3
教室	講義室14
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護福祉士に必要な知識について、全般的に理解を深め、専門職として活躍するための力を身につける。

学生の達成目標 これまでに学習した各科目について理解を深めることができる。

授業内容	第1回	模擬試験①
	第2回	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション
	第3回	介護の基本①（介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）
	第4回	介護の基本②（介護の基本Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ）
	第5回	発達と老化の理解
	第6回	認知症の理解
	第7回	障害の理解

	第8回	こころとからだのしくみ
	第9回	社会の理解
	第10回	コミュニケーション技術
	第11回	生活支援技術①（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）
	第12回	生活支援技術②（生活支援技術Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ）
	第13回	介護過程
	第14回	医療的ケア
	第15回	総合問題
予習・復習の内容	予習	模擬試験前には、各科目の振り返りを行っておくこと。 模擬試験後は、各科目の授業において示されたキーワードについて調べておくこと。
	復習	模擬試験の正答について調べておくこと。 毎回の授業で示されたポイントについて整理すること。
	展開	介護福祉士国家試験に関する資料などを参考に各科目毎の理解を深める。
成績評価	評価の基準	2年間学習した各科目において基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	授業への取り組み20%、試験での得点80%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	見て覚える！ 介護福祉士国士ナビ
	著者名	いとう総研資格取得支援センター
	出版社	中央法規
	価格	2,592円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5014-5
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 I（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本 I（介護福祉論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010501 金2
教室	講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護の歴史を踏まえての介護の専門性を理解する。また事例を通しての介護の現状把握、新しい法改正下の介護福祉士の役割と義務を理解できるようにする。介護諸外国の状況から自国の介護の課題を見出せるようになる。	
学生の達成目標	1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を理解できる。 2. 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。 3. 介護におけるチームケア等について、理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス 介護福祉士を取り巻く状況、介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化 {目標1}
	第2回	現代社会と介護―介護問題の背景①―日本の高齢化の特徴、家族形態、家族機能 {目標1、2}
	第3回	現代社会と介護―介護問題の背景②―老老介護、孤独死、高齢者虐待、認知介護 {目標1、2}
	第4回	尊厳を支える介護 福祉の主要理念（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援個別ケア、ICF） {目標2}
	第5回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法 ①定義、倫理、養成制度、プライバシーの保護 {目標1}
	第6回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法 ②専門職団体の活動、職業倫理 {目標1}
	第7回	介護実践における連携①多職種連携―チームの種類と機能、連携の意義と目的 {目標3}

	第8回	介護実践における連携②—他の福祉職の機能と連携〔目標3〕
	第9回	介護実践における連携③—保健医療職との連携、医療行為〔目標3〕
	第10回	介護実践における連携④—地域連携—地域連携の意義と目的〔目標3〕
	第11回	介護実践における連携⑤—インフォーマルな社会資源の重要性〔目標3〕
	第12回	介護実践における連携⑥—地域包括支援センターの機能と役割、行政〔目標3〕
	第13回	海外における介護福祉の動向〔目標1〕
	第14回	今後の介護福祉の課題〔目標1, 2〕
	第15回	今後の介護福祉の課題とまとめ〔目標1, 2〕
予習・復習の内容	予習	家族介護について書かれている本を読み, 「介護」についての関心をもつ。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	介護の専門性について最新の図書を調べ, 知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について, 授業内容を踏まえ適確に説明できること又は, 実践できることを基準とする。
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3190-3 C 3336
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅱ（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB102
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅱ（介護対象論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010601 火2
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻； 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から解説し、それらの人とう向き合うか考えていく。

学生の達成目標

- 1.介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を知る。
- 2.その人への介護（特に尊厳を支える介護・自立への介護）について考える。
- 3.介護者の在り方について学びを深める。

授業内容	第1回	ガイダンス VTR {目標3}
	第2回	介護を必要とする人の理解 I－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史） {目標1}
	第3回	介護を必要とする人の理解 I－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式） {目標1}
	第4回	介護を必要とする人の理解 I－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動） {目標1・2}
	第5回	介護を必要とする人の理解 I－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用） {目標1}
	第6回	介護を必要とする人の理解 I－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ） {目標1・2}
	第7回	介護を必要とする人の理解 I－⑥障害のある人の暮らし（生活を支える基盤） {目標1・2}
	第8回	介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域の存在そのI {目標3}

	第9回	介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域の存在その2 {目標3}
	第10回	介護を必要とする人の理解 II－①高齢者の身体的・心理的特徴 {目標1}
	第11回	介護を必要とする人の理解 II－②障害者の身体的・心理的特徴 {目標1}
	第12回	介護を必要とする人の理解 II－③終末期にある人の理解 I {目標1}
	第13回	介護を必要とする人の理解 II－④終末期にある人の理解 II {目標1・2}
	第14回	介護を必要とする人の理解 II－⑤終末期にある人の理解 III {目標1・2・3}
	第15回	学生による発表と討議 {目標1・2・3}
予習・復習の内容	予習	・自らの暮らし、高齢者の暮らし、関心を持ち、一日記録してみる。 ・参考図書を読み、「介護を必要とする人」について理解しておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	高齢者、障害者、そして終末期にある人の心理について関連図書を読み、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3190-3 C3336
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）
科目責任者	今井 訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20010701 金3
教室	講義室5
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	具体的な事例をもとにグループワークを取り入れ、リスクマネジメント、セーフティマネジメントを考える。介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防対策について知識を深める。	
学生の達成目標	1.リスクマネジメントの目的を理解する。 2.介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。 3.施設介護、在宅介護の場における事故についての知識を深め、その予防法について学ぶ。	
授業内容	第1回	ガイダンス、リスクマネジメントの考え方（目標1）
	第2回	セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保）（目標1）
	第3回	リスクコントロール・リスクファイナンス（目標1,2）
	第4回	介護における安全確保とリスクマネジメント ①ケアマネジメントとリスクマネジメント（目標2）
	第5回	介護における安全確保とリスクマネジメント ②ヒヤリハット事例の分析（目標2,3）
	第6回	介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策（目標2,3）
	第7回	介護における安全確保とリスクマネジメント ④施設内の事故の特徴と対策（目標2,3）
	第8回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防（目標2,3）

	第9回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時・医療対応時の対応（目標2,3）
	第10回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク（目標2,3）
	第11回	認知症高齢者の事故対策（目標2,3）
	第12回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ①心の健康管理（スーパービジョンの存在）（目標2）
	第13回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ②腰痛等身体 の健康管理（福祉用具の活用）（目標2）
	第14回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ③感染予防の 対策と労働安全（関係法規）（目標2）
	第15回	まとめ・マニュアル作成（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	過去に起こった介護事故についてその経緯を調べ、対策を考えておくこと。
	復習	授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	利用者、介護者それぞれの視点でのリスクマネジメントを理解する。
成績評価	評価の基準	テスト、課題レポート・作成マニュアル、授業態度により評価する。
	評価の方法	試験70%、レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書3 介護の基本
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メチカルフレンド社
	価格	3500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3192-7
推薦図書等	書籍名	介護分野におけるリスクマネジメント
	著者名	金子努
	出版社	中央法規出版株式会社
	価格	2000円+税
	ISBN・ISSN	9784805826140
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）
科目責任者	宮崎 陽夫
担当教員	山崎 敦
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010801 木4
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 リハビリテーション医学から高齢者の疾患・障害像を把握し、介護におけるリハビリテーションの考え方を理解する。

学生の達成目標 1.高齢者の肢体不自由をきたす疾患・障害についての知識を身につける。
2.リハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を客観的、科学的な思考ができるようにする。

授業内容	第1回	リハビリテーション概論（目標1.2）
	第2回	障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖）（目標1.2）
	第3回	障害の医学的基礎知識（神経・生理学）（目標1.2）
	第4回	脳血管疾患に対するリハビリテーション（目標1.2）
	第5回	進行性疾患に対するリハビリテーション（1目標.2）
	第6回	骨折に対するリハビリテーション（目標1.2）
	第7回	運動麻痺に対するリハビリテーション（目標1.2）
	第8回	言語・排尿・嚥下障害に対するリハビリテーション（1目標.2）
	第9回	脊髄損傷・切断に対するリハビリテーション（目標1.2）
	第10回	廃用症候群に対するリハビリテーション（目標1.2）
	第11回	認知症に対するリハビリテーション（目標1.2）

	第12回	終末期に対すリハビリテーション(目標1.2)
	第13回	地域リハビリテーション(目標2)
	第14回	シーティングについて(目標2)
	第15回	リハビリテーション論のまとめ
予習・復習の内容	予習	毎授業内容に関するテーマを事前に調べておくこと。
	復習	毎授業に配布する関係資料の理解を深めること。
	展開	臨床実習においてリハビリテーション知識を応用できること。
成績評価	評価の基準	授業内容の基礎的理解 毎授業の小レポート内容
	評価の方法	期末筆記試験 (90%) 小レポート (10%)
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論
	著者名	編集 澤村誠志
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	¥2730
	ISBN・ISSN	*978-4-8392-3157-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	毎授業にて必要な資料等は配布する。	

介護の基本Ⅴ（レクリエーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB103
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅴ（レクリエーション）
科目責任者	八鍬 拓
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010901 月2
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 福祉的視点に立ったレクリエーションの基礎理論を概説し、介護現場におけるレクリエーション援助の方法を理解する。

学生の達成目標

1. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。
2. 「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるために、生活の一部であるレクリエーション援助の実践のための知識を習得する。

授業内容	第1回	ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）
	第2回	介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解①（目標1・2）
	第3回	介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解②（目標1・2）
	第4回	レクリエーションの活動領域と意義①（目標1・2）
	第5回	レクリエーションの活動領域と意義②（目標1・2）
	第6回	レクリエーション活動の主体（目標1・2）
	第7回	レクリエーション計画作成及び実施（目標1・2）
	第8回	レクリエーション指導者の配慮（目標1・2）
	第9回	レクリエーション活動の実践（目標1・2）
	第10回	高齢者・障害者レクリエーションの実践（目標1・2）
	第11回	レクリエーションワークの指導法（目標1・2）

	第12回	集団レク援助実習 1 レク計画作成（目標1・2）
	第13回	集団レク援助実習 2 レク計画作成（目標1・2）
	第14回	集団レク援助実習 3 レク計画作成（目標1・2）
	第15回	福祉レクリエーション援助のまとめ
予習・復習の内容	予習	レクリエーション（余暇活動）に関心をもち、生活の中でどのような役割を果たすかを理解しておく。
	復習	指示されたレポートの提出。 援助実習における実践。
	展開	高齢者・障害者に対するレクリエーションの必要性を考察し、理解・知識を深める。
成績評価	評価の基準	高齢者・障害者のレクリエーション（余暇活動）について、基礎的な内容が理解できていること。また、レクリエーション計画作成及び実施の方法を理解すること。
	評価の方法	レポート課題（20%）、期末筆記試験（70%）、授業への参加態度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本VI（介護サービス事務）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB302
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本VI（介護サービス事務）
科目責任者	大塚 克巳
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011001 月3,4
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	社会保険制度のひとつである介護保険制度の仕組みを理解するとともに、介護報酬算定について実務知識の習得を図る。	
学生の達成目標	1.介護保険制度の仕組みやサービス種別の内容を学ぶとともに、介護給付費に関わる請求事務に精通する。 2.介護保険事務に関わる実務全般を習熟し、即戦力として請求事務に従事できるスキルを養う。	
授業内容	第1回	テキスト第1章 共通事項 サービス全般にわたる共通事項 (目標1)
	第2回	テキスト第1章 共通事項 サービス全般にわたる共通事項 (目標1)
	第3回	テキスト第2章 居宅サービス 1.訪問介護・介護予防訪問介護 2.訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護 (目標1,2)
	第4回	テキスト第2章 居宅サービス 3.訪問看護・介護予防訪問看護 4.訪問リハビリテーション・介護予防訪問リハビリテーション (目標1,2)
	第5回	テキスト第2章 居宅サービス 5.居宅療養管理指導・介護予防居宅療養管理指導 6.通所介護・介護予防通所介護 (目標1,2)
	第6回	テキスト第2章 居宅サービス 7.通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション 8.福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与 (目標1,2)

	第7回	テキスト第2章 居宅サービス 9.短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護 10.短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護 (目標1,2)
	第8回	テキスト第2章 居宅サービス 11.特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護 12.居宅介護支援・介護予防居宅介護支援 (目標1,2)
	第9回	テキスト第3章 地域密着型サービス (目標1,2)
	第10回	テキスト第3章 地域密着型サービス テキスト第4章 施設サービス (目標1,2)
	第11回	テキスト第4章 施設サービス (目標1,2)
	第12回	テキスト第5章 介護給付費の請求方法 (目標2)
	第13回	練習問題 様式第二、様式第八の事例問題 解答・解説 (目標2)
	第14回	練習問題 様式第二、様式第八の事例問題 解答・解説 (目標2)
	第15回	練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説及び振り返り (目標2)
予習・復習の内容	予習	・介護給付費単位数等サービスコード表の活用にあたり、インデックス等を活用し各サービス種類が検索しやすいようにしておくこと。 ・各回の項目に沿ってテキストの事前の読み込みを行っておくこと。
	復習	・介護保険制度の仕組みについて理解するため、現住所地あるいは最寄りの市町村の介護保険にかかるパンフレットを取得するなど、講義内容と照らし合わせながら今一度の振り返りを行うこと。
	展開	・事前のテキストの読み込みで介護保険制度の大枠や仕組み並びにサービス種別の内容を理解できるようにする。 ・介護保険請求事務の実践に欠かすことのできない、介護給付費単位数等サービスコード表の活用を迅速かつ適切に行うことができるようにする。 ・適宜、各サービス種別における介護報酬算定について実際の算定方法を理解できるようにする。
成績評価	評価の基準	全15回の学習の中で、達成目標に対する到達の度合いを評価することを基本とします。
	評価の方法	介護保険事務士認定試験において60点以上を要する。
教科書	書籍名	介護保険事務士養成テキスト（実務編）（学科編）(介護給付費単位数等サービスコード表)
	著者名	一般財団法人 つしま医療福祉研究財団 編集
	出版社	中央法規出版株式会社
	価格	5,000円
	ISBN・ISSN	－
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書は必要に応じて随時資料配布	

コミュニケーション技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSC201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	コミュニケーション技術 I
科目責任者	古川 繁子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20001101 金3
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義形式ではあるが、全体的に事例と演習を豊富に交えながら、介護の場面に即応したコミュニケーション技術が習得できる。	
学生の達成目標	1.介護と必要とする者の理解や援助的関係・援助的コミュニケーションについて理解する。 2.利用者や利用者家族、あるいは多職種協働する際のコミュニケーション能力を身につける。	
授業内容	第1回	介護コミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を知る。(目標1)
	第2回	利用者・家族との関係づくり(波長合わせ・ラポールの取り方)(目標2)
	第3回	介護の場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際(話を聞く技法、利用者の感情表現を察する技法-気づき、洞察力、その他)(目標1,2)
	第4回	利用者・家族とのコミュニケーションの実際(非言語的コミュニケーション)(目標1,2)
	第5回	利用者・家族とのコミュニケーションの実際(納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他)(目標1,2)
	第6回	利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際(感覚機能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他)(目標1)

	第7回	記録による情報の共有化（介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類記録の技法－方法，留意点）（目標1,2）
	第8回	記録による情報の共有化（記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化）（目標1）
	第9回	情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報の保護、活用。（目標1）
	第10回	介護におけるチームコミュニケーション報告の意義・目的（報告・通知・相談の方法・留意点）（目標1,2）
	第11回	会議の意義と目的（会議の種類・方法・留意点。その他）（目標1,2）
	第12回	話を聞く技法②（傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く）（目標1）
	第13回	話を聞く技法③（家族とのコミュニケーションの実際）（目標1）
	第14回	記録の技法②（マッピング：ジェノグラム・ソシオグラム）（目標1,2）
	第15回	記録の技法③（評価：アセスメント・エバリュエーション・モニタリング）（目標1,2）
予習・復習の内容	予習	授業で指示された語句や事柄を調べる。
	復習	予習内容を含め，自分のノートを作成し，授業の内容を整理する。整理しながら，関連する項目を独自に調べ，「コミュニケーションノート」を作成する。
	展開	・対人援助職として，介護場面に限らず，援助場面でコミュニケーションを図ることができる。 ・必要な事柄を自分で調べ，まとめ，プレゼンテーションすることができる。
成績評価	評価の基準	提出物・演習レポート・定期試験により評価
	評価の方法	提出物・演習レポート(30%)定期試験(70%)により評価
教科書	書籍名	新介護福祉士養成講座 5 「コミュニケーション技術」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
	出版社	中央法規出版
	価格	2,310円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8058-3769-6
推薦図書等	書籍名	コミュニケーション技術－人間関係の形成と実践技術
	著者名	黒澤他編著
	出版社	建帛社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	9784767933535
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSC301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	コミュニケーション技術Ⅱ
科目責任者	高橋 恵子 唯野 玲子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20001201 水1, 土3
教室	(水1) 講義室1 (土3) 講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻: 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	コミュニケーション技術Ⅱ・手話（唯野玲子） 聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話技術の基礎を身につけ、聴覚補償やさまざまな視覚情報を活用することによってコミュニケーションを充実させる方法を習得する。あわせて、聴覚障害全般についての理解を深める。
	コミュニケーション技術Ⅱ・点字（高橋恵子） 基本的な点字を誰でも難しく考えることなく学ぶ。その他、手引き介助については、実践的に学んでいく。

学生の達成目標	（唯野玲子） 1.手話や指文字を使った基本的な表現の読み取りができるようになる。 2.手話や指文字を使った基本的な表現の表出ができるようになる。 3.聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーションの方法を理解する。
	（高橋恵子） 点字の基本的な学習を行い、視覚障害を持つがゆえの特性を考慮した介護技術、視覚障害者に関する諸問題、視覚障害リハビリテーションなど、視覚障害全般について学習する。理論だけでなく、実際に役立つ事項を多く学習する。

授業内容	（唯野玲子）
	第1回 手話実技：あいさつ、天気/季節の表現（目標1,2） 講義：聴覚障害の原因と二次障害、三次障害の表れ方(目標3)
	第2回 手話実技：家族、質問の表現(目標1,2) 講義：聴覚障害者のコミュニケーションの方法(目標3)

第3回	手話実技：好き/嫌い，数/月日の表現(目標 1, 2) 講義：手話の種類，構造，特徴(目標 3)
第4回	手話実技：時間，過去/現在/未来の表現(目標 1, 2) 講義：聴覚補償の実際(目標 3)
第5回	手話実技：動き，食べ物/味覚の表現(目標 1, 2) 講義：文字や視覚情報の活用(目標 3)
第6回	手話実技：形容，気持ちの表現(目標 1, 2) 講義：聴覚障害者の社会生活(目標 3)
第7回	手話実技：思考，可能/必要の表現(目標 1, 2) 講義：聾重複障害者，盲聾者の支援(目標 3)
第8回	手話実技：復習とまとめ(目標 1, 2) 講義：聴覚障害者の生活の質の向上(目標 3)
第9回	(高橋恵子) 視覚障害とは。発生原因・視覚判定の方法
第10回	視覚障害者補助器具の種類と機能
第11回	視覚障害とコミュニケーション。情報伝達方法
第12回	視覚障害の歴史と視覚障害教育の歴史制度
第13回	視覚障害者の暮らし
第14回	点字技術演習（1）
第15回	点字技術演習（2）

予習・復習の内容	予習	(唯野玲子) テキストに目を通し，授業の概要を把握する。 (高橋恵子) テキスト『初めての点訳第2版』56ページからの「視覚障害者の状況」の項を読み，視覚障害のための不自由さ等について関心を持つとともに，当事者である講師に対し，質問を準備する。
	復習	(唯野玲子) 授業で学習した手話表現の練習を繰り返す。 (高橋恵子) テキストの点字一覧表を繰り返し読み，演習問題に取り組むことにより，点字の読み書きがスムーズにできるようにする。
	展開	(唯野玲子) 友人との間で，学習した手話を使ったコミュニケーションを行う。 可能であれば，実際に聴覚障害者と会ってコミュニケーションを行う。 (高橋恵子) 公共施設内の点字表示や食品，家電製品などに書かれている点字を読んでみる。また，視覚障害者を見かけたら，積極的に声をかけて援助する。

成績評価	評価の基準	(唯野玲子) 基本的な手話表現の読み取りと表出ができること，聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーション手段について理解し，それを説明できることを合格基準とする。 (高橋恵子) 点字の歴史と，視覚障害者にとっての点字の意義について説明できること。また，点字の仕組みと仮名遣いを理解し，簡単な読み書きができること。
	評価の方法	(唯野玲子) 小レポート20%，受講態度20%，試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。 (高橋恵子)

受講態度(40%)と試験または課題採点結果(60%)の成績を総合的に評価する。

教科書

書籍名	N H Kテレビテキスト「みんなの手話」 ワンポイント手話 2014年10月～12月
著者名	早瀬憲太郎/著
出版社	N H K出版
価格	362円+税
ISBN・ISSN	978-4-14-910893-3
書籍名	初めての点訳 第2版
著者名	全国視覚障害者情報提供施設協会/編集
出版社	全国視覚障害者情報提供施設協会
価格	1,200円+税
ISBN・ISSN	978-4-907272-05-0

推薦図書等

書籍名	新日本語-手話辞典
著者名	全国手話研修センター日本手話研究所/編集 米川明彦/監修
出版社	全日本聾唖連盟
価格	22,000円+税
ISBN・ISSN	978-4-8058-3450-3

参考URL <http://www.nhk.or.jp/heart-net/syuwa/>

備考

生活支援技術 I（総論・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術 I（総論・環境）
科目責任者	清宮 宏臣
担当教員	今井 訓子 中西 正人 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011201 水4,木3
教室	講義室7, 介護実習室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 生活支援にむけて、利用者の住環境や環境づくりについて理解する。 2. 生活行為場面（後期開講科目の「睡眠」「排泄」「清潔・入浴」）について、基本を理解する。	
学生の達成目標	1. 介護を必要とする方の生活や生活しやすい環境整備のあり方について理解することができる。 2. 居住環境整備の一つとして、ベッドメイキングをすることができる。 3. 生活支援におけるICFや社会参加について理解することができる。また、生活行為場面ごとの支援のあり方について理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、生活形成のプロセス（ライフサイクル）や生活行動（生活経営）について（目標1）
	第2回	生活支援について（支援対象者、支援対象者の住まい、居住環境について）（目標1）
	第3回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習1）（目標2）
	第4回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習2）（目標2）
	第5回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習3）（目標2）
	第6回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習4）（目標2）
	第7回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習5）（目標2）

	第8回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習6）（目標2）
	第9回	ICFと生活支援について1（ICFの構成要素、ICFの生活支援への活用）（目標3）
	第10回	ICFと生活支援について2（参加に向けて；自己実現、生きがい、地域への参加）（目標3）
	第11回	居住環境の整備に向けて1（安全な住まい、快適な室内環境、課題や問題点）（目標1）
	第12回	居住環境の整備に向けて2（暮らし易さへの工夫・方法、福祉用具の活用、住宅改修事例）（目標1）
	第13回	居住環境の整備に向けて3（施設における工夫、認知症高齢者への環境支援、ユニバーサルデザイン）（目標1）
	第14回	生活行為への支援（身じたく、清潔・入浴）（目標3）
	第15回	生活行為への支援（睡眠、排泄）とまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	・障害（心身機能の状態による違い）のある方が生活しやすい環境や福祉用具にどのようなものがあるかを調べる。 ・障害のある方だけでなく、障害のない方にも便利なものについても調べておく。
	復習	・適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	・ベッドメイキングの習得では、介護実習室があいている時間に、各自が都合のつく時間を利用して自己練習をする。 ・福祉用具に関する最近の動向を調べ、知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	・参加状況（態度や意欲など）、課題レポート、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）（10%）、課題（レポートほか）（10%）、試験（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	生活支援技術 I
	著者名	川井太加子 編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史・三好春樹
	出版社	講談社
	価格	2,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-06-282462-0
参考URL		
備考	・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き（かかとがあるもの））、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[ネックレス、イヤリング、ブレスレットなど]は着用しないなど）こと。	

生活支援技術Ⅱ（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS102
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅱ（移動）
科目責任者	中西 正人
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011301 月5,水4
教室	講義室7, 介護実習室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	移動に関する課題を学生が主体的に調べ発表と批評をし合いながら理解を進められる機会を設ける。 移動に関するプラス面と安全の大切さについてグループワークを通じて学ぶ機会を設ける。	
学生の達成目標	1.利用者の視点で移動や移乗介助の必要性を理解することができる。 2.移動や移乗介助に必要な知識と技術を理解することができる。 3.利用者・介護者にとって安全で安心できる移動や移乗介助を実践することができる。	
授業内容	第1回	移動の意義と目的（目標1・2）
	第2回	移動の介護の基本（目標1・2）
	第3回	移動に関するアセスメントと目標設定（目標1・2）
	第4回	安全で気兼ねなく動けることを支える介護（目標1・2）
	第5回	安全で的確な移動介助の方法① 基本的留意点（ボディメカニクス）（目標2）
	第6回	安全で的確な移動介助の方法② 基本的留意点（環境整備）（目標2）
	第7回	安全で的確な移動介助の方法③ 体位変換（目標2）
	第8回	移動介護演習① 体位変換（目標3）

	第9回	安全で的確な移動介助の方法④ 歩行介護（目標2）、移動介護演習② 歩行介護（目標3）
	第10回	安全で的確な移動介助の方法⑤ 車いすの移乗（目標2）
	第11回	移動介護演習③ 車いすの移乗（目標3）
	第12回	安全で的確な移動介助の方法⑥ 車いす移動（目標2）
	第13回	移動介護演習④ 車いす移動（目標3）
	第14回	移動介護演習⑤ 振り返り演習（目標3）
	第15回	利用者の状態・状況に応じた移動の介護の留意点、他の職種の役割と協働について（目標1・2）
予習・復習の内容	予習	; 障害を持つ人の移動について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ; 授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ; 事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	; 毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ; 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	; 移動や移乗介助に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	移乗や移動に関する介護に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験60%、授業への取り組み20%、課題（レポート）20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3153-8
推薦図書等	書籍名	看護・介護を助ける姿勢と動作
	著者名	小川鑑一
	出版社	東京電機大学出版局
	価格	2300円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-501-41860-1
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS103
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅲ（食事）
科目責任者	今井 訓子
担当教員	清宮 宏臣 中西 正人 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011401 火5,水4
教室	講義室7, 介護実習室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。

学生の達成目標 1.食べることが、人間らしく生きることといかに深い関係をもつ行為であるかについて理解する。
2.食事介護の基本的な進め方について理解する。
3.安全に、おいしく食事を摂るための介護について理解する。

授業内容	第1回	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意義と目的(目標1)
	第2回	食事に関する利用者のアセスメントⅠ（目標1.2. 3）
	第3回	食事に関する利用者のアセスメントⅡ(目標1. 2. 3)
	第4回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫Ⅰ(目標1. 2. 3)
	第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫Ⅱ(目標1. 2. 3)
	第6回	安全で的確な食事介助(目標2. 3)
	第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）(目標2. 3)
	第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）(目標2. 3)
	第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）(目標2. 3)

	第10回	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点(目標2. 3)
	第11回	脱水予防(目標1)
	第12回	食事介助(1)(演習)(目標2. 3)
	第13回	食事介助(2)(演習)(目標2. 3)
	第14回	他職種役割と協働(経管栄養を行っている人の介護の留意点)(目標1. 2. 3)
	第15回	演習後レポートからの気づき、重要項目の再確認(目標1. 2. 3)
予習・復習の内容	予習	嚥下の仕組みについて学習しておく。 おいしい食事につながる環境についてまとめておく。
	復習	授業の要旨をまとめておく。
	展開	「ここからだのしくみ」の授業とあわせ、理解を深める。
成績評価	評価の基準	講義演習を通して、食事の意義や目的、方法を述べるができる。 演習で学んだ技術を習得している。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度 10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）
科目責任者	清宮 宏臣
担当教員	今井 訓子 中西 正人 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011501 水5,金4
教室	介護実習室, 講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

支援の必要な方の「清潔・入浴」について支援のあり方を理解する。（講義および演習を行う。演習では一般的な家庭浴槽や寝台機械浴槽などに実際に入る。そのほか、ベッド上で寝たまま行う全身清拭や洗髪などについて演習を行う）。

学生の達成目標

1. 清潔・入浴に関する意義や目的、介護の必要な方の支援の方法を理解できる。
2. 演習を通じて、清潔保持（ベッド上での清拭や洗髪など）や入浴支援をすることができる。

授業内容

第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、支援を要する利用者や清潔について（意義と目的）（目標1）
第2回	洗髪、足浴、全身清拭について（演習にむけて）（目標1）
第3回	洗髪（演習）（目標2）
第4回	洗髪（演習、上記続き）（目標2）
第5回	足浴（演習）（目標2）
第6回	入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点と爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴）（目標1）
第7回	全身入浴について（演習に向けて）（目標1）
第8回	全身清拭（演習）（目標2）

	第9回	全身入浴（家庭浴槽、寝台機械浴槽、簡易浴槽）の介護（演習）（目標2）
	第10回	全身入浴（家庭浴槽、寝台機械浴槽、簡易浴槽）の介護（演習、上記続き）（目標2）
	第11回	グループワーク（演習の振り返り）（目標1,2）
	第12回	個別浴槽の種類や設置について（入浴環境整備）（目標1）
	第13回	入浴における物理作用（効果とリスク）（目標1）
	第14回	入浴における留意事項（高齢者の特徴を踏まえて；水分の重要性）（目標1）
	第15回	感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例を通して）（目標1）
予習・復習の内容	予習	・普段当たり前のように行っている清潔保持や入浴行為について、その意義や目的、諸動作について考えてみる。
	復習	適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	・自宅の入浴環境（脱衣室も含む）について、心身機能の状況に応じた使い勝手を考え、理解を深める。
成績評価	評価の基準	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）、課題（レポートほか）、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）（10%）、課題（レポートほか）（10%）、試験（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史
	出版社	講談社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-06-282462-0
参考URL		
備考	・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き（かかとがあるもの））、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[イヤリング、ネックレス、ブレスレットなど]は着用しないなど）こと。	

生活支援技術Ⅴ（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS202
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅴ（身じたく）
科目責任者	中西 正人
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011601 火1,4
教室	講義室4, 介護実習室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人としての人格を尊重した、身じたくに関する介護技術の内容を理解する

学生の達成目標

- 1.利用者の視点で身じたくに関する介助の必要性を理解することができる。
- 2.身じたくに関する介助に必要な知識と技術を理解することができる。
- 3.利用者・介護者にとって安全で安心できる身じたくに関する介護を実践することができる。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 身じたくの意義と目的（目標1） |
| 第2回 | 身じたくに関する基礎知識（目標1・2） |
| 第3回 | 身じたくの介護の基本（目標1・2） |
| 第4回 | 身じたくに関するアセスメントと目標設定（目標1・2） |
| 第5回 | 生活習慣と装いの楽しみを支える介護（目標1・2） |
| 第6回 | 整容行動、衣生活の介助の技法① 口腔の清潔（目標1・2） |
| 第7回 | 整容行動、衣生活の介助の技法② 爪の手入れ、ひげの手入れ、耳の手入れ（目標1・2） |
| 第8回 | 演習① 口腔の清潔、爪の手入れ、ひげの手入れ、耳の手入れ（目標3） |
| 第9回 | 整容行動、衣生活の介助の技法③ 洗面、整髪、化粧（目標1・2） |

	第10回	整容行動、衣生活の介助の技法④ 衣服の選択、衣服の着脱（目標1・2）
	第11回	演習② 衣服の着脱①（座位での更衣）（目標3）
	第12回	演習③ 衣服の着脱②（臥位での更衣）（目標3）
	第13回	演習④ 振り返り演習（目標3）
	第14回	事例検討（目標1・2）
	第15回	他の職種の役割と協働について（目標1・2）
予習・復習の内容	予習	: 障害を持つ人の身じたくについて日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 : 授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 : 事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	: 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	: 身じたくに関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	身じたくに関する介護に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末筆記試験60%、授業への取り組み20%、課題（レポート）20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN : 978-4-8392-3153-8
推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ口腔ケア 第2版: 口をまもる 生命をまもる
	著者名	菊谷 武
	出版社	学研メディカル秀潤社
	価格	2520円
	ISBN・ISSN	ISBN : 978-4-7809-1114-5
参考URL		
備考		

生活支援技術VI（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS203
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術VI（排泄）
科目責任者	中西 正人
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011701 水1,火4
教室	（火4）講義室4, 介護実習室 （水1）講義室5
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	人間の尊厳を十分理解し、排泄に関する介護技術の内容を理解する	
学生の達成目標	1.利用者の視点で排泄介助の必要性を理解することができる。 2.排泄介助に必要な知識と技術を理解することができる。 3.利用者・介護者にとって安全で安心できる排泄介助を実践することができる。	
授業内容	第1回	排泄の意義と目的（目標1）
	第2回	排尿のメカニズム（目標1・2）
	第3回	排尿障害（目標1・2）
	第4回	排便のメカニズム（目標1・2）
	第5回	排便障害（目標1・2）
	第6回	排泄に関するアセスメントと目標設定（目標1・2）
	第7回	安全・的確な排泄の介助の技法① トイレでの介助（目標2・3）
	第8回	安全・的確な排泄の介助の技法② ポータブルトイレ、尿器・差し込み便器を使用した介助（目標2・3）
	第9回	演習① ポータブルトイレを使用しての排泄介助（目標2・3）
	第10回	演習② 尿器・差し込み便器を使用した介助（目標2・3）
	第11回	安全・的確な排泄の介助の技法③ おむつ交換（目標2・3）

	第12回	演習③ おむつ交換（目標2・3）
	第13回	演習④ 振り返り演習（目標2・3）
	第14回	事例検討（目標1・2）
	第15回	排泄に関するその他の技法、他の職種の役割と協働について（目標1・2・3）
予習・復習の内容	予習	: 排泄行為に不自由している人について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 : 授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 : 事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	: 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	: 排泄介助に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	排泄に関する介護に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験60%、授業への取り組み20%、課題（レポート）20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書6 生活支援技術 II
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2600円+税
	ISBN・ISSN	ISBN : 978-4-8392-3154-5
推薦図書等	書籍名	ステップアップのための排泄ケア (おはよう21ブックスー基礎から学ぶ介護シリーズ)
	著者名	西村 かおる
	出版社	中央法規出版
	価格	1890円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-2722-2
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS204
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）
科目責任者	今井 訓子
担当教員	清宮 宏臣 中西 正人 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011801 火2
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

尊厳の保持の観点から、その人の自立、自律を尊重する態度を学ぶ。睡眠に関するアセスメントができ良眠を促す支援ができる。
緊急時や終末期の介護技術を学び、グリーフケアを理解する。

学生の達成目標

- 1.人間にとって睡眠がどのような意味があり、良眠を促す介護方法を理解する。
- 2.緊急時の対処方法を理解する。
- 3.終末期介護の進め方を学び、介護者としての姿勢を理解する。

授業内容	
第1回	ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的（目標1）
第2回	睡眠に関するアセスメント（目標1）
第3回	安眠のための介護、安眠を促す介護の技法、安眠に関する環境（目標1）
第4回	利用者の状況による介助の留意点（目標1）
第5回	安眠のための介護、安眠を促す介護の技法 電法、マッサージ（演習）（目標1）
第6回	緊急時のアセスメント（目標2）
第7回	緊急事故時の状況観察と応急手当（演習）（目標2）

	第8回	終末期における介護の意義と目的（事前意思確認）（目標3）
	第9回	利用者のアセスメントと医療との連携（ICFに基づく看取りのための制度）（目標3）
	第10回	終末期における介護、緩和ケア（目標3）
	第11回	臨終時の対応、在宅ターミナルケア、死後の処置（目標3）
	第12回	死後の処置（演習）（目標3）
	第13回	グリーフケア（目標3）
	第14回	事例検討（目標1. 3）
	第15回	事例を通してのまとめ（目標1. 2. 3）
予習・復習の内容	予習	安眠を促す条件をまとめておくこと。 ターミナルケアについて図書を読んでおくこと。
	復習	授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	睡眠・緊急時の対応・ターミナルケアに関する図書を調べ知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	睡眠の意義や目的、安眠を促す方法を述べることができる。緊急時の対応をモデル人形を用いて行うことができる。在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて自分の考えを文章にできる。 テスト、レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書5 生活支援技術Ⅰ 基本編
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅷ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅷ（障害別）
科目責任者	今井 訓子
担当教員	清宮 宏臣 中西 正人 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011901 火2
教室	講義室 1
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	心身の障害とその障害を持つ人々の状況を理解し、その人にあった生活支援技術を学ぶ。 事例を用いて展開し、運動機能障害、感覚機能障害、内部障害等の障害の内容と生活支援方法を具体的にイメージする。	
学生の達成目標	- 生活支援に必要とされる障害の観察・評価ができる。 - 各障害がある人のアセスメントができ、コミュニケーションの方法、注意点を述べることができる。 - 障害別の日常生活の拡大を目指すための生活支援方法を理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス（目標1．2．3）
	第2回	片麻痺のある人の生活支援（例：脳血管障害の人）（目標1．2．3）
	第3回	運動および知覚機能に障害がある人の生活支援（例：脊髄損傷の人）（目標1．2．3）
	第4回	関節痛や関節可動域制限のある人の生活支援（例：慢性関節リウマチの人）（目標1．2．3）
	第5回	振戦や姿勢反射障害のある人の生活支援（例：パーキンソン病の人）（目標1．2．3）
	第6回	心臓機能障害のある人の生活支援（目標1．2．3）
	第7回	呼吸機能障害のある人の生活支援（目標1．2．3）

	第8回	排泄機能障害のある人の生活支援（目標 1. 2. 3）
	第9回	腎臓機能障害のある人の生活支援（目標 1. 2. 3）
	第10回	視覚・聴覚機能障害のある人の生活支援（目標 1. 2. 3）
	第11回	失語症や構音障害のある人の生活支援（目標 1. 2. 3）
	第12回	発達障害のある人の生活支援（目標 1. 2. 3）
	第13回	精神障害のある人の生活支援（目標 1. 2. 3）
	第14回	難病で在宅療養している人の生活支援（例：ALSまたは筋ジストロフィーの人）（目標 1. 2. 3）
	第15回	高次脳機能障害を認める人の生活支援（目標 1. 2. 3）
予習・復習の内容	予習	基本的な生活支援技術振り返り、確認しておく。 障害のある方の生活に関する図書をよむこと。
	復習	授業の要旨をまとめること。 「こころとからだのしくみ」と合わせて確認すること。
	展開	それぞれの障害の特徴を理解し、生活支援方法に関する知識、技術を深める。
成績評価	評価の基準	日常生活の支援において障害別の特徴を述べるができる。 事例に対して自分考えを文章にできる。テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、課題レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻 4 障害別生活支援技術
	著者名	編集 谷口敏代 中村裕子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3146-0
推薦図書等		
参考URL		
備考		

家事生活支援技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS302
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家事生活支援技術 I
科目責任者	廣橋 比刀美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002001 木2
教室	被服工芸室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	家事の意義や目的，洗濯，掃除，裁縫，家庭経営等に関する知識と介助を学ぶ。
-----------	--------------------------------------

学生の達成目標	1. 自立に向けた家事の援助・介助に関する知識と技術を身につける。 2. 自分自身の生活のなかで自立して家事全般ができること。 3. 快適で豊かな生活を送るにはどうすればよいか考えることができる。
---------	--

授業内容	
第1回	授業オリエンテーション，注意事項，自己紹介 家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント(目標3)
第2回	被服・繊維について…繊維の講義，繊維の実験の準備(目標2)
第3回	被服・繊維について…繊維の実験（燃焼性・吸水性）(目標2)
第4回	被服・繊維について…繊維の実験・しみ抜き準備(目標2)
第5回	しみ抜きの実習(目標2)
第6回	洗濯の実習（セーターの洗濯）(目標2)
第7回	しみ抜き・洗濯のまとめ(目標1)
第8回	被服実習…基本の縫い方・繕いについて(目標2)
第9回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など） (目標2)
第10回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など） (目標2)
第11回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など） (目標2)

	第12回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など） （目標2）
	第13回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など） （目標2）
	第14回	快適な室内環境(目標1,3)
	第15回	まとめ…家事援助に求められる事(目標3)
予習・復習の内容	予習	授業で学んだ事を自宅でも実践する。
	復習	授業で行った家事技術を自宅で再度行ってみる。
	展開	日々の家事を行う事で授業内容を確実なものとし，自分の生活，家事援助へつなげていく。
成績評価	評価の基準	試験60%，レポート・製作物40%
	評価の方法	試験60%，レポート他40%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書5 生活支援技術 I
	著者名	川井太加子/編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3145-3
推薦図書等	書籍名	介護福祉のための家政学
	著者名	中川英子/編著 石川周子/〔ほか〕共著
	出版社	建帛社
	価格	2,100円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3575-1
推薦図書等	書籍名	介護福祉のための家政学実習
	著者名	中川英子/編著 大塚順子/〔ほか〕共著
	出版社	建帛社
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3605-5
参考URL		
備考		

家事生活支援技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家事生活支援技術Ⅱ
科目責任者	三幣 周子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20002101 水4
教室	調理実習室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	日常生活の支援方法が確実に自己の学習内容として実践できる。	
学生の達成目標	1. 高齢者,障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させる。 2. 食生活の中での栄養学,食品学,調理学等の知識を養い,実践的な技術を学び,支援が個々の生活に対応できる能力を養う。	
授業内容	第1回	食生活の意義（健康と栄養，状態別の栄養（年齢と栄養）（目標1,2）
	第2回	高齢者の心身の特性を知った上での形態別の配慮と対応のあり方（生活習慣病の予防も含む）（目標1,2）
	第3回	献立と調理（摂食者の状況にあった献立作成と調理法）（目標1,2）
	第4回	調理実習（1）…日常食から介護職への展開（目標1,2）
	第5回	調理実習（1）…日常食から介護職への展開（目標1,2）
	第6回	調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）（目標1,2）
	第7回	調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）（目標1,2）
	第8回	調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）（目標1,2）

	第9回	調理実習（３）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）（目標１,２）
	第10回	調理実習（４）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて）（目標１,２）
	第11回	調理実習（４）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて）（目標１,２）
	第12回	調理実習（５）…郷土食（目標１,２）
	第13回	調理実習（５）…郷土食（目標１,２）
	第14回	調理実習（６）…支援したい食事をグループで作る。発表（目標１,２）
	第15回	家事生活支援技術のまとめ（目標１,２）
予習・復習の内容	予習	後期の授業内容に基づき、調べる。普段から自分の食事についても関心をもち、介護に関係するニュース、新聞、雑誌などの記事に目をむけて読み、内容を記録する。
	復習	毎回授業内容をまとめて、きちんとノートに整理しておく。ノート・プリント等の提出あり。
	展開	生活技術全般の総理解をもとに、その人の生活歴を含め知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	内容は広範囲になるが、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末テスト80%, 欠席レポート提出10%, 授業態度10%
教科書	書籍名	介護福祉士養成テキスト11 生活支援技術Ⅳ
	著者名	川村佐和子/編著 後藤真澄/編著 他
	出版社	建帛社
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3357-3
	書籍名	これからの調理 授業に組みこめる実験・実習
	著者名	西村敬子/著
	出版社	教育図書
	価格	3,301円+税
	ISBN・ISSN	978-4-87730-017-3
推薦図書等		
参考URL		
備考	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第１回の授業で説明します。 推薦図書はその他必要に応じてプリントを配布	

介護過程Ⅰ（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅰ（総論）
科目責任者	川村 博子
担当教員	清宮 宏臣 松井 奈美 根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012201 木4
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護過程の意義や目的、介護過程の各段階の内容を理解する。	
学生の達成目標	1.他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う。 2.介護過程の意義、目的、内容、展開方法について学ぶ。	
授業内容	第1回	介護過程とは、意義と目的（目標2）
	第2回	介護過程の必要性、視点（VTR、ICFの視点、新しい介護）（目標2）
	第3回	介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護課程、介護課程のプロセス説明）（目標1）
	第4回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法（目標1）
	第5回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法（目標1）
	第6回	アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて）（目標1）
	第7回	アセスメントとは（情報収集、記録、ジェノグラム、エコグラム）（目標1）
	第8回	計画の立案とは、目標の設定（目標1）
	第9回	計画の立案の実践（目標2）

	第10回	実施とは、準備と留意点 (目標2)
	第11回	評価とは (目標2)
	第12回	事例に基づく介護課程の展開の実際 (目標2)
	第13回	事例に基づく介護課程の展開の実際 (目標2)
	第14回	介護課程の展開の実際 (2年生の発表会出席) (目標2)
	第15回	介護課程の展開の実際 (2年生の発表会出席) / まとめ (目標2)
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ当日発表できるようにすること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会編集
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅱ（演習）
科目責任者	川村 博子
担当教員	清宮 宏臣 松井 奈美 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	20012301 金3,4
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	身体障害および精神障害、施設および在宅介護等の事例の介護を展開する。																						
学生の達成目標	様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考える。																						
授業内容	<table><tr><td>第1回</td><td>グループワークを基本とする。4教員が各グループを6～8コマ担当し、諸事例によって介護過程の展開を行う。オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成</td></tr><tr><td>第2回</td><td>オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成</td></tr><tr><td>第3回</td><td>ガイダンス、事例Aの説明</td></tr><tr><td>第4回</td><td>ガイダンス、事例Aの説明</td></tr><tr><td>第5回</td><td>アセスメント</td></tr><tr><td>第6回</td><td>アセスメント</td></tr><tr><td>第7回</td><td>計画・実施・評価</td></tr><tr><td>第8回</td><td>計画・実施・評価</td></tr><tr><td>第9回</td><td>ガイダンス、事例Bの説明</td></tr><tr><td>第10回</td><td>ガイダンス、事例Bの説明</td></tr><tr><td>第11回</td><td>アセスメント</td></tr></table>	第1回	グループワークを基本とする。4教員が各グループを6～8コマ担当し、諸事例によって介護過程の展開を行う。オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成	第2回	オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成	第3回	ガイダンス、事例Aの説明	第4回	ガイダンス、事例Aの説明	第5回	アセスメント	第6回	アセスメント	第7回	計画・実施・評価	第8回	計画・実施・評価	第9回	ガイダンス、事例Bの説明	第10回	ガイダンス、事例Bの説明	第11回	アセスメント
第1回	グループワークを基本とする。4教員が各グループを6～8コマ担当し、諸事例によって介護過程の展開を行う。オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成																						
第2回	オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成																						
第3回	ガイダンス、事例Aの説明																						
第4回	ガイダンス、事例Aの説明																						
第5回	アセスメント																						
第6回	アセスメント																						
第7回	計画・実施・評価																						
第8回	計画・実施・評価																						
第9回	ガイダンス、事例Bの説明																						
第10回	ガイダンス、事例Bの説明																						
第11回	アセスメント																						

	第12回	アセスメント
	第13回	計画・実施・評価
	第14回	計画・実施・評価
	第15回	ガイダンス、事例Cの説明
	第16回	ガイダンス、事例Cの説明
	第17回	アセスメント
	第18回	アセスメント
	第19回	計画・実施・評価
	第20回	計画・実施・評価
	第21回	ガイダンス、事例Dの説明
	第22回	ガイダンス、事例Dの説明
	第23回	アセスメント
	第24回	アセスメント
	第25回	計画・実施・評価
	第26回	計画・実施・評価
	第27回	発表準備
	第28回	発表準備
	第29回	発表
	第30回	発表
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ当日発表できるようにする。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%
教科書	書籍名	「介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3
推薦図書等	書籍名	「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用
	著者名	大川弥生
	出版社	中央法規
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3206-6
参考URL		
備考		

介護過程Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅲ（チームアプローチ）
科目責任者	川村 博子
担当教員	清宮 宏臣 松井 奈美 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012401 火4
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	事例展開を通して、チームアプローチの方法や必要性を考える。	
学生の達成目標	他職種の役割や機能を踏まえ、介護場面でのチームアプローチを学ぶ。	
授業内容	第1回	ガイダンス、グループ分け
	第2回	看護業務：役割と連携について
	第3回	ケアマネジャーの役割と連携について
	第4回	O Tの業務・役割と連携について
	第5回	P Tの業務・役割と連携について
	第6回	歯科医の業務・役割と連携について
	第7回	O J T等について
	第8回	研究事例発表大会参加とまとめ
	第9回	研究事例発表大会参加とまとめ
	第10回	研究事例発表大会参加とまとめ
	第11回	研究事例発表大会参加とまとめ
	第12回	教科書以外のチームアプローチ

	第13回	チームアプローチの事例
	第14回	チームアプローチの事例
	第15回	チームアプローチの理解・まとめ
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を提出。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP402
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅳ（事例研究）
科目責任者	川村 博子
担当教員	井口 ひとみ 布施 千草 今井 訓子 清宮 宏臣 中西 正人 松井 奈美 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012501 火5
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	Ⅲ・Ⅳ段階の実習で展開した事例のまとめとクラス全体での発表。	
学生の達成目標	実習での事例を振り返り、介護過程展開の意義や方法の理解を深める。	
授業内容	第1回	ガイダンス（全体）
	第2回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり
	第3回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり
	第4回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり
	第5回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり
	第6回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備
	第7回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備
	第8回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備

	第9回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備
	第10回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備
	第11回	発表準備・印刷（全体）
	第12回	発表準備・製本（全体）
	第13回	発表（全体）
	第14回	発表（全体）
	第15回	まとめ、感想文（実習担当教員のグループで行う）
予習・復習の内容	予習	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり
	復習	実習で受け持った利用者の介護過程の展開を記録として起こす
	展開	介護過程の展開について図書等で理解を深める
成績評価	評価の基準	レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2 2 0 0円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3
推薦図書等	書籍名	「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用
	著者名	大川弥生著
	出版社	中央法規
	価格	1,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3206-6
参考URL		
備考		

介護総合演習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSE101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習 I
科目責任者	中西 正人
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002601 月4
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	実習先である施設やそこで生活する利用者について理解ができ、それらの点を踏まえよりよい介護実習が実施できるよう実習に関する必要な知識について理解する。	
学生の達成目標	1.介護実習の意義と目的を理解することができる。 2.実習施設の種別毎の理解ができる。 3.介護実習に関する必要な知識について理解することができる。	
授業内容	第1回	求められる介護福祉士像について（目標1）
	第2回	介護実習の理解、介護実習 I の目的・意義等について（目標1）
	第3回	認知症高齢者グループホーム実習に向けて①（法的根拠、位置づけ等について）（目標2・3）
	第4回	認知症高齢者グループホーム実習に向けて②（実習課題について）（目標2・3）
	第5回	実習目標の作成（目標3）
	第6回	個人票の作成（目標3）
	第7回	児童福祉施設実習に向けて①（法的根拠、位置づけ等について）（目標2・3）
	第8回	児童福祉施設実習に向けて②（配属先実習施設について）（目標2・3）
	第9回	児童福祉施設実習に向けて③（事前学習シートの作成）（目標2・3）
	第10回	記録について①（記録の意義・目的について）（目標3）

	第11回	記録について②（記録の書き方について）（目標3）
	第12回	介護実習Ⅰ 学内事前指導（目標2・3）
	第13回	実習において予測される諸問題について（目標3）
	第14回	介護実習Ⅰに関する諸手続きについて（目標3）
	第15回	介護実習Ⅰ 直前指導（目標1・3）
予習・復習の内容		：施設で生活している障がいを持つ児童や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。
	予習	：授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
		：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	介護実習に関して、授業で扱った内容が理解できていること。
	評価の方法	期末筆記試験60%、授業への取り組み10%、課題（レポート他）30%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書8 介護総合演習
	著者名	編集 能田茂代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3195-8
推薦図書等	書籍名	よくわかる 介護記録の書き方
	著者名	富川雅美
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-1437-1
参考URL		
備考		

介護総合演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSE201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	中西 正人
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20002701 月3
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	実習先である施設やそこで生活する利用者について理解ができ、それらの点を踏まえよりよい介護実習が実施できるよう実習に関する必要な知識について理解する。	
学生の達成目標	1.介護実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にすることができる。 2.介護実習Ⅱの意義と目的を理解することができる。 3.介護実習Ⅱに向けて必要な準備を整えることができる。	
授業内容	第1回	介護実習Ⅰにおける学び①（介護実習Ⅰにおける学びについて）（目標1）
	第2回	介護実習Ⅰにおける学び②（介護実習Ⅰ残された課題について）（目標1）
	第3回	介護実習Ⅰ まとめ反省会①（児童福祉施設実習）（目標1）
	第4回	介護実習Ⅰ まとめ反省会②（認知症高齢者グループホーム実習）（目標1）
	第5回	介護実習Ⅰにおける学び③（認知症高齢者グループホームについて）（目標1）
	第6回	介護実習Ⅱの目的・意義等について、実習目標の作成（目標2・3）
	第7回	個人票の作成、実習施設の理解① 特別養護老人ホーム（目標2・3）
	第8回	実習施設の理解② 介護老人保健施設等（目標2・3）
	第9回	実習施設の理解③ 通所介護事業所（目標2・3）

	第10回	実習施設の理解④ 通所リハビリテーション事業所等（目標2・3）
	第11回	実習において予測される諸問題について（目標3）
	第12回	記録について（目標3）
	第13回	介護実習Ⅱに関する諸手続きについて（目標3）
	第14回	介護実習Ⅱ 事前指導（目標2・3）
	第15回	介護実習Ⅱ 直前指導（目標2・3）
予習・復習の内容	予習	：施設や在宅で生活している障がいを持つ人や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ：授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に2回程度。
	展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	介護実習に関して、授業で扱った内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験60%、授業への取り組み20%、課題（レポート他）20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書8 介護総合演習
	著者名	編集 能田茂代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3195-8
推薦図書等	書籍名	よくわかる 介護記録の書き方
	著者名	富川雅美
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-1437-1
参考URL		
備考		

介護総合演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSE301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅲ
科目責任者	中西 正人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20002801 (前期)火5 (後期)火3
教室	(前期)講義室4 (後期)講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	前期は、実習先である施設やそこで生活する利用者、支援する職員の役割などについて理解ができ、また介護実習Ⅱの振り返りから自らの課題を明確にすることでよりよい介護実習が実施できるよう実習にむけての準備を行う。 後期は、これまでの介護実習の振り返りを中心に行い、介護福祉士として必要となる知識や技術の確認と介護観の構築を目指す。	
学生の達成目標	1.介護実習Ⅱを振り返り自己課題を見出した上で、介護実習Ⅲ・Ⅳの意義と目的を理解することができる。 2.介護実習Ⅲ・Ⅳに向けて必要な準備を整えることができる。 3.介護福祉士として必要となる知識・技術を確認することができる。	
授業内容	第1回	介護実習Ⅱにおける学び①（介護実習Ⅱにおける学びについて）（目標1）
	第2回	介護実習Ⅱ まとめ反省会（目標1）
	第3回	介護実習Ⅱにおける学び②（入所施設実習について）（目標1・2）
	第4回	介護実習Ⅱにおける学び③（通所施設実習について）（目標1・2）
	第5回	介護実習Ⅱにおける学び④（入所施設と通所施設の違いについて）（目標1・2）
	第6回	介護実習Ⅱにおける学び⑤（介護実習Ⅱ残された課題について）（目標1・2）
	第7回	介護実習Ⅲ・Ⅳの目的・意義について、実習目標の作成（目標2）

	第8回	個人票の作成（目標2）、実習施設の理解① 入所施設
	第9回	実習施設の理解② 訪問介護事業所（目標2）
	第10回	実習施設の理解③ 訪問入浴介護事業所（目標2）
	第11回	実習施設の理解④ その他の居宅サービスについて（目標2）
	第12回	記録について（目標2）
	第13回	実習課題について（目標2）
	第14回	介護実習Ⅲ・Ⅳ 事前指導（目標2）
	第15回	実習において予測される諸問題①（リスクマネジメント）（目標2）
	第16回	実習において予測される諸問題②（その他）（目標2）
	第17回	介護実習Ⅲ・Ⅳに関する諸手続きについて（目標2）
	第18回	介護実習Ⅲ 直前指導（目標2）
	第19回	介護実習Ⅳ 直前指導（目標2）
	第20回	介護実習Ⅲ・Ⅳ まとめ反省会（目標3）
	第21回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び①（介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学びについて）（目標1）
	第22回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び②（24時間の介護について）（目標3）
	第23回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び③（居宅介護実習について）（目標3）
	第24回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び④（入所サービスと居宅サービスの違いについて）（目標3）
	第25回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び⑤（施設設備・福祉用具について）（目標3）
	第26回	テーマ別グループワーク①（ターミナルケアについて）（目標3）
	第27回	テーマ別グループワーク②（リスクマネジメントについて）（目標3）
	第28回	テーマ別グループワーク③（アクティビティケアについて）（目標3）
	第29回	テーマ別グループワーク④（生活支援技術について）（目標3）
	第30回	テーマ別グループワーク⑤（研究の視点について）（目標3）
予習・復習の内容	予習	：施設や在宅で生活している障がいを持つ人や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ：授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。 ：介護実習の経験をもとにグループワークを実施し、自身の課題や介護観等について明確にする。
成績評価	評価の基準	介護実習に関して、授業で扱った内容が理解できていること。
	評価の方法	レポート80%、授業への取り組み20%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		
	書籍名	最新介護福祉全書8 介護総合演習

著者名	編集 能田茂代
出版社	メヂカルフレンド社
価格	2900円+税
ISBN・ISSN	ISBN : 978-4-8392-3148-4

推薦図書等

書籍名	よくわかる 介護記録の書き方
著者名	富川雅美
出版社	メヂカルフレンド社
価格	2100円
ISBN・ISSN	ISBN : 978-4-8392-1437-1

参考URL

備考

介護実習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CST101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習 I
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 中西 正人 松井 奈美 石原 富子 山田 美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20002901
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	認知症対応グループホームにおいて 1 週間の介護を実践する。 児童福祉施設において 1 日の見学実習をする。
学生の達成目標	1.利用者との人間的なふれあいを通じて、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 2.初歩的援助を通して生活の場における個々の生活リズムや環境を理解する。
授業内容	前期終了時の 8 月～9 月初旬に実施する。 実習期間は 1 週間（5 日間）と 1 日の児童福祉施設での見学実習〔目標 1・2〕 実習方法 ①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③利用者とのコミュニケーションを積極的にとる。 ④障害の軽度の利用者や、言語的コミュニケーションの取りやすい利用者の日常生活援助を体験させていただく。 ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。
予習・復習の内容	予習 グループホーム・児童福祉施設について調べておくこと。介護総合演習での学びを生かし実習目標を作成しておくこと。

	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	グループホーム・児童福祉施設に関する最新の情報をしらべ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者（５０％）と教員（５０％）の評価に基づき決定する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		介護実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CST201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅱ
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 中西 正人 松井 奈美 石原 富子 山田 美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20003001
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	入所施設実習とデイサービス・デイケア実習を併用し実習する。
学生の達成目標	介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用、発揮させることの意味を理解する。高齢者のニーズと介護職員の一般的な役割を理解する。基本的な介護技術を習得する。
授業内容	後期2月に実施する。 実習期間は2週間（9日間で中2日間はデイサービス） 実習方法 ①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③利用者・家族とのコミュニケーションを積極的にとる。 ④障害の軽度の利用者や、言語的コミュニケーションの取りやすい利用者の日常生活援助を体験させてもらい、基本的介護技術を習得する。 ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。
予習・復習の内容	予習 入所施設とデイサービス、デイケアについて調べておくこと。 介護総合演習での学びを生かし、実習目標を作成しておくこと。

	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	入所施設とデイケアサービス，デイケアに関する最新の情報を調べ，知識理解を深める。 利用者の潜在能力をいかに高めるか，エンパワメントについての理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習記録，及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者（５０％）と教員（５０％）の評価に基づき決定する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		介護実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CST301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅲ
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 中西 正人 松井 奈美 石原 富子 山田 美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20003101
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	3
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	「実習施設・事業等（Ⅱ）」の施設において 13日間の介護実習をおこなう。Ⅳ段階実習も同一場所となる。居宅介護実習の実習期間でもある。
学生の達成目標	1.障害のレベルに応じた適切な介護技術を身につける。 2.種々な介護サービスの状況に応じた提供方法を理解する。 3.利用者を中心とした他職種協働について理解する。
授業内容	2年前期 9月に実施する。 実習期間は、13日間〔目標1・2・3〕 実習方法 ①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③利用者の障害の程度に合わせた援助方法を実践する。 ④利用者との関わりを通じて、介護過程の必要性を考える。受け持ち利用者を決定し、情報収集をおこなう。 ⑤利用者を取り巻く様々な職種の働きと連携、支援の方法を考える。 ⑥実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。

予習・復習の内容	予習	介護技術の総点検を行い、自分の課題を明確にしておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	障害のレベルに応じた介護技術について、他職種協働について文献学習により、知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習指導者（５０％）・教員（５０％）の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CST401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅳ
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 中西 正人 松井 奈美 石原 富子 山田 美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20003201
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	Ⅲ段階介護実習と同じ施設での実習。介護過程を展開し自己の介護観をまとめる。居宅介護実習の実習期間でもある。	
学生の達成目標	施設運営のプログラムに参加し、処遇全般について理解すると同時に個別介護計画を作成し、実施・評価・修正といった介護過程を展開し、的確な記録・記述方法を身につける。自己の介護観を確立する。	
授業内容	2年後期に実施する。 実習期間は4週間（20日間） 実習方法 ①介護実習Ⅲと同一場所にてオリエンテーションはない。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③介護実習Ⅲで得た情報を元に利用者の介護計画を立て、実践評価する。 ④自己の介護観についてまとめる。 ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。 ⑥2日間の居宅実習を介護実習ⅢかⅣの機関に実施する。	
予習・復習の内容	予習	介護過程についての事前学習を振り返り、Ⅲ段階での情報整理、分析、課題の抽出を行う。

	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	「介護観」として「介護論」理解のため、文献学習を行い、知識の定着をはかる。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習指導者（５０％）・教員（５０％）の評価によって決定する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		介護実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBG101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達と老化の理解 I
科目責任者	丹羽 真里
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003301 土1,2
教室	中講義室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 高齢者の特徴を心理学的知見をもとに概説し，高齢者の生活支援の環境や支援者のありかたについて理解する。

学生の達成目標 1.高齢者の心理学的特徴を理解する。
2.高齢者支援の環境や課題を理解する。
3.高齢者支援に関わる支援者のあり方を理解する。

授業内容	第1回	講義及びレポート等のガイダンス，高齢社会と高齢者の心理学(目標1)
	第2回	高齢社会と高齢者の心理学 高齢者の健康、長寿とライフスタイル(目標1,2)
	第3回	老化と認知症について ビデオを観て学ぶ(目標1,2,3)
	第4回	高齢期の認知症と精神疾患(1)(目標1,3)
	第5回	高齢期の認知症と精神疾患(2)(目標1,3)
	第6回	身体・生理・心理機能の加齢変化(目標1)
	第7回	高齢者支援に関わる支援者(1)ビデオを観て学ぶ(目標3)
	第8回	高齢者支援に関わる支援者(2)ビデオを観て学ぶ(目標3)
	第9回	高齢者の知能，創造性，知恵の発達(目標1)
	第10回	高齢期の人格，自己概念の特徴(目標1)
	第11回	適応理論とサクセスフルエイジング(目標1)
	第12回	高齢期の家族，対人関係と社会生活(目標1)

	第13回	高齢者の支援(1)(目標1,2,3)
	第14回	高齢者の支援(2)(目標1,2,3)
	第15回	発達と老化の理解のまとめ
予習・復習の内容	予習	高齢者に関わる事象に日常から関心を持ち、関連する資料や報道について理解する。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	授業で扱った事柄のうち、興味や関心を持った領域についてさらに調べ、理解を深める。
成績評価	評価の基準	高齢者の心理・社会的状態を理解する。授業の内容をもとに高齢者支援の基本的な知識の有無を成績評価の基準とする。
	評価の方法	平常点50%, レポート50%で評価する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	新介護福祉士養成講座11 発達と老化の理解
	著者名	(編集)介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5114-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBG201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達と老化の理解Ⅱ
科目責任者	布施 千草
担当教員	今井 訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003401 木1
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 老化による身体的変化、心理的变化、社会的変化、高齢者におこりやすい疾病の特徴および日常生活での予防について理解する。

学生の達成目標 1.発達の見点から老化を理解する。
2.老化に伴う心理や身体機能の変化を理解する。
3.老化に伴う疾病やその予防方法について学ぶ。

授業内容	第1回	ガイダンス、加齢（老化）とは【目標1】
	第2回	“老い”に対する捉え方・価値【目標1】
	第3回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（感覚器系、脳神経系）【目標2】
	第4回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（消化器系、循環器系）【目標2】
	第5回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（泌尿器系、内分泌系ほか）【目標2】
	第6回	高齢者と健康 高齢者の病気の特徴【目標3】
	第7回	生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて）【目標3】
	第8回	生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて）【目標3】
	第9回	生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて）【目標3】
	第10回	生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて）【目標3】

	第11回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点 {目標3}
	第12回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点 {目標3}
	第13回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点 {目標3}
	第14回	介護保険における特定疾病 {目標2・3}
	第15回	学生による発表と討論 {目標1・2・3}
予習・復習の内容	予習	発達と老化について日常から関心を持ち、関連する図書を読むこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	発達と老化に関する最新の図書を調べ知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	試験70%, レポート30%,
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座11 発達と老化の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5114-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解 I（認知症総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBD101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解 I（認知症総論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20013501 木 2
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症のある人を取り巻く社会環境を知るとともに、医学的視点に基く認知症の症状理解を行う。

学生の達成目標

1. 認知症ケアの歴史を理解する
2. 医学的視点に基づく認知症の症状、検査診断を理解する
3. 認知症の進行とコミュニケーション障害について理解する

授業内容	第1回	認知症を取り巻く状況と認知症ケアの歴史的変遷（認知症の疫学、施策も含む）【目標1】
	第2回	医学的側面から見た認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）【目標2】
	第3回	認知症の検査や治療法の理解【目標2】
	第4回	中核症状とBPSDの特徴の理解 そのⅠ 記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他【目標2】
	第5回	中核症状とBPSDの特徴の理解 そのⅡ 徘徊・妄想・食行動異常・その他【目標2】
	第6回	認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）【目標3】
	第7回	コミュニケーション障害としての認知症【目標3】
	第8回	学生による発表と討論【目標1・2・3】

予習・復習の内容

予習	認知症に関連する報道に関心を持つこと。テキストを事前に読むこと。
----	----------------------------------

	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。毎回の授業要旨をまとめておくこと。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	レポート提出30%、期末テスト70%
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅱ（認知症対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBD201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解Ⅱ（認知症対象論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20013601 木2
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	認知症のある人と家族の理解。 認知症のある方の心理をより深く理解し、その人本人、その家族に寄り添う支援の在り方について学ぶ。	
学生の達成目標	1. 認知症のある人の体験や意思表示の困難特性を理解する 2. 認知症のある人と家族への支援について理解する 3. 若年性認知症の方の課題と支援について理解する。	
授業内容	第1回	認知症のある人が抱える心理的な問題（ふかい、不安、混乱、被害感等）〈目標1〉
	第2回	認知症のある人にみられるさまざまな行動〈目標1〉
	第3回	BPSDの出現原因、介護者との関係〈目標1〉
	第4回	認知症のある人の家族の心理と障害受容〈目標2〉
	第5回	認知症のある人を介護する家族への支援〈目標2〉
	第6回	若年性認知症のある人と家族への支援 そのⅠ〈目標3〉
	第7回	若年性認知症のある人と家族への支援 そのⅡ〈目標3〉
	第8回	学生の発表と討論〈目標1・2・3〉
予習・復習の内容	予習	認知症を持つ人の体験、その方を介護した方の経験談に関心を持ち学習をすること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

展開		認知症に関する最新の図書や研究成果，国の政策などを調べ知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。
	評価の方法	レポート30%、テストの総合評価70%
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅲ（認知症援助論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBD301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解Ⅲ（認知症援助論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20013701 火3
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	認知症ケアの実際と今後の課題について学習する。 最新の認知症のケアを知り、家族介護者へのアドバイスができるように授業展開する。
-----------	--

学生の達成目標	1. 認知症ケアの関する基礎的知識を習得する 2. 認知症ケアの今後の展望について理解する 3. 認知症の心理療法・予防について理解する
---------	--

授業内容	第1回	認知症ケアの理念について {目標1}
	第2回	パーソンセンタードケアについて そのⅠ {目標1}
	第3回	パーソンセンタードケアについて そのⅡ {目標1}
	第4回	ユニマチュード そのⅠ {目標1}
	第5回	ユニマチュード そのⅡ {目標1}
	第6回	認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 そのⅠ {目標1}
	第7回	認知症のある人のケアマネジメント そのⅡ {目標1}
	第8回	認知症の心理療法 {目標3}
	第9回	認知症のある人のケアマネジメントセンター方式 そのⅠ {目標1}
	第10回	認知症介護ひもときシートについて {目標1}
	第11回	認知症の予防 {目標3}
	第12回	認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働） －尾道市の取り組みの紹介 そのⅠ {目標2}

	第13回	認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働） －尾道市の取り組みの紹介 そのⅡ〈目標2〉
	第14回	認知症ケアの今後の課題〈目標2〉
	第15回	学生の発表と討論〈目標1・2・3〉
予習・復習の内容	予習	認知症に関連する報道に関心をもち、学習すること。テキスト（特に認知症のケアの部分）を事前に読むこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果、図書や研究成果、国の政策などを調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	レポート30%、テストの総合評価70%
教科書	書籍名	認知症の理解 第2版
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBH201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解 I
科目責任者	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003801 金2
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	障害の概念、障害者福祉の理念、精神障害・知的障害等の種類と原因と特性、家族への支援を理解する。	
学生の達成目標	1.障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 2.障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	
授業内容	第1回	障害のある人の生活 (目標1)
	第2回	障害の概念 (ICFについて) (目標1)
	第3回	我が国における障害者の定義 (目標1)
	第4回	障害者福祉の基本理念 (目標1)
	第5回	障害者福祉の基本理念 (目標1)
	第6回	聴覚障害のある人の理解 (目標2)
	第7回	発達障害のある人の理解 (目標2)
	第8回	発達障害のある人の理解 (目標2)
	第9回	高次機能障害のある人の理解 (目標2)
	第10回	高次機能障害のある人の理解 (目標2)
	第11回	知的障害のある人の理解 (目標2)
	第12回	精神障害のある人の理解 (目標2)
	第13回	聴覚障害のある人の理解 (コミュニケーション機器発表) (目標2)

	第14回	聴覚障害のある人の理解（コミュニケーション機器発表）（目標2）
	第15回	家族への支援・地域におけるサポート・まとめ（目標2）
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、発表できるようにしておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等を読み理解を深めること。
成績評価	評価の基準	試験、レポート、受講態度により評価する。
	評価の方法	試験80%、レポート、受講態度20%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座13 障害の理解」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会編集
	出版社	中央法規
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3771-9
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBH301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解Ⅱ
科目責任者	松井 奈美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003901 木1
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害のある人の生活を理解するために必要な知識を修得すると同時に障害者支援における多様な課題を把握することで、障害のある人の生活を適切に支援する専門職としての意識・技能を養う。

学生の達成目標

- 1.障害者福祉の基本理念を理解する（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン等）。
- 2.障害のある人の生活支援における留意点を理解する。
- 3.障害のある人及びその家族に対する具体的な支援のあり方を理解する。

授業内容	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方の説明）「障害」とは何かを再考する（1年次の復習）（目標1）
第2回	視覚障害の理解を深めるとともに視覚障害者の生活支援について学ぶ（目標2,3）
第3回	聴覚・言語障害の理解を深めるとともに聴覚・言語障害者の生活支援について学ぶ（目標2,3）
第4回	障害当事者の講話を通して、聴覚・言語障害のある人の生活を理解するとともに生活支援の留意点を学ぶ（目標2,3）
第5回	肢体不自由（運動機能障害）の理解を深めるとともに肢体不自由者の生活支援について学ぶ（目標2,3）
第6回	障害当事者の講話を通して、肢体不自由者の生活実態を確認するとともに生活支援の留意点を学ぶ（目標2,3）
第7回	内部障害の理解を深めるとともに内部障害者の生活支援について学ぶ（目標2,3）

	第8回	障害当事者の講話を通じて、内部障害者の理解を深めるとともに生活支援の留意点を学ぶ（目標2,3）
	第9回	難病に関する知識を深めるとともに、難病のある人の生活支援について学ぶ（目標2,3）
	第10回	高次脳機能障害の理解を深めるとともに、高次脳機能障害者の生活支援について学ぶ（目標2,3）
	第11回	知的、精神障害のある人の生活について理解を深めるとともに生活支援における基本的な視点を学ぶ（目標2,3）
	第12回	重症心身障害の理解を深めるとともに重症心身障害者の生活支援の留意点について学ぶ（目標2,3）
	第13回	障害者の介護における留意点を踏まえ、社会資源を利用すること及び開発の必要性について学ぶ（目標1,2,3）
	第14回	チームアプローチの必要性・重要性を理解したうえで障害者支援における連携及び協働の課題を確認する（目標1,2,3）
	第15回	家族への支援について学ぶ 全体のまとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	各回の授業内容に該当するテキスト範囲を確認し、事前に目を通しておくこと。
	復習	前回の授業で配布されたレジュメ及び自筆ノートに目を通す等の方法で学習した内容を確認すること。
	展開	・授業で学んだ重要なキーワードを他者に説明できるようになる。 ・障害当事者が書いた書籍を読み個別理解を深める。 ・当事者講話から障害当事者の個別ニーズが理解できる。
成績評価	評価の基準	学習目標の達成度を定期テストで評価し、学習意欲の評価をレポートで評価する。
	評価の方法	定期テスト（80％）、レポート（20％）を評価基準の割合とし、総合的な評価を行う。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座13『障害の理解』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規出版
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5115-9
推薦図書等	書籍名	最新 介護福祉全書11『障害の理解』
	著者名	谷口 敏代（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3198-9
参考URL		
備考	・学習効果は予習・復習を行うことで高められる。したがって、これを理解した上で自分らしい学習手法を見つけ積極的に学んでほしい。	

- ・毎回の授業では、達成課題や学習効果を意識して授業に臨んでほしい。
 - ・外部講師の授業日は遅刻することなく真摯に傾聴してほしい。
-

こころとからだのしくみⅠ（人体の構造と機能）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅠ（人体の構造と機能）
科目責任者	大野 孝則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014001 金1
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	人体の解剖と生理の基礎を講義。	
学生の達成目標	1. 介護に必要な人体の構造や機能についての基本を学ぶ。 2. 一般教養としての自然科学としても通用する内容を目標とする。	
授業内容	第1回	ガイダンス。細胞，生体膜，核，DNA，ATP（目標1,2）
	第2回	組織（上皮，支持，筋，神経）（目標1,2）
	第3回	組織（血液），ホメオスタシス（目標1,2）
	第4回	皮膚・骨格系の解剖と生理（目標1,2）
	第5回	筋系の解剖と生理（目標1,2）
	第6回	呼吸器系の解剖と生理（目標1,2）
	第7回	循環器系の解剖と生理（目標1,2）
	第8回	消化器系の解剖と生理（目標1,2）
	第9回	腎・泌尿器系の解剖と生理（目標1,2）
	第10回	血液造血器系，内分泌系，生殖系の解剖と生理（目標1,2）
	第11回	脳・神経系の解剖と生理（目標1,2）
	第12回	脳・神経系の解剖と生理（目標1,2）
	第13回	脳・神経系の解剖と生理（目標1,2）
	第14回	感覚器系の解剖と生理（目標1,2）

予習・復習の内容	予習	講義の最後に、次回講義の予告をする。予告したものを予習する。
	復習	講義の最後にまとめたものを復習する。
	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験(100%)
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	樋口隆, 河田光博
	出版社	南江堂
	価格	3,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-524-22054-0 C3047
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅡ（疾患の症状と介護）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅡ（疾患の症状と介護）
科目責任者	大野 孝則
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20014101 金1
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	頻度の高い障害・疾患の症候と成り立ち，およびその介護について講義。	
学生の達成目標	介護に必要な被介護者の身体的・精神的障害の状態（疾病など）の把握に必要なことを学ぶ。	
授業内容	第1回	貧血，出血
	第2回	呼吸困難，チアノーゼ，ショック
	第3回	排尿，排便，黄疸
	第4回	脱水，浮腫
	第5回	体温，発熱
	第6回	歩行障害
	第7回	意識，睡眠
	第8回	栄養，代謝
	第9回	障害・疾病総論，炎症
	第10回	感染症，免疫
	第11回	腫瘍
	第12回	血管障害，虚血性心疾患，脳血管障害
	第13回	高血圧，動脈硬化，糖尿病
	第14回	高齢者に多い障害・疾患

予習・復習の内容	予習	講義の最後に, 次回講義の予告をする。予告したものを予習する。
	復習	講義の最後にまとめたものを復習する。
	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験 (100%)
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅢ（人間の欲求の理解）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM202
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅢ（人間の欲求の理解）
科目責任者	岡東 歩美
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20014201 水3
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	精神医学の基礎について概説し、介護や支援において必要な基礎知識を身に着ける。
-----------	--

学生の達成目標	1.精神医学の基本用語や概念を把握し理解する。 2.上記をもとに、心の健康について考え、支援の仕方を学習する。
---------	--

授業内容	第1回	精神医学とは何か(目標1)
	第2回	気分障害①(目標1,2)
	第3回	気分障害②(目標1,2)
	第4回	統合失調症①(目標1,2)
	第5回	統合失調症②(目標1,2)
	第6回	神経症とストレス関連障害(目標1,2)
	第7回	症状性精神障害とコンサルテーションリエゾン精神科(目標1,2)
	第8回	物質関連症候群(目標1,2)
	第9回	老年期精神障害、認知症(目標1,2)
	第10回	児童青年期の精神障害(目標1,2)
	第11回	知的能力障害(目標1,2)
	第12回	精神科の治療法①(目標2)
	第13回	精神科の治療法②(目標2)

	第14回	精神科リハビリテーション (目標 2)
	第15回	精神科医療の現状 (目標 2)
予習・復習の内容	予習	テキストに沿って講義を行うため、事前に一読することが望ましい。
	復習	講義内容を確認しながらテキストの再読を行う。
	展開	関連図書や文献を読み、知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	出席態度、課題の達成度、期末試験の結果を総合的に判断する。
	評価の方法	出席態度10%、課題の達成度10%、期末試験80%とし、最終判断は総合的に行う。
教科書	書籍名	専門医がやさしく語る はじめての精神医学
	著者名	渡辺雅幸
	出版社	中山書店
	価格	2,900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-521-74257-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅣ（日常生活に即したしくみ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM102
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅣ（日常生活に即したしくみ）
科目責任者	今井 訓子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014301 月3
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能を学び、日常生活に関連したからだのしくみとこころのしくみの関係について理解できる。

学生の達成目標

1. 日常生活に関連した身体各部の解剖や生理を理解する。
2. 人の基本的欲求・社会的欲求が行動に及ぼす影響を理解する。
3. 生活支援に必要な機能低下と心理面への配慮について理解する。

授業内容	第1回	人体部位の名称、生命の維持のしくみ1（目標1）
	第2回	人体部位の名称、生命の維持のしくみ2（目標1）
	第3回	移動に関連した解剖整理（目標1）
	第4回	移動に関連したこころのしくみ・ボディメカニクス（目標1,2）
	第5回	食事に関連した解剖整理 機能低下が食事に及ぼす影響（目標1,3）
	第6回	栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点（目標2,3）
	第7回	入浴、清潔保持に関連した解剖整理 皮膚のしくみ・頭髮のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響（目標1,3）
	第8回	入浴、清潔保持の実際（目標3）
	第9回	身じたくに関連した解剖整理 機能低下が身じたくに及ぼす影響（目標1,3）
	第10回	身じたくに関連したこころのしくみ（目標2）

	第11回	排泄に関連した解剖整理 機能低下が排泄に及ぼす影響（目標1,3）
	第12回	排泄に関連したところのしくみ（目標2）
	第13回	睡眠の構造と睡眠障害 睡眠に関連したところのしくみ（目標1,2）
	第14回	終末期の心身の状況・死後の変化 死に対するところの理解（目標1,2）
	第15回	演習後レポートからの気づき、重要項目の再確認（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	日常生活における身体機能の働きを理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめ、心身機能つながりを理解すること。
	展開	生活支援技術とかかわりを意識して進める。
成績評価	評価の基準	身体各部の機能低下が日常生活に及ぼす影響が言える。 介護支援に関して、根拠に基づいた自分の考えを相手に伝えることができる。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、課題レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 1 2 ところとからだのしくみ
	著者名	編集 小坂橋喜久代・松田たみ子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3199-6
推薦図書等	書籍名	カラー人体解剖学
	著者名	F. H. マティアーニ他
	出版社	西村書店
	価格	7,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89013-305-5
参考URL		
備考		

医療的ケア I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MCC301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	医療的ケア I
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 山田 美知代
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014501 火4,木5
教室	講義室7, 介護実習室
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	医療的ケアの概要・基本的な知識の理解ができる。 福祉職が医療的ケアを行う意義と知り、医療職との連携の重要性について理解を深める。
-----------	---

学生の達成目標	1. 医行為における介護者の役割がわかる。 2. 医療的ケアの基礎知識について理解できる。 3. 医行為を安全に行うためのリスクマネジメントについて理解できる。
---------	--

授業内容	第1回	人間と社会 {目標1}
	第2回	健康状態の把握{目標1 2}
	第3回	消化器のしくみ {目標2}
	第4回	消化、吸収とよくある症状・経管栄養について{目標2}
	第5回	経管栄養のしくみ・注入する内容について {目標2}
	第6回	経管栄養実施上の留意点・こどもの経管栄養{目標2 3}
	第7回	こどもの経管栄養・感染予防 {目標2 3}
	第8回	利用者、家族の気持ちの理解・安全確認 {目標2 3}
	第9回	事故発生予防、対策 {目標1 3}

	第10回	呼吸器のしくみ〔目標2〕
	第11回	呼吸の異常と対策〔目標12〕
	第12回	人工呼吸器と吸引〔目標123〕
	第13回	子どもの吸引・家族の気持ち〔目標2〕
	第14回	喀痰吸引によって生じる危険、安全確認〔目標123〕
	第15回	急変、事故発生時の対応〔目標123〕
予習・復習の内容	予習	既習の関連科目に目を通し、確認しておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめること。
	展開	介護職への医行為導入に至る社会情勢について理解する。 医療的ケアⅡとあわせて知識を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3944-7
推薦図書等		
参考URL		
備考		

医療的ケアⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MCC302
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	医療的ケアⅡ
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 山田 美知代
授業形態	講義・演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20014601 (前期)木5 (後期)木4,5
教室	(前期) 講義室7, 介護実習室 (後期) 講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	医療的ケアにおける安全対策がとれ、手技・手順が理解できる。	
学生の達成目標	1.医療的ケアについて介護職の役割と連携が理解できる。 2.シュミレーターを用いて経管栄養が効果的に行える。 3.シュミレーターを用いて喀痰吸引が効果的に行える。	
授業内容	第1回	保健医療チーム制度、法律とチーム医療{目標1}
	第2回	チーム医療と介護職員の連携・喀痰吸引、経管栄養の安全な実施 {目標1.2.3}
	第3回	経管栄養の安全な実施{目標2}
	第4回	救急蘇生法 {目標2.3}
	第5回	救急蘇生法(演習) {目標2.3}
	第6回	感染予防{目標1.2.3}
	第7回	滅菌と消毒(演習) {目標2.3}
	第8回	健康状態の把握、利用者・家族の気落ちの理解、安全確認{目標1.2.3}
	第9回	経管栄養で用いる器具・器材とその仕組み{目標2}
	第10回	経管栄養の技術とその留意点 そのⅠ {目標2}

	第11回	経管栄養の技術とその留意点 その2 {目標2}
	第12回	経管栄養の技術とその留意点その3{目標2}
	第13回	経管栄養に必要なケア・記録・報告 その1 {目標1.2}
	第14回	経管栄養に必要なケア・記録・報告 その2 {目標1.2}
	第15回	経管栄養の技術（演習）その1 {目標1.2}
	第16回	経管栄養の技術（演習）その2 {目標1.2}
	第17回	経管栄養の技術（演習）その3 {目標1.2}
	第18回	喀痰吸引に用いる器具・器材とその仕組み{目標3}
	第19回	喀痰吸引の技術と留意点 その1 {目標3}
	第20回	喀痰吸引の技術と留意点 その2 {目標3}
	第21回	喀痰吸引の技術と留意点 その3 {目標3}
	第22回	喀痰吸引に伴うケア・記録・報告 その1 {目標1.3}
	第23回	喀痰吸引に伴うケア・記録・報告 その2 {目標1.3}
	第24回	喀痰吸引の技術（演習）その1 {目標1.3}
	第25回	喀痰吸引の技術（演習）その2 {目標1.3}
	第26回	喀痰吸引の技術（演習）その2 {目標1.3}
	第27回	評価について{目標1.2.3}
	第28回	技術演習（演習）{目標1.2.3}
	第29回	技術演習（演習）その1 {目標1.2.3}
	第30回	技術演習（演習）その2 {目標1.2.3}
予習・復習の内容	予習	既習の関連科目に目を通し、確認をしておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと
	展開	介護職への医行為導入に至る社会情勢を理解する。 医療的ケア I と合わせて理解を深め、技術の習得を目指す。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	試験(筆記・実技)100%で判定する。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 15医療的ケア
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3944-7
推薦図書等		
参考URL		
備考		

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS305
開講年度	2016年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	人間関係論
科目責任者	國生 美南子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004601 木3
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	種々の関係障害を生む社会的背景を探りながら、関係の喪失・修復について議論し、他者が背負う苦しみを想い、自分自身をも見つめて、豊かな人間関係を模索します。そうした思考を通して人間関係について様々な視点から考えることができる力を喚起します。	
学生の達成目標	1.グループワークやディスカッションによって、他者との相違や共通点を知り、人間理解を深める 2.対人援助における関係づくりの基本姿勢と重要性について知る 3.人間を取り巻く地域社会の諸問題と「関係障害」を生む背景を探り、発見し、思考し、想像し、伝えるを学ぶ	
授業内容	第1回	オリエンテーションと自己紹介 自己紹介の意義・自分を見つめる・発見する・表現する（目標1,2）
	第2回	家族の形態と機能の変化と「関係」を探る（目標1,2）
	第3回	地域社会の変化を見つめ、人間の「生と死」と「関係」について探る（目標1,2,3）
	第4回	社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える 1. 生活困窮・貧困など（目標1,2,3）
	第5回	社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える 2. いじめ・虐待など（目標1,2,3）
	第6回	社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える 3. 社会的孤立・孤独死（目標1,2,3）
	第7回	社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える 4. マイノリティなど（目標1,2,3）

	第8回	「人間関係」について納得したこと、膨らんだ疑問、さらに追求めたいことなどをレポートに表現し、伝える（目標2,3）
予習・復習の内容	予習	「人間関係論」について何を学びたいか整理しておく
	復習	授業の内容に関連して提供する課題について簡単なレポートを作成し、提出する
	展開	課題についてディスカッションまたはワークショップをし、重要な点の思索を深める
成績評価	評価の基準	・グループワークへの関わり、反応、発表など ・レポートの内容
	評価の方法	・授業での取り組み（50%） ・提出レポートの内容（50%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 プリント	
推薦図書等	書籍名	大事なものはみえにくい
	著者名	鷺田清一
	出版社	角川ソフィア文庫
	価格	802円
	ISBN・ISSN	978-4-04-407503-3
参考URL	: http://www7.ocn.ne.jp/~fukinoto/	
備考	推薦図書：聞くことの力&待つということ（鷺田清一著） わかりあえないことから（平田オリザ著）	

施設経営

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS403
開講年度	2016年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	施設経営
科目責任者	大澤 直樹
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20004401 土1
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	前半はNPO設立のための基礎的な知識を修得してもらうために、座学中心の講義となる。NPO法に基づく知識を正しく理解した上で、後半は演習を中心とした講義にシフトしていく。なお、介護保険事業を中心とした、事業活動が多いNPO法人の特性を踏まえ、併せて介護保険法に基づく申請のあり方についても指導していく。	
学生の達成目標	1. NPO法人を設立するため、具体的な手順や方法について理解する。 2. NPO法人の抱えるメリットとデメリットを理解する。 3. NPO法人のマネジメントについての基礎的な知識を身につける。	
授業内容	第1回	NPOとは何か（目標1）
	第2回	福祉NPOの特徴（目標1,2）
	第3回	福祉NPOの展望と課題（目標2）
	第4回	グループホームとコミュニティケア（目標2,3）
	第5回	行政のNPO支援策（目標2）
	第6回	NPOのパートナーシップ（目標3）
	第7回	事業計画と多角化戦略（目標3）
	第8回	NPO法人のマネジメント（目標3）
予習・復習の内容	予習	自分に暮らす地域において、どのようなNPO法人が活動しているのかを調査しておくこと。期間中に受講者全員に15分程度の課題に対するプレゼンテーションを行ってもらうので、必ず準備をしておくこと。

	復習	提示したレポート課題を提出すること。期間中に2回。
	展開	NPO法人の設立に関する手順を理解し、実際に設立できるまでの知識を修得できるようにする。
成績評価	評価の基準	NPO法人に関する、法律及び設立に至るまでの申請に関する具体的な手順をマスターできていることを合格基準とする。
	評価の方法	講義毎に実施するワークシート(40%)及び講義最終日のレポート(60%)提出により総合的に評価する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名	月刊福祉
	著者名	—
	出版社	社会福祉法人 全国社会福祉協議会
	価格	971円+税
	ISBN・ISSN	毎月6日発売
参考URL		
備考		

障害教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS306
開講年度	2016年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	障害教育
科目責任者	佐藤 慎二
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004501 金2
教室	講義室5
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	発達障害、知的障害、肢体不自由等の基本的な理解と本人・保護者の思いを踏まえた支援の在り方を学ぶ。	
学生の達成目標	1.各障害の特性及び支援の実際の理解度 2.実際的な支援方法を身につける。	
授業内容	第1回	障害・特別支援教育の概要(目標1. 2)
	第2回	特別支援学校・学級について(目標1. 2)
	第3回	発達障害とは?(目標1. 2)
	第4回	知的障害を伴わない自閉症(学齢期)(目標1. 2)
	第5回	知的障害を伴わない自閉症(卒業後)(目標1. 2)
	第6回	知的障害を伴う自閉症(目標1. 2)
	第7回	A D H Dについて(目標1. 2)
	第8回	L Dについて(目標1. 2)
	第9回	視覚障害について(目標1. 2)
	第10回	聴覚障害について(目標1. 2)
	第11回	肢体不自由について(目標1. 2)
	第12回	病弱について(目標1. 2)
	第13回	知的障害について(目標1. 2)
	第14回	言語障害について(目標1. 2)

予習・復習の内容	予習	○毎回の授業で提示する検討課題について、調べ学習を行うこと。
	復習	○配付資料を読んで理解すること。
	展開	○図書館に備え付けの発達障害当事者が執筆している書籍を読むこと。
成績評価	評価の基準	各障害の特性の理解及び基本的な支援方法の習得度
	評価の方法	レポート(50%)、授業への参加態度(50%)を踏まえ、総合的に評価する。
教科書	書籍名	ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ 50
	著者名	佐藤愼二
	出版社	日本文化科学社
	価格	1 2 5 0 円
	ISBN・ISSN	978-4-8210-6089-4
	書籍名	いつでも・どこでも・楽しめるミニネタ190選
	著者名	佐藤愼二
	出版社	自費出版
	価格	2 0 0 円
	ISBN・ISSN	—
推薦図書等		
参考URL		
備考		

カウンセリング

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS107
開講年度	2016年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	カウンセリング
科目責任者	古川 繁子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	41000201 水1
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

カウンセリング理論についての講義を基にピアサポートのトレーニングに重点を置く。ロールプレイング・構成的グループエンカウンター体験を通して理解を深めるため、互いにカウンセラー、クライアントを経験し合う。

学生の達成目標

1. カウンセリングの基礎を体験的に学び、日常の人間関係に活用できるようになる。
2. 介護者として必要な人間観・対人関係調整力が養われる。

授業内容	第1回	出会い体験（エクササイズ①）－話し合い－（目標1）
	第2回	出会い体験（エクササイズ②）「聴く、話す」を中心に事例の提示 カウンセリングの基本姿勢 －話し合い－（目標1）
	第3回	人間関係づくり（エクササイズ③）「聴く、話す」を体験する －話し合い－（目標1）
	第4回	人間関係づくり（エクササイズ④）「聴く、話す」の体験 －話し合い－（目標1）
	第5回	人間関係づくり（エクササイズ⑤）自己理解を深める－エゴグラム の作成 －話し合い－（目標1）
	第6回	人間関係づくり（エクササイズ⑥）自己理解を深める－HTP －話し合い－（目標1）
	第7回	ミニカウンセリングの体験(1)～(4) ロールプレイング（目標2）
	第8回	ミニカウンセリングの体験(1)～(4) ロールプレイング（目標2）
	第9回	ミニカウンセリングの体験(1)～(4) ロールプレイング（目標2）

	第10回	ミニカウンセリングの体験(1)～(4) ロールプレイング (目標2)
	第11回	ピアサポートの理論と実際 (目標1)
	第12回	ピアサポートの理論と実際 (目標1)
	第13回	ピアサポートの理論と実際 (目標1)
	第14回	青年期の課題 (目標1)
	第15回	介護現場での活用, 支援モデル・ロールプレイング (目標2)
予習・復習の内容	予習	「自分について」「気になる人間関係」「カウンセリングの技法」の1つを選び, 毎回数名が発表する。
	復習	「授業のまとめ」に記載し, 提出する。
	展開	実習の記録にコメントを付し, 提出する。
成績評価	評価の基準	学習の達成目標に対する到達の割合を評価する。
	評価の方法	授業5回ごとに計3回試験をし (90%) 授業への参加態度 (10%) を合わせ, 総合的に評価する。
教科書	書籍名	ピアヘルパーハンドブック-友達をヘルプするカウンセリング
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社
	価格	1,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8100-1343-6
推薦図書等	書籍名	ピアヘルパーワークブック
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社
	価格	1,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8100-2386-2
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2016年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	布施 千草
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000102 月1,2
教室	ゼミ室4
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	学生自身の興味、関心を大切に既存の研究方法に基づいた課題解決を体験する。 主体的に行動できるように努力していく。	
学生の達成目標	1. 介護福祉領域における諸問題について深く掘り下げる。 2. その体験を通して研究の基本及び専門職としての姿勢を身につける。 3. 研究を通して得た知見を文章化、表現できる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション {目標1・2・3}
	第2回	オリエンテーション {目標1・2・3}
	第3回	研究の基本について {目標1}
	第4回	研究の基本について {目標1・2}
	第5回	研究論文の抄読 {目標3}
	第6回	研究論文の抄読 {目標3}
	第7回	研究テーマの設定 {目標1}
	第8回	研究テーマの設定 {目標1}
	第9回	研究計画書作成 {目標2}
	第10回	研究計画書作成 {目標2}
	第11回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第12回	データ収集と整理 {目標1・2}

	第13回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第14回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第15回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第16回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第17回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第18回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第19回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第20回	データ収集と整理 {目標1・2}
	第21回	論文作成 {目標3}
	第22回	論文作成 {目標3}
	第23回	論文作成 {目標3}
	第24回	論文作成 {目標3}
	第25回	論文作成 {目標3}
	第26回	論文作成 {目標3}
	第27回	論文作成 {目標3}
	第28回	論文作成 {目標3}
	第29回	研究成果の発表 {目標3}
	第30回	研究成果の発表 {目標3}
予習・復習の内容	予習	介護福祉領域の諸問題について自分なりの考えをまとめる。
	復習	毎回の授業要旨をまとめる。
	展開	自分が関心をもった事項に対し、図書や研究成果などを調べ、知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	授業発表30%、論文内容70%の成績を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2016年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	今井 訓子
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000103 火1,金1
教室	(火1) 講義室7 (金1) セミナー室1
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護研究の意義、目的を理解する。 共同研究の意義と方法を知る。 研究の基礎を学び、介護福祉士として役割を知る。	
学生の達成目標	1.介護研究の手順とその意義を知る。 2.文献検索の方法を知り、適切な文献を選べる。 3.介護研究グループとしての個々が持つ役割とその効果を知る。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1）
	第2回	介護研究のプロセスについて（目標1）
	第3回	文献検索について（目標2）
	第4回	研究のタイプとデザインについて（目標1）
	第5回	研究のタイプとデザインについて（目標1）
	第6回	研究テーマについてグループで話し合う（目標3）
	第7回	研究計画書の作成（目標3）
	第8回	研究計画書の作成（目標3）
	第9回	グループワークによる検討（目標3）
	第10回	グループワークによる検討（目標3）
	第11回	グループワークによる検討（目標3）
	第12回	研究論文の作成（目標1,2,3）

	第13回	研究論文の作成（目標 1, 2, 3）
	第14回	研究論文の作成（目標 1, 2, 3）
	第15回	中間発表（目標 2, 3）
	第16回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第17回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第18回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第19回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第20回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第21回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第22回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第23回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第24回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第25回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第26回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第27回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第28回	研究論文の検討と修正（目標 2, 3）
	第29回	研究成果発表（目標 3）
	第30回	研究成果発表（目標 3）
予習・復習の内容	予習	介護研究報告書を読み、自分が展開したいテーマを決めておく。 研究方法に関する文献を読む。
	復習	まとめたものを振り返り、さらなる研究へとつなげる。
	展開	前半はグループ学習、後半は研究の方法、内容によっては個人指導 をする。 文献検索を行い、知識を深める。
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力 の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態 度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2016年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	川村 博子
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000104 月1,金1
教室	(月) 講義室2 (金) セミナー室2
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	前半は全体指導を中心，後半は個別指導が主となる。	
学生の達成目標	障害者，高齢者が豊かで安定した生活を送ることが出来るための支援について，文献及び見学・調査・実践の体験を通して理解を深める。	
授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	興味，関心のあるテーマについて話し合い，課題を設定する
	第3回	興味，関心のあるテーマについて話し合い，課題を設定する
	第4回	資料収集の方法，整理の方法
	第5回	資料収集の方法，整理の方法
	第6回	資料収集の方法，整理の方法
	第7回	資料収集の方法，整理の方法
	第8回	中間発表
	第9回	中間発表
	第10回	論文の構成，体裁、執筆方法
	第11回	論文の構成，体裁、執筆方法
	第12回	論文の構成，体裁，執筆方法
	第13回	論文の執筆について
	第14回	論文の執筆について

	第15回	論文の執筆について
	第16回	論文の執筆について
	第17回	論文の執筆について
	第18回	論文の執筆について
	第19回	論文の執筆について
	第20回	論文の執筆について
	第21回	論文の執筆について
	第22回	論文の執筆について
	第23回	論文の検討，修正
	第24回	論文の検討，修正
	第25回	論文の検討，修正
	第26回	論文の検討，修正
	第27回	論文の検討，修正
	第28回	論文の提出
	第29回	論文の発表会
	第30回	論文の発表会
予習・復習の内容	予習	興味，関心のあるテーマについて調べる
	復習	興味，心のあるテーマについて図書等で学ぶ
	展開	興味，関心のあるテーマについて理解を深める。
成績評価	評価の基準	テーマへの取り組み，論文の内容。
	評価の方法	テーマへの取り組み（30％），論文の内容（70％）を総合的に評価する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2016年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000105 月1,2
教室	ラーニング・コモンズ1
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	基本的な研究の方法を学び、介護福祉領域に関するテーマを設定し、主体的に研究できる。 報告書（論文）としてまとめることができる。
-----------	--

学生の達成目標	1. 主体的な学習・研究的態度でテーマに取り組むことができる 2. グループメンバーと協力ができる 3. 報告書（論文）としてまとめることができる。
---------	--

授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1、2）
	第2回	研究について（目標1、2）
	第3回	研究について（目標1、2） 文献検索について
	第4回	テーマの検討 文献検索（目標1、2）
	第5回	テーマの選定と文献検索（目標1、2）
	第6回	テーマの選定と文献検索（目標1、2）
	第7回	研究計画書の作成（目標1、2）
	第8回	研究計画書の検討（目標1、2）
	第9回	実施にあたっての準備（目標1、2）
	第10回	実施（目標1、2）
	第11回	実施（目標1、2）

	第12回	実施（目標 1、 2）
	第13回	実施の報告・整理と修正（目標 3）
	第14回	実施（目標 1、 2）
	第15回	実施（目標 1、 2）
	第16回	実施（目標 1、 2）
	第17回	実施（目標 1、 2）
	第18回	実施（目標 1、 2）
	第19回	実施の報告・整理 今後の方向性への検討（目標 3）
	第20回	実施（目標 1、 2）
	第21回	実施（目標 1、 2）
	第22回	論文作成に関する検討（目標 1 ～ 3）
	第23回	論文作成と検討・修正（目標 1 ～ 3）
	第24回	論文作成と検討・修正（目標 1 ～ 3）
	第25回	論文作成と検討・修正（目標 1 ～ 3）
	第26回	論文作成と検討・修正（目標 1 ～ 3）
	第27回	論文作成と検討・修正（目標 1 ～ 3）
	第28回	論文の検討（目標 1 ～ 3）
	第29回	論文提出（目標 3）
	第30回	研究成果の発表（目標 1 ～ 3）
予習・復習の内容	予習	興味のあるテーマ、決定したテーマに関連する文献を読んで、概要等理解してくる。 テーマに関連する文献を調べておく。
	復習	他者の意見等踏まえて、テーマについて整理しながら発展的に進めること。 実践したことを検討して進めること。
	展開	テーマに関する文献から研究結果等を調べ、それらを基礎に深める。 実践を通した論文作成とする。
成績評価	評価の基準	研究過程の取り組み、実践、論文作成、報告を総合的に評価する
	評価の方法	研究レポート（ 7 0 %） 研究過程（ 3 0 %）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	テーマ実施内容によっては、実践の都合上、相談した上で日程を変更することもある。	

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2016年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	松井 奈美
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000107 火1,金1
教室	(火1) 講義室7 (金1) セミナー室1
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	学習を通して生じた疑問や課題を整理し、自らの興味関心事を明確にしたうえで、共同研究テーマを模索し、研究計画に基づいた実践活動の成果を論理的な文章で表現するというプロセスを経て「考えて行動する力」「コミュニケーション能力」を養う。	
学生の達成目標	1.自分の興味関心事（疑問や課題）を明らかにしたうえで、共同研究のテーマを絞り込む。 2.論文執筆のマナーを理解する。 3.執筆マナーに基づいて、自分の考えを論理的な表現でまとめる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1）
	第2回	研究活動の留意点を学ぶ（目標1,2）
	第3回	興味・関心のあるテーマについて話し合い、共同研究のテーマを模索する（目標1）
	第4回	資料収集の方法・整理の仕方等を学びつつ、共同研究テーマの明確化を図る（目標1,2）
	第5回	論文の書き方、執筆の留意点等を学ぶ（目標2）
	第6回	章立てを検討する（目標2）
	第7回	実践研究活動に必要な資料を収集する（目標2）
	第8回	研究計画（案）を作成する（目標2）
	第9回	研究計画書を完成させる（目標2）

	第10回	実践研究活動を実施する（目標2）
	第11回	実践研究活動を実施する（目標2,3）
	第12回	実践研究活動を実施する（目標2,3）
	第13回	活動報告と実践研究計画の見直しを行う（目標1,2）
	第14回	執筆分担を決める（目標2）
	第15回	実践研究活動を実施する（目標3）
	第16回	実践研究活動を実施する（目標3）
	第17回	実践研究活動を実施する（目標3）
	第18回	実践研究活動を実施する（目標3）
	第19回	実践研究活動を実施する（目標3）
	第20回	実践研究活動を実施する（目標3）
	第21回	実践研究活動を実施する（目標3）
	第22回	実践活動の整理・分析を行う（目標3）
	第23回	実践活動の整理・分析を行う（目標3）
	第24回	研究論文（担当部分）の執筆および修正を進める（目標3）
	第25回	研究論文（担当部分）の執筆および修正を進める（目標3）
	第26回	研究論文（担当部分）の執筆および修正を進める（目標3）
	第27回	研究論文（担当部分）の執筆および修正を進める（目標3）
	第28回	研究論文全体の整合性を確認する（目標3）
	第29回	共同研究報告書を提出する（目標3）
	第30回	共同研究の成果を発表するとともにゼミ活動全体の反省会を行う（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	共同研究テーマに関連する書籍を読み、学びをノートにまとめる
	復習	ゼミで話し合ったことや話し合いからの学びをノートにメモし、共同研究活動に必要な情報を確認する
	展開	・共同研究テーマについて多面的に考えることができる ・自分の考えが深まり、論理的かつ適切な表現（文章、口頭）で学びや思考を説明できる ・連携や協働の重要性が体験的に学べる
成績評価	評価の基準	学習目標の達成度を授業参画状況・研究活動の姿勢および執筆した論文で総合的に評価する。
	評価の方法	・研究活動状況（50%） ・分担執筆論文の内容（30%） ・研究成果の報告、発表（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	新版 大学生のためのレポート・論文術
	著者名	小笠原喜康
	出版社	講談社現代新書
	価格	720円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-06-288021-3
	書籍名	大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ

著者名	学習技術研究会（編著）
出版社	くろしお出版
価格	1800円（税別）
ISBN・ISSN	978-4-87424-510-1

参考URL

備考

- ・推薦図書は，必要に応じて紹介する。
 - ・積極的、協調的な参画を期待する。
 - ・行き詰った時は個別指導を受けること。
-

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2016年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	清宮 宏臣
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000108 火1,金1
教室	(火1) ラーニング・commons1 (金1) 演習室1
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

福祉（主に介護福祉）の領域の中から、学生各自が関心のあるテーマに基づき、関連文献や資料を収集し、学生個々の問題設定と既存の文献とを比較考察しながら検証し、論理的な文章で論文を完成させる。

学生の達成目標

- 1.福祉（主に介護福祉）の領域の中から、関心のあることについてテーマを自主的に設定できる。
- 2.自らが設定したテーマに関連する文献や資料を集めることができる。
- 3.設定したテーマを深く調べ、得られた知見を文章化し、論文としてまとめ提出できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業の進め方について）（目標1、2、3）
	第2回	各自の興味関心のある事柄について意見交換をし、研究テーマを設定する（目標1）
	第3回	各自の興味関心のある事柄について意見交換をし、研究テーマを設定する（目標1）
	第4回	研究計画書（研究をしたくなった経緯や背景、研究目的、研究方法など）を作成する（目標1）
	第5回	研究計画書（研究をしたくなった経緯や背景、研究目的、研究方法など）を作成する（目標1）
	第6回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
	第7回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）

	第8回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
	第9回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
	第10回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
	第11回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
	第12回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
	第13回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
	第14回	中間発表（目標1、2）
	第15回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第16回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第17回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第18回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第19回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第20回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第21回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第22回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第23回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第24回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
	第25回	研究論文の確認、修正をする（目標3）
	第26回	研究論文の確認、修正をする（目標3）
	第27回	研究論文の確認、修正をする（目標3）
	第28回	研究論文の確認、修正をする（目標3）
	第29回	研究論文の提出（目標3）
	第30回	研究論文の提出（目標3）
予習・復習の内容	予習	・日ごろから研究テーマに関連した事柄について関心を持ち、関連する資料（新聞記事や書籍、論文など）を読み集める。
	復習	・毎回の授業の内容を整理する。
	展開	・研究テーマに関連した資料（文献）を丁寧に調べ、集めることができる。また、それらの資料や文献をしっかりと読み理解する。理解できない場合はさらに調べるようにする。
成績評価	評価の基準	研究テーマに関する資料準備や発表の様子、グループワークの参加度、研究論文の内容などを総合的に評価する。
	評価の方法	・研究テーマに関する資料準備や発表の様子（30%）研究論文の内容（70%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等		
	書籍名	はじめての介護研究マニュアルーアイデアから研究発表までー

著者名	矢原隆行 著
出版社	保育社
価格	1,600円+税
ISBN・ISSN	978-4-586-63005-9

参考URL

備考

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2016年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	中西 正人
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000110 月1,2
教室	講義室3
卒業要件	地域介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 授業、実習などから捉えられた課題に基づき研究テーマを決める。 2. 学生の主体的な取り組みと、その問題・課題意識に応じて授業を展開する。 3. 学生の研究進度に応じて適宜発表とゼミ批評ができる機会を設ける。
-----------	--

学生の達成目標	1. 対人援助職に必要な見識について考察を深めることができる。 2. 基礎的な研究方法を学び、論文を定められた期限までに仕上げて提出する。
---------	--

授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1）
	第2回	介護福祉について各自が抱えている問題意識を語り合う。（目標1）
	第3回	介護福祉について各自が抱えている問題意識を語り合う。（目標1）
	第4回	研究テーマを決める。（目標1）
	第5回	研究テーマを決める。（目標1）
	第6回	研究のタイプとデザインについて学ぶ（目標2）
	第7回	研究計画書の作成（目標1・2）
	第8回	研究計画書の作成（目標1・2）
	第9回	各自のテーマに関する文献を検索する。＊図書館にてレクチャーを受ける。（目標2）
	第10回	各自のテーマに関する文献を検索する。＊図書館にてレクチャーを受ける。（目標2）
	第11回	資料の収集と整理（目標1・2）

	第12回	資料の収集と整理（目標1・2）
	第13回	資料の収集と整理（目標1・2）
	第14回	資料の収集と整理（目標1・2）
	第15回	中間発表（目標1・2）
	第16回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第17回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第18回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第19回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第20回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第21回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第22回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第23回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第24回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第25回	データの収集および論文作成（目標1・2）
	第26回	論文の修正（目標1・2）
	第27回	論文の修正（目標1・2）
	第28回	論文の修正（目標1・2）
	第29回	研究発表（目標1・2）
	第30回	研究発表（目標1・2）
予習・復習の内容	予習	：自身の興味関心を掘り下げ、研究したいテーマについての情報収集に関連する図書や映像を観るなどして行うこと。 ：事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	：指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	：学生自身の持つ興味関心について図書や先行研究等を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で学ぶ基礎的な研究に関する内容（研究のプロセス、研究方法、論文の書き方等）が理解できていること。
	評価の方法	授業への取り組み20%、レポート20%、研究論文60%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名	はじめての介護研究マニュアル～アイデアから研究発表まで～
	著者名	矢原隆行
	出版社	保育社
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	978-4-5866-3017-2
参考URL		
備考		

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育原理
科目責任者	浅川 蘭子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011101 木2 30011102 木1
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	すこやかな子どもの育ちと子育て支援とを目的・課題とするときの基本的な考え方について学ぶ	
学生の達成目標	1.保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。 2.子どもを理解する際の手がかりとなる視点を習得する。 3.保育を成り立たせている保育内容や方法の原理及び子育てを取り巻く社会的な変化を理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 保育原理の学習の計画と授業計画（目標1）
	第2回	保育とは何か（目標1）
	第3回	保育の基盤としての子ども観（目標1,2）
	第4回	子ども理解から出発する保育（1）（目標1,2）
	第5回	子ども理解から出発する保育（2）（目標1,2）
	第6回	子どもが育つ環境の理解（目標1,3）
	第7回	保育内容・方法の原理（1）（目標3）
	第8回	保育内容・方法の原理（2）（目標3）
	第9回	保育の計画と実践の原理（目標3）
	第10回	健康・安全と障がいのある子どもへの対応（目標1,2）
	第11回	保育の歴史（1）（目標3）

	第12回	保育の歴史（2）（目標3）
	第13回	保育者に求められるもの（目標1,2,3）
	第14回	家族援助と子育て支援・保育の現状と課題（目標1,3）
	第15回	保育の評価と苦情処理及び保育者の研修（目標1,3）
予習・復習の内容	予習	事前に該当するテキストを読み、必要な予備知識や事例に対するイメージを持つ。
	復習	授業で配布されたプリントを整理して、重要な内容について確認する。
	展開	実際の保育に触れ、学んだことを実感する。保育に関わるさまざまな問題について関心を持つ。
成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる 授業の内容を理解することができる 積極的に授業に参加している
	評価の方法	試験70% 小テスト10% 授業に対する意欲・態度・提出物20%
教科書	書籍名	最新保育講座 保育原理
	著者名	森上史朗 他
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	978-4-623-07351-1
	書籍名	保育用語辞典
	著者名	森上史朗 他
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	978-4-623-07352-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR102
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育原理
科目責任者	白川 優治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30000501 土2 30000502 土1
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	教育を学ぶなかでは、「教育とは何か」、「人はなぜ学ぶのか」、「学校はどのような意味をもっているのか」を考えることは、避けて通ることはできない。そこで、教育の歴史、理念、制度などの観点からこのことを考える。	
学生の達成目標	1.人間にとって教育とは何かを考える 2.社会と教育の関係を理解する 3.現在の教育課題を理解する	
授業内容	第1回	オリエンテーション+「教育の意義」（1）（目標1・2）
	第2回	教育の意義（2）「教育とは何か」「学ぶことと教えること」「学校の意味」（目標1）
	第3回	教育の歴史（1） 西洋での教育と学校の歴史（目標2）
	第4回	教育の歴史（2） 日本での教育と学校の歴史（目標2）
	第5回	教育の理念（1） 西洋の教育思想の潮流（目標1）
	第6回	教育の理念（2） 日本教育思想の潮流（目標1）
	第7回	教育制度（1） 教育の法制度：憲法と「教育を受ける権利」（目標1・2）
	第8回	教育制度（2） 日本の学校制度の特徴（目標1・2・3）
	第9回	教育の内容（1） 教育課程とその変遷（目標2・3）

	第10回	教育の内容（２） 教育内容と文化・社会変容（目標２・３）
	第11回	教育と発達（１） 子どもの発達段階（目標１・２）
	第12回	教育と発達（２） 子どもの成長と環境（目標１・２）
	第13回	教育課題（１） 体罰といじめ（目標３）
	第14回	教育課題（２） 現代の教育課題（目標３）
	第15回	教育の歴史・思想・制度についてのこれまでのまとめとこれからの教育のあり方」（目標１・２・３）
予習・復習の内容	予習	教科書の指定する箇所を事前に自分で確認しておく。
	復習	授業での配布資料を確認する。
	展開	授業では本や資料等を紹介するので、それらを通じて自ら学んでください。
成績評価	評価の基準	授業で行う内容を理解できているかを達成目標の観点から判断する。
	評価の方法	授業で行うミニレポート・ミニテストの提出状況（30%） 中間試験（30%） 最終試験（40%）
教科書	書籍名	教育の基礎と展開
	著者名	高野良子・武内清
	出版社	学文社（2016）
	価格	2,160円(税込み)
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2624-9 C3037
推薦図書等	書籍名	『教育格差の社会学』
	著者名	耳塚寛明
	出版社	有斐閣（2014年）
	価格	1,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4641220133
参考URL	文部科学省 www.mext.go.jp	
備考		

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	児童家庭福祉
科目責任者	根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30010901 木5 30010902 木3
教室	講義室5
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもと子育て家庭をめぐる現状と課題について、児童福祉視点から理解する。保育者として担うべき役割について、子どもの権利の視点から学ぶ。
-----------	---

学生の達成目標	1.子ども家庭福祉の制度・施策を理解する 2.子どもの権利という視点から児童福祉の歴史、現代的課題を理解する 3.保育や保育士のあり方について、地域で子どもと家庭を支える役割と専門性を理解する
---------	--

授業内容	第1回	保育における児童家庭福祉(目標1)
	第2回	現代社会と子ども・家庭(目標2)
	第3回	現代社会と児童家庭福祉(目標2)
	第4回	児童家庭福祉の概念(目標1)
	第5回	子どもの権利保障の歴史と児童家庭福祉の理念(目標2)
	第6回	児童家庭福祉の法体系(目標1)
	第7回	児童家庭福祉の実施体制(目標1)
	第8回	児童家庭福祉の専門職とネットワーク、権利擁護(目標1・2)
	第9回	児童家庭福祉施策の現状と課題①(目標2・3)
	第10回	児童家庭福祉施策の現状と課題②(目標2・3)

	第11回	児童家庭福祉施策の現状と課題③(目標2・3)
	第12回	児童家庭福祉施策の現状と課題④(目標2・3)
	第13回	児童家庭福祉施策の現状と課題⑤(目標2・3)
	第14回	児童家庭福祉援助活動(目標3)
	第15回	児童家庭福祉のまとめ(目標1・2・3)
予習・復習の内容	予習	普段から子ども、子育て家庭問題について関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	授業の要旨をまとめ、資料を整理し、再考する。
	展開	児童家庭福祉の課題に向き合い、実践的に考察できる。
成績評価	評価の基準	児童家庭福祉の概念と現状と課題、支援のしくみの理解ができている。子どもと家庭の支援が保育の専門性であることが考察できる。
	評価の方法	リアクションペーパー30%、レポート20%、テスト50%
教科書	書籍名	新 保育士養成講座第3巻 児童家庭福祉
	著者名	保育士養成講座編纂委員会
	出版社	全国社会福祉協議会
	価格	1,900+税
	ISBN・ISSN	978-4-7935-1089-2
推薦図書等	書籍名	チャレンジ!地球村の英語 地球村の子どもの権利
	著者名	吉村峰子・吉村稔
	出版社	すずき出版
	価格	3,000+税
	ISBN・ISSN	978-4-7902-3131-8
参考URL		
備考		

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR103
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会福祉
科目責任者	根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30000101 木1 30000102 木2
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何かを考えていく。 社会福祉の行財政、関連諸施策との関係をおさえつつ社会福祉の主要な分野とサービスとの関連についての考察を加える。 利用者保護の仕組みの理解と今後の社会福祉の課題について理解する。	
学生の達成目標	1. 社会福祉の意義と歴史的変遷を理解する 2. 社会福祉制度や実施体制等について理解する 3. 社会福祉の動向と課題について理解する	
授業内容	第1回	私たちの暮らす現代社会(目標1)
	第2回	生活課題と社会福祉(目標1)
	第3回	社会福祉の理念・構造(目標1)
	第4回	社会福祉の歴史①(目標1)
	第5回	社会福祉の歴史②(目標1)
	第6回	生活を守る社会保障(目標2)
	第7回	社会福祉の制度と法体系(目標2)
	第8回	社会福祉の制度と法体系(目標2)
	第9回	社会福祉の実施機関と行財政、施設(目標2)
	第10回	子どもの人権と児童家庭福祉(目標2)

	第11回	社会福祉の専門職と倫理(目標3)
	第12回	相談援助の意味と方法(目標3)
	第13回	福祉サービスの利用者支援と第三者評価(目標3)
	第14回	権利擁護と苦情解決(目標3)
	第15回	地域福祉の意味と推進方法、他分野との連携(目標3)
予習・復習の内容	予習	普段から社会状況、福祉問題について関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。その中で自分で興味を持った事項について、その都度さらに調べること。
	展開	学びと自分、あるいはまわりの生活状況を結びつけ、社会福祉についての知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で扱った基礎的内容が理解できていること。幅広い福祉問題について自分の考えを持ち、説明できる。
	評価の方法	テスト 8 5 % リアクションペーパー 1 5 %
教科書	書籍名	シリーズ保育と現代社会 保育と社会福祉
	著者名	橋本好市 宮田徹
	出版社	(株) みらい
	価格	2000+税
	ISBN・ISSN	978-4-86015-247-5
	書籍名	「社会福祉小六法」
	著者名	ミネルヴァ書房編集部
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	1600+税
	ISBN・ISSN	978-4-6230-6952-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR104
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	相談援助
科目責任者	根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30010201 火4 30010202 火2
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育の場面で必要とされる相談援助について具体的に学ぶ。	
学生の達成目標	1.相談援助の意義・目的を理解する。 2.相談援助の方法を理解し、基本的な相談援助技術を身につける。 3.相談援助を行うものの有する価値・倫理・倫理綱領を理解する。	
授業内容	第1回	相談援助の理論(目標1)
	第2回	相談援助の意義(目標1)
	第3回	相談援助の機能(目標1)
	第4回	相談援助（保育）とソーシャルワーク(目標1・2)
	第5回	相談援助の方法とプロセス①(目標2・3)
	第6回	相談援助の方法とプロセス②(目標2・3)
	第7回	相談援助の歴史(目標2)
	第8回	相談援助する人が必要な姿勢と技術①(目標2・3)
	第9回	相談援助する人が必要な姿勢と技術②(目標2・3)
	第10回	相談援助する人が必要な姿勢と技術③(目標2・3)
	第11回	相談援助する人が必要な姿勢と技術④(目標2・3)
	第12回	相談援助する人が必要な姿勢と技術⑤(目標2・3)

	第13回	事例分析①(目標2・3)
	第14回	事例分析発表(目標2・3)
	第15回	相談援助のまとめ(目標1・2・3)
予習・復習の内容	予習	教科書の指定箇所を読んで、ワークシートに取り組む。
	復習	授業で学んだことの要旨をまとめる。さらに調べる必要のあることを調べまとめておく。
	展開	専門職としての相談援助の技術を身につけ、対象への理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で扱った基礎的内容が理解できていること。基本的な相談支援計画を立て、基本的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験80%、課題20%
教科書	書籍名	ワークシートで学ぶ相談援助
	著者名	古川繁子 根本曜子 田村光子 井上深幸
	出版社	学文社
	価格	1800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7620-5
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR202
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会的養護
科目責任者	坂口 洋
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30011301 月3 30011302 月2
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	社会的養護を必要とする児童とその置かれている状況等について理解を深め、保育士は家庭養育だけではなく社会的養護の主要な担い手でもあることを自覚する。	
学生の達成目標	1.社会的養護の基本的な事項（定義・理念・原理等）に関して理解を深める。 2.施設養護に関する理解を深め、施設での保育士の役割についてイメージを形成する。 3.社会的養護の現状と課題について理解を深め、問題意識を持つ。	
授業内容	第1回	社会的養護って何？(目標1)
	第2回	これまで子どもはどう育てられてきたのか？(目標1)
	第3回	子どもだけの支援でいいのか？家庭は？(目標1,3)
	第4回	子どもの権利はどう守られるのか？(目標1,2)
	第5回	措置制度って何？(目標1,3)
	第6回	子どもはどんなところで生活するのか？(目標1)
	第7回	家庭養護と施設養護はどう違うのか？(目標1,2,3)
	第8回	保育士は社会的養護の担当者なのか？(目標1)
	第9回	施設養護の担当者がいつも大事に思っていることは何？(目標1,2)
	第10回	施設養護ではどんな支援をしているのか？(目標2)
	第11回	ソーシャルワークって何？(目標1,2)

	第12回	施設はどんなふう運営されているのか？(目標 2, 3)
	第13回	倫理って何？なぜ倫理が必要なのか？(目標 1, 3)
	第14回	被措置児童等虐待って何？(目標 2, 3)
	第15回	施設がなぜ地域福祉もするのか？(目標 2, 3)
予習・復習の内容	予習	事前に該当する内容を教科書で読み、興味づけをはかり、疑問点を持つ。
	復習	教科書や配布した資料を見直して、重要な内容について確認する。
	展開	社会的養護に関する報道等に意識的・積極的に触れるようにし、関心を高める。
成績評価	評価の基準	・社会的養護について基本的な内容を理解していること。施設養護で保育士がとる役割がイメージできること。 ・積極的に授業に参加していること。
	評価の方法	試験 70% 授業への参加意欲・リフレクションペーパー 30%
教科書	書籍名	社会的養護（基本保育シリーズ⑥）
	著者名	相澤 仁・林 浩康
	出版社	中央法規出版
	価格	2,000円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5206-4
推薦図書等		
参考URL	http://www.mhlw.go.jp/ 厚生労働省HP→子ども・子育て支援→施策情報：社会的養護	
備考	・グループディスカッションを取り入れた授業を中心に行うので、積極的に参加すること。自分で考えて発言し、他の人の意見を聞き、また考えて、知識を確かなものにする。	
	・できるだけ他の科目（保育士養成関係の）との関連を考えながら授業を受けること。	
	・授業時に資料を配布する。	
	・授業ごとにリフレクションペーパーの提出を求める。	
	・授業の回数は教科書の講数と一致する(例えば、第1回は第1講、第2回は第2講のように)。	

保育者・教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育者・教師論
科目責任者	山本 邦晴
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30010701 木3 30010702 木4
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 幼児期の保育・教育及び障害教育に重点を置き、専門職としての子ども理解について学ぶ。 2. 幼稚園・保育園、小・中学校等の育ちの過程で、出会った保育者・教師の想い出（レポート提出）を事例として取り上げ、指導・支援等の望ましい在り方を具体的に考え、目指す保育者・教師像を深める。
-----------	---

学生の達成目標	1.保育者や教師が備えるべき条件の基礎となる「保育士・教師観」「子ども観」「授業観」「保育・教育観」等を深める。 2.保育者・教師の役割と倫理、制度上の位置づけ等を学び、子どもは保育者・教師から多大な影響を受け育つことを認識し、専門職としての使命を理解する。 3.保育・教育現場で組織の一員として仕事をする重要性、専門職としての役割・責任等を学び、保育者・教師として基本的資質を高める。
---------	---

授業内容	第1回	保育士・教師の制度上の位置づけ－資格・要件・責務等（目標1・2・3）
	第2回	保育士・教師観－望ましい保育士・教師像、好きな保育士・教師、優れた保育士・教師、良い教師の条件（目標1・2）
	第3回	子ども観－教え指導する子ども、共に生活し支える子ども、子ども主体の保育・教育、子ども主体を支える保育・教育（目標1・2）
	第4回	子ども理解－肯定的理解、共感的理解、感じ合い・分かり合い（目標1・2）

	第5回	保育・教育観－障害等の有無に関係なく、全ての子どもに適用できる保育・教育観（目標１・２・３）
	第6回	保育課程・教育課程観－保育所や学校等の生活の充実・発展のための保育課程・教育課程、保育所や学校等での生活づくりを保育・教育課程編成と捉えて（目標２・３）
	第7回	保育課程・教育課程観－保育所や学校等の生活の充実・発展のための保育課程・教育課程、保育所や学校等での生活づくりを保育・教育課程編成と捉えて（目標２・３）
	第8回	日々の保育・授業観－活動・生活支援としての日々の保育・授業、生活の一コマとしての授業、遊びや日常生活等を支える授業（目標１・２・３）
	第9回	日々の保育・授業観－活動・生活支援としての日々の保育・授業、生活の一コマとしての授業、遊びや日常生活等を支える授業（目標１・２・３）
	第10回	保育者・教師の専門性－保育・幼児教育の専門性、特別支援教育の専門性、養護と教育、資質・能力、技術・技法、保育・教育の展開と自己評価、保育・教育観と専門性（目標１・２・３）
	第11回	保育者・教師の専門性－保育・幼児教育の専門性、特別支援教育の専門性、養護と教育、資質・能力、技術・技法、保育・教育の展開と自己評価、保育・教育観と専門性（目標１・２・３）
	第12回	保育者・教師の役割と倫理等－倫理、服務・規律、職務内容・役割等（目標２・３）
	第13回	保育者・教師の協働－保育者・教師の支え合い、協働（目標３）
	第14回	保育者・教師の専門職としての育ち－専門性の向上とキャリア形成（目標３）
	第15回	保護者と保育者・教師の関係のあり方－学級経営，学級懇談会，学級だより（目標１・２・３）
予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、教科書「大好きな先生に出会えたら」を参照し、理解を深めるとともに疑問点や自分なりの考えをまとめておく。
	復習	授業内容に応じて、キーワードとなる事柄について小テスト等を実施し、自分の考えをまとめる。必要に応じて、その小テストで述べたことを紹介し、より理解を深める。
	展開	幼稚園・保育園や特別支援学校等で実習した経験を踏まえ、保育者・教師として子どもとの関わり方等について、見つめ直し再確認し一層の理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業への取り組み態度や発表、授業後の小テスト及びレポート提出などより総合的に評価する。
	評価の方法	授業への取り組み態度２０％、授業後の小テスト５０％、レポート提出３０％。この比率をもとに総合的に評価する。
教科書	書籍名	「大好きな先生に出会えたら」
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会編
	価格	５００円
	ISBN・ISSN	－

推薦図書等

書籍名	「感じ合い 分かり合い 支え合い」
著者名	小出進
出版社	日本生活中心教育研究会編
価格	1, 0 0 0 円
ISBN・ISSN	－

☐上記の図書等は市販されていません。

参考URL

備考

障害福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP202
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害福祉論
科目責任者	田村 光子
担当教員	根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30000301 金5
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害者福祉の基本理念について、講義、ビデオ視聴等をふまえながら学んでいく。また近年の障害児者福祉における制度の変化やその他福祉サービスの内容についても理解できるようになる。

学生の達成目標

- 1.障害者福祉の基本理念、また実際の制度について理解する。
- 2.当事者（障害のある方や保護者）の話や現場の声を通して、実際の障害者福祉について学ぶ。
- 3.障害児者施設への就職を希望する学生は受講をすすめる。

授業内容	
第1回	オリエンテーション 授業内容・進め方・評価についての理解（目標 1, 2, 3）
第2回	障害とは何か ～障害概念の理解～障害児者福祉の発展（目標 1）
第3回	障害児者福祉の歴史的変遷（目標 1）
第4回	ノーマライゼーション理念の理解（目標 1）
第5回	ノーマライゼーション理念の理解（目標 1）
第6回	自立生活運動、インクルージョン、特別支援教育へ（目標 1）
第7回	障害者基本法の理解（目標 1）
第8回	障害者自立支援法への歩み（目標 1）

	第9回	障害福祉サービスの仕組み(目標1)
	第10回	障害福祉サービスの仕組み(目標1)
	第11回	障害福祉サービスの仕組み(目標1)
	第12回	障害者福祉を支える関連法の理解(目標1)
	第13回	現代の障害者福祉の動向(目標1)
	第14回	事例研究(目標2)
	第15回	障害福祉論のまとめ、演習(目標1、2、3)
予習・復習の内容	予習	各回の授業内容を確認し、事前にキーワードについて調べておくこと
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと 指示されたレポート課題を期限までに提出すること
	展開	障害のある方への福祉について関心をもち、関連する図書を読んだり、報道について理解しておくこと 特に当事者の話を聞く貴重な機会には欠席しないよう気をつけること
成績評価	評価の基準	レポート、まとめ、授業態度を総合して評価する。
	評価の方法	障害福祉論のまとめ(80%)、レポート提出(10%)、授業への参加意欲(10%)とする。
教科書	書籍名	よくわかる障害者福祉 第5版
	著者名	小澤温編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	ISBN987-4-623-06632-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP302
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育論
科目責任者	佐藤 慎二
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30000601 水1
教室	大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育・教育現場における「気になる」子ども、発達障害、知的障害のある子どもの思いに寄り添い、支える支援の実践について学ぶ。	
学生の達成目標	1. 「困った子ども」ではなく「困っている子ども」と理解する。 2. 保育における逆転の発想・魔法の言葉の意味と実際について理解する。 3. 授業で取り上げたゲーム等を身につける。	
授業内容	第1回	子ども観・障害観の転換(目標1. 2)
	第2回	何かに「困っている子ども」という理解(目標1. 2)
	第3回	何に「困っている」のかを理解する。(目標1. 2)
	第4回	魔法の言葉・子どもの「いいとこ応援」とは?(目標1. 2)
	第5回	よりよい支援のためのプロセス―関係機関との連携支援―(目標1. 2)
	第6回	手遊びを通した支援の実践(目標1. 2. 3)
	第7回	簡単ゲームを通した支援の実践(目標1. 2. 3)
	第8回	製作活動を通した支援の実践(目標1. 2. 3)
	第9回	対人関係に困難のある子どもの支援(目標1. 2)
	第10回	コミュニケーションに困難のある子どもの支援(目標1. 2)
	第11回	こだわりの強い子どもの支援の実践(目標1. 2)
	第12回	多動性・衝動性のある子どもの支援(目標1. 2)

	第13回	逆転の発想での支援(目標 1. 2)
	第14回	保護者の思いを理解する。(目標 1. 2)
	第15回	関係機関と連携した保護者支援の実際(目標 1. 2)
予習・復習の内容	予習	○毎回提示されるテーマについて事前に調べ学習を行うこと。
	復習	○配付資料の整理・見直しをすること。
	展開	○図書館に備え付けの発達障害に関する書籍を読んだり、ボランティアに行ったりすること。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度及び授業への取り組み態度
	評価の方法	毎回提出を課すレポートの内容(50%)、配付資料の活用状況(50%)を総合的に評価する。
教科書	書籍名	ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ 50
	著者名	佐藤愼二
	出版社	日本文化科学社
	価格	1 2 5 0 円
	ISBN・ISSN	9 7 8 - 4 - 8 2 1 0 - 6 0 8 9 - 4
	書籍名	いつでも・どこでも・楽しめるミニネタ190選
	著者名	佐藤愼二
	出版社	自費出版
	価格	2 0 0 円
	ISBN・ISSN	—
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の心理学 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の心理学 I
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011801 金2 30011802 金3
教室	講義室21・22
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	生涯発達の見点から、乳幼児期の発達の過程やそれぞれの発達段階の特徴を理解する。 またそれらを保育現場と常に関連づけ、保育に活かすことができる。 保育・教育現場で起きていることについて関心を持つ。	
学生の達成目標	1, 子どもの発達や保育実践にかかわる心理学の知識を習得し、子どもへの理解を深める。 2, 乳幼児期を中心としながらつながっていく各発達時期の特徴や流れについて理解する。 3, 保育や発達について自分の意見を持ち発表できるようにする。	
授業内容	第1回	授業の進め方のガイダンス、「発達」について（目標1、2）
	第2回	胎児期から新生児期の発達の特徴と保育（目標1）
	第3回	身体機能・言語発達の基礎、母子関係の形成（目標1、2）
	第4回	乳児期の運動機能の発達（目標1）
	第5回	乳児期の言葉の発達（目標1）
	第6回	乳児期の認知機能の発達（目標1）
	第7回	乳児期における他者との関わり（目標1）
	第8回	乳児期の身辺自立と自己コントロール（目標1）
	第9回	幼児期における集団生活の始まり（目標1）

	第10回	幼児期の遊びと心の発達（目標1,2）
	第11回	幼児期の思考の発達（目標1）
	第12回	幼児期における言葉の獲得と仲間関係の開始（目標1,2,3）
	第13回	児童期における社会性の発達（目標1,2,3）
	第14回	障害についての基礎と障害のある子どもへの発達支援（目標1,2,3）
	第15回	生涯発達から見る初期発達の重要性　まとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	グループ協議に積極的に参加できるよう日頃から乳幼児の発達について関心を持ちそれに対する自分の考えをもつこと。 関連のある報道については理解をしておくこと。
	復習	授業中マークされた文言、項目等については、次時までには理解を確実にしておくこと。 教科書の関連箇所を再読し知識を整理しておくこと。
	展開	授業で得た知識を実習体験と照らし合わせ、理解を確実にすること。
成績評価	評価の基準	乳幼児期の発達等について基礎的な内容が理解できていること。 協議へ積極的に参加し、的確に自分の考えを述べ、さらに深めることができていること。
	評価の方法	協議発表等内容（30%）　提出物（20%）　定期試験（50%）この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	保育者のたまごのための発達心理学
	著者名	新井邦二郎
	出版社	北樹出版
	価格	1900円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7793-0278-7
推薦図書等	書籍名	乳幼児発達心理学
	著者名	繁多進
	出版社	福村出版
	価格	1900円
	ISBN・ISSN	978-4-7793-041409
	書籍名	月刊新聞記事からできた本　「こども」
	著者名	
	出版社	クマノミ出版
	価格	年間購読誌　図書館にあります
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育の心理学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の心理学Ⅱ
科目責任者	小沢 恵美子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30011501 木2 30011502 木3
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育の心理学Ⅰの内容をふまえ、更に人間に関する発達の知見の理解を深める。実習等での自分の経験や、保育現場で起こりうる状況を設定し、その状況に対して保育士として「自分ならどのように考えるか？どのように行動するか？」を考えていく。	
学生の達成目標	1.子どもの心理的な発達や変化と保育実践について理解を深める。 2.生活や経験を通しての学びの過程について理解する。 3.保育、子育てにおける発達支援、援助について学ぶ。	
授業内容	第1回	ガイダンス & 子どもの理解における発達の把握(目標1)
	第2回	発達段階、発達過程に応じた保育(目標1)
	第3回	子ども同士のかかわりと関係作り ―遊びを中心に― (目標1、2)
	第4回	環境としての保育者と子どもの発達(目標1、2)
	第5回	子どもの経験と学び(目標2)
	第6回	学びを支えているやる気(目標2)
	第7回	他者とのかかわりと学び ―いざこざ― (目標2)
	第8回	心理検査について(目標1、3)
	第9回	発達援助における協働(目標3)

	第10回	発達の連続性と就学への支援（目標3）
	第11回	「気になる」子どもへの援助（目標3）
	第12回	保護者理解と子育て支援（1）－何を支援するのか－（目標3）
	第13回	保護者理解と子育て支援（2）－実際の対応－（目標3）
	第14回	保育者の心の健康（目標3）
	第15回	全体のまとめと今後の保育課題（目標1、3）
予習・復習の内容	予習	子どもに関する話題（特に発達、教育）について日頃から関心を持ち、関連する資料に触れておく。 保育の心理学Ⅰに関する知識や理解が不足している部分は、今までの資料などで理解を深めておく。
	復習	毎回の授業の内容をまとめ、わからない言葉や専門用語を調べておく。 授業内容と自分の経験を結びつけて考える。
	展開	子どもの心理的発達に関する資料を独力で読み、知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	子どもの心理的発達に関して、授業で扱った内容が理解できていること。 学びの過程についての基礎的な知識を持ち、それらを自分の経験と関連づけて説明できる。 子育て支援や発達援助に関して自分の考えを持ち、それを適切な表現で他者に伝えることができる。
	評価の方法	平常点（まとめプリントの記入、グループワークへの取り組みなど、授業への参加態度）30%、レポート（2回の予定）25%、期末筆記試験45%の総合評価とする。ただしこの比率は若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	※「推薦図書」は必要に応じて授業内で紹介していく。 グループワークや発表場面では自分の考えや意見を他者にわかりやすく伝えるとともに、他者の意見や考えを尊重することを心がける。 他者の聞く権利を邪魔しない受講態度で参加すること。私語やこの授業に関係ない作業をしている場合、退室してもらう。	

子どもの保健ⅠA

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの保健ⅠA
科目責任者	野村 攝子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011901 土1 30011902 土2
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義中心であるが，課題レポート，研究発表なども適宜取り入れる。	
学生の達成目標	子どもの心身の健康増進を図るにあたり必要な保健活動の意義と子どもの心身の発達，発育及び疾病，保育環境，安全管理について理解する。	
授業内容	第1回	健康の概念と健康指標について
	第2回	生物としてのヒトの成り立ち① 主に生殖について
	第3回	生物としてのヒトの成り立ち② 主にリプロダクティブヘルスについて
	第4回	母と子の健康に関わる保健活動の意義と目的
	第5回	子どもの身体発育と保健
	第6回	子どもの運動機能の発達と保健① 主に粗大運動
	第7回	子どもの運動機能の発達と保健② 主に微細運動
	第8回	子どもの生理機能の発達と保健
	第9回	子どもの健康状態の把握と主な症状の特徴及び適切な対応について
	第10回	子どもの主な疾病の特徴① 主に感染症
	第11回	子どもの主な疾病の特徴② 主に先天性疾患
	第12回	子どもの主な疾病の特徴③ 主に慢性疾患

	第13回	疾病の予防—免疫と予防接種について
	第14回	子どもの事故の特徴，発達との関連
	第15回	子どもの栄養
予習・復習の内容	予習	シラバスを参考に，次回の授業内容についてテキストを読み，理解しておくこと。
	復習	授業の要点をノートなどにまとめる。 次の授業までに完全に理解する。
	展開	その他 常日頃，新聞などを見て子どもの保健についての新しい問題などに留意する。
成績評価	評価の基準	テストの評点，及び課題レポートの評点により総合評価する。
	評価の方法	原則テストの評点が100%だが，課題レポートがある場合は，テスト95%，課題レポート5%とする。
教科書	書籍名	新しい時代の子どもの保健
	著者名	衛藤隆/編集 近藤洋子/編集 杉田克生/編集 村田光範/ 編集責任
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	978-4-88924-236-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの保健・健康を学ぶ上で，基本的かつ重要な内容で時間数に対して，内容が非常に多くなっています。 復習を充分に行い，毎回の授業内容を理解して下さい。	

子どもの保健 I B

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの保健 I B
科目責任者	野村 攝子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012001 木4 30012002 木5
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義中心であるが、課題レポート、研究発表なども適宜取り入れる。子どもの保健 I Aの内容の修得後が望ましい。	
学生の達成目標	子どもの保健 I Aの内容をふまえた上で、さらなる理解と子どもの障害、特別支援教育、医療的ケアについて理解する。	
授業内容	第1回	子どもの精神機能の発達と保健① 主に知能について
	第2回	子どもの精神機能の発達と保健② 主に情緒について
	第3回	子どもの心の健康とその課題① 主に児童虐待について
	第4回	子どもの心の健康とその課題② 主に児童虐待防止について
	第5回	子どもの心の健康とその課題③ 主に心身症について
	第6回	子どもの生活環境と精神保健について
	第7回	発達障害①(重度発達障害)
	第8回	発達障害②(軽度発達障害)
	第9回	保育現場における衛生管理
	第10回	保育現場における事故防止及び安全対策・危機管理・必要な救急処置
	第11回	虐待
	第12回	母子保健対策と保育

	第13回	家庭・専門機関・地域との連携
	第14回	職員間の連携と組織的取組
	第15回	電子メディア
予習・復習の内容	予習	シラバスを参考に、次回の授業内容についてテキストを読み、理解しておくこと。
	復習	授業の要点をノートなどにまとめる。 次の授業までに完全に理解する。
	展開	その他 常日頃、新聞などを見て子どもの保健についての新しい問題などに留意する。
成績評価	評価の基準	テストの評点、及び課題レポートの評点により総合評価する。
	評価の方法	原則テストの評点が100%だが、課題レポートがある場合は、テスト95%、課題レポート5%とする。
教科書	書籍名	新しい時代の子どもの保健
	著者名	衛藤隆/編集 近藤洋子/編集 杉田克生/編集 村田光範/ 編集責任
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	978-4-88924-236-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの保健ⅠAとは別の科目ですが、ⅠBを履修するためにはⅠAの内容の十分な理解習得が必須となります。 ⅠBの履修にあたり、必要に応じてⅠAの内容の再確認をして下さい。	

子どもの保健Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH102
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの保健Ⅱ
科目責任者	栗山 敦子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30012101 金3 30012102 金4
教室	講義室15
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義および実技演習	
学生の達成目標	1.保育現場，障害児指導現場などにおいて，保健衛生についての実践ができるように，具体的な知識や技能を習得する。 2.小児の健康状態を把握するための観察のポイントと方法，小児の事故と安全，予防と健康増進，応急処置などの方法について，実習を通して学ぶ。	
授業内容	第1回	小児の身体的特徴，乳児の抱き方，寝かせ方，衣服の着脱，母子健康手帳（目標1）
	第2回	身体発育の測定と評価およびその後の管理，肥満とやせ（目標1,2）
	第3回	発達の判定（目標1,2）
	第4回	子供の栄養と食事（哺乳，離乳，食に関する諸問題）（目標1,2）
	第5回	排泄（目標1,2）
	第6回	睡眠（目標2）
	第7回	衣服、健康増進、遊び（目標1,2）
	第8回	衛生管理（目標2）
	第9回	応急手当（目標2）
	第10回	応急手当（目標2）
	第11回	病気と異常（症状と対応）（目標1,2）

	第12回	病気と異常（主な病気と対応）（目標2）
	第13回	くすり 感染症（目標2）
	第14回	感染症（目標2）
	第15回	1～14回の問題の演習（目標1,2）
予習・復習の内容	予習	教科書を読んでくる。
	復習	各回の講義ノートのとまとめ
	展開	保育実習中で保健に関することでの「気づき」を記録する。
成績評価	評価の基準	期末試験（60点以上）で評価する。
	評価の方法	筆記試験100%
教科書	書籍名	保育保健の基礎知識
	著者名	巷野悟郎監修 日本保育園保健協議会編集
	出版社	小児医事出版社
	価格	2,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-88924-209-6 C3047
推薦図書等	書籍名	子育て支援における保健相談マニュアル 改訂版
	著者名	田中哲郎 監修
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	3,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-88924-225-6
	書籍名	イラストによるおかあさんへの病気の説明と小児の診療 イラスト編
	著者名	大塚親哉 編集
	出版社	南山堂
	価格	10,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-525-28353-7
	書籍名	これからわかる！子どもの保健演習ノート
	著者名	榊原洋一監修 小林美由紀執筆
	出版社	診断と治療社
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7878-1883-6 C3047
参考URL		
備考		

子どもの食と栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH302
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの食と栄養
科目責任者	三幣 周子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30012301 (前期)水4 (後期)水2 30012302 (前期)水3 (後期)水3
教室	調理実習室, 中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻: 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	教科書を用いた講義や演習とデモンストレーションを含む調理実習を行う。(グループでの活動が多くなる。)	
学生の達成目標	1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について調理実習や演習を通して深く理解する。 2. 現代の子どもを取り巻く環境について現状と課題を理解し,保育者や幼児教育に携わる者としてどう対処していくかを考える。 3. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。	
授業内容	第1回	オリエンテーション, 世界における子どもの栄養問題(目標2)
	第2回	子どもの栄養法の歴史(目標1,2)
	第3回	胎児期の食生活 (目標1,2,3)
	第4回	調理の基本・調乳の心得 (目標1,2,3)
	第5回	調乳法・無菌操作法 (目標1,2,3)
	第6回	乳児期の発育・栄養状態 (目標1,2,3)
	第7回	消化器系図・消化器官の発達 (目標1,2,3)
	第8回	栄養素の種類と機能 (目標1,2,3)
	第9回	食事摂取基準 (目標2,3)
	第10回	離乳の意識と食生活 (目標1,2,3)

	第11回	離乳食5, 6ヶ月～9, 11ヶ月（目標1, 2）
	第12回	離乳食をつくる上での要点（目標1, 2, 3）
	第13回	離乳食完了12ヶ月～16ヶ月（目標1, 2, 3）
	第14回	子どもの食行動（目標1, 2, 3）
	第15回	離乳食・調理の原則・まとめ（目標1, 2, 3）
	第16回	食育の推進（目標1, 2, 3）
	第17回	幼児期の栄養（目標1, 2, 3）
	第18回	幼児期からの食育の環境（目標1, 2, 3）
	第19回	幼児期の調理上の留意点（目標1, 2, 3）
	第20回	食育・伝統食・行事食・含の伝達（目標1, 2, 3）
	第21回	食品に関する基礎知識（目標1, 2, 3）
	第22回	間食の意識（目標1, 2, 3）
	第23回	間食の実践（目標1, 2, 3）
	第24回	障害のある子どもの食生活（目標1, 2, 3）
	第25回	幼児期・学童期発達と食生活（目標1, 2, 3）
	第26回	子どもの気になる食行動（目標1, 2, 3）
	第27回	食物アレルギーの対応と配慮（目標1, 2, 3）
	第28回	食生活の基礎・食事バランスガイド（目標1, 2, 3）
	第29回	児童施設での食事と栄養・子どもの疾患と栄養（目標1, 2, 3）
	第30回	保育者としての対応例 子どもの食まとめ（目標1, 2, 3）
予習・復習の内容	予習	前期・後期の配布された内容について、授業の最後にテーマをもうけて伝達をするので、その内容の発表をする。
	復習	発表内容に基づいて自分の考えも入れてレポートを書き、提出する。
	展開	授業の中の特徴を理解し、学生自身興味の持てる内容に課題を設けて調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	レポートの未提出の学生は成績評価しない。 調理実習の際には身支度が整っていない学生は減点の対象。
	評価の方法	受講態度（忘れ物）20% 課題取り組み状況（レポート、口頭発表）10% 期末筆記試験70%
教科書	書籍名	子どもの食と栄養
	著者名	林 淳三 編 上原 誓志夫/大和田 浩子/倉賀野 妙子/三幣 周子他共著
	出版社	建帛社
	価格	2,520円
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3283-5
推薦図書等		

参考URL

備考

※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明。
※「推薦図書」は授業内で紹介する。

家庭支援論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH402
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家庭支援論
科目責任者	小田 玲子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30010801 水3 30010802 水2
教室	講義室6
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子育て家庭の支援者として、多様な個々の家庭をよく観て、抱える複合的な問題に気づいて共に考えることができ、実際に、共に公的・民間による支援の方策を実行する力を獲得する。	
学生の達成目標	1. 「家庭」と「支援」を複合的に見る力をつける。「家庭」は構成員それぞれの「価値観」で成り立つことを知り、「支援」はどのような法的原理または制度的枠組みによって決定されるかを具体例に即して理解できること。 2. 子育て家庭の支援者として、常によく観察して、探り、自分なりの支援の方法を考え出すことができる。自分にしかできない“ハート”と支援方法を体得する。	
授業内容	第1回	授業の目標と方法の説明、マイプロフィールの作成（目標1）
	第2回	家族とは何かー「ヘルシー・ファミリー」の視点（目標1）
	第3回	健康とは何か、価値観とは何かー「ヘルシー・ファミリー」の視点（目標1）
	第4回	家族の変化ーメディア社会における家族関係（目標1）
	第5回	家族の変化ー制度・法律（目標1）
	第6回	家族問題の所在ー「問題」とは何か（目標2）
	第7回	家族問題の所在ー見えない問題と分析枠組1（目標2）
	第8回	家族問題の所在ー見えない問題と分析枠組2（目標2）

	第9回	家族問題の対策－公的支援に関わる制度(組織)と人的資源：諸外国の事例（目標１）
	第10回	家族問題の対策－公的支援に関わる制度(組織)と人的資源：支援活動の事例１（目標２）
	第11回	家族問題の対策－公的支援に関わる制度(組織)と人的資源：支援活動の事例２（目標２）
	第12回	家族問題の対策－民間の支援に関わる制度(組織)と人的資源：諸外国の事例（目標１）
	第13回	家族問題の対策－民間の支援に関わる制度(組織)と人的資源：支援活動の事例１（目標２）
	第14回	家族問題の対策－民間の支援に関わる制度(組織)と人的資源：支援活動の事例２（目標２）
	第15回	まとめ「私には何ができるのか」（目標２）
予習・復習の内容	予習	授業で解説した内容について、関連する資料を収集する。
	復習	仲間との議論を経て理解を深める。
	展開	学んだ内容に関連したことがらについて常にアンテナをはり、観察し、自分の関心事として考えを創っていくことができる。
成績評価	評価の基準	毎回の仲間との議論と内容把握メモ（小レポート）を「どれだけ考えたか」を示す評価基準とし、これを重視する。
	評価の方法	毎回の内容把握メモ（小レポート）を80％、期末試験を20％とし、合計60％以上を合格とする。
教科書	随時プリント（資料）を配布	
	書籍名	家庭支援実践ポートフォリオ（ノート）
	著者名	小田玲子
	出版社	アカデメイア・プレス
	価格	300円
	ISBN・ISSN	－
推薦図書等		
参考URL		
備考	「推薦図書」は随時案内します。	

発達障害心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達障害心理学
科目責任者	佐藤 慎二
担当教員	漆澤 恭子 相磯 友子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30011601 金4 30011602 金3
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	「気になる」子ども及び知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、言語障害、発達障害等のある子どもの心理学的な側面の理解と支援の実践について学ぶ。	
学生の達成目標	1. 各障害の特性と配慮の基本を理解する。 2. 保育現場における実践的な支援の基本を理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス・知的障害の子どもの基礎的理解と支援(目標1)
	第2回	“気になる子”の保育(目標1. 2)
	第3回	“気になる保護者”の理解と支援(目標1. 2)
	第4回	自閉的傾向のある子どもの理解と支援(目標1. 2)
	第5回	外国人の子どもの基礎的理解と支援(目標1. 2)
	第6回	ADHDの基礎的理解と支援(目標1. 2)
	第7回	学習障害 (LD) の基礎的理解と支援(目標1. 2)
	第8回	アスペルガー症候群・高機能自閉症等の基礎的理解と支援(目標1. 2)

	第9回	事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援（年齢別保育の中で）（目標 1. 2）
	第10回	事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援（異年齢保育の中で）（目標 1. 2）
	第11回	聴覚障害・視覚障害の基礎的理解と支援(目標 1. 2)
	第12回	肢体不自由・病弱の基礎的理解と支援(目標 1. 2)
	第13回	言語障害・情緒障害・てんかん・ダウン症の基礎的理解と支援(目標 1. 2)
	第14回	保育・教育現場での支援的対応の実例（ユニバーサルデザインの視点から）（目標 1. 2）
	第15回	保育・教育現場での支援的対応の実例（個別的な配慮の視点から）と全体のまとめ(目標 1. 2)
予習・復習の内容	予習	発達障害に関心もち、図書館の雑誌・書籍に目を通すこと。
	復習	授業の要点をまとめておくこと。
	展開	ボランティア先で会おう子どもの様子や実際の関わりの中で実際に学ぶこと。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度
	評価の方法	レポート(50%)、授業への参加態度(50%)を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業の中で、随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

小児栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH202
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	小児栄養
科目責任者	台蔵 彩子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30002201 水3
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	小児の健康や健やかな成長、発育に必要な栄養素について、講義を中心にすすめていく。また、乳幼児期から老年期までの身体的・栄養学的特徴とその重要性について理解を深めるとともに、自らの食生活の問題・改善方法なども併せて学んでいく。	
学生の達成目標	1.人間が生きる上で必要な食について、栄養と栄養素から理解し、自分の体がどのような状態にあるのか理解する。 2.乳幼児期から老年期までの食に関する知識を、栄養と栄養素を中心に理解を深める。 3.子どもたちを取り巻く食環境の影響について理解を深める。	
授業内容	第1回	授業ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義(目標1)
	第2回	栄養に関する基礎知識(1)栄養学の意義(目標1・2)
	第3回	栄養に関する基礎知識(2)食生活と健康と疾病(目標1・2)
	第4回	栄養に関する基礎知識(3)身体の構成と食欲と食事(目標1・2)
	第5回	栄養に関する基礎知識(4)三大栄養素(目標1)
	第6回	栄養に関する基礎知識(5)ビタミン・ミネラル・水(目標1)
	第7回	子どもの発育・発達と食生活(1)栄養状態による発育・発達(目標2)
	第8回	子どもの発育・発達と食生活(2)献立作成と調理の基本(目標2)
	第9回	子どもの発育・発達と食生活(3)胎児期・乳児期の栄養(目標2)
	第10回	子どもの発育・発達と食生活(4)幼児期・学童期の栄養(目標2)

	第11回	食育の基本と内容(1)食育基本法と食育の内容(目標3)
	第12回	食育の基本と内容(2)食育の環境と実際(目標3)
	第13回	家庭や児童福祉士施設における食事と栄養(目標2・3)
	第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(目標2・3)
	第15回	小児に対する栄養と食事のまとめ(目標1・2・3)
予習・復習の内容	予習	小児保健学などで学んだ、子どもの身体的・精神的成長について理解を深めておくこと。
	復習	講義でおこなった内容を、教科書・ノートを使用しまとめておくこと。
	展開	興味のある内容については、授業内で回覧している資料や図書館等にある関連図書を活用し理解を深める。
成績評価	評価の基準	ヒトが生きていくうえで必要な栄養素やその働きについて理解できていること。 子ども発達に応じた食習慣や食に関する知識を理解したうえで、自らの考えをまとめ説明できる事。
	評価の方法	確認テスト40% レポート60%
教科書	書籍名	最新子どもの食と栄養－食生活の基礎を築くために－
	著者名	編著：飯塚美和子，桜井幸子，瀬尾弘子，曾根眞理枝 著：五関正江，高橋恭子他
	出版社	学建書院
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7624-4841-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	「推薦図書」は授業内で紹介する。	

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育課程論
科目責任者	浅川 蘭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30011201 木2 30011202 木1
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について習得する。保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に学ぶとともに、計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえる。		
学生の達成目標	1.教育課程・保育課程の概要を理解する 2.教育課程・保育課程編成の基となる乳幼児の発達や園生活及び学びの特色を理解する 3.教育課程・保育課程から指導計画の作成へのプロセスを習得する		
授業内容	第1回	オリエンテーション	保育に計画は必要か（目標1）
	第2回	子育てを取り巻く社会の変化と保育	（目標1）
	第3回	みなさんの描く子どもたちの未来	（目標1）
	第4回	幼稚園・保育所の生活と幼児理解	（目標2）
	第5回	子どもたちの発達の見通しと保障①	（目標2）
	第6回	子どもたちの発達の見通しと保障②	（目標2）
	第7回	教育課程・保育課程は何のために編成するのか	（目標3）
	第8回	教育課程・保育課程の編成のポイントと指導計画との関係	（目標3）
	第9回	保育所の計画と実践	（目標2.3）

	第10回	幼稚園の計画と実践（目標2.3）
	第11回	認定こども園の計画と実践（目標2.3）
	第12回	指導計画の作成①（目標3）
	第13回	指導計画の作成②（目標3）
	第14回	指導計画の実作成③（目標3）
	第15回	まとめ 教育課程・指導計画のP D C Aサイクル（目標1.2.3）
予習・復習の内容	予習	事前にテキストの該当箇所を読み、必要な予備知識や事例に対するイメージを持つ。
	復習	授業で配布されたプリントを整理して、重要な内容について確認する。
	展開	保育実習において実際の保育に触れ、学んだことを実感し理解を深める。実習終了後、保育の実際場面を想定し、必要感を持って指導案を作成する。
成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる。 授業の内容を理解することができる。 授業に積極的に参加している。
	評価の方法	試験60％ レポート20％ 授業に対する意欲・態度・提出物20％
教科書	書籍名	幼児教育・保育課程論
	著者名	戸田雅美 佐伯一弥
	出版社	建帛社
	価格	1,890円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7679-3277-4
推薦図書等	書籍名	保育をデザインする
	著者名	戸田雅美/著
	出版社	フレーベル館
	価格	1,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-80293-9
参考URL		
備考		

保育内容総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容総論
科目責任者	大木 みわ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012601 月3 30012602 月2
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	これまで学習した5領域からなる保育内容を、総合的に捉える視点を養う。	
学生の達成目標	1.子どもたちを取り巻く現在の状況を踏まえた上で、未来を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする。 2.自分たちの考えをわかりやすく発表する。 3.教育課程を編成し、指導計画等を作成する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価についての理解
	第2回	これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする①（目標1）
	第3回	これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする②（目標1）
	第4回	これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする③（目標1）
	第5回	これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする④（目標1）
	第6回	中間発表①（目標2）
	第7回	中間発表②（目標2）
	第8回	デザインした保育を教育課程・指導計画にあらわす①（目標3）
	第9回	デザインした保育を教育課程・指導計画にあらわす②（目標3）

	第10回	デザインした保育を教育課程・指導計画にあらわす③（目標3）
	第11回	デザインした保育を教育課程・指導計画にあらわす④（目標3）
	第12回	幼稚園幼児指導要録の作成にむけて（目標3）
	第13回	幼稚園幼児指導要録の作成（目標3）
	第14回	発表（目標2）
	第15回	自分達で作成したものを振り返り、総括する（目標1～3）
予習・復習の内容	予習	保育について日常から関心を持ち、新聞報道に目を通したり、図書を読んだりしておく。保育実習、教育実習での学びを整理し、課題を明確にしておく。
	復習	発表や意見交換を振り返り、自分の考えを明確にする。
	展開	これまでの保育に関わる授業の中で学んだことを確認し、総合的な理解を深める。保育者としての資質の向上に努める。
成績評価	評価の基準	・自分なりの理想の保育をデザインすることができる ・グループのメンバーと協力して、自分たちの考えをわかりやすく相手に伝えることができる ・デザインした保育を教育課程・指導計画に著すことができる
	評価の方法	授業への取り組みの様子30% 発表の内容と方法30% 作成された課題40%
教科書	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81245-7
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6
参考URL		
備考		

保育内容演習（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（健康）
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012701 火2 30012702 火1
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・子どもの発達を健康の観点から捉え、子どもの健やかな成長について学ぶ。 ・保育内容の知識や技術・実践力を習得し、子ども理解を深める。	
学生の達成目標	1. 子どもの発達を健康の観点から捉える。 2. 幼児の生活スタイルの現状と問題点から生活リズムの向上について学ぶ。 3. 子ども理解を深めながら、保育内容の知識や技術、実践力を習得する。	
授業内容	第1回	領域「健康」のめざすもの（目標1）
	第2回	幼児の健康（目標1）
	第3回	幼児の発達理解（目標1）
	第4回	幼児のあそびの発達と健康（目標1）
	第5回	幼児の体格・運動能力の現状と問題（目標1）
	第6回	幼児の生活スタイル（目標2）
	第7回	幼児の健康と栄養（目標2）
	第8回	幼児の体格・運動能力測定法と評価（目標2）
	第9回	幼児の安全管理と安全教育（目標3）
	第10回	応急処置法（目標3）
	第11回	運動体験を広げる体育的行事（目標3）

	第12回	小グループによる保育計画と指導案の作成（理論）（目標3）
	第13回	小グループによる保育計画と指導案の作成・展開・振り返り（目標3）
	第14回	保育評価について（目標3）
	第15回	子どもの健康についてのまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや内容について事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	実際に保育現場等で子どもの発達やあそびを観察し、子ども理解を深めていく。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	発表（50%）・レポート（30%）・学習姿勢（20%）
教科書	書籍名	保育内容・領域「健康」
	著者名	清水将之・相楽真樹子編
	出版社	わかば社
	価格	1,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-907270-14-8
推薦図書等	書籍名	保育内容「健康」
	著者名	民秋言・穂丸武臣編
	出版社	北小路書房
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7628-2643-6
参考URL		
備考		

保育内容演習（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO202
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（人間関係）
科目責任者	大木 みわ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012801 水2 30012802 水1
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	養護と教育に関わる保育の内容を、それぞれに関連性を持ちながら、総合的に展開していくための知識、技術、判断力を習得する。子どもの発達を「人間関係」という観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。	
学生の達成目標	1.領域「人間関係」においてはぐくむものを理解する 2.人とかかわりを捉える視点を習得する 3.人とかかわる力の発達について理解する	
授業内容	第1回	遊びから考える保育内容①（目標1.2）
	第2回	遊びから考える保育内容②（目標1.2）
	第3回	領域「人間関係」とは（目標1）
	第4回	人とかかわる力の捉え方（目標2）
	第5回	乳児期の発達の姿（目標3）
	第6回	幼児期の発達の姿（目標3）
	第7回	子どもを理解するために①（目標2.3）
	第8回	子どもを理解するために②（目標2.3）
	第9回	保育の中での子どもの体験と学び①（目標1.2）
	第10回	保育の中での子どもの体験と学び②（目標1.2）

	第11回	指導案の作成と展開①（目標1.2.3）
	第12回	指導案の作成と展開②（目標1.2.3）
	第13回	指導案の作成と展開③（目標1.2.3）
	第14回	指導案の作成と展開④（目標1.2.3）
	第15回	指導案の作成と展開⑤（目標1.2.3）
予習・復習の内容	予習	子どもについて日常から関心を持ち、新聞報道や図書に触れる。保育所保育指針、幼稚園教育要領に目を通しておく。
	復習	授業で配布されたプリントを整理して、重要な内容について確認する。
	展開	実際の保育に触れ、学んだことを実感し理解を深める。
成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる 授業の内容を理解することができる 積極的に授業に参加している
	評価の方法	試験40% レポート30% 授業に対する意欲・態度・提出物30%
教科書	書籍名	幼稚園教育要領解説書
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81245-7
	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	190円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6
推薦図書等	書籍名	シードブック 保育内容人間関係
	著者名	榎沢良彦 入江礼子
	出版社	建帛社
	価格	1,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3252-1
参考URL		
備考		

保育内容演習（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（環境）
科目責任者	野口 初江
担当教員	高木 素子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30012901 月2 30012902 月3
教室	講義室1,調理室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 乳幼児期における環境との触れ合いについて理解し、さまざまな環境の意義や役割を
考えていく。

学生の実成目標 (野口初江)
1.領域「環境」の対象を知り、領域「環境」の内容を理解する。
2.環境とかかわる力とは何かを理解する。
3.子どもの環境とかかわり方を具体的に考え、保育者の援助を考えていくこと
ができる。
(高木素子)
季節ごとの植物の栽培等を体験し、園芸を用いた活動の広がりを知る。

授業内容	第1回	ガイダンス 保育の基本と保育内容（目標1）
	第2回	領域「環境」のねらい及び内容（目標1）
	第3回	植物をとおしての活動① ジャガイモの袋栽培（植え付け）（目 標：担当高木）
	第4回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その1．自然物や自然事象（目標1,2）
	第5回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その2．動植物など生き物（目標1,2）
	第6回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その3．遊具、道具など（目標1,2）

	第7回	植物をとおしての活動② 高齢者，障害者と楽しむ園芸について 芝坊や作り（目標：担当高木）
	第8回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その４．生活の中で出会うもの 文字，記号（目標1,2）
	第9回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その５．生活の中で出会うもの 数，図形，行事（目標1,2）
	第10回	身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助 その１．保育者の役割（目標３）
	第11回	身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助 その２．環境構成（目標３）
	第12回	身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助 その３．保育の実際（目標３）
	第13回	身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助 その４．指導上の留意点（目標３）
	第14回	まとめ 領域「環境」と保育者として学ぶこと（目標３）
	第15回	植物をとおしての活動③ ジャガイモの袋栽培（収穫）（目標：担当高木）
予習・復習の内容	予習	身近な環境に関心を持ち，観察したり集めたり記録したりしておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出する。 植物の育ちの経過を記録する。
	展開	領域「環境」について知識理解を深め，進んで教材研究することができる。
成績評価	評価の基準	平常点（小レポート），課題の提出，小テストの成績を総合して自らの考えを的確にまとめているか評価する。
	評価の方法	授業態度30％ 課題提出40％ 小テスト30％
教科書	書籍名	新保育シリーズ 保育内容 環境
	著者名	柴崎正行・赤石元子 編著
	出版社	光生館
	価格	1,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-332-70135-4
推薦図書等	書籍名	体験する 調べる 考える 領域「環境」
	著者名	田宮緑
	出版社	萌文書林
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89347-158-1
参考URL		
備考		
野口12回，高木3回(植物をとおしての活動担当)。 授業時，課題提出，レポート提出，持参するものを指示するので，その都度準備すること。 植物の活動は汚れてもよい服装で参加すること。		

保育内容演習（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SC0203
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（言葉）
科目責任者	栗原 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30013001 金2,3 30013002 金2,3
教室	Mスタジオ
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	言葉の獲得に関する領域「言葉」の意義とねらい及び内容を理解する。そして子どもが言葉を獲得していく道筋と、保育者の援助のあり方について考えていく。また言葉の領域に関連の深い素話について体験的に理解していく。	
学生の達成目標	1. 子どもの言葉の発達や特徴及び言葉を育てる保育者の援助について学ぶ。 2. 領域「言葉」の意義と内容を理解する。 3. 発達障害児の言葉のつまずきや援助の技法を学ぶ。	
授業内容	第1回	領域「言葉」を学ぶオリエンテーション（目標1）
	第2回	ノンバーバルコミュニケーション（目標1）
	第3回	言葉の育つ道筋（目標1・2）
	第4回	ことばの前のことば（0歳～1歳）（目標1・2・3）
	第5回	言葉の育ち道筋（1歳～2歳）（目標1・2・3）
	第6回	言葉の育ち道筋（2歳～3歳）（目標1・2・3）
	第7回	言葉の育つ道筋（3歳～4歳）（目標1・2・3）
	第8回	言葉の育つ道筋（4歳～5歳）（目標1・2・3）
	第9回	言葉を育てる教材（絵本）（目標1・2）
	第10回	言葉を育てる教材（紙芝居）（目標1・2）

	第11回	言葉を育てる教材（言葉あそび）（目標1・2）
	第12回	素話（テーマの探究）（目標1・2・3）
	第13回	素話（展開の技法）（目標1・2・3）
	第14回	素話（発表）（目標1・2・3）
	第15回	言葉のつまづきを援助する技法（目標1・2・3）
予習・復習の内容	予習	ことばの発達について体系的な学習を積み重ね、授業で示す語句の意味や内容を理解しておく。
	復習	授業での内容を省察的に振り返り、自己の実習体験等と重ね合わせて理解が深まるように記録しておく。
	展開	授業で学習したことを、グループ学習によって拡大理解・理解の定着を図り、発表し合うことで学習内容が更に深まるようにする。保育の多様性と普遍性を言葉を通して理解できるようにする。
成績評価	評価の基準	言葉のなりたちや発達についての理解と援助技術を習得できている。学習内容の定着が図られている。
	評価の方法	感想などの提出物（40%）、授業態度（40%）、発表内容（20%） （ただしこの比率は若干変更する可能性もある）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	※「推薦図書」は授業の中で伝える。	

保育内容演習（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SC0302
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（表現）
科目責任者	黒田 静江
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013101 金3 30013102 金1
教室	音楽室, Eスタジオ
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	領域「表現」のねらいや保育の内容について理解し、乳幼児の表現のとりえ方や音楽的な発達について学ぶ。いくつかの表現課題を行いながら、「遊びを通して行う保育」について考える。また自己の感性に気づき、仲間と協力するなかで、認められることで育つ意欲や自己肯定感について体験的に学ぶ。	
学生の達成目標	1.領域「表現」のとりえ方やねらい・内容などを理解する。 2.乳幼児の発達を理解し、仲間とともに楽しめる表現活動について学ぶ。 3.お互いの意見を尊重しながら積極的に考えあうことで、表現をより豊かなものへと発展させる。	
授業内容	第1回	授業概要・目標・方針など・「表現」とは何か（目標１）
	第2回	領域「表現」のねらい（目標１）
	第3回	領域「表現」の内容（目標１）
	第4回	乳幼児の発達と音楽や動きにおける表現領域の発達（目標２）
	第5回	総合的指導について考える（目標２）
	第6回	音楽と動きによるさまざまな表現活動（目標２）
	第7回	子どもの主体性を育むあそび歌（目標１・２）
	第8回	子どもの発達と遊び（目標２）
	第9回	わらべうた（１）３歳未満児（目標１・２）

	第10回	わらべうた（２）幼児（目標１・２）
	第11回	素材と出あう（１）自然との関わり（目標１・２）
	第12回	素材と出あう（２）友だちとの関わり（目標１・３）
	第13回	音あそび（目標１・３）
	第14回	楽器あそびと合奏指導（目標２・３）
	第15回	保育者の役割・まとめ（目標１）
予習・復習の内容	予習	実践力を養う課題を出すので、グループで話し合ったり事前準備をしっかりと行う。
	復習	学習したことや振り返りをノートにまとめる。授業で取り上げた表現活動についてよく復習し、保育現場で役立てられるように準備する。
	展開	身の回りの環境を子どもの視点でとらえたり、子どものいろいろな遊びを調べる。
成績評価	評価の基準	グループ課題発表・レポート課題で評価する。また発表活動後の感想レポートでは、文章表現から課題に対する取り組み方や、授業に対する理解度をみる。
	評価の方法	グループ発表（40％）レポート（40％）授業への意欲（20％）
教科書	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省編
	出版社	フレーベル館
	価格	205円
	ISBN・ISSN	978457781246
	書籍名	保育用語辞典
	著者名	森上史朗・柏女霊峰編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,300 円
	ISBN・ISSN	9784623065448
	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省編
	出版社	フレーベル館
	価格	205円
	ISBN・ISSN	9784577812457
推薦図書等	書籍名	感性をひらく表現遊び
	著者名	岡本 弘子 著
	出版社	北大路書房
	価格	2,300円＋税

ISBN・ISSN	10-4762827916
書籍名	事例で学ぶ保育内容 表現
著者名	浜口 順子 著
出版社	萌文書林
価格	2,000円＋税
ISBN・ISSN	10-4893471007

参考URL

備考

動きの授業の際には、動ける服装で臨み、上靴を用意する。
 子どもの新鮮な感覚をイメージしながら、積極的に授業に参加してほしい。

乳児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SC0102
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	乳児保育
科目責任者	鈴木 のり子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30012401 (前期) 木4 (後期) 木3 30012402 (前期) 木3 (後期) 木4
教室	保育技術演習室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	乳児が基本的欲求を満たし、情緒の安定を基盤に主体的に育っていくための生活・援助のあり方について学び、専門職としての知識と技術の基本を習得する。		
学生の達成目標	1. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び現状・課題について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を学び、健やかな成長を支える生活と遊びを理解するとともに、演習により専門的技術を習得する。 3. 乳児保育の計画、保育内容、援助のあり方を学ぶとともに、保護者や関係機関との連携について学び、保育士の専門性を理解する。		
授業内容	第1回	オリエンテーション 乳児保育の意義 (目標1)	
	第2回	保育の基本・乳児保育の歩み (目標1)	
	第3回	生命の誕生 (目標2)	
	第4回	乳児保育の1日(保育所・乳児院・家庭的保育) (目標1)	
	第5回	乳児の発達と保育内容(6ヵ月未満) (目標2・3)	
	第6回	乳児の発達と保育内容(6ヵ月～1歳3ヵ月未満) (目標2・3)	
	第7回	乳児の発達と保育内容(1歳3ヵ月～2歳未満) (目標2・3)	
	第8回	乳児の発達と保育内容(2歳児) (目標2・3)	
	第9回	演習 基本的生活習慣の獲得と保育(授乳・食事について) (目標2,3)	

	第10回	演習 基本的生活習慣の獲得と保育（排泄・睡眠について）（目標2,3）
	第11回	身体機能の発達と保育（からだ）（目標2）
	第12回	身体機能の発達と保育（手）（目標2）
	第13回	対人関係の発達と保育（ことば）（目標2）
	第14回	対人関係の発達と保育（人との関わり）（目標2,3）
	第15回	乳児保育の基本的理解の確認（目標1,2）
	第16回	乳児の健康と安全（目標2,3）
	第17回	生活と遊びの環境（目標2,3）
	第18回	演習 遊びと環境(手作り遊具)（目標3）
	第19回	演習 遊びと環境(手遊び・ふれあい遊び)（目標3）
	第20回	演習 遊びと環境(手作り遊具)（目標3）
	第21回	演習 遊びと環境(絵本・紙芝居)（目標3）
	第22回	保育者間の連携（目標3）
	第23回	保育所と家庭・地域との連携（目標3）
	第24回	保育者のあり方（保育の専門性）（目標3）
	第25回	乳児保育の計画と記録(保育過程・指導計画)（目標3）
	第26回	日課（デイリープログラム）（目標3）
	第27回	乳児保育の計画と記録(記録と評価)（目標3）
	第28回	演習 保育の現場を見て学んだこと（グループ別研修）（目標2,3）
	第29回	乳児保育の今後の課題（目標1）
	第30回	乳児保育を支える保育者としての自覚と責任（目標3）
予習・復習の内容	予習	教科書に目を通し、あらかじめ内容を理解しておく。 関連する内容についての図書や保育雑誌を読む。
	復習	その日の授業を振り返り、要旨を整理しておく。 わからなかったこと、疑問点は、まとめておく。 レポート課題は期限を守り提出する。
	展開	日ごろから保育に関することに関心を持ち、図書や保育雑誌を読んだり、調べ、知識や理解を深める。 乳幼児に接する機会（近隣、親戚、ボランティア活動等）を意識的に持つようにし、気が付いたこと、疑問に思ったことをノートに書きまとめておく。
成績評価	評価の基準	到達目標にあげた内容が理解でき、また、基本的な知識と技術を習得することを総合的に評価し、合格基準とする。
	評価の方法	平常点（授業内でのレポート提出状況ならびにその内容）20%、期末試験を80%とする。 授業態度が悪い場合は減点する場合がある。
教科書		
	書籍名	乳児の生活と保育
	著者名	松本園子編著
	出版社	ななみ書房
	価格	2,100円+税
	ISBN・ISSN	978-4-903355-25-2

推薦図書等

参考URL

備考

障害児保育Ⅰ（障害児の保育・教育法）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児保育Ⅰ（障害児の保育・教育法）
科目責任者	堀 彰人
担当教員	中坪 晃一 漆澤 恭子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012501 火1 30012502 火4
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	障害の有無に関わらず、どの子ども個性ともてる力の発揮をめざす子ども主体の保育を進めるためには、どのような支援が必要か、実践的に考える。
学生の達成目標	1.指導案や個別支援計画などを作成、実際に模擬授業をすることにより、障害のある子どもの保育・教育を実践的に理解する。 2.様々な障害について理解し、子どもの理解や支援の方法、望ましい環境構成等について学ぶ。 3.障害のある子どもの教育方法上の特色を理解し、望ましい教育方法について学び、考える。
授業内容	第1回 障害のある子どもの理解と支援（目標1,2） ・肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等 ・知的障害児 ・その他の発達障害－ADHD、LD、PDD等 第2回 障害のある子どもの保育と教育の実践（目標1,2） ・個々の子どもの発達を促す生活や遊びの環境 ・子ども同士の関わりと育ちあい ・幼児期の子どもと障害のある子どもの相違 ・障害のある子どもの保育・教育で大切にしたいこと ・集団化と個別化 ・主体的に取り組む生活・活動づくり ・「できる状況づくり」としての支援的対応

第3回	障害のある子どもの保育と教育の実際（目標1,2） ・個々の子どもの発達を促す生活や遊びの環境 ・子ども同士の関わりと育ちあい ・幼児期の子どもと障害のある子どもの相違 ・障害のある子どもの保育・教育で大切にしたいこと ・集団化と個別化 ・主体的に取り組む生活・活動づくり ・「できる状況づくり」としての支援的対応
第4回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第5回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第6回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第7回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第8回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第9回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第10回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第11回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第12回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。
第13回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。 ・幼稚園で活用可能な情報機器・教材を取り上げ、その活用の実際を知る。
第14回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。 ・幼稚園で活用可能な情報機器・教材のいくつかを実際に使用し、その有用性をグループで検討・確認する。
第15回	指導計画および指導案の計画と展開（目標3） ・障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。 ・模擬授業は、グループごとに行う。

予習・復習の内容	予習	自身が幼稚園や保育所で、どのような活動があったか振り返り、障害のある子どもがよりよく参加するためにはどのような支援が必要か想定する。
	復習	模擬授業終了後、障害のある子どもへの手立てが妥当であったか。不足するのであれば、どのような支援が必要か考える。
	展開	本講義で学んだ支援を、実習などで生かす。
成績評価	評価の基準	授業の参加姿勢、模擬授業での指導案・発表姿勢等により総合的に評価する。
	評価の方法	授業の参加姿勢25%、模擬授業での指導案・発表姿勢50%、レポート課題25%とする。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名	遅れた子どもの指導 基本生活百科
	著者名	小出進・山口薫・宮崎直男編
	出版社	教育出版
	価格	4,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-316-33740-8 C3037
	書籍名	遊びの指導 乳・幼児編
	著者名	幼少年教育研究所
	出版社	同文書院
	価格	3,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8103-0037-6
参考URL		
備考		

障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）
科目責任者	堀 彰人
担当教員	相磯 友子 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30101101 金1 30101102 金2
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	障害のある幼児・児童の福祉と教育について学習しながら、福祉と表裏一体の関係にある教育の社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。	
学生の達成目標	1.障害のある幼児・児童に関わる福祉と教育の場、それぞれの内容や役割について理解を深める。 2.障害のある幼児・児童の教育における社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。	
授業内容	第1回	障害児のある子どもの生活の場－教育と福祉（目標1）
	第2回	障害児のある子どもの生活の場－教育と福祉（目標1）
	第3回	「施設から学校へ」の歴史的経緯と制度上の変遷（目標1）
	第4回	「施設から学校へ」の歴史的経緯と制度上の変遷（目標1）
	第5回	「施設から学校へ」の歴史的経緯と制度上の変遷（目標1）
	第6回	保育所・幼稚園・通園施設・特別支援学校幼稚部等の制度上の関係と社会的機能・役割。それぞれの連携と家族支援のあり方（目標2）

	第7回	保育所・幼稚園・通園施設・特別支援学校幼稚部等の制度上の関係と社会的機能・役割。それぞれの連携と家族支援のあり方（目標2）
	第8回	特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の社会的機能・役割（目標2）
	第9回	特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の社会的機能・役割（目標2）
	第10回	特殊教育から特別支援教育へ（目標1）
	第11回	障害児の教育と福祉を支える社会福祉制度（目標2）
	第12回	障害児の教育と福祉を支える社会福祉制度（目標2）
	第13回	教育と福祉に通じる理念－ノーマライゼーションとインクルージョン（目標1,2）
	第14回	教育と福祉に通じる理念－ノーマライゼーションとインクルージョン（目標1,2）
	第15回	ポイントの確認
予習・復習の内容	予習	配付資料や参考文献にあらかじめ目を通し、疑問点等を明らかにしておく。
	復習	授業のポイントについて、整理をする。毎回の小テストの問題と解答を確認する。
	展開	障害児の教育・福祉に関する最新動向について、最新の統計等を参考に学習を深める。
成績評価	評価の基準	小テスト、レポート・発表、期末テストの評点
	評価の方法	小テスト20%、レポート・発表30%、期末テスト50%の評点により総合的に評価する。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	障害教育福祉論 今を豊かに生活する
	著者名	小出進・名古屋恒彦・高倉誠一
	出版社	大揚社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	4-7952-4393-X
参考URL		
備考		

社会的養護内容

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO402
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会的養護内容
科目責任者	水鳥川 洋子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011401 木2 30011402 木1
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	現代の子どもを巡る社会的養護の現状を理解し、児童福祉施設で暮らす子どもたちの養育について基本的な事柄を理解するとともに、広く現代の子どもたちの健全な発達を支援するための具体的な援助の方法を学ぶ。		
学生の達成目標	1. 子どもの社会的養護の実態（現代の社会状況・児童福祉施設入所児の暮らし）を知る。 2. 事例検討や援助技術の実習等を通して、子ども理解の方法と現場で役に立つ具体的支援の方法を学ぶ。 3. これからのこどもの社会的養護のあり方と子どもを養育する上での大切なことを自ら考察し説明できる。		
授業内容	第1回	オリエンテーション	自分のストレングスを知る(目標2)
	第2回	心の発達課題と現代の子どもたち	(目標1, 3)
	第3回	虐待を受けた子どもたちの心の発達の危機	(目標1, 3)
	第4回	コモンセンスペアレンティング(1)	怒鳴らない子育て・わかりやすいコミュニケーション(目標2)
	第5回	コモンセンスペアレンティング(2)	良い結果・悪い結果(目標2)
	第6回	コモンセンスペアレンティング(3)	効果的なほめ方、怒りを爆発させない方法(目標2)
	第7回	乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設の子どもたちの暮らしと支援～問題行動の理解と対応～	(目標1, 3)

	第8回	児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の子どもの暮らしと支援～被虐待児への対応～（目標1，3）
	第9回	障害児入所施設の子どもの暮らしと支援～障害児への対応と療育手帳の理解～（目標1，3）
	第10回	里親家庭の暮らしと里親支援～里親家庭の抱える危機の理解～（目標1，3）
	第11回	保育所・施設における家庭支援（目標1，3）～親の相談の受け方～
	第12回	施設入所児の支援の過程と自立支援計画（目標1，3）
	第13回	実習で出会った気になる子どもたち（自立支援計画の作成とグループ討議による事例検討）（目標2）
	第14回	実習で出会った気になる子どもたち（グループ討議による事例検討と発表）（目標2）
	第15回	これからの保育士に求められるもの～倫理、専門性、責務（目標3）
予習・復習の内容	予習	社会的養護の問題に日常的に関心を持ち、関連する報道を理解しておくこと。 事前に指示されたテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	毎回の授業のプリントを整理し、自分なりに説明できるようにすること。 ロールプレイの課題について、すべて自分自身でやってみること。
	展開	授業で学んだことを実習やアルバイト先での子どもとの関わりの中で実践してみる。
成績評価	評価の基準	社会的養護の現状（社会状況と児童福祉施設の状況）を説明でき、要保護及び要支援児童の支援について理解し、自分の考えとともに説明できる。
	評価の方法	期末試験70%，授業中のレポート30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング
	著者名	野口 啓示
	出版社	明石書店
	価格	1600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7503-2934-5
推薦図書等	書籍名	神様からの贈り物 里親土井ホームの子ども達
	著者名	土井 高德
	出版社	福村出版
	価格	1600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-571-42016-0
参考URL	厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/	
備考		

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO204
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育相談支援
科目責任者	田村 光子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30110201 月2 30110202 月4
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育相談支援とは何か、保育相談支援の意義と原則、ならびに保護者支援の基本を理解する。さらに、実際の保育場面を通して、相談支援の必要性や具体的な対応について実践的に学び、現場で生かせる力を身につける。	
学生の達成目標	1.保育相談支援の意義と原則について、保護者支援の基本を理解する。 2.現代的な子ども・保護者を取り巻く状況について理解するとともに、保育相談支援の必要性について学ぶ。 3.実際の場面を通して、具体的対応方法について実践的に学び、保護者への相談支援技術を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 現代の子ども・子育てを取り巻く社会状況の理解（目標2）
	第2回	保育相談支援とは① 保育相談支援の意義と原則（目標1）
	第3回	保育相談支援とは② 保育相談支援の実際（目標1、2）
	第4回	保育相談支援とは③ 実習を通して保育相談支援を考える（目標3）
	第5回	保育相談支援の基本理念① 子どもの最善の利益と福祉（目標1）
	第6回	保育相談支援の基本理念② 信頼関係を基本とした対人援助の原則（目標3）
	第7回	保育相談支援の基本理念③ 子ども・保護者のエンパワメント（目標2）

	第8回	保育相談支援の展開①	保育相談支援の展開過程（目標 2、3）
	第9回	保育相談支援の展開②	アセスメントの実施（目標 2、3）
	第10回	保育相談支援の展開③	プランニングの実施（目標 2、3）
	第11回	保育相談支援の展開④	モニタリングおよび個別支援計画の理解（目標 2、3）
	第12回	保育相談支援の実際①	保育における苦情と対応の事例を通して（目標 3）
	第13回	保育相談支援の実際②	子育てに自信のない保護者への対応事例を通して（目標 3）
	第14回	保育相談支援の実際③	発達に遅れのある子どもと保護者への対応事例を通して（目標 3）
	第15回	保育相談支援の実際④	配慮の必要な子ども・保護者への支援事例を通して（目標 3）
予習・復習の内容	予習	授業の内容に示しているキーワードにうちて事前に調べておくこと。	
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 日々の授業において課題レポートが課されるので、期限までに提出すること。	
	展開	毎回レポートの提出があるため欠席の内容に務めること。 現代の子ども・子育てを取り巻く社会状況について、関連する図書や報道から理解を深めておくこと。	
成績評価	評価の基準	演習科目のため試験はないが、授業の参加とその中で提示されるレポート提出が必須となる。	
	評価の方法	レポート	80%
		授業への意欲	10%
		その他加点	10%
教科書	書籍名	保育相談支援ワークブック	
	著者名	古川繁子、田村光子 他	
	出版社	学文社	
	価格	2,052円(税込み)	
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2600-3 C3036	
推薦図書等			
参考URL			
備考			

レクリエーション理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SC0303
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	レクリエーション理論
科目責任者	中島 悠介
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30012201 金4
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方、そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、指導者としての実践能力を高める。理論的学習が主となるので座学中心になるが、学生の経験に照らして考えられるよう進め、自分の生活と関連づけて理解し実践できるようにする。この科目は、レクリエーション・インストラクター資格取得のための理論科目である。

学生の達成目標

1. レクリエーション・インストラクターの役割を理解すること。
2. 各世代の課題を理解し、その課題に合わせたレクリエーション支援が考えられること。
3. レクリエーション事業が計画できるようになること。

授業内容	第1回	【レクリエーションの基礎理論】 オリエンテーション,レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史① (目標1)
	第2回	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史②,これらのレクリエーション運動 (目標1)
	第3回	レクリエーション支援の考え方 (目標2,3)
	第4回	レクリエーション・インストラクターの役割 (目標1)
	第5回	【レクリエーション支援論】 ライフスタイルとレクリエーション① (目標2,3)
	第6回	ライフスタイルとレクリエーション② (目標2,3)
	第7回	高齢社会の課題とレクリエーション (目標2,3)

	第8回	少子化の課題とレクリエーション（目標2,3）
	第9回	地域とレクリエーション（目標2,3）
	第10回	【レクリエーション事業論】レクリエーション事業とは（目標3）
	第11回	事業の展開方法（目標3）
	第12回	事業計画Ⅰ（目標3）
	第13回	事業計画Ⅱ（目標3）
	第14回	レクリエーション活動の安全管理（目標3）
	第15回	福祉，保育の場面におけるレクリエーションの意義（まとめ）（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	幼稚園や小学校、特別支援学校、福祉施設などで、なぜレクリエーションが重要となるのかを、事前に書籍などを読み調べておくこと。
	復習	授業で配布された資料、ワークシートをもとに復習ノートを作成すること。
	展開	目的に合わせたプログラムを作れるようにするために、各レクリエーション材の効果を調べて、知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準	期末に行われる試験、毎授業の提出物、平常点（授業態度、意欲）を加味して評価を行う。
	評価の方法	筆記試験50～60%、提出物20～30%、平常点10～20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	－
	出版社	日本レクリエーション協会
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-931180-81-9
参考URL		
備考		

カウンセリングの基礎と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SC0103
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	カウンセリングの基礎と方法
科目責任者	大木 みわ
担当教員	田村 光子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011701 水1 30011702 水4
教室	多目的演習室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	カウンセリングの基礎理論を基に、ピアサポートのトレーニングに重点を置く。 体験を通して理解を深めるためグループを構成、互いにカウンセラー、クライアントを経験し合う。 幼児理解の理論と方法について理解を深める。	
学生の達成目標	1.カウンセリングの基礎を体験的に学び、日常の人間関係に活用できるようになる。 2.保育者に求められる相談支援にむけた応用が可能になる。 3.幼児への理解を深めるための具体的な方法を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価についての理解（目標1）
	第2回	カウンセリングの基礎 （1）出会い体験（目標1）
	第3回	（2）自己理解・自己開示（目標1）
	第4回	（3）基本姿勢、「聴く・話す」の体験（目標1）
	第5回	（4）シェアリング（目標1）
	第6回	ピアヘルピングの理論と実践（1）ピアヘルピングとは（目標1）
	第7回	（2）ピアヘルピングの過程（目標1）
	第8回	（3）ピアヘルピングの技法（目標1）
	第9回	（3）ピアヘルピングの技法（目標1）

	第10回	幼児理解の枠組み（目標3）
	第11回	幼児理解の実際（目標3）
	第12回	親支援の課題（目標2）
	第13回	親支援の課題（目標2）
	第14回	振り返り（目標2）
	第15回	実践への課題（目標2）
予習・復習の内容	予習	「自分について」「気になる人間関係」「カウンセリングの技法」の1つを選び、毎回数名が発表する。
	復習	「授業のまとめ」に記載し、提出する。
	展開	実習の記録にコメントを付し、提出する。
成績評価	評価の基準	学習の達成目標に対する到達の度合を評価する。
	評価の方法	授業5回ごとに計3回試験(90%)をし、授業への参加態度(10%)を合わせ総合的に評価する。
教科書	書籍名	ピアヘルパー・ハンドブック
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社
	価格	1,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8100-1343-6
推薦図書等	書籍名	「ピアヘルパーワークブック」
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社
	価格	1,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8100-2386-2
参考URL		
備考		

早期相談・連携支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP303
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	早期相談・連携支援
科目責任者	佐藤 慎二
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30017001 (前期) 金5 (後期) 月4
教室	(前期) 講義室1 (後期) PC室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 保育現場での発達障害支援について理解する。 2. 「気になる」子どもや発達障害のある子どもの保護者支援のあり方を理解する。 3. 就学までの流れを理解し、保育者の役割を把握する。
-----------	--

学生の達成目標	1. 特に、自閉症、ADHDについての気づきと支援のポイントを理解する。 2. 保護者支援に関する地域にある相談機関とその役割を把握し、その活用・連携のあり方を理解する。 3. 就学に至る保護者との面談のポイントを理解する。
---------	--

授業内容	第1回	オリエンテーションー発達障害とは何か？(目標1,2)
	第2回	保育現場で発達障害に気づくポイント(目標1)
	第3回	保育現場で発達障害を支援するポイント(目標1)
	第4回	保育現場と保健師との連携について(目標1,2)
	第5回	保育現場と発達障害者支援センターとの連携について(目標1,2)
	第6回	保育現場と児童相談所・児童発達支援センターとの連携について(目標1,2)
	第7回	保育現場と特別支援学校（コーディネーター）、その他相談機関との連携について(目標1,2)
	第8回	就学先及び入学・入級までの流れについて(目標3)
	第9回	教育支援委員会の役割の理解とその連携について(目標3)
	第10回	「気になる」子どもの保護者の思いに触れる(目標2)

	第11回	「気になる」子どもの保護者との面談のポイント(目標2)
	第12回	「気になる」子どもの保護者との面談の進め方（１）(目標2)
	第13回	「気になる」子どもの保護者との面談の進め方（２）(目標2)
	第14回	診断のある子どもの保護者との連携のポイント(目標2)
	第15回	診断のある子どもの保護者との面談の進め方・まとめ(目標2)
予習・復習の内容	予習	相談機関のウェブページ等を毎回提示するので、その概要を必ず確認すること。
	復習	毎回配布するプリントのテーマに関するウェブページを複数確認し、内容への理解を深めること。
	展開	実習先・ボランティア先で出会う「気になる」子どもの様子とその支援についてレポートにまとめること。
成績評価	評価の基準	○発達障害・「気になる」子どもの支援の理解度 ○就学までのその保護者支援における関係機関の活用と保護者支援の実際についての理解度
	評価の方法	毎回のミニテスト（５０％）レポート(３０％)、授業への参加態度(２０％)を踏まえ、総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害児の生活

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児の生活
科目責任者	堀 彰人
担当教員	山本 邦晴 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013501 火5 30013502 火3
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

小学校学習指導要領の生活科と特別支援学校小学部（知的障害）学習指導要領の生活科の各内容と、その内容の扱い方について学び、さらに、生活科との関連で児童期から卒業後までの望ましい生活のありようを考える。

学生の達成目標

1.知的障害教育の教科「生活」の指導法について、学生自らテーマを定め発表する。
2.小学校学習指導要領の生活科と特別支援学校小学部（知的障害）学習指導要領の生活科の共通点と違いについて理解する。

授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	2つの教科「生活」（目標2）
	第3回	小学校の教科「生活」（目標2）
	第4回	知的障害特別支援学校の「生活」（目標2）
	第5回	それぞれの指導内容・指導法の特徴（目標2）
	第6回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
	第7回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
	第8回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
	第9回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）

	第10回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
	第11回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
	第12回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
	第13回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
	第14回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
	第15回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1）
予習・復習の内容	予習	あらかじめ配付資料や文献に目を通し、疑問点などを確認しておく。
	復習	授業のポイントを整理する。
	展開	特別支援学校での実習等を交え、児童生徒の適切な支援について理解を深める。
成績評価	評価の基準	発表内容、授業参加の姿勢・意欲、レポート課題等を考慮して評価する。
	評価の方法	発表内容70%、討論等での授業参加の姿勢・意欲15%、レポート課題15%を考慮して評価する。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	遅れた子どもの指導 基本生活百科
	著者名	小出進・山口薫・宮崎直男
	出版社	教育出版
	価格	4,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-316-33740-1
	書籍名	日常生活の指導の手引き
	著者名	文部省
	出版社	慶応通信
	価格	922円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7664-0556-9
参考URL		
備考		

保育の表現技術Ⅰ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（身体表現）
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013801 木3 30013802 木4
教室	体育館，中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・実際に身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わう。 ・運動あそびを題材にし、理論を交えながら実践していく。	
学生の達成目標	1. 子どもの遊びを豊かに展開するための知識や技術を習得する。 2. 身体表現に関する知識や技術を習得する。 3. 表現活動に係る教材作成や活用及び具体的展開のための技術を習得する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1）
	第2回	仲間づくりとその指導ポイントの確認（目標1）
	第3回	集団あそび（ゲーム）と指導ポイントの確認（目標1）
	第4回	からだを使ったあそびと指導ポイントの確認 ①（2人組）（目標1・2）
	第5回	からだを使ったあそびと指導ポイントの確認 ②（グループ）（目標1・2）
	第6回	フォーク・ダンスの基本用語と実践（目標2）
	第7回	リズムあそびと指導ポイントの確認 ①（目標2）
	第8回	リズムあそびと指導ポイントの確認 ②（2人組）（目標2）
	第9回	リズムあそびと指導ポイントの確認 ③（3人組・グループ）（目標2）
	第10回	親子のふれあいあそびと指導ポイントの確認①（目標3）

	第11回	親子のふれあいあそびと指導ポイントの確認②（目標3）
	第12回	身近なもの（タオル）を使ったあそびと指導ポイントの確認（目標3）
	第13回	身近なもの（新聞紙）を使ったあそびと指導ポイントの確認（目標3）
	第14回	小グループ活動による保育シミュレーションと反省（目標3）
	第15回	身体表現に関するまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	関連する図書を読んだり、日頃から身体表現に関心を持ち理解をしていくこと。
	復習	毎回、授業の要旨を実技ノートに図解してまとめる。
	展開	実際に保育現場で活用できるよう、知識や技術を身につける。
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や成果を総合的に加味して評価する。
	評価の方法	実技試験（50%）・実技ノート（30%）・授業への受講意欲（20%）
教科書	書籍名	幼児体育 理論と実践（初級）
	著者名	日本幼児体育学会編
	出版社	大学教育出版
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86429-211-5
推薦図書等	書籍名	幼児体育 基礎理論と指導の方法
	著者名	前橋明編者
	出版社	樹村房
	価格	1,900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-88367-122-9
参考URL		
備考	服装：トレーニングウェア・上履き	
	・運動時に支障がないよう長い髪は束ねる。	
	・アクセサリーは外す。	
	・長い爪は危険になるので短く切る。	

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP102
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	黒田 静江
担当教員	石井 恵子 柴辻 純子 石橋 葉子 木村 憲子 水村 明子 山中 和穂 石井 博子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013201 月1 30013202 月2
教室	音楽室, セミナー室1, セミナー室2, ピアノ演習室1, ピアノ演習室2, ピアノ演習室3, 講義室5, 講義室6
卒業要件	児童障害福祉専攻: 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育者として幼児の音楽表現活動を援助・指導するために必要な（１）器楽（ピアノ）演奏の技術と（２）音楽の基礎的な理論を習得する。２グループに分け、45分ずつ音楽理論とピアノ実技を交互に行う。音楽理論については、子どもの歌を使ったり身体表現活動などを交えながら学ぶ。	
学生の達成目標	1.保育に必要な音楽技術（ピアノ実技）を身につける。 2.音楽の基礎的な理論を学び、楽譜に書き表されていることを理解できるようにする。 3.幼児の発達を踏まえながら、あそび歌を学ぶ。	
授業内容	第1回	授業概要・達成目標 / ピアノを弾く時の心構えや楽器についての基礎知識
	第2回	4分音符と8分音符の音楽（目標1・2）
	第3回	簡単な動きを伴った音楽（目標1・3）
	第4回	さまざまなリズムの音楽（目標1・2・3）

	第5回	ヘ音記号を理解する（目標１・２・３）
	第6回	拍子について（目標１・２・３）
	第7回	楽語と演奏順番について（目標１・２）
	第8回	音階と音程（目標１・２）
	第9回	伴奏法・中間まとめ（目標１・２）
	第10回	ハ長調の主要三和音と属七の和音（目標１・２）
	第11回	ト長調の音楽（目標１・２）
	第12回	ト長調の主要三和音と属七の和音（目標１・２）
	第13回	ヘ長調の音楽（目標１・２）
	第14回	ヘ長調の主要三和音と属七の和音（目標１・２）
	第15回	課題曲の説明・まとめ（目標１・２）
予習・復習の内容	予習	毎回出される音楽理論の小課題を予習する。 課題曲が、毎回数曲合格するよう練習する。
	復習	授業で指摘されたことを確認し、練習方法を工夫し、確実に仕上げるよう努力する。 合格した曲を復習し、友だちと発表し合ったり家人に聞いてもらう。
	展開	自分の技術で弾ける曲をテキストの中から選び、自発的に練習する。
成績評価	評価の基準	音楽の基礎的理論を理解し、各自の進度に合わせた課題曲を仕上げる。 筆記試験・ピアノ実技試験・各自の進度に合わせた課題曲の達成度及び習熟度。
	評価の方法	筆記試験(30%) 実技試験(40%) 課題曲達成度及び習熟度(30%)
教科書	書籍名	おとなのためのバイエル
	著者名	坂東 貴余子 著
	出版社	ドレミ楽譜出版
	価格	1,200円＋税
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	うたっておどっておもちゃ箱 1（改訂版）
	著者名	鈴木 恵津子 編著
	出版社	教育芸術社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
推薦図書等	書籍名	学生の楽典教室
	著者名	坪野 春枝
	出版社	ケイ・エム・ビー
	価格	900円＋税

参考URL

備考

保育の表現技術Ⅰ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP103
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（造形表現）
科目責任者	吉野 泰男
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013301 月5 30013302 火5
教室	被服工芸室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもの感動や想像に基づく表現意図を、造形的な表現活動を通じて創造的に表現する基礎技能を学びながら、指導法を考える。	
学生の達成目標	1. 乳幼児期の造形活動に関して、授業で扱った基礎的な内容や技能を理解する。 2. 子どもの視点、興味、関心、発達段階をふまえ、素材や表現方法を工夫し、新たな造形活動を創造する感性を養う。 3. 制作を通じて子どもの創造活動を発想し、具体的な指導方法や支援を考え、実践的な力を養う。	
授業内容	第1回	オリエンテーション ワークシート課題①創造を楽しむ心 ワークシート課題②+粘土制作 自然や身近なものに関わり 子どもの視線になって(目標1,2)
	第2回	さまざまな技法の基礎を学ぼう1 色の混色、グラデーション、デカルコマニー、ドリップング、にじみ(目標1,2)
	第3回	さまざまな技法の基礎を学ぼう2 ステンシル、スクラッチ、パチック(目標1,2)
	第4回	さまざまな技法の基礎を学ぼう3 切り絵、貼り絵、紋切り(目標1,2)
	第5回	さまざまな技法の基礎を活用してみよう 実物からイメージをふくらまして描いてみよう (目標2,3)

	第6回	さまざまな技法の基礎を応用してみよう 1 絵本の 1 場面を想像して描いてみよう(目標 2, 3)
	第7回	さまざまな技法の基礎を応用してみよう 2 絵本の 1 場面を想像して描いてみよう(目標 2, 3)
	第8回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～ 1 材料・素材からの発想(目標 1, 2)
	第9回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～ 2 季節や行事の動くカード作り (1) (目標 2, 3)
	第10回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～ 3 季節や行事の動くカード作り (2) (目標 2, 3)
	第11回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～ 4 紙すき (目標 1, 2)
	第12回	共同制作(目標 1, 2, 3)
	第13回	共同制作(目標 1, 2, 3)
	第14回	共同制作(目標 1, 2, 3)
	第15回	相互鑑賞, 総まとめ 提出物確認(目標 1, 2, 3)
予習・復習の内容	予習	次回の内容に応じた調べ学習
	復習	制作の仕上げ 作品のファイリング 毎回の学習内容を発想とした題材企画を考え, ワークシートに記入
	展開	題材企画のアイデアを検討し合い, 実際の制作活動に役立てる。
成績評価	評価の基準	乳幼児期の造形活動に関して, 授業で扱った基礎的な内容や技能を理解できていること。授業内容を基に造形教育のあり方について自らの考えを発想しながら実技や作品制作に創造的に取り組んでいることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点20%, ワートシートの提出30%, 提出作品50%の成績を総合する。ただし, この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	F 6 サイズのスケッチブック, のり, はさみ, 絵の具等の持参 その他授業内容に応じて説明・連絡する。	

保育の表現技術（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP104
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術（言語表現）
科目責任者	鈴木 朱美
担当教員	植草 一世 小笠原 晴代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013401 月2 30013402 月1
教室	講義室21・22
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識や技術を習得し、活用する。 2. 言語表現の表現活動に関する知識や技術を習得し、活用する。 3. 表現活動に関わる教材（絵本、素身芝居、人形劇、ストーリーテリング等）の活用および作成と、環境構成および具体的展開のための技術を習得する。
-----------	--

学生の達成目標	1.保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な言語表現に関する技術を習得する。 2.言語表現活動にかかる教材等の活用および作成と、保育の表現構成および具体的展開のための技術を習得する。
---------	--

授業内容		
第1回		本科目の目標、授業の概要。受講者の心得。授業形態と実技演習予定 他（目標1,2）
第2回		描いたもの、作ったもので遊ぶ。お面づくり「大きなかぶ」（目標1）
第3回		絵本、紙芝居等の扱い方：絵本、紙芝居をみんなの前で読んでみる。（目標2）
第4回		手遊び：パネルシアター（目標1）
第5回		パネルシアターを作る。（目標1）
第6回		パネルシアターを演じてみる。（目標1,2）

第7回	保育教材：うた遊び，ペープ・サート，エプロンシアター，指人形の実演・演じ方（目標１）
第8回	保育教材：うた遊び，ペープ・サート，エプロンシアター，指人形の実演・演じ方・人形作成（目標２）
第9回	教材研究：①どんなお話 役決め 舞台構成等（目標１）
第10回	教材研究：②人形作り 背景作り（目標２）
第11回	教材研究：③人形作り 背景作り（目標２）
第12回	教材研究：発表（目標２）
第13回	教材研究：発表（目標２）
第14回	相互評価（目標１）
第15回	発表の評価他まとめ（目標１）

予習・復習の内容	予習	幼児期の言語発達について日ごろから興味関心を持ち，関連するもの（絵本・紙芝居・童話・その他の書物等）をみたり読んだりしておくこと。 事前に示す事柄について調べ，当日の授業に活かせるようにしておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示された課題やレポートを期限までに提出すること。
	展開	言語表現活動における技術を身につけ，子どもの遊びを豊かにできるように保育技術や知識を広げていく。

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート(30%)，発表(30%)，作品(30%)，授業への取り組み(10%)

教科書	書籍名	保育の表現活動
	著者名	植草一世 他
	出版社	学文社
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2442-9

推薦図書等	書籍名	遊びの指導
	著者名	財団法人幼少年教育研究所
	出版社	同文書院
	価格	3,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8103-0037-6

参考URL	
備考	

保育の表現技術Ⅱ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（身体表現）
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30013901 木1 30013902 木2
教室	体育館，講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・身体表現を通して、他者と関わる楽しさを知る。 ・指導計画を作成し、模擬保育の実践から他者の評価を加え振り返りを行う。
-----------	--

学生の達成目標	1. 身体表現に関する知識や技術を習得する。 2. 表現活動に係る教材作成及び活用と展開のための技術を習得する。 3. 指導計画を立案し、模擬保育を通して具体的な実践から学ぶ。
---------	--

授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1）
	第2回	バラパレーンを使ったあそびと内容ポイントの確認①（目標1・2）
	第3回	バラパレーンを使ったあそびと内容ポイントの確認②（目標1・2）
	第4回	ボールを使ったあそびと内容ポイントの確認①（目標1・2）
	第5回	ボールを使ったあそびと内容ポイントの確認②（目標1・2）
	第6回	ボールを使ったあそびと内容ポイントの確認③（目標2・3）
	第7回	マラカスをを使ったあそびと内容ポイントの確認（目標2・3）
	第8回	縄を使ったあそびと内容ポイントの確認①（目標2・3）
	第9回	縄を使ったあそびと内容ポイントの確認②（目標2・3）
	第10回	環境設営の事例と内容ポイントの確認（目標2・3）

	第11回	創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省） ①（目標3）
	第12回	創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省） ②（目標3）
	第13回	創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省） ③（目標3）
	第14回	創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省） ④（目標3）
	第15回	身体表現に関するまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	関連する図書を読んだり、日頃から身体表現に関心を持ち理解していくこと。
	復習	毎回、授業の要旨を実技ノートに図解してまとめる。
	展開	実際に保育現場で活用できるよう、知識や技術を身につける。
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や発表の成果を総合的に加味して評価する。
	評価の方法	発表（50%）・実技ノート（30%）・授業への受講意欲（20%）
教科書	書籍名	幼児体育 理論と実践
	著者名	日本幼児体育学会編
	出版社	大学教育出版
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86429-211-5
推薦図書等	書籍名	幼児体育 基礎理論と指導の方法
	著者名	前橋明編者
	出版社	樹村房
	価格	1,900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-88367-122-9
参考URL		
備考	服装：トレーニングウェア・上履き ・運動時に支障がないよう長い髪は束ねる。 ・アクセサリは外す。 ・長い爪は危険になるので短くする。	

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	石井 恵子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30013601 火4 30013602 火3
教室	音楽室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	人前で臆せず範唱できるための歌唱テクニックや気構えを、実際の声楽曲演奏を通して学ぶ。正しい姿勢、正しい音程を常に注意し、豊かな声量をめざす。何より独唱、重唱の楽しさに触れたい。
学生の達成目標	1. 生涯を通じてもっとも音感が鋭敏な幼児期の音楽教育は、大変重要である。その指導に歌唱の役割は大きい。 2. 子供達が初めて体験する歌が楽しく、正しく、豊かなものであるよう、指導者は自らの歌唱技術を磨かねばならない。 3. 自然な発声、読譜力を習得し、子供の歌のレパートリー増大を計り、その指導法を習得する。又、自然や物の音や音色に親しむ保育活動について考察する。
授業内容	第1回 ①発声練習（毎回） ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。 ③ソルフェージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。 ④保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標1) 第2回 ①発声練習（毎回） ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。 ③保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標2) 第3回 ①発声練習（毎回） ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。

	③保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標2) ①発声練習 (毎回) ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。 ③ソルフェージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。 ④保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標2,3)
第4回	
	①発声練習 (毎回) ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。 ③ソルフェージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。 ④保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標2,3)
第5回	
	①発声練習 (毎回) ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。 ③ソルフェージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。 ④保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標2,3)
第6回	歌唱テスト (2重唱) (目標2)
	①発声練習 (毎回) ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。 ③ソルフェージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。 ④保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標2,3)
第7回	
	①発声練習 (毎回) ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。 ③ソルフェージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。 ④保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標2,3)
第8回	
	①発声練習 (毎回) ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、重唱曲。 ③ソルフェージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。 ④保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 (目標2,3)
第9回	リズムテスト/移調譜作成 (目標2)
	①発声練習 (毎回) ②保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 ③ソルフェージュでは、音名唱(コールユーブンゲン)の訓練により、読譜力を向上させる。 (目標2,3)
第10回	
	①発声練習 (毎回) ②保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 ③ソルフェージュでは、音名唱(コールユーブンゲン)の訓練により、読譜力を向上させる。 (目標2,3)
第11回	
	①発声練習 (毎回) ②保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 ③ソルフェージュでは、音名唱(コールユーブンゲン)の訓練により、読譜力を向上させる。 (目標2,3)
第12回	
	①発声練習 (毎回) ②保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 ③ソルフェージュでは、音名唱(コールユーブンゲン)の訓練により、読譜力を向上させる。 (目標2,3)
第13回	コールユーブンゲンテスト/移調譜作成 (目標3)
	①発声練習 (毎回) ②保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。 ③「身近な音」の採集 (目標3)
第14回	
	①発声練習 (毎回) ②保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、指導法のポイントを習得する。
第15回	

指導法のポイントを習得する。
(目標2,3)

予習・復習の内容	予習	ソルフェージュのプリント配布後は、ピアノを使ってさらっておく。
	復習	習得した歌を機会をとらえて歌う。
	展開	アカペラでも正確に良い発声で歌えることで、保育のあらゆる場面で歌を用いることができる。
成績評価	評価の基準	ソルフェージュ, 歌唱テスト, 移調課題
	評価の方法	ソルフェージュ (30%), 歌唱テスト (50%), 移調課題 (20%)
教科書	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	神原雅之他
	出版社	教育芸術社
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-87788-443-7 C3073
推薦図書等		
参考URL		
備考	「年間授業計画」は、全15回を通し学習を進める。	

保育の表現技術Ⅱ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP402
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（造形表現）
科目責任者	吉野 泰男
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30013701 金5 30013702 木5
教室	被服工芸室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	造形的な活動を通じて創造的に表現する技能を活用しながら、保育・教育の場での応用方法を開発し、実践する。	
学生の達成目標	1.保育・教育の場に応じ、さまざまな造形活動を通じて、保育の表現技術Ⅰの学習内容を発展的に扱うことができる。 2.保育・教育のさまざまな現状を踏まえたうえで、子どもの興味・関心・発達段階を基にした造形活動の活用方法を発想することができる。 3.個別の保育・教育の場における造形題材を、自ら研究・探求し、開発・制作した後、実演することができる。	
授業内容	オリエンテーション	
	第1回	表現技術Ⅰの制作と題材企画（ワークシート）の振り返り（目標1,2）
	第2回	光を組み合わせる題材（目標1,2）
	第3回	高いところからぶら下げる題材（目標1,2）
	第4回	保育の現場での時事課題と、題材開発（目標2,3）
	第5回	現場に即した題材の開発とその計画、試作の開始（目標2,3）
	第6回	題材の決定と具体的計画、指導案作成（目標2,3）
	第7回	開発制作・中間審査（目標2,3）
	第8回	開発制作（目標2,3）

	第9回	開発制作（目標2,3）
	第10回	開発制作（目標2,3）
	第11回	提出期間（目標2,3）
	第12回	提出期間（目標2,3）
	第13回	発表・デモンストレーション, 鑑賞, 審査（目標2,3）
	第14回	発表・デモンストレーション, 鑑賞, 審査（目標2,3）
	第15回	総まとめ・ワークシート提出, 作品返却（目標2,3）
予習・復習の内容	予習	新たな素材の活用方法や既存の題材等を調べ, 資料として授業に活かす。
	復習	制作を進める。
	展開	選択した素材・技法が, 自分の考えた題材の意図に適しているか熟考する。
成績評価	評価の基準	乳幼児期の造形活動に関して, 授業で扱った基礎的な内容や技能をを理解したうえで, 発展的に扱えること。保育の現場での時事課題に関心を持ち, 造形教育のあり方について自分の考えを取り入れながら実技や題材開発に創造的かつ主体的に取り組んでいることを合格基準とする。 (題材は, 独自の発想＝オリジナル性が重視される)
	評価の方法	平常点およびワークシート20%, 提出作品50%, 発表点30%の成績を総合する。ただし, この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は個人制作が基本となり, 個々に対応した質疑応答を積み重ねていく。	

保育の表現技術Ⅲ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP202
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅲ（音楽表現）
科目責任者	黒田 静江
担当教員	柴辻 純子 池田 仁美 石橋 葉子 額田 優美 水村 明子 松尾 聖子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30019101 木1 30019102 木2
教室	音楽室，セミナー室1，セミナー室2，ピアノ演習室1，ピアノ演習室2，ピアノ演習室3，講義室5
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	前期「保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）」での学習をさらに深めて、音楽に関する保育に必要な知識やピアノ演奏技術を向上させる。小グループでの指導や個人指導を行う。伴奏を弾く側と歌う子どもの側との両方に意識が持てるようにする。歌いたい気持ちを持ちを盛り上げるような導入や教材などを準備し、伴奏と共に発表しあう。	
学生の達成目標	1.基礎的演奏技術を向上させ、弾き歌いに慣れる。 2.簡単なコードネームを理解して、伴奏を弾けるようにする。 3.幼児の音楽表現活動を計画立案し、伴奏とともに発表する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 授業概要・達成目標・歌の伴奏を弾く時に気を付けたいこと。
	第2回	季節の歌（1）春（目標1）
	第3回	課題「保育教材を活用した音楽表現活動」（目標3）
	第4回	季節の歌（2）夏（目標1）

	第5回	季節の歌（３）秋・冬（目標１）
	第6回	「保育教材を活用した音楽活動」発表（目標３）
	第7回	コードネームで表された歌の伴奏（１）（目標２）
	第8回	コードネームで表された歌の伴奏（２）（目標２）
	第9回	コードネームで表された歌の伴奏（３）（目標２）
	第10回	子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動（１）（目標１・３）
	第11回	子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動（２）（目標１・３）
	第12回	子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動（３）（目標１・３）
	第13回	実習準備ための音楽について（目標１）
	第14回	課題曲について（目標１）
	第15回	コードネームの復習と「音楽活動」のまとめ（目標１・２）
予習・復習の内容	予習	各自で設定した課題曲を毎回１～２曲仕上げる。知っている子どもの歌を積極的に弾いてみる。
	復習	授業の中で指摘された事柄を確認しながら、練習方法を工夫し、仕上げる。今まで仕上がった曲を時々復習する。
	展開	子どもと一緒に歌っている時を想定したり、就職試験などを想定して練習する。
成績評価	評価の基準	1.保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができるようにする。 2.期末試験・中間試験・各自の進度に合わせた課題曲の達成度及び習熟度
	評価の方法	期末試験（40％） 中間試験（30％） 課題曲の達成度・習熟度（30％）
教科書		
	書籍名	やさしい伴奏によるこどもの歌
	著者名	東 保 著
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6
	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	神原 雅之 編著
	出版社	音楽芸術社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-87788-443-7
	書籍名	おとなのためのバイエル
	著者名	坂東 貴余子 著
	出版社	トレミ楽譜出版社
	価格	1,200円＋税
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	幼児の四季 春夏の歌
著者名	早川 史郎
出版社	エー・ティー・エヌ
価格	2,600円+税
ISBN・ISSN	978-4754940379

推薦図書等

書籍名	幼児の四季 秋冬の歌
著者名	早川 史郎
出版社	エー・ティー・エヌ
価格	2,600円+税
ISBN・ISSN	978-4754940386

参考URL

備考

保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP403
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）
科目責任者	黒田 静江
担当教員	石井 恵子 柴辻 純子 石橋 葉子 木村 憲子 水村 明子 石井 博子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30019201 月2 30019202 月3
教室	音楽室, セミナー室1, セミナー室2, ピアノ演習室1, ピアノ演習室2, ピアノ演習室3, 講義室5
卒業要件	児童障害福祉専攻: 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	小グループ内での個人レッスンを通して、「保育の表現技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（音楽表現）」で習得した技能を更に高めながら、子どもの歌とその伴奏法やアレンジの仕方を学ぶ。保育現場を想定したいくつかの課題を発表・討議し、保育実践力を養う。	
学生の達成目標	1.コードネームを理解し、各自のレベルに見合った伴奏が考えられる。 2.弾き歌いのレパートリーを増やす。 3.保育を想定しさまざまな音楽活動を発表・討議し、実践力を養う。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 進度に合わせた授業計画を各自で作成
	第2回	伴奏のアレンジについて（1）コードネームの確認・ハ・ト長調の曲（目標1. 2）
	第3回	伴奏のアレンジについて（2）へ長調の曲（目標1. 2）
	第4回	伴奏のアレンジについて（3）二長調の曲（目標1. 2）
	第5回	伴奏のアレンジについて（4）まとめ（目標1・2）

	第6回	動きをイメージした音楽（１）動きをイメージする音・音楽を探す（目標３）
	第7回	動きをイメージした音楽（２）ある場面を想定した音・音楽を考える（目標３）
	第8回	動きをイメージした音楽（３）発表（目標３）
	第9回	中間まとめ（目標１・２）
	第10回	５歳児の音楽活動について（１）歌（目標３）
	第11回	５歳児の音楽活動について（２）合奏（目標３）
	第12回	表現課題（１）イメージの共有（目標３）
	第13回	表現課題（２）音・音楽の創作（目標１）
	第14回	表現課題（３）発表準備（目標３）
	第15回	発表及び音楽表現のまとめ（目標２・３）
予習・復習の内容	予習	各自の考えた学習計画に沿って、毎回１～２曲合格するように練習しておく。 また小課題も時々出されるので、保育現場を想定した準備をする。
	復習	発表後の振り返りや、合評を通して学んだことをまとめておく。 合格した曲をいつでも弾けるように、時々復習する。
	展開	歌や動きを使った表現活動について、子どもの発達を考慮し、環境との関わりや関連領域との総合的保育について考える。
成績評価	評価の基準	各自の進度に合わせて設定した課題曲を仕上げ、ピアノの技術を向上させる。 保育を想定した音楽表現課題をこなす。
	評価の方法	ピアノ実技試験（５０％） 課題発表（３０％） 課題曲達成度・習熟度（２０％）
教科書		
	書籍名	やさしい伴奏によるこどものうた（１）
	著者名	東 保 編著
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6
	書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
	著者名	黒田 静江 著
	出版社	音楽教育研究協会
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-87136-717-2 C3073
	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	神原 雅之 編著
	出版社	教育芸術社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-87788-443-7

書籍名	「音楽指導ブック 子どものためのたのしい音遊び」
著者名	柴田 礼子 著
出版社	音楽之友社
価格	2,000円+税
ISBN・ISSN	10-4778502515

推薦図書等

書籍名	「子どもの歌から広がる音楽表現」
著者名	伊藤 嘉子 著
出版社	共同音楽出版
価格	2,200円+税
ISBN・ISSN	10-4778502515

参考URL

備考

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP304
開講年度	2016年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	特別支援教育原論
科目責任者	漆澤 恭子
担当教員	佐藤 愼二
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30004701 土3
教室	講義室14
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	特別な教育的ニーズのある子どもへの保育、教育の基本に関する対応姿勢、制度、理念、動向など今日的に理解しておくべきことを学び、特別支援教育の進め方について自分の考えを持つ	
学生の達成目標	1.特別支援教育の理念や制度を理解することができる 2.子どもの理解と支援方法、関係機関、保護者との連携を理解することができる 3.教師として特別支援教育をいかに進めるべきか具体的に考え意見を交換することができる	
授業内容	第1回	特別支援教育の理解とシステム ①特別支援教育の理念と基本的な考え（目標1）
	第2回	特別支援教育の理解とシステム ②教育の歴史と現行制度（目標1）
	第3回	特別支援教育の理解とシステム ③支援システムの構築と法的制度（目標1）
	第4回	特別支援教育の理解とシステム ④特別支援教育とコーディネーター（目標1,2）
	第5回	特別支援教育の理解とシステム ⑤個別の指導計画と個別的教育支援計画（目標1,2）
	第6回	子どもの理解と指導・支援 ①発達障害の理解と指導・支援（目標2）

	第7回	子どもの理解と指導・支援 ②通常の学級における指導・支援（目標2）
	第8回	子どもの理解と指導・支援 ③知的障害の理解と指導・支援（目標2,3）
	第9回	子どもの理解と指導・支援 ④肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援（目標2,3）
	第10回	子どもの理解と指導・支援 ⑤視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援（目標2,3）
	第11回	子どもの理解と指導・支援 ⑥その他の多様な状態を併せ持つ子どもの理解と指導・支援（目標2,3）
	第12回	保護者や関係機関との連携 ①保護者との連携（目標2）
	第13回	保護者や関係機関との連携 ②専門機関や地域との連携（目標1,2）
	第14回	保護者夜間系機関との連携 ③進学支援・就労支援と連携（目標1,2）
	第15回	特別支援教育のこれからと課題 グループ協議（目標2,3）
予習・復習の内容	予習	・特別支援学校教育実習の内容や経験をまとめておくこと ・障害児教育に関する既習内容を確認しておくこと ・授業内の協議ではそれらをもとに自分の考えを述べていただきます。
	復習	・関係法規等については、内容を確認しておくこと ・学習内容については、教科書の関連箇所を再読しておくこと ・研究所公開、講演会等適時参加するので学んだこと、資料等をまとめておくこと
	展開	・学内で行われる特別支援教育関連の講演会には積極的に参加し、視野を広げること ・特別支援教育に関する動向には常に関心を持っておくこと
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容を理解し、それらに関して自分の考えを持つことができたか 参観等では課題をもって参加し自分の考えをまとめることができたか
	評価の方法	授業中の発言・協議内容（30%）レポート（30%） 定期試験（40%）
教科書	書籍名	はじめての特別支援教育 改訂版
	著者名	柘植雅義他
	出版社	有斐閣
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	978-4-641-22038-6
推薦図書等	書籍名	LD ADHD等関連用語集 第2版
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1,190円

参考URL

備考

研究施設や特別支援学校の参観、講演会参加なども適宜取り入れる。授業は内容を前後して行うこともある。

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP305
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005601 土3
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	知的障害のある子どもの心理や発達の特徴と生理・病理について学び、知的障害のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。	
学生の達成目標	1. 知的障害のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2. 知的障害のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 3. 具体的な事象や事例から、知的障害のある子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	知的障害観の変遷と知的障害の定義（目標1・2）
	第2回	知能と知能検査（目標1・2）
	第3回	知的障害の子どもの認知特性（目標1）
	第4回	知的障害の子どもの社会性の発達（目標1）
	第5回	知的障害と自閉症（目標1・2）
	第6回	知的障害の子どもの心理（目標2・3）
	第7回	けいれんのある子どもの病理（目標1）
	第8回	けいれんの対応（目標1）
予習・復習の内容	予習	知的障害の子どもに関する本を読む。

	復習	知的障害に関するキーワードを整理する。
	展開	知的障害の子どもと関わるボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	小テスト及びレポートの課題を理解したうえで、自分の考えや意見を、具体的、説得的に自分の言葉で書くことができること。
	評価の方法	小テスト80%, レポート20%
教科書	書籍名	障害者の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP306
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005701 土4
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について学び、肢体不自由のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。	
学生の達成目標	1. 肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2. 肢体不自由のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 3. 具体的な事象や事例から、肢体不自由のある子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	肢体不自由の定義（目標1）
	第2回	肢体不自由の子どもの教育と心理（目標1・3）
	第3回	肢体不自由の子どもの教育と心理（目標1・3）
	第4回	重複障害児・者の生活（目標1・3）
	第5回	重複障害児・者の心理（目標1・3）
	第6回	重度心身障害と医療的ケア（目標1・2）
	第7回	病態生理1 嚥下障害における理解（目標1）
	第8回	病態生理2 具体的な事象や事例から対応を学ぶ（目標1）
予習・復習の内容	予習	肢体不自由の子どもに関する本を読む。

	復習	肢体不自由に関するキーワードを整理する。
	展開	肢体不自由の子どもに関わるボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	小テスト及びレポートの課題を理解したうえで、自分の考えや意見を、具体的、説得的に自分の言葉で書くことができること。
	評価の方法	小テスト80%, レポート20%
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP307
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005801 土4
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	病弱の子どもの心理・生理・病理について学び、病弱の子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。	
学生の達成目標	1. 病弱の子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2. 病弱の子どもに関する最新の研究知見を知る。 3. 具体的な事象や事例から、病弱の子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	病弱の教育上の定義（目標1）
	第2回	病弱児・者の生活（目標3）
	第3回	病弱児・者の心理（目標3）
	第4回	病弱児・者の進路（目標2）
	第5回	院内学級・訪問学級（目標1・2）
	第6回	障害受容について（目標1・2・3）
	第7回	神経解剖（基礎1）（目標1）
	第8回	神経解剖（基礎2）（目標1）
予習・復習の内容	予習	病弱の子どもに関する本を読む。
	復習	病弱の子どもに関するキーワードを整理する。

	展開	病弱の子どもの指導案を考え作成する。
成績評価	評価の基準	小テスト及びレポートの課題を理解したうえで、自分の考えや意見を、具体的、説得的に自分の言葉で書くことができること。
	評価の方法	小テスト80%, レポート20%
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害教育 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP402
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害教育 I
科目責任者	中坪 晃一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005901 土1
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	特別支援学校教諭二種免許状取得の必修科目であり、知的障害教育に関する歴史的変遷や現状及び学習指導要領と教育課程の考え方・編成等について学び、知的障害教育の在り方や進め方について理解を深める。	
学生の達成目標	1.知的障害教育の歴史的変遷や現状について理解する。 2.知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成及び実際の状況等について理解する。 3.知的障害特別支援学校・特別支援学級における望ましい教育課程編成について自分の考えを定める。	
授業内容	第1回	知的障害教育の歴史的変遷と現状等(目標1)
	第2回	知的障害教育における学習指導要領と教育課程編成(目標2) 知的障害教育における教育課程編成の考え方・編成手順(目標2)
	第3回	知的障害教育の教育課程の特色(目標1・2・3) 知的障害特別支援学級の教育課程(目標1・2・3)
	第4回	知的障害教育における教科の内容・指導のあり方(目標1・2・3)
	第5回	知的障害教育と自立活動(目標1・2・3)
	第6回	知的障害教育と特別活動・「総合的な学習の時間」(目標1・2・3)
	第7回	個別の教育支援計画と個別の指導計画(目標1・2・3)
	第8回	知的障害特別支援学校・特別支援学級の望ましい教育課程編成(目標3)

予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、特別支援学校学習指導要領等教科書に目を通し、理解を深めるとともに、不明な点・疑問点等を確認する。
	復習	授業内容に応じ、知的障害教育の在り方や進め方について、関係文献や実習校の教育課程資料を調べ再確認をし、一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の実習事前・事後に、実習校の教育課程について特色等を理解、説明する。
成績評価	評価の基準	知的障害教育の学習指導要領や教育課程等に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること、授業内容を基に自らの考えをもち、それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末テスト80%、授業への参加姿勢20%（小テスト等を含む）。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q&A」
	著者名	子ども主体の教育研究会編
	出版社	K&H
	価格	2,160円(税込み)
	ISBN・ISSN	ISBN4-9901197-6-2 C3037
	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440円(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0902
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	450円(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0902
推薦図書等	書籍名	「生活中心教育の理念と方法」
	著者名	小出進
	出版社	K&H
	価格	1900円(+税)
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-9901197-2-0 C3037
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説総則編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版

価格	740円(+税)
ISBN・ISSN	MEXT1-0906

書籍名	「特別支援学校学習指導要解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	200円(+税)
ISBN・ISSN	MEXT1-0903

参考URL

備考

知的障害教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP406
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害教育Ⅱ
科目責任者	山本 邦晴
担当教員	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006001 土1
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義プラス実践現場の活動を折り込んで行う。朝の会や生活単元学習、ボッチャ等のスポーツ競技など、実際に活動し、できるだけ具体的な事例を多くして、知的障害教育のあり方について理解を深める。	
学生の達成目標	1. 知的障害教育の指導法の特色である「合わせた指導」の生活単元学習と作業学習について理解する。 2. 朝の会やボッチャ等のスポーツ競技、リトミックなど、学校現場の活動を想定して実際に行い、進め方・展開についての理解を深める。 3. 進路指導・キャリア教育の在り方や進め方について、卒業後の課題等も含め理解を深める。	
授業内容	第1回	知的障害とは何か？改めて、考える！（目標1・2・3）
	第2回	「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方（目標1・2・3）
	第3回	朝の会の計画と指導の実際（目標1・2）
	第4回	生活単元学習の計画と指導の実際2（目標1・2）
	第5回	生活単元学習の計画と指導の実際1（目標1・2）
	第6回	作業学習の計画と指導の実際（目標1・2・3）
	第7回	障害者のスポーツ「ボッチャ」及びリトミックを実践する（目標1・2）

予習・復習の内容	予習	教科書として使用している「知的障害教育・基礎知識Q & A」等に目を通し予備知識を備えるとともに、疑問点等を自分なりにまとめておく。
	復習	毎授業の終わりに、授業の要点を確認するとともに、必要に応じてレポートの提出や小テストを行い、一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の教育活動を想定して、指導・支援上の留意点などについて理解を深める。

成績評価	評価の基準	授業への取り組み態度や発表、必要に応じて実施する小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	授業への取り組み態度や発表20%、小テスト50%、レポート提出30%。この比率をもとに総合的に評価する。

	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q & A」
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校編
	出版社	K & H
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	—

教科書	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9

	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	450円+税
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0

推薦図書等	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	740円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12412-0

	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版

価格	2 0 0 円+税
ISBN・ISSN	978-4-303-12432-8

参考URL

備考

肢体不自由教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP308
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由教育
科目責任者	小久保 元
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006101 土2
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 教育現場との関わりを大切にし、具体的事例を基に授業を進める。
2. 肢体不自由児の視点に立って教育活動を考える。
3. レポートやグループ討議を通して、指導者としての心構えや基礎力を培う。

学生の達成目標

1. 特別支援教育の一環としての肢体不自由教育について知る。
2. 教育職として必要な心構えを身につけるために教育内容や指導方法について学ぶ。

授業内容

第1回	肢体不自由の子どもについて考える(講義及びレポートの視点として)(目標 1, 2)
第2回	子ども観・指導観・教育観について見つめ直す(目標 1)
第3回	子どもの自立と学力について考える(目標 1, 2)
第4回	子どもの自立と個別的教育支援計画が果たす役割について考える(目標 1, 2)
第5回	子どもの自立に向けて、個別の指導計画をどのように作成すればよいか考える(目標 2)
第6回	子どもの自立に向けて、個別の指導計画の活用のかたを実践事例から学ぶ(目標 2)
第7回	肢体不自由児の教育課程(カリキュラム)について考える(目標 1, 2)

	第8回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標 2) <教科>
	第9回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標 2) <総合的な学習>
	第10回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標 1, 2) <自立活動・個の成長>
	第11回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標 1, 2) <自立活動・コミュニケーション>
	第12回	コミュニケーション支援の具体的な方法を探る(目標 1, 2)
	第13回	医療的ケアの現状と課題について知る(目標 1)
	第14回	医療的ケアについて, 教育としての取組みの実践事例から心構えを学ぶ(目標 2)
	第15回	訪問教育の置かれている現状と課題について考える(目標 1, 2)
予習・復習の内容	予習	肢体不自由児の生活について考えたり, 調べたりしておくこと。(特に困難さ, 不便さについて)
	復習	毎回の授業のねらいについて, 自身の考えとしてレポートにする。
	展開	肢体不自由児の学習姿勢を確立させるための工夫や実際を実践報告や研究報告で調べ, 知識や理解を深めると同時に教育観を練る。
成績評価	評価の基準	肢体不自由児教育について授業で扱った基礎的な内容が理解できたかどうか。肢体不自由児教育を通して特別支援教育について, 自らの考えを持ち, それを教育観としての確に説明できるかどうか。
	評価の方法	毎回提出するレポートの内容(70%), 授業への取組み姿勢(30%)等を考慮し, 総合的に判断する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	新たな肢体不自由教育実践講座
	著者名	全国肢体不自由養護学校長会 編著
	出版社	ジアーズ教育新社
	価格	2,381円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-47-2
参考URL		
備考	授業内容に応じて, グループ学習, ディスカッション, ロールプレイ等の参加型, 双方向授業を実施し, 児童の側に立った授業の工夫を実践していく。	

病弱教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP309
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱教育
科目責任者	昆 俊雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006201 土1
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、レポートやグループ討議等で考える機会を設けていく。

学生の達成目標 病弱教育の歴史や意義,病弱の子どもの心理特性,医療と教育・学校との関係,病弱教育の現代的課題等,概観しながら教育内容・指導法等について学び,基礎的理解を深める。

授業内容	第1回	病弱教育の歴史
	第2回	病気治療における教育の役割
	第3回	病気の子の理解・子どもの病気と心のケア
	第4回	病弱の特別支援学校における教育の実際 喘息, 慢性疾患, 肥満, 小児ガン, 心身症, 心臓疾患, 重症心身障害, 腎疾患, 筋ジス等の筋疾患, 等の教育
	第5回	院内学級, 特別支援教室等の教育の実際
	第6回	病弱教育の教育課程
	第7回	医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携
	第8回	病弱教育の指導法とまとめ

予習・復習の内容	予習	教育内容に示しているキーワード等、事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	授業後の要旨をまとめ、整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

	展開	授業内容に関連する事項などに関し、教科書や配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	試験，レポート等で総合的に評価
	評価の方法	試験20%，レポート等80%で成績を総合する。
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会/編著 丹羽登/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」PART V（病弱教育の視点からの医学事典）
	著者名	西間三馨/監修 横田雅史/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	6,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-20-5
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP403
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	視覚・聴覚障害教育総論
科目責任者	伊藤 和男 松本 末男
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006301 土2
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	視覚障害教育総論（伊藤和男） 見えない見えにくい児童の教育は、個々の視機能を考慮すると共に、触覚や聴覚などを活用して指導することが必要である。本授業では、この基本的立場を念頭に、現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶと共に、特別支援教育下における盲学校のあり方と視覚障害児に適した教育の場についても考える。講義形式。 聴覚障害教育総論（松本末男） 聴覚障害に関わる生理・病理・心理について基礎的な内容を理解し、聴覚障害児のニーズに合わせた指導を理解し、支援を進めるための基本的な資質を養う。
学生の達成目標	（伊藤和男） 1. 視覚障害教育を概括的に学習し、視覚障害児の特性と指導法を理解する。 2. 特別支援教育における視覚障害教育の意義と今後の広がりについても学習する。 （松本末男） 1. 聴覚障害についてその障害の現れ方や、コミュニケーションの方法を理解する。 2. 言語を獲得する乳幼児期から幼児期、学齢以降の言語指導について、支援の方法を学ぶ。
授業内容	（伊藤和男） 【視覚障害教育の概要】 第1回 視覚機構と視覚障害 視機能の検査（教育的評価） 視覚障害児童生徒の実態と教育の場（目標1） 第2回 【教育課程と指導法】 教育課程・指導計画の作成

		盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮 視覚障害児のための教材・教具（教科書）（目標1）
	第3回	【自立活動の基本と指導】 視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義 特設時間における指導の進め方と指導内容（目標1）
	第4回	【乳幼児期における支援】 盲学校幼児部の歩みと現状 幼児部における教育と視覚障害児の指導内容 幼稚園や保育所等に通う視覚障害児の援助（目標1,2）
	第5回	（松本末男） 「聴覚障害の生理、病理、心理面の理解」 聴覚器官の構造、聴覚障害の原因と分類、聴力検査、聴力レベルと オーディオグラム、聴覚補償、難聴体験を通じた活動のあり方（目標 1：聴障の病理や分類。障害からくる問題の理解。）
	第6回	「乳幼児期の支援」 AABRによる周産期の障害発見から母親への支援、乳児への支援の あり方(目標2：乳幼児期の両親への支援と、支援する際の配慮事 項の理解)
	第7回	「幼児期の指導」 言語獲得期の言語指導のあり方、聴覚の活用のための支援、人工内 耳装用児への支援、発音指導、絵日記の活用（目標2：幼児期の指 導の重要性の理解）
	第8回	「聴覚障害児、生徒のコミュニケーション」 教科指導、聴覚口話方、手話法、指文字、トータルコミュニケー ション、バイリンガル・バイカルチャルアプローチ、普通学級の聴 覚障害児への支援（目標1：様々な方法を含めたコミュニケーション）
予習・復習の内容	予習	（伊藤和男） 予めテキストを読み、関連事項を図書館等で調べるなどして授業に 備える。 （松本末男） 教科書に目を通して、問題点を把握、疑問点の整理をしておく。
	復習	（伊藤和男） 授業で配布されたプリントやノートを読み直すと共に、実践例など を視覚特別支援学校のホームページや関連参考書で確認して定着を 図るように心がける。 （松本末男） 当日配られた資料を読み、要点をまとめていく。
	展開	（伊藤和男） それぞれが興味を持った内容について、視覚障害教育の専門書によ り、さらに学習を深める。 （松本末男） 興味に合わせて、専門書を紹介するので、より深く学習をする。
成績評価		
	評価の基準	（伊藤和男） 視覚障害児の特性を理解したうえで、視覚障害教育における自 立活動や教科指導の基本的な事項を習得することを目的に行う 指導であることから、その学習に対する意欲や態度、理解度な どを総合的に勘案して評価する。 （松本末男） 聴覚障害の特徴を理解し、聴覚障害児の教育について講義した 内容を概括でき、理解しておくこと。講義を通して考えた聴覚 障害児教育のあり方をまとめ、自らの考えを持ち、説明でき る。
	評価の方法	（伊藤和男） 授業への取り組み40点、レポート60点、合計100点として評価 する。 （松本末男）

毎回の授業時のレポート40%，最終レポート60%を原則とする。但し，この比率は若干変更することもありうる。

教科書

書籍名	視覚障害教育に携わる方のために
著者名	香川邦生/編著
出版社	慶應義塾大学出版会
価格	3,000円+税
ISBN・ISSN	978-4-7664-1781-4

書籍名	改訂版 聴覚障害教育の基本と実際
著者名	中野善達，根本匡文
出版社	田研出版
価格	2,500円+税
ISBN・ISSN	978-4-86089-018-6

推薦図書等

参考URL

備考

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP404
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	学習障害・重複障害等教育総論
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006401 土3
教室	講義室14
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	発達障害等の障害特性について基本的な理解を図り、望ましい教育的支援の方法について学ぶ 重複障害について基本的な理解を図り、望ましい教育的支援の方法について学ぶ	
学生の達成目標	1.発達障害、重複障害について基本的な内容を説明することができる 2.得た知識をもとに、障害のある子どもたちへの支援方法を考えることができる	
授業内容	第1回	発達障害の理解（目標1）
	第2回	LDの基本的理解（目標1）
	第3回	LDの教育的支援（目標1，2）
	第4回	ADHDの基本的理解（目標1）
	第5回	ADHDの教育的支援（目標1，2）
	第6回	ASD等の理解と支援（目標1，2）
	第7回	重複障害の理解と教育的支援の方法（目標1，2）
	第8回	早期発見・早期支援 学習のまとめ（目標1，2）
予習・復習の内容	予習	1年次に学んだ障害関係の授業について復習をしておくこと。 関連のある報道について理解をし、自分の考えを持っておくこと。
	復習	得た知識を教科書で確認する。 さらに深く広く知識を得ること。

	展開	協議で出た意見については聞き流すことなくまとめておくこと。授業で学んだことと実習など現場で学んだことを関連づけて考えること。
成績評価	評価の基準	・発達障害、重複障害等について基礎的な内容が理解できていること。 ・協議に積極的に参加し、的確に自分の考えを述べ、さらに深めることができていること。
	評価の方法	発言・発表（30％）提出物（20％）定期試験（50％） この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	はじめての特別支援教育 改訂版
	著者名	柘植雅義他
	出版社	有斐閣
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	978-4- 6 41-22038-6
推薦図書等	書籍名	LD ADHD & ASD（季刊誌）
	著者名	上野一彦
	出版社	明治図書
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	特別支援教育研究（月刊誌）
	著者名	全日本特別支援教育研究連盟
	出版社	東洋館出版
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	LD ADHD等関連用語集
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1,190円
	ISBN・ISSN	978-4-8210-7333-1
参考URL		
備考		

言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP405
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	言語障害教育総論
科目責任者	堀 彰人
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006501 土1,2
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義を中心とするが、その中で事例の紹介や、指導に関する実技等も含めて理解を深めていく。	
学生の達成目標	1.構音障害,吃音,言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。 2.子どもの言語障害に関する指導について,事例を通して学ぶ。 3.学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。	
授業内容	第1回	オリエンテーション及び言語やコミュニケーションの発達の基礎について学習する。(目標1)
	第2回	言語発達の遅れ,言語性学習障害等に関するアセスメント,指導(AACを含む)について学習する。(目標2)
	第3回	構音障害の基礎について学習する。(目標1)
	第4回	構音障害に関するアセスメント,指導について学習する。(目標2)
	第5回	吃音の基礎について学習する。(目標1)
	第6回	吃音に関するアセスメント,指導について学習する。(目標2)
	第7回	言語障害教育の歴史や指導の場,現状と課題について概観する。(目標3)
	第8回	学習のまとめ(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	子どもとのコミュニケーションやその支援について、自らの体験を通した課題意識をもち、それを整理して表現できるようにしておくこと。
	復習	毎回の授業の内容を振り返り、ポイントを整理しておくこと。
	展開	関心をもった領域について、さらに知識を得たり、その後の体験の中で、自らと子どもとの関係を見つめながら、さらに考察を深めていく。
成績評価	評価の基準	子どもに日常的に関わる専門職として、子どもの言語障害とその支援について、授業で扱った基礎的な内容を理解できていること。
	評価の方法	1. 毎回の小テスト等の提出50%, 2. 期末テスト50%。 ただし、この比率は、授業への参加態度を加味することも含め、最終的に若干の変更を行う場合がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	子どもがどもっていると感じたら
	著者名	廣 篤 忍・堀 彰人 編
	出版社	大月書店他
	価格	1,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-272-40322-6
参考URL	http://nangen.jp http://forum.nise.go.jp/kotoba/htdocs/ http://zengenren.org/ http://kituonkenkyu.org/ http://www.kitsuon-portal.jp/	
備考	推薦図書は随時紹介する。	

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR311
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習
科目責任者	堀 彰人
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 相磯 友子 根本 曜子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30016601
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 特別支援学校での教育実習を通して、特別支援学校の教員としての資質・能力を高める。

学生の達成目標 次の3点を達成目標とする。
1.特別支援教育で求められる専門的な知識・技能を身につけ、
2.子どもへの適切な指導・支援を学び実践するとともに、
3.教員の職務とその使命を理解する。

授業内容 後期の10月に実施する。
1. 特別支援学校の学校生活の計画と実際を理解する。
・ 一日、一週間、一年間の生活の流れ
・ 教育課程の概要 など（目標3）

2. 指導・指導計画の作成や授業の進め方を学ぶ。
・ 各授業の年間計画や単元計画の実際
・ 指導計画や支援（指導）案の作成
・ 授業計画の実際 など（目標1,2）

3. 障害のある子どもへの適切な指導・支援を学ぶ。

- ・子ども個々の様子の把握の仕方
- ・個別の指導（支援）計画
- ・支援の実際―「できる状況づくり」の工夫
- ・授業中の声かけや手助け など（目標1,2）

4. 教師のあり方やなすべき様々な仕事の理解

- ・望ましい教師の姿
- ・教材準備や学級便り作成等、教師の仕事の実際 など（目標3）

予習・復習の内容	予習	実習配属先の学校要覧を取り寄せ、実習先の方針や児童生徒の概要の把握に努める。
	復習	授業のポイントを整理し、指導案・支援案の作成に生かす。
	展開	個々の様子の把握、個々に応じた支援・指導の工夫を、他の実習等に生かす。
成績評価	評価の基準	実習中の姿勢や意欲、指導案等書類の作成も含めた実習先の評価を参考に評価する。
	評価の方法	実習先からの評価表90%と実習に関わる記録簿、指導案等の課題の提出10%をもとに評価を行う。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR310
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006801 前期：土5 後期：土4
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。 2. 特別支援教育の教育課程の特色及び指導法の他、実習校の概要の理解を深める。 3. 支援（指導）案、記録簿の書き方や、子どもの様子の把握と支援等について学ぶ。	
学生の達成目標	次の3点を達成目標とする。 1. 特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通して 2. 特別支援学校教育従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに 3. 専門的な知識・技能を身につける。	
授業内容	第1回	実習の意義と目的（目標2,3）
	第2回	実習の意義と目的（目標2,3）
	第3回	特別支援学校の概要の理解（目標1,2）
	第4回	特別支援学校の概要の理解（目標1,2）
	第5回	児童・生徒への支援的対応について（目標1,2）
	第6回	児童・生徒への支援的対応について（目標1,2）
	第7回	実習における態度・実習における自己目標の設定（目標2）
	第8回	実習における態度・実習における自己目標の設定（目標2）
	第9回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標3）

	第10回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標3）
	第11回	実習先での事前訪問とオリエンテーション（目標2,3）
	第12回	実習校との手続き（目標1,2）
	第13回	実習日誌の整理・実習の自己評価（目標1,2,3）
	第14回	実習日誌の整理・実習の自己評価（目標1,2,3）
	第15回	意見交換と反省・まとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	実習先の学校要覧をもとに、実習先のカリキュラムや児童生徒の概要の把握をする。
	復習	授業のポイントについて整理をする。
	展開	実際の特別支援学校での実習で学んだことを生かす。
成績評価	評価の基準	授業の参加姿勢の他、レポート等課題の提出状況を総合して評価する。
	評価の方法	授業の参加姿勢50%、レポート等課題の提出状況50%とする。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	特別支援学校学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	462円
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編等
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	473円
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
	書籍名	支援案の書き方 個別の支援計画
	著者名	太田俊己監修 千葉大学教育学部附属養護学校著
	出版社	K&H
	価格	1,995円
	ISBN・ISSN	978-4-99001197-3-7
推薦図書等	書籍名	感じ合い 分かり合い 支え合い
	著者名	小出進
	出版社	生活中心教育研究会
	価格	1,000円
	ISBN・ISSN	－
	□上記の図書等は市販されていません。	

参考URL

備考

ボランティア体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR101
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	ボランティア体験実習
科目責任者	田村 光子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30006701（前期）金5（後期）水4
教室	（前期）中講義室（後期）講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	幼児教育、保育、障害児者福祉関係のボランティア活動に参加し、現場での子どもたちとの実際的な関わりやコミュニケーションをはかることにより、専門職として働くことの意義を知り、自己を見つめなおし、2年次の本格的な実習への目的意識を高める。
学生の達成目標	1. 幼児教育、保育、障害児者福祉の各領域・分野から各自の興味に合わせた活動を選択し、現場の活動に参加する。現場での関わりを通して、具体的・実際的な支援の必要性を知る。 2. 体験の導入と振り返りの指導により、人間関係力・社会関係力を身につけ、よりよい職業選択につなげる。
授業内容	【第1回】 ボランティア体験実習ガイダンス（目標1，2） 履修の心得、ボランティア活動参加における心構えについて 【第2回】 ボランティア体験実習計画の作成（目標1，2） 1年間のボランティア体験実習の計画をたてる。 どのようなところにボランティアに行きたいか、身近な地域のボランティア活動の内容についても把握する。 【第3回】 領域・分野別活動参加（目標1） 次の領域・分野のうち1つあるいは複数を選択し、活動参加する。活動参加時間は通算5日以上（40時間以上）を必要とする。 （1）保育関連の活動体験 幼稚園、保育園でのボランティア参加、子育て支援センター、子育てリラックス館におけるボランティア参加、その他幼児教育・保育の現場とみとめられる諸活動・実践へのボランティア参加

(2)「障害児教育・福祉」に関する活動体験
 障害児入所施設における施設ボランティア参加
 障害児地域生活支援団体における外出支援ボランティア参加
 特別支援学校における行事ボランティア参加
 その他、障害児教育、障害児福祉の現場とみとめられる諸活動・実践へのボランティア参加
 (3) その他、地域における教育、福祉に関する活動体験
 上記(1)、(2)の領域に関連するボランティア依頼のあった団体への活動参加
 ※担当教員、コーディネーターにより適当と認められたもののみ時間数とする。

【第4回】 ボランティア講演会への参加(目標2)
 ボランティア活動について、また地域子育て支援に関する講師を招いて講演会を実施する。
 学生は講演会に参加し、感想シート(800字程度)を作成する。

【第5回】 ボランティア体験実習のまとめ(目標1, 2)
 活動参加記録シート、まとめレポート(1000字程度)を作成する。実習計画シート、講演会感想シートとあわせて冊子にまとめ、提出する。

予習・復習の内容	予習	ボランティア参加のための事前準備（ボランティア先のアポイントメント、出欠席や持ち物などの諸連絡、あいさつ等）各自責任を持って対応すること。
	復習	講演会への参加については欠席のないようにすること。また講演会についての感想レポートも必ず提出する。 ボランティア実習計画、活動記録、まとめシート等、指示されたレポート課題を期限までに提出する。
	展開	事前準備に関してわからない点は、教員またはコーディネーターに相談すること。
成績評価	評価の基準	ボランティアへの規定時間における活動参加に加え、ガイダンス、講演会への参加を基本とする。
	評価の方法	ボランティア活動への参加レポートの提出（８０％） 授業及び講演会への参加態度・意欲（２０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	活動計画や参加記録、また講演会の感想等のシートは配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR202
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習Ⅰ（保育所）
科目責任者	松原 敬子
担当教員	大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014301
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・保育所における実践的な体験を通して専門的な知識や技能を身につける。
- ・保育所の機能と保育士の職務や乳幼児への理解を深めていく。

学生の達成目標

1. 保育所の役割や機能及び子どもの関わりを通し子ども理解を深めていく。
2. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業内容

- 後期の11月下旬～12月上旬に実施する。
- 1, 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所の生活と一日の流れ（目標1）
 - (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開（目標1）
 - 2, 子ども理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解（目標1）
 - (2) 子どもの発達過程の理解（目標1）
 - (3) 子どもへの援助やかかわり（目標1）

- 3, 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容（目標 1・2）
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育環境（目標 1・2）
 - (3) 子どもの健康と安全（目標 1・2）
- 4, 保育の計画・観察・記録
 - (1) 保育課程と指導計画の理解と活用（目標 2）
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価（目標 2）
- 5, 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容（目標 3）
 - (2) 職員間の役割分担や連携（目標 3）
 - (3) 保育士の役割と職業倫理（目標 3）

予習・復習の内容	予習	翌日の実習へのねらいを明確に持つ。 実習クラスの子どもの発達過程について保育所保育指針等で確認する。
	復習	実習のねらいに沿って省察し、保育の振り返りを実習記録簿に記入する。 実習記録簿等、実習先から指導された事項について修正を行う。
	展開	保育の現状と課題について関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育士としての資質向上に努める。

成績評価	評価の基準	実習先における評価は、内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は、巡回時の状況、記録簿の内容、実習への取り組み等により行う。
	評価の方法	原則として実習先における評価基準に準ずるが、学内担当教員の評価も加味して評価する。 評価の割合は、実習委員会の合議による。

教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	—
	ISBN・ISSN	—

推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	978-4577812426

参考URL	
-------	--

備考	
----	--

保育実習Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR305
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習Ⅰ（施設）
科目責任者	田村 光子
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014401
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける。

学生の達成目標 1.児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設での生活について体験的に理解する。
2.児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能について学ぶ。

授業内容 施設実習は原則、前期9月初旬に実施する。
・実習園の概要を知る（目標1）
・施設で暮らす利用者の実態を知る（目標1）
・施設における援助者の役割を知り、その一部を実際に経験する（目標2）
・実習記録を毎日提出して、担当指導者より指導を受け、施設の理解と援助内容の理解を深める（目標2）
・教員による巡回指導および実習施設での事後指導を受け、実習内容を振り返り、資質の向上に努める（目標2）

予習・復習の内容	予習	事前オリエンテーションおよび実習初日までに、実習記録簿における事前目標・施設概要等の準備をする。 事前訪問日のについての約束、必要な書類の準備等を各自責任をもって行う。
	復習	実習中は日々の記録で一日振り返り、考察するとともに、翌日の課題を明らかにしておく。 実習後は反省および実習の振り返りを記載する。
	展開	実習において不明な点は、すぐに明らかになるよう、実習指導者および巡回指導教員に指導をあおぐこと。 実習後、2週間以内に必ず記録簿を実習施設に提出する。返却をうけたら直ちに、指導教官に提出する。
成績評価	評価の基準	実習施設による評価、記録簿等を総合して評価する。
	評価の方法	実習施設による評価（90%）、記録簿等（10%）を総合する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR307
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習Ⅱ（保育所）
科目責任者	松原 敬子
担当教員	大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014501
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・保育所における実践的体験を通してより専門的な知識や技能を身につける。
- ・保育士としての自己の課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習Ⅰを踏まえ、保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
2. 保育の指導計画、記録及び自己評価について、実践を通し理解を深める。
3. 保育士の業務内容や職業倫理など具体的に学び、自己課題を明確化する。

授業内容

前期の6月下旬～7月上旬に実施する。

- 1, 保育所の役割と機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となって行われる保育（目標1）
 - (2) 保育所の社会的役割と責任（目標1）
- 2, 観察に基づく保育理解
 - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察（目標1・2）
 - (2) 保育士等の動きや実践の観察（目標1・2）
 - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握（目標1・2）
- 3, 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携

		(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (目標 1・2) (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (目標 1・2) (3) 地域社会との連携 (目標 1・2) 4, 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (目標 2) (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 (目標 2) 5, 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (目標 3) (2) 多様な保育の展開と職業倫理 (目標 3) 6, 自己の課題の明確化 (目標 3)
予習・復習の内容	予習	翌日の実習へのねらいを明確に持つ。 実習クラスの子どもの発達過程について保育所保育指針等で確認する。 責任実習においては、当該クラスの様子をよく観察した上で実習担当者に相談し準備を行う。
	復習	実習のねらいに沿って省察し、保育の振り返りを実習記録簿に記入する。 実習記録簿等、実習先から指導された事項について修正を行う。
	展開	保育の現状と課題に関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育士としての資質向上に努める。
成績評価	評価の基準	実習先における評価は、内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は、巡回時の状況、記録簿の内容、実習への取り組み等により行う。
	評価の方法	原則として実習先における評価基準に準ずるが、学内担当教員の評価も加味して評価する。 評価の割合は、実習委員会の合議による。
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	978-4577812426
参考URL		
備考		

保育実習Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR309
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習Ⅲ（施設）
科目責任者	田村 光子
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014601
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける。
学生の達成目標	1.児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設での生活について体験的に理解する。 2.児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能について学ぶ。
授業内容	施設実習は原則、前期9月初旬に実施する。 ・実習園の概要を知る（目標1） ・施設で暮らす利用者の実態を知る（目標1） ・施設における援助者の役割を知り、その一部を実際に経験する（目標2） ・実習記録を毎日提出して、担当指導者より指導を受け、施設の理解と援助内容の理解を深める（目標2） ・教員による巡回指導および実習施設での事後指導を受け、実習内容を振り返り、資質の向上に努める。（目標2）

予習・復習の内容	予習	事前オリエンテーションおよび実習初日までに、実習記録簿における事前目標・施設概要等を記入する。 事前訪問日の約束、必要な書類の準備等を各自責任をもって行う。
	復習	実習中は日々の記録で一日を振り返り、考察するとともに、翌日の課題を明らかにしておく。 実習後は反省および実習の振り返りを記載する。
	展開	実習について不明な点については、すぐ明らかになるよう、実習指導者および巡回指導教官に指導をあおぐこと。 実習後、2週間以内に必ず記録簿を実習施設に提出する。返却をうけたら直ちに、指導教官に提出する。
成績評価	評価の基準	実習施設による評価、記録簿等を総合して評価する。
	評価の方法	実習施設による評価（90%）、記録簿等（10%）を総合する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30014701 水1 30014702 水2
教室	講義室4
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。 ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。										
学生の達成目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の計画、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。 3. 実習の総括と自己評価から新たな課題や目標を明確にする。										
授業内容	<table> <tr> <td>第1回</td><td> 1. 保育実習の意義 (1) 実習の目的（目標1） (2) 実習の概要（目標1） </td></tr> <tr> <td>第2回</td><td> 1. 保育実習の意義 (1) 実習の目的（目標1） (2) 実習の概要（目標1） </td></tr> <tr> <td>第3回</td><td> 2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容（目標2） (2) 実習の課題（目標2） </td></tr> <tr> <td>第4回</td><td> 2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容（目標2） (2) 実習の課題（目標2） </td></tr> <tr> <td>第5回</td><td> 3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮（目標2） (2) プライバシーの保護と守秘義務（目標2） (3) 実習生としての心構え（目標2） </td></tr> </table>	第1回	1. 保育実習の意義 (1) 実習の目的（目標1） (2) 実習の概要（目標1）	第2回	1. 保育実習の意義 (1) 実習の目的（目標1） (2) 実習の概要（目標1）	第3回	2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容（目標2） (2) 実習の課題（目標2）	第4回	2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容（目標2） (2) 実習の課題（目標2）	第5回	3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮（目標2） (2) プライバシーの保護と守秘義務（目標2） (3) 実習生としての心構え（目標2）
第1回	1. 保育実習の意義 (1) 実習の目的（目標1） (2) 実習の概要（目標1）										
第2回	1. 保育実習の意義 (1) 実習の目的（目標1） (2) 実習の概要（目標1）										
第3回	2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容（目標2） (2) 実習の課題（目標2）										
第4回	2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容（目標2） (2) 実習の課題（目標2）										
第5回	3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮（目標2） (2) プライバシーの保護と守秘義務（目標2） (3) 実習生としての心構え（目標2）										

保育実習指導 I（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR201
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導 I（保育所）
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30014701 水1 30014702 水2
教室	講義室4
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。
- ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の計画、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。
3. 実習の総括と自己評価から新たな課題や目標を明確にする。

授業内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 1. 保育実習の意義
(1) 実習の目的（目標1）
(2) 実習の概要（目標1） |
| 第2回 | 1. 保育実習の意義
(1) 実習の目的（目標1）
(2) 実習の概要（目標1） |
| 第3回 | 2. 実習の内容と課題の明確化
(1) 実習の内容（目標2）
(2) 実習の課題（目標2） |
| 第4回 | 2. 実習の内容と課題の明確化
(1) 実習の内容（目標2）
(2) 実習の課題（目標2） |
| 第5回 | 3. 実習に際しての留意事項
(1) 子どもの人権と最善の利益の考慮（目標2）
(2) プライバシーの保護と守秘義務（目標2）
(3) 実習生としての心構え（目標2） |

	第6回	3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (目標2) (2) プライバシーの保護と守秘義務 (目標2) (3) 実習生としての心構え (目標2)
	第7回	3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (目標2) (2) プライバシーの保護と守秘義務 (目標2) (3) 実習生としての心構え (目標2)
	第8回	4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (目標2) (2) 実習における観察、記録及び評価 (目標2)
	第9回	4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (目標2) (2) 実習における観察、記録及び評価 (目標2)
	第10回	4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (目標2) (2) 実習における観察、記録及び評価 (目標2)
	第11回	4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (目標2) (2) 実習における観察、記録及び評価 (目標2)
	第12回	4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (目標2) (2) 実習における観察、記録及び評価 (目標2)
	第13回	5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価課題の明確化 (目標3)
	第14回	5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価課題の明確化 (目標3)
	第15回	5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価課題の明確化 (目標3)
予習・復習の内容	予習	実習の手引きの内容を理解する。 実習先について調べる。
	復習	実習に必要な準備や練習等を行う。
	展開	実習に臨む姿勢や留意すべき事項について確認する。
成績評価	評価の基準	実習への取り組む姿勢及び保育士としての知識と技能
	評価の方法	授業への受講意欲 (70%)・提出物 (10%)・ レポート (20%)
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	—
	ISBN・ISSN	—
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	190円+税

参考URL

備考

保育実習指導 I（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR304
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導 I（施設）
科目責任者	田村 光子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30014801 木3
教室	大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験に向けて、基礎的な知識・態度を学習、体得し、よりよい実習にむけての基礎を養う。	
学生の達成目標	1.実習にむけて、実習目標、実習課題を明確化し、よりよい実習に臨めるように準備する。 2.実習を通して学んだ専門職として必要な知識・技能について確認する。	
授業内容	第1回	実習の意義と目的（目標1）
	第2回	実習生紹介の作成（下書き）（目標1）
	第3回	実習生紹介の作成（清書）・その他提出書類の作成（目標1）
	第4回	実習施設の理解① 障害関係施設について（目標1）
	第5回	実習施設の理解② 児童関係施設について（目標1）
	第6回	障害者総合支援法におけるサービスの理解 子ども・利用者への支援的対応について（目標1）
	第7回	記録の意義と記録簿の記入の仕方① 自己目標の設定（下書き）（目標1）
	第8回	記録の意義と記録簿の記入の仕方② 日々の記録の書き方（障害施設）（目標1）
	第9回	記録の意義と記録簿の記入の仕方③ 日々の記録の書き方（児童施設）（目標1）

	第10回	記録の意義と記録簿の記入の仕方④ エピソードおよび感想の書き方（目標 1）
	第11回	実習にあたっての手続き① 事前訪問について（目標 1）
	第12回	実習にあたっての手続き② 検査等および提出・持参書類の確認（目標 1）
	第13回	実習にあたっての手続き③ 実習前の記録簿の確認（目標 1）
	第14回	実習にあたっての手続き④ 論文提出が必要な学生への指導（目標 1）
	第15回	実習後指導 自己評価と今後の課題の明確化（目標 2）
予習・復習の内容	予習	実習の手引きを参照に実習の意義と目的、および実習における態度について確認する。 実習にむけた自己目標を作成する。 実習施設についての理解、子ども・利用者への支援的対応についてまとめておく。
	復習	事後指導では、自己評価と今後の課題を明確化する
	展開	不明な点については、すぐに明らかになるように努める。実習事前、事後指導の中でわからない点については、担当教員の指導を仰ぐようにする。
成績評価	評価の基準	授業への参加態度、提出物などを総合して評価する。
	評価の方法	実習にむけての意欲・態度（50%） 提出物等の内容・提出状況（50%）を総合する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR306
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30014901 木1 30014902 木2
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。
- ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、総合的な学びから保育実践力を培う。
2. 保育の指導計画の立案や実践から保育の改善について事例を通して学ぶ。
3. 実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業内容

第1回	1. 保育実習による総合的な学び (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解（目標1） (2) 子どもの保育と保護者支援（目標1）
第2回	1. 保育実習による総合的な学び (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解（目標1） (2) 子どもの保育と保護者支援（目標1）
第3回	2. 保育実践力の育成 (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり（目標1） (2) 保育の表現技術を生かした保育実践（目標1）
第4回	2. 保育実践力の育成 (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり（目標1） (2) 保育の表現技術を生かした保育実践（目標1）
第5回	3. 計画と観察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践（目標2）

		(2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (目標2)
	第6回	3. 計画と観察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (目標2) (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (目標2)
	第7回	3. 計画と観察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (目標2) (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (目標2)
	第8回	3. 計画と観察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (目標2) (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (目標2)
	第9回	3. 計画と観察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (目標2) (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (目標2)
	第10回	3. 計画と観察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (目標2) (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (目標2)
	第11回	4. 保育士の専門性と職業倫理 (目標2)
	第12回	4. 保育士の専門性と職業倫理 (目標2)
	第13回	5. 事後指導における実習の総括と評価 (1) 実習の総括と自己評価 (目標3) (2) 課題の明確化 (目標3)
	第14回	5. 事後指導における実習の総括と評価 (1) 実習の総括と自己評価 (目標3) (2) 課題の明確化 (目標3)
	第15回	5. 事後指導における実習の総括と評価 (1) 実習の総括と自己評価 (目標3) (2) 課題の明確化 (目標3)
予習・復習の内容	予習	実習の手引きの内容を理解する。 実習先について調べる。
	復習	実習に必要な準備や練習等を行う。
	展開	実習に臨む姿勢や留意するべき事項について確認する。
成績評価	評価の基準	実習への取り組む姿勢及び保育士としての知識と技能
	評価の方法	授業への受講態度 (70%) ・ 提出物 (10%) ・ レポート (20%)
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	—
	ISBN・ISSN	—
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書

著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル館
価格	1 9 0 円+税
ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6

参考URL

備考

保育実習指導Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR308
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅲ（施設）
科目責任者	田村 光子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30015001 木4
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験に向けて、基礎的な知識・態度を学習、体得し、よりよい実習にむけての基礎を養う。	
学生の達成目標	1.実習にむけて、実習目標、実習課題を明確化し、よりよい実習に臨めるように準備する。 2.実習を通して学んだ専門職として必要な知識・技能について確認する。	
授業内容	第1回	実習の意義と目的（目標1）
	第2回	実習生紹介の作成（下書き）（目標1）
	第3回	実習生紹介の作成（清書）・その他提出書類の作成（目標1）
	第4回	実習施設の理解① 障害児療育の現場の理解（目標1）
	第5回	実習施設の理解② その他施設の現場の理解（目標1）
	第6回	障害者総合支援法におけるサービスの理解 子ども・利用者への支援的対応について（目標1）
	第7回	記録の意義と記録簿の記入の仕方① 自己目標の設定（目標1）
	第8回	記録の意義と記録簿の記入の仕方② 日々の記録の書き方（目標1）
	第9回	記録の意義と記録簿の記入の仕方③ エピソードおよび感想の書き方（目標1）
	第10回	実習にあたっての手続き① 事前訪問について 検査等提出物（目標1）

	第11回	実習にあたっての手続き② 実習前の記録簿記入事項の確認（目標 1）
	第12回	実習事後指導① 自己評価と今後の課題の明確化（目標 2）
	第13回	実習事後指導② 指導計画の振り返り（目標 2）
	第14回	実習事後指導③ 指導案集の作成（目標 2）
	第15回	実習事後指導④ 指導案集の編集（目標 2）
予習・復習の内容	予習	実習の手引きを参照に実習の意義と目的、実習における態度について事前に確認する。
	復習	実習に向けた自己目標を作成する。 実習施設についての理解、子ども・利用者への支援的対応についてまとめておく。
	展開	不明な点については、すぐにあきらかになるように努める。実習事前、事後指導の中でわからない点は、担当教員の指導を仰ぐようにする。
成績評価	評価の基準	授業への参加態度、提出物などを総合して評価する。
	評価の方法	授業への参加態度（50%）、提出物等（50%）を総合する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習Ⅰ（参観実習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR102
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育実習Ⅰ（参観実習）
科目責任者	相磯 友子
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014101 金2
教室	大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 幼稚園、特別支援学校等で、観察・参観実習を行う。 2. 1に向けてのオリエンテーションを実施する。
学生の達成目標	1.幼稚園の保育に接し、保育や子どもを見る際の観点をつかむ。 2.特別支援学校に在籍する子どもたちと触れ合うことを通して、障害ややさしい支援の在り方を考えるきっかけとする。
授業内容	前期4月～9月までに実施する。 【幼稚園における参観実習】 （1）幼稚園の保育を見学し、保育の流れ・保育者の動き・子どもの様子等を参観する。子どもたちの活動の中に入り、一緒に遊ぶ。（目標1） （2）幼稚園の園行事を参観し、行事のねらいに沿って展開される保育を体験する。子どもの様子や保育者の動き、保育者が保護者と関わる様子を観察する。（目標1） （3）幼稚園における保育の様子及び幼稚園の園行事に参加した記録をまとめる。（目標1）

【特別支援学校における参観実習】

- (1) 特別支援学校の各教室で子どもたちの様子を観察する。(目標2)
- (2) 特別支援学校の概要及び役割に関する講義を受ける。(目標2)
- (3) 特別支援学校における参観実習の記録をまとめる。(目標2)

予習・復習の内容	予習	自分の住んでいる地域にどのような幼稚園、特別支援学校があるか調べる。
	復習	参観実習での記録をまとめる。
	展開	幼稚園、特別支援学校でのボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	実習内容を理解し、実習に向けて自分なりに準備することができる事。参観記録を適切な言葉づかいで書くことができる事。
	評価の方法	授業への取り組み20%, 参観記録・レポート80%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習Ⅱ（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR303
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育実習Ⅱ（幼稚園）
科目責任者	阿部 アサミ
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014001
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	3
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・幼稚園における教育・保育の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うと共に、専門的な知識・技能を身につける。 ・子どもの生活の場である幼稚園の様子を体験的に理解する。
学生の達成目標	1.幼稚園の役割や機能と幼稚園教諭の役割について具体的な実践を通して理解を深める。 2.子どもとのかかわりを通して、子どもを理解する力を高める。 3.保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組む。 4.これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより今後の学習課題を明確にする。

授業内容	前期の5月下旬～6月中旬に実施する。	
	・実習園の概要を知る（目標1） ・子どもたちの生活の実態を知る（目標2） ・幼稚園における保育者の役割を知り、その一部を実際に経験する（目標1） ・実習記録を毎日提出して担当教諭の指導を受け、子どもの理解と保育者の援助の理解を深める（目標2.3） ・指導計画を立て、計画に基づいて準備・実践・評価を行う（目標3.4）	
予習・復習の内容	予習	翌日の保育の予定を確かめ、教材等の準備をする。 部分実習や責任実習の指導案を作成し、指導を受け、準備する。
	復習	その日の保育を振り返り、ねらいに沿って省察し、実習記録簿に記録する。指導された事項について修正を行う。
	展開	幼稚園教育の現状と課題について関心を持つ。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準	実習園の評価は、内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。学内担当の評価は、巡回時の状況、記録簿の内容、実習への取り組み等によって行う。
	評価の方法	実習園の評価に、学内担当の評価を加味して評価する。
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	－
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
教科書	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	190円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81245-7
推薦図書等		
参考URL		
備考	事前指導を受けた者のみが参加できる。	

教育実習Ⅲ（特別支援学校・学級）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR203
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育実習Ⅲ（特別支援学校・学級）
科目責任者	相磯 友子
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014201
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻； 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	実習先の特別支援学校等で事前・事後指導を受け、実習期間中は毎日日誌を提出する。
学生の達成目標	1.特別支援学校等での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。 2.特別支援学校等において実習を行う。 実習を記録簿にまとめる。
授業内容	後期11月～2月までに実施する。 特別支援学校・小学校特別支援学級での実習 ・実習校でのオリエンテーション（目標1） ・特別支援学校等における実習（目標2） ・観察、参観、部分実習（1週間）（目標2） ・実習校での反省会（目標1・2）

予習・復習の内容	予習	特別支援学校にどのような種類があるのかを調べる。
	復習	自分の実習先の特別支援学校の教育課程について調べ、まとめる。
	展開	朝の会などを想定し、指導案（略案）を作成する。
成績評価	評価の基準	特別支援学校等において、自分なりの課題意識を持って実習に取り組み、特別支援学校等の教職員と幼児・児童と関係を築きながら実習を行うことができること。 記録簿は、適切な言葉で幼児・児童の様子と支援と支援の意図を書くことができること。
	評価の方法	実習先の特別支援学校等による評価60%、実習記録簿40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR302
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導
科目責任者	相磯 友子 阿部 アサミ
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30015101 (前期)月3 (後期)金4 30015102 (前期)月2 (後期)金4
教室	(前期)中講義室 (後期)大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	幼稚園、特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。	
学生の達成目標	1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要な準備を整える。 2.保育、教育の場に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方を学び、考える。 3.実習での体験を踏まえて、今後の学習への意欲を高める。	
授業内容	第1回	〈教育実習Ⅱ事前・事後指導〉実習の目的・概要等のオリエンテーション (目標1)
	第2回	書類作成と実習中の心構え (目標1.2)
	第3回	幼稚園の実際・子どもへのかかわり方 (目標2)
	第4回	記録簿の書き方① (目標1)
	第5回	記録簿の書き方② (目標1)
	第6回	幼稚園の教育課程と指導計画 (目標1.2)
	第7回	指導計画の立て方① (目標1)
	第8回	指導計画の立て方② (目標1)
	第9回	自己目標の明確化・直前指導 (目標1.2)
	第10回	実習のまとめ (目標3)

	第11回	〈教育実習Ⅲ事前・事後指導〉 実習の目的・概要等のオリエンテーション（目標1）
	第12回	特別支援学校の概要（目標1.2）
	第13回	特別支援学校の教育課程とキーワード（目標1.2）
	第14回	記録簿の書き方（目標1）
	第15回	実習のまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	実習の手引きに目を通し、内容を理解して疑問点を明確にしておく。実習先の園や学校について、インターネット等で調べる。
	復習	必要な準備や練習等を行う。
	展開	幼稚園教諭としての心得や、保育・教育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準	実習の目的、概要、授業で取り扱った内容を理解し、記録簿や関係書類を適正に整え、心身の備えを含めて実習の準備を行うことができる。 実習終了後、実習を振り返り、今後に向けて課題を的確にとらえることができる。
	評価の方法	レポート・課題への取り組みと達成度70% 参加態度や姿勢30%
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	－
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	幼稚園教育要領解説書
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81245-7
	書籍名	流れがわかる 幼稚園・保育所実習 一発達年齢、季節や場所に合った指導案を考えよう－
	著者名	松本峰雄 監修 浅川蘭子・鍛治礼子・才郷真弓・田中幸・堀 科 著
	出版社	明文書林
	価格	1,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89347-217-5
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教職実践演習（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR401
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼稚園）
科目責任者	佐藤 慎二
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	50000001 金1 50000002 金1 50000003 金1 50000004 金1 50000005 金1 50000006 金1 50000007 金1 50000008 金1 50000009 金1 50000010 金1 50000011 金1
教室	講義室1 ゼミ室 4 講義室2 講義室3 ゼミ室 3 音楽室 講義室5 セミナー室1 講義室7 セミナー室2 ティング・ホール 1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼稚園教諭(保育者)としての資質、能力をどの程度身につけたかを確認し、得意を伸ばし、課題を補い、幼稚園教諭として自信と意欲をもって出発できるようにする。

学生の達成目標

1. 障害の有無にかかわらず、どの子どもも支える学級経営の基本を理解する。
2. 学級経営や日常の保育における具体的な支援方法を身につける。
3. 保護者や関係機関との連携の基本を身につける。

授業内容

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション(目標1. 2. 3) |
| 第2回 | 現役教諭による講話と演習「子どもが求める保育者像」(目標1) |
| 第3回 | 現役教諭による講話と演習「保護者が求める保育者像」(目標1. 3) |
| 第4回 | 幼稚園における教師の責任、倫理、服務規律の確認、チームティーチング、保護者対応の確認(目標1. 2. 3) |
| 第5回 | 救急救命講習会(目標2) |
| 第6回 | 子どもの前に立つー絵本・紙芝居の模擬授業(目標2) |
| 第7回 | 子どもの前に立つー手遊びの模擬授業(目標2) |
| 第8回 | 子どもの前に立つー室内ゲームの模擬授業(目標2) |
| 第9回 | 子どもの前に立つーピアノなどなど取り入れた音楽遊びの模擬授業(目標2) |
| 第10回 | 子どもの前に立つー図工的な保育・遊びの模擬授業(目標2) |
| 第11回 | 子どもの前に立つー季節に応じた遊びの検討会(目標2) |
| 第12回 | 保護者との連携ー保護者会の実際の検討(目標3) |
| 第13回 | 保護者との連携ー個別相談支援の実際の検討(目標3) |
| 第14回 | 保育室及び園環境全体のレイアウトの実際の検討(目標1. 2) |
| 第15回 | 関係機関と連携した早期相談支援の実際(目標3) |

予習・復習の内容

- | | |
|----|---------------------------|
| 予習 | ○指示された事前の練習や準備を行うこと。 |
| 復習 | ○指摘を受けた内容については繰り返し練習すること。 |
| 展開 | ○ボランティア先で、率先して実践すること。 |

成績評価

- | | |
|-------|---|
| 評価の基準 | 各課題の理解度及び参加態度 |
| 評価の方法 | 模擬授業の様子(50%)及びそれへの討論の内容・姿勢(30%)、レポート(20%)を踏まえ、総合的に評価する。 |

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	中坪 晃一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001001 (前期)火1 (後期)金2
教室	ゼミ室4
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 これまで学修を踏まえ、障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って卒業研究をまとめ、保育・障害支援についての理解を一層深める。

学生の達成目標

- 1.障害児者等の保育・教育・生活の場での参観・実習・ボランティア活動等を通して、生活の整え方や障害への支援の仕方等について理解を深める。
- 2.設定したテーマに沿って、論文としてまとめる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業の進め方）。（目標1・2）
	第2回	卒業研究の意義と方法について。（目標1・2）
	第3回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、テーマ設定について検討。（目標1・2）
	第4回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、テーマ設定について検討。（目標1・2）
	第5回	テーマ設定に基づき、参観・ボランティア先の協議・打診。（目標1・2）
	第6回	テーマ設定に基づき、参観・ボランティア先の確認・決定。（目標1・2）
	第7回	参観記録の方法、問題の明確化等について検討。（目標1・2）
	第8回	各自の研究テーマの発表・協議。（目標1・2）
	第9回	各自の研究テーマの発表・協議。（目標1・2）

	第10回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第11回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第12回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第13回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第14回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第15回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第16回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第17回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第18回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。（目標1・2）
	第19回	参観先の様子とテーマ設定等についての発表（中間発表）・協議。（目標1・2）
	第20回	参観先の様子とテーマ設定等についての発表（中間発表）・協議。（目標1・2）
	第21回	論文の構成・体裁，執筆方法等について。（目標1・2）
	第22回	関係資料の収集・文献研究。（目標1・2）
	第23回	関係資料の収集・文献研究。（目標1・2）
	第24回	論文の執筆過程での相談支援。（目標1・2）
	第25回	論文の執筆過程での相談支援。（目標1・2）
	第26回	論文の執筆過程での相談支援。（目標1・2）
	第27回	論文の執筆過程での相談支援。（目標1・2）
	第28回	論文の執筆過程での相談支援。（目標1・2）
	第29回	論文の加除・修正。論文の提出。（目標1・2）
	第30回	卒業研究発表会。（目標1・2）
予習・復習の内容	予習	設定したテーマに沿って、参考文献等をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うとともに、ボランティア活動等調査・研究活動の事前準備を行い実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や研究テーマ発表会・中間発表会等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査・研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連するテーマや他施設等の情報等を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果・考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10% 調査・研究活動への取り組み10%。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

書籍名	「今を豊かに生きる」
著者名	小出進監修 名古屋恒彦・高倉誠一編著
出版社	大揚社
価格	2000円(+税)
ISBN・ISSN	ISBN4-7952-4393-x C0037

推薦図書等

書籍名	「生活中心教育の展開」
著者名	小出進監修 生活中心教育研究会編
出版社	大揚社
価格	2800円(+税)
ISBN・ISSN	ISBN4-7952-4370-0

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	佐藤 慎二
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001002 (前期)火1 (後期)金2
教室	(前期)中講義室 (後期)講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 保育所・幼稚園等における「気になる」子ども、発達障害のある子どもの理解と支援の在り方について実践的な研究(具体的な支援方法を含む)を深める。

学生の達成目標 1.「気になる」子どもや発達障害のある子どもの思いの理解。
2.授業で取り上げる具体的な支援方法を身につける。
3.卒業研究としてまとめる。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標1. 2. 3) |
| 第2回 | ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標1. 2. 3) |
| 第3回 | ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標1. 2. 3) |

第4回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標 1. 2. 3)
第5回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標 1. 2. 3)
第6回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標 3)
第7回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標 3)
第8回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標 3)
第9回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標 3)
第10回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標 3)
第11回	○執筆と相談(目標 3)
第12回	○執筆と相談(目標 3)
第13回	○執筆と相談(目標 3)
第14回	○執筆と相談(目標 3)
第15回	○執筆と相談(目標 3)
第16回	○中間発表会 I (目標 3)
第17回	○執筆と相談(目標 3)
第18回	○執筆と相談(目標 3)
第19回	○執筆と相談(目標 3)
第20回	○執筆と相談(目標 3)
第21回	○執筆と相談(目標 3)
第22回	○執筆と相談(目標 3)
第23回	○中間発表会 II (目標 3)
第24回	○執筆と相談 →提出(目標 3)
第25回	○執筆と相談 →提出(目標 3)
第26回	○執筆と相談 →提出(目標 3)
第27回	○執筆と相談 →提出(目標 3)
第28回	○執筆と相談 →提出(目標 3)
第29回	○執筆と相談 →提出(目標 3)
第30回	○卒業研究発表会(目標 3)

予習・復習の内容	予習	積極的に資料収集を行い、具体的な支援方法を調べること。
	復習	指摘を受けた点をすぐに論文作成に反映すること。
	展開	○周辺領域の課題について資料にあたること。 ○ボランティア先で、積極的に実践すること。
成績評価	評価の基準	「気になる」、発達障害のある子どもの思いの理解と具体的な支援方法の習得度及び卒業研究の内容。
	評価の方法	卒業研究への努力と熱意(50%)、研究内容(50%)を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	学生のテーマに合わせて、参考文献、資料等を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	山本 邦晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001003 (前期)火1 (後期)金2
教室	(前期)講義室1 (後期)講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 これまで学修を踏まえ、障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って卒業研究をまとめ、保育・障害支援についての理解を一層深める。

学生の達成目標 1.障害等のある子どもの保育・教育・生活の場での参観・実習・ボランティア活動等を通して、実際にその場での生活を体験し、生活の整え方や、障害への支援の仕方等について理解を深める。
2.設定したテーマに沿って、論文としてまとめる。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標1・2） |
| 第2回 | ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標1・2） |
| 第3回 | ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標1・2） |

第4回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標1・2）
第5回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標1・2）
第6回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標1・2）
第7回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標1・2）
第8回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標1・2）
第9回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標1・2）
第10回	○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標1・2）
第11回	○執筆と相談（目標1・2）
第12回	○執筆と相談（目標1・2）
第13回	○執筆と相談（目標1・2）
第14回	○執筆と相談（目標1・2）
第15回	○執筆と相談（目標1・2）
第16回	○中間発表会Ⅰ（目標1・2）
第17回	○執筆と相談（目標1・2）
第18回	○執筆と相談（目標1・2）
第19回	○執筆と相談（目標1・2）
第20回	○執筆と相談（目標1・2）
第21回	○執筆と相談（目標1・2）
第22回	○執筆と相談（目標1・2）
第23回	○中間発表会Ⅱ（目標1・2）
第24回	○執筆と相談→提出（目標1・2）
第25回	○執筆と相談→提出（目標1・2）
第26回	○執筆と相談→提出（目標1・2）
第27回	○執筆と相談→提出（目標1・2）
第28回	○執筆と相談→提出（目標1・2）
第29回	○執筆と相談→提出（目標1・2）
第30回	○卒業研究発表会（目標1・2）

予習・復習の内容	予習	設定したテーマに沿って、参考文献等をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うとともに、ボランティア活動等調査研究活動を行い実際の状況を把握する。
	復習	別の協議や研究課題発表会・中間発表会等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連する他施設等の情報等を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果・考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み10%ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名	「今を豊かに生きる」
	著者名	小出進監修 名古屋恒彦・高倉誠一編著
	出版社	大揚社
	価格	2,000円(+消費税)
	ISBN・ISSN	—
推薦図書等	書籍名	「生活中心教育の展開」
	著者名	小出進監修 生活中心教育研究会編
	出版社	大揚社
	価格	2,800円(+消費税)
	ISBN・ISSN	978-4795243705
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001004 (前期)火1 (後期)金2
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	実際の保育や教育場面に関わりをもって自ら問題意識を高めること	
学生の達成目標	1.発達障害の子どもたちの困難やその気持ちを理解し支援について理解する 2.設定したテーマに添って、卒業研究としてまとめる	
授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	卒業研究の意義と方法について（目標1,2）
	第3回	それぞれの関心などについて意見交換し、課題設定について検討する①（目標1,2）
	第4回	それぞれの関心などについて意見交換し、課題設定について検討する②（目標1,2）
	第5回	研究方法について 資料収集、調査方法、観察方法、個人情報の取り扱い等（目標1,2）
	第6回	課題設定に基づく研究方法の検討①（目標1,2）
	第7回	課題設定に基づく研究方法の検討②（目標1,2）
	第8回	各自の研究課題の発表・協議①（目標1,2）
	第9回	各自の研究課題の発表・協議②（目標1,2）
	第10回	各自の課題に沿った研究活動・個別の相談支援①（目標1,2）
	第11回	各自の課題に沿った研究活動・個別の相談支援②（目標1,2）

	第12回	各自の課題に沿った研究活動・個別の相談支援③（目標1,2）
	第13回	各自の課題に沿った研究活動・個別の相談支援④（目標1,2）
	第14回	卒業研究執筆の方法（構成、体裁、執筆方法等）（目標1,2）
	第15回	各自の課題に沿った研究活動・個別の相談支援⑤（目標1,2）
	第16回	中間発表①（目標1,2）
	第17回	中間発表②（目標1,2）
	第18回	中間発表③（目標1,2）
	第19回	中間発表④（目標1,2）
	第20回	卒業研究執筆と相談①（目標1,2）
	第21回	卒業研究執筆と相談②（目標1,2）
	第22回	卒業研究執筆と相談③（目標1,2）
	第23回	卒業研究執筆と相談④（目標1,2）
	第24回	卒業研究執筆と相談⑤（目標1,2）
	第25回	卒業研究執筆と相談⑥（目標1,2）
	第26回	加筆と修正 相談①（目標1,2）
	第27回	加筆と修正 相談②（目標1,2）
	第28回	加筆と修正 相談③（目標1,2）
	第29回	卒業研究発表会①（目標1,2）
	第30回	卒業研究発表会②（目標1,2）
予習・復習の内容	予習	日頃から保育・特別支援教育などに関心を持ち、広く情報収集を行うこと 設定したテーマに添って、資料の収集を心がけておくこと
	復習	個別の相談や、中間発表における協議で出された課題等については、研究の振り返りを行い、論文に活かすこと
	展開	常に課題にそった研究や実践になっているか、意識してすすめること 進んで協議に参加し、異なった意見も理解しようと努めること
成績評価	評価の基準	計画的に研究をしているか 自己の考えを持っているか 課題にそった実践を行っているか
	評価の方法	卒業研究への努力 熱意 研究内容などを総合的に評価する（100%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	堀 彰人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001005 (前期)火1 (後期)金2
教室	ゼミ室3
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	これまでの学修を踏まえ、障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って卒業研究をまとめ、保育・障害支援についての理解を一層深める。	
学生の達成目標	達成目標を次の2点とする。知的障害のある子ども、青年、大人の生活の場—幼稚園、保育所、特別支援学校、各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア等を積み重ねて、 1.障害のある人の生活と不利を理解し、 2.生活の整え方や障害のある人への支援について理解を深める。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（授業の進め方）（以下すべて、目標1,2）
	第2回	卒業研究の意義と方法
	第3回	一人一人の関心等について意見交換し、課題設定
	第4回	一人一人の関心等について意見交換し、課題設定
	第5回	課題設定に基づき、参観・ボランティア先の決定
	第6回	課題設定に基づき、参観・ボランティア先の決定
	第7回	参観記録の方法、問題の明確化
	第8回	各自の研究課題の中間発表・協議
	第9回	各自の研究課題の中間発表・協議
	第10回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第11回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）

	第12回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第13回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第14回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第15回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第16回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第17回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第18回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第19回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第20回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第21回	論理的構成と論理的考察方法について
	第22回	執筆活動（指導を含む）
	第23回	執筆活動（指導を含む）
	第24回	執筆活動（指導を含む）
	第25回	執筆活動（指導を含む）
	第26回	執筆活動（指導を含む）
	第27回	執筆活動（指導を含む）
	第28回	執筆活動（指導を含む）
	第29回	執筆活動（指導を含む）
	第30回	卒業研究発表会
予習・復習の内容	予習	設定したテーマにそって、参考文献をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うと共に、ボランティア活動等、調査研究活動を行い、実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連する他施設等の情報を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・結果・考察等の妥当性・成果及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み10%。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	黒田 静江
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001006（前期）火1（後期）金2
教室	音楽室
卒業要件	児童障害福祉専攻：必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもを取り巻く様々な課題の中から、自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定し、調査・研究活動に取り組み、報告書にまとめる。研究発表を行うことで、幼児の音楽についての知識を広げたり、実践力を養う。また自分たちで協力しあいながら、参加者と共に楽しめる音楽会を開催する。	
学生の達成目標	1.各自でテーマに基づいて、主体的に調査・実習やボランティアでの実践・研究等を行い、卒業研究としてまとめ発表する。 2.幼児の音楽について知識を広げながら、保育の中で豊かな表現活動を実践する力を養う。 3.皆で協力しあいながら、参加者ととともに楽しめる音楽会を開催する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	卒業研究の意義と方法・資料収集などについて（目標1）
	第3回	各自で興味・関心のあるテーマについて発表したり、研究計画立案。（目標1）参加者と楽しむ音楽会の企画をする。（目標3）
	第4回	各自で興味・関心のあるテーマについて発表したり、研究計画立案。（目標1）参加者と楽しむ音楽会の企画をする。（目標3）
	第5回	音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標2）
	第6回	音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標2）
	第7回	音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標2）

	第8回	音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標2）
	第9回	各自の研究課題の発表・協議（目標1）
	第10回	各自の研究課題の発表・協議（目標1）
	第11回	参加者と楽しむ音楽会準備・実施（目標2・3）
	第12回	参加者と楽しむ音楽会準備・実施（目標2・3）
	第13回	参加者と楽しむ音楽会準備・実施（目標2・3）
	第14回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標1）
	第15回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標1）
	第16回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標1）
	第17回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標1）
	第18回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標1）
	第19回	中間発表（目標1）
	第20回	中間発表（目標1）
	第21回	論文の構成・体裁，執筆方法などについて（目標1）
	第22回	関係資料の収集・文献研究（目標1）
	第23回	関係資料の収集・文献研究（目標1）
	第24回	論文の執筆課程での相談支援（目標1）
	第25回	論文の執筆課程での相談支援（目標1）
	第26回	論文の執筆課程での相談支援（目標1）
	第27回	論文の執筆課程での相談支援（目標1）
	第28回	論文の加筆・修正・論文の提出（目標1）
	第29回	卒業研究発表会（目標1）
	第30回	卒業研究発表会（目標1）
予習・復習の内容	予習	音楽表現を中心とした保育活動を計画し，発表できるようにする。保育や子どもに関することで，考えたことを3分くらいにまとめ発表できるように準備する。
	復習	毎回の授業内容をノートにまとめておく。各自のテーマに関連したことを情報収集する。
	展開	ボランティア活動などを通じて、実際の保育現場で研究したことや学んだことを活用していく。
成績評価	評価の基準	研究レポートの作成過程とその内容・授業に対する意欲
	評価の方法	レポート作成過程（30%） 研究レポート内容（50%） 授業に対する意欲（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	創造性を育む音楽あそび・表現あそび
	著者名	須崎朝子他

出版社	音楽之友社
価格	2,300+税金
ISBN・ISSN	978-4-276-31224-1 C1073

参考URL

備考 必要に応じて参考文献などを紹介する。

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001007 (前期)火1 (後期)金2
教室	講義室5
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。 ・個別の支援・指導を大切にすると共に、全体で協議を行い課題の共有化・深化を図る。	
学生の達成目標	1.各自、興味関心のある研究テーマの検討をしていく。 2.各自、参観、実習、ボランティアなどの調査研究を進める。 3.卒業研究論文の発表と協議を行う。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方）（目標1）
	第2回	卒業研究の意義と方法について（目標1）
	第3回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討（目標1）
	第4回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討（目標1）
	第5回	課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定（目標1・2）
	第6回	課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定（目標1・2）
	第7回	参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討（目標2）
	第8回	各自の研究課題の発表・協議（目標2・3）
	第9回	各自の研究課題の発表・協議（目標2・3）

	第10回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第11回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第12回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第13回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第14回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第15回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第16回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第17回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第18回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標2）
	第19回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標2）
	第20回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標2）
	第21回	論文の構成・体裁と執筆方法について（目標2）
	第22回	関係資料の収集・文献研究（目標2）
	第23回	関係資料の収集・文献研究（目標2）
	第24回	論文の執筆（目標2）
	第25回	論文の執筆（目標2）
	第26回	論文の執筆（目標2）
	第27回	論文の執筆（目標2）
	第28回	論文の執筆（目標2）
	第29回	論文の検討・修正（目標2・3）
	第30回	卒業研究発表会（目標3）
予習・復習の内容	予習	関連する図書を読んだり、報道について理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	卒業研究（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	大木 みわ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001008（前期）火1（後期）金2
教室	セミナー室1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもをとりまく様々な課題の中から、興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組む。発表・協議を行い卒業研究にまとめる。	
学生の達成目標	1.各自の興味関心から、研究テーマを設定する。 2.研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。 3.発表・協議を重ね、卒業研究を作成する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	卒業研究における資料・図書の使い方について（目標1.2）
	第3回	各自の興味関心についての意見交換と研究テーマ設定について検討する（目標1）
	第4回	各自の興味関心についての意見交換と研究テーマ設定について検討する（目標1）
	第5回	研究テーマを決定する。テーマについて意見交換、文献調査等を行い理解を深める（目標1）
	第6回	研究テーマを決定する。テーマについて意見交換、文献調査等を行い理解を深める（目標1）
	第7回	研究テーマを明らかにするための方法を検討し、決定する（目標2）
	第8回	研究テーマを明らかにするための方法を検討し、決定する（目標2）
	第9回	中間発表（目標3）

	第10回	中間発表（目標3）
	第11回	各自で調査研究を行う（目標2）
	第12回	各自で調査研究を行う（目標2）
	第13回	各自で調査研究を行う（目標2）
	第14回	各自で調査研究を行う（目標2）
	第15回	各自で調査研究を行う（目標2）
	第16回	各自で調査研究を行う（目標2）
	第17回	各自で調査研究を行う（目標2）
	第18回	各自で調査研究を行う（目標2）
	第19回	卒業研究の作成について（目標3）
	第20回	各自で卒業研究を作成する（目標3）
	第21回	各自で卒業研究を作成する（目標3）
	第22回	各自で卒業研究を作成する（目標3）
	第23回	各自で卒業研究を作成する（目標3）
	第24回	各自で卒業研究を作成する（目標3）
	第25回	各自で卒業研究を作成する（目標3）
	第26回	各自で卒業研究を作成する（目標3）
	第27回	卒業研究を検討・修正する（目標3）
	第28回	卒業研究を検討・修正する（目標3）
	第29回	卒業研究を検討・修正する（目標3）
	第30回	まとめ・卒業研究発表会（目標3）
予習・復習の内容	予習	各自の研究テーマを明確にするために、関心のあることについて調べたり、体験したりする。
	復習	研究テーマに関する進捗状況や毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	課題を見つけて対応していく態度を身につけ、卒業後、テーマを持って日々の保育に取り組めるようにする。
成績評価	評価の基準	卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
	評価の方法	卒業研究の内容と作成過程70％、発表、討論への参加状況等30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自のテーマに合わせて、参考文献を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	田村 光子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001009 (前期)火1 (後期)金2
教室	(前期)講義室6 (後期)講義室7
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	地域での子育て支援の現場における実際の体験を通して、保育者として必要な子ども支援の知識・技術を学ぶとともに、自らの実際の体験経過を仲間とともに振り返り、子どもの心に寄り添い保育について検討を深め、卒業研究とする。	
学生の達成目標	1.地域子育て支援の現場での実際の体験を通して、子ども・保護者を取り巻く様々な課題を学ぶ 2.子ども関連の企画の策定、実施、モニタリングを通して、実際の保育力を身につける 3.子ども支援の実際の体験の経過を報告書にまとめることを通して、子どもの心に寄り添う保育について検討する	
授業内容	第1回	授業の進め方や年間の見通しについての確認（目標1、2、3）
	第2回	進路を含めた卒業研究の方向性についての個別面談（目標1、2、3）
	第3回	進路を含めた卒業研究の方向性についての個別面談（目標1、2、3）
	第4回	地域子育て支援について考える（目標1）
	第5回	参与観察の方法について（目標2）
	第6回	地域子育て支援の現場の視察①（目標1）
	第7回	地域子育て支援の現場の視察②（目標1）
	第8回	参与観察の記録について（目標2）
	第9回	地域子育て支援の現場の視察③（目標1）

	第10回	地域子育て支援の現場の視察④（目標１）
	第11回	子ども企画のための情報収集・企画の策定①（目標２）
	第12回	現場における子ども企画の実施④（目標２）
	第13回	現場における子ども企画の再実施②（目標２）
	第14回	子ども企画の実施後の報告・討議・再策定（目標２）
	第15回	その他、地域子育て支援の現場の視察①（目標１）
	第16回	その他、地域子育て支援の現場の視察②（目標１）
	第17回	論文の構成・体裁・執筆方法について（目標２、３）
	第18回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談①（目標３）
	第19回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談②（目標３）
	第20回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談③（目標３）
	第21回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談④（目標３）
	第22回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談⑤（目標３）
	第23回	中間報告会Ⅱ（目標３）
	第24回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談⑥（目標３）
	第25回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談⑦（目標３）
	第26回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談⑧（目標３）
	第27回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談⑨（目標３）
	第28回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談⑩（目標３）
	第29回	卒業論文の仕上げ・提出（目標３）
	第30回	卒業研究発表会（目標３）
予習・復習の内容	予習	子ども参画企画の策定および実施については、グループで協力し事前準備をしておくこと
	復習	実際の体験を踏まえて、子どもとのかかわりについて記録にまとめておくこと
	展開	現代の子ども・保護者が抱える課題について新聞やテレビなどで情報を得ること 参与観察の仕方や記録の取り方について、知識・理解をふかめておくこと
成績評価	評価の基準	卒業研究への努力、熱意、研究内容等を総合的に評価する
	評価の方法	参与観察における努力・熱意（30%） 子ども関連企画の取り組み評価（20%） 報告書の成果（40%） その他総合的に判断される努力・熱意（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	相磯 友子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001010 (前期)火1 (後期)金2
教室	セミナー室2
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもを取り巻く様々な事象、課題の中から、自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定し、調査・研究活動に取り組む。中間発表や検討を行い卒業研究を作成する。	
学生の達成目標	1.興味関心に添って研究テーマを設定し、先行研究を整理する。 2.研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。 3.研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ卒業研究を作成する。	
授業内容	第1回	オリエンテーションを行い、授業の進め方を説明する。（目標1）
	第2回	興味関心、教員との意見交換、文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）
	第3回	興味関心、教員との意見交換、文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）
	第4回	興味関心、教員との意見交換、文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）
	第5回	研究テーマに関する文献を収集し、先行研究を整理する。（目標1）
	第6回	研究テーマに関する文献を収集し、先行研究を整理する。（目標1）
	第7回	研究テーマに関する文献を収集し、先行研究を整理する。（目標1）

	第8回	研究テーマに関する先行研究を整理し、中間発表資料を作成する。 (目標1)
	第9回	研究テーマに関する先行研究を整理し、中間発表資料を作成する。 (目標1)
	第10回	研究テーマに関する先行研究を整理し、中間発表資料を作成する。 (目標1)
	第11回	研究テーマに関する先行研究を整理し、中間発表資料を作成する。 (目標1)
	第12回	中間発表を行う。(目標1)
	第13回	研究テーマに即して、調査、参加観察等を計画する。(目標2)
	第14回	研究テーマに即して、調査、参加観察等を計画する。 (目標2)
	第15回	研究テーマに即して、調査、参加観察等を計画する。 (目標2)
	第16回	調査、参加観察等を実施する。 (目標2)
	第17回	調査、参加観察等を実施する。 (目標2)
	第18回	調査、参加観察等を実施する。 (目標2)
	第19回	調査、参加観察等の結果のまとめ方を教員と相談する。(目標3)
	第20回	調査、参加観察等の結果をまとめる。(目標3)
	第21回	調査、参加観察等の結果をまとめる。(目標3)
	第22回	調査、参加観察等の結果をまとめる。(目標3)
	第23回	卒業研究を執筆する。(目標3)
	第24回	卒業研究を執筆する。(目標3)
	第25回	卒業研究の途中経過を教員と相談する。(目標3)
	第26回	卒業研究を検討・修正する。(目標3)
	第27回	卒業研究を検討・修正する。(目標3)
	第28回	卒業研究発表会のプレゼン資料を作成する。(目標3)
	第29回	卒業研究発表会を行う。(目標3)
	第30回	卒業研究発表会を行う。(目標3)
予習・復習の内容	予習	本学における文献収集の方法を調べる。(図書館の所蔵検索、 Ciniiでの論文検索等)
	復習	自らの興味・関心に合わせて、文献を収集・整理し課題を明確にする。
	展開	研究成果をわかりやすくまとめプレゼンテーションする。
成績評価	評価の基準	自ら卒業研究の課題を設定し、適切な方法で研究を行い、卒業研究を作成することができること。
	評価の方法	卒業研究60%、卒業研究の作成過程40%
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		各自の研究テーマに合わせて参考文献を紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）
科目責任者	根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001011 (前期)火1 (後期)金2
教室	(前期)ラーニング・コモンズ2 (後期)ラーニング・コモンズ1
卒業要件	児童障害福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 子どもをとりまく様々な問題から興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組み、発表・協議を行い、卒業研究としてまとめる。

学生の達成目標

1. ボランティア、実習など実際にに関わり、自ら問題意識を深める
2. 研究テーマに基づき、資料を収集するなど研究を進める。
3. 研究したテーマを論文にまとめる

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方）（目標1）
	第2回	総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について（目標1）
	第3回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討(目標2)
	第4回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討(目標2)
	第5回	課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定（目標1）
	第6回	課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定（目標1）
	第7回	参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討(目標2)
	第8回	各自の研究課題の発表・協議（目標1，2）

	第9回	各自の研究課題の発表・協議（目標1，2）
	第10回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第11回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第12回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第13回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第14回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第15回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第16回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第17回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第18回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標1，2）
	第19回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標1，2）
	第20回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標1，2）
	第21回	論文の構成・体裁と執筆方法について（目標3）
	第22回	関係資料の収集・文献研究（目標1，2）
	第23回	関係資料の収集・文献研究（目標1，2）
	第24回	論文の執筆（目標3）
	第25回	論文の執筆（目標3）
	第26回	論文の執筆（目標3）
	第27回	論文の執筆（目標3）
	第28回	論文の執筆（目標3）
	第29回	論文の検討・修正（目標3）
	第30回	卒業研究論文の発表と協議（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	各自の研究テーマについて、日常的に関心を高め、資料収集に努める。
	復習	資料に基づき、自らの考えを深め考察をする。
	展開	中間発表などを通し、互いの研究を確認、再考する。
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（50%） 研究過程（30%） 授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等

参考URL

備考

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門基礎科目
授業科目名	キャリアガイダンス
科目責任者	佐藤 慎二
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 相磯 友子 根本 曜子 堀 彰人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12001106 月1
教室	ラーニング・ジェムズ2
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

○「人生」や「仕事」、更に「キャリア」、「働くこと」について、各職場で働く先輩の話、さらには、ビジネスマナー等の講習会、ワークシートでの演習等を通して学ぶ。

学生の達成目標

1. ありたい自分の将来像を描く。
2. 具体的な仕事を選択する。

授業内容	第1回	オリエンテーション・ワークシートでの演習（自己理解他）
	第2回	教育・保育の各職種及び試験準備の説明会(目標1. 2)
	第3回	公務員試験講座Ⅰ－公務員の自覚(目標1. 2)
	第4回	公務員試験講座Ⅱ－公立保育所の役割(目標1. 2)
	第5回	公務員試験講座Ⅲ－保育者の在り方(目標1. 2)
	第6回	教育採用試験講座Ⅰ－教育公務員の自覚(目標1. 2)

	第7回	教育採用試験講座Ⅱ－教師の在り方(目標1. 2)
	第8回	卒業生のお話を聞く会(目標1. 2)
	第9回	教員採用試験講座Ⅳ－特別支援学校(目標1. 2)
	第10回	教育採用試験講座Ⅴ－通常の学校(目標1. 2)
	第11回	就職活動・履歴書及び模擬面接講座(目標1. 2)
	第12回	作文添削講座(目標1. 2)
	第13回	公務員試験講座Ⅳ－公務員服務規程(目標1. 2)
	第14回	ビジネスマナー講座(目標1. 2)
	第15回	卒業オリエンテーション(目標1. 2)
予習・復習の内容	予習	○「キャリアガイドブック」の指定箇所を読んでおくこと。
	復習	○毎回の授業要旨をノート整理すること。
	展開	○公務員試験等の準備を自主的に進めること。
成績評価	評価の基準	先の達成目標に到達できたかで判断する。
	評価の方法	振り返りカード(80%) 授業態度(20%)により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	特別支援教育原論
科目責任者	漆澤 恭子
担当教員	佐藤 愼二
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30004701 土3
教室	講義室14
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	特別な教育的ニーズのある子どもへの保育、教育の基本に関する対応姿勢、制度、理念、動向など今日的に理解しておくべきことを学び、特別支援教育の進め方について自分の考えを持つ	
学生の達成目標	1.特別支援教育の理念や制度を理解することができる 2.子どもの理解と支援方法、関係機関、保護者との連携を理解することができる 3.教師として特別支援教育をいかに進めるべきか具体的に考え意見を交換することができる	
授業内容	第1回	特別支援教育の理解とシステム ①特別支援教育の理念と基本的な考え（目標1）
	第2回	特別支援教育の理解とシステム ②教育の歴史と現行制度（目標1）
	第3回	特別支援教育の理解とシステム ③支援システムの構築と法的制度（目標1）
	第4回	特別支援教育の理解とシステム ④特別支援教育とコーディネーター（目標1,2）
	第5回	特別支援教育の理解とシステム ⑤個別の指導計画と個別的教育支援計画（目標1,2）
	第6回	子どもの理解と指導・支援 ①発達障害の理解と指導・支援（目標2）

第7回	子どもの理解と指導・支援 ②通常の学級における指導・支援（目標2）
第8回	子どもの理解と指導・支援 ③知的障害の理解と指導・支援（目標2,3）
第9回	子どもの理解と指導・支援 ④肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援（目標2,3）
第10回	子どもの理解と指導・支援 ⑤視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援（目標2,3）
第11回	子どもの理解と指導・支援 ⑥その他の多様な状態を併せ持つ子どもの理解と指導・支援（目標2,3）
第12回	保護者や関係機関との連携 ①保護者との連携（目標2）
第13回	保護者や関係機関との連携 ②専門機関や地域との連携（目標1,2）
第14回	保護者夜間系機関との連携 ③進学支援・就労支援と連携（目標1,2）
第15回	特別支援教育のこれからと課題 グループ協議（目標2,3）

予習・復習の内容	予習	・特別支援学校教育実習の内容や経験をまとめておくこと ・障害児教育に関する既習内容を確認しておくこと ・授業内の協議ではそれらをもとに自分の考えを述べていただきます
	復習	・関係法規等については、内容を確認しておくこと ・学習内容については、教科書の関連箇所を再読しておくこと ・研究所公開、講演会等適時参加するので学んだこと、資料等をまとめておくこと
	展開	・学内で行われる特別支援教育関連の講演会には積極的に参加し、視野を広げること ・特別支援教育に関する動向には常に関心を持っておくこと

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容を理解し、それらに関して自分の考えを持つことができる
	評価の方法	授業中の発言・協議内容（30%）レポート（30%） 定期試験（40%）

教科書	書籍名	はじめての特別支援教育 改訂版
	著者名	柘植雅義他
	出版社	有斐閣
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	978-4-641-22038-6

推薦図書等	書籍名	LD ADHD等関連用語集 第2版
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1,190円
	ISBN・ISSN	ISBN4-8210-7333-1

参考URL

備考

研究施設や特別支援学校の参観、講演会参加なども適宜取り入れる。授業は内容を前後して行うこともある

障害教育方法史

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育方法史
科目責任者	名古屋 恒彦
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35001001 8/29,30,31 1～5限
教室	講義室12
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	戦後の我が国の特別支援教育の理念等を知的障害教育の歴史的変遷を中心に理解する。その上で、今日の特別支援教育に普遍的に求められる理念や実践の在り方を歴史を通して理解する。	
学生の達成目標	目標1 戦後の障害教育方法の変遷過程を理解できる。 目標2 知的障害教育の目標を理解できる。 目標3 知的障害教育の内容・方法を理解できる。	
授業内容	第1回	知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」（目標2）
	第2回	生活を大切にする教育の始まり（目標2）
	第3回	本物の生活づくりの徹底（目標1, 2, 3）
	第4回	生活を大切にする教育の変容と後退（目標1, 2, 3）
	第5回	生活主義教育の批判・反省の総括的論点（目標2, 3）
	第6回	障害の重度化・重複化と知的障害教育（目標1）
	第7回	障害の重度化・重複化と知的障害教育（目標1）
	第8回	生活中心教育における生活単元学習の再興（目標1, 2, 3）
	第9回	教育課程編成と学校生活づくり（目標1, 2, 3）
	第10回	学校生活の集団化と個別化（目標1, 3）
	第11回	生活中心教育の総括的主張点（目標2, 3）

	第12回	今日における知的障害教育方法の具体的展開（目標2, 3）
	第13回	今日における知的障害教育方法の具体的展開（目標2, 3）
	第14回	今日における知的障害教育方法の具体的展開（目標2, 3）
	第15回	今日における知的障害教育方法の具体的展開（目標2, 3）
予習・復習の内容	予習	教科書に即して進行するので、事前に学習予定の教科書部分を読んでおくこと。
	復習	実施した内容について、必要に応じてノート等を参照しながら、教科書を再読し、理解を確認しておくこと。
	展開	知的障害教育の現在の実践について図書等で学び、歴史的背景との関連への理解を深める。
成績評価	評価の基準	戦後の我が国の特別支援教育の理念等を知的障害教育の歴史的変遷を中心に理解できるか、今日の特別支援教育に普遍的に求められる理念や実践の在り方を歴史を通して理解できるかを基準とする。
	評価の方法	試験70％，授業での発言等30％
教科書	書籍名	テーマのある学校生活 子ども主体の特別支援教育
	著者名	山形県立米沢養護学校編著，中坪晃一・名古屋恒彦監修
	出版社	コレール社
	価格	2,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-87637-712-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害者の人権と社会参加

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害者の人権と社会参加
科目責任者	中坪 晃一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35001201 月2
教室	ラーニング・モース2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	障害のある人が人として当たり前にくらす共生社会の実現を阻害する状況・条件等や課題解決の方策等を学び、考え、理解を深めるとともに、障害のある人の支援者としてのあり方を豊にする。
-----------	---

学生の達成目標	障害者(特に知的障害者を中心に)の人権と社会参加の状況について、事例を通して、どのような問題と支援の仕組みがあるか、ライフステージに沿って理解する。
---------	--

授業内容	第1回	障害者の人権と社会参加の動向
	第2回	家族支援（障害の受容、相談支援）
	第3回	成年後見制度（選挙権、後見制度）
	第4回	居住施設から地域生活への移行
	第5回	居住施設・併設特別支援学校の参観
	第6回	居住施設・併設特別支援学校の参観
	第7回	居住施設・併設特別支援学校の参観
	第8回	警察による権利侵害
	第9回	職場における権利侵害
	第10回	地域生活を支えるしくみ
	第11回	知的障害者通所支援施設・就労先事業所の参観
	第12回	知的障害者通所支援施設・就労先事業所の参観

	第13回	知的障害者通所支援施設・就労先事業所の参観
	第14回	本人活動、地域でくらす人たち
	第15回	差別禁止の法整備
予習・復習の内容	予習	発表事例について、参考文献・新聞報道等をもとに、発表資料の作成と発表内容の理解を深めるとともに、協議主題等について確認する。
	復習	講義・発表・協議等で出された課題等について、参考文献等で再学習・再確認し、一層の理解を深める。
	展開	関連する折り折りの報道や図書等に触れ、障害者の人権と社会参加について理解を深める。
成績評価	評価の基準	「障害者の人権と社会参加」に関して、取り上げられた事例の問題点や今後に向けての課題等を理解すること。個々の事例に自分の考えをもち、的確に判断し、述べるができること。
	評価の方法	期末レポート40%、事例発表レポート40%、授業への参加姿勢20%。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	「権利擁護・成年後見情報誌 Panda-j」
	著者名	－
	出版社	NPO法人Panda-j
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
推薦図書等	書籍名	「感じ合い 分かり合い 支え合い」
	著者名	小出進著 日本生活中心教育研究会編
	出版社	自費出版
	価格	1,000円＋税
	ISBN・ISSN	－
	□上記の図書等は市販されていません。	
参考URL		
備考		

社会福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会福祉論
科目責任者	根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35001401 木3
教室	ラーニング・スペース2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	特別支援の現場で福祉支援の必要な子ども・家庭を理解し、適切な支援に結びつける知識、技術を身につける。	
学生の達成目標	1.現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何か、また社会福祉の理念について理解する。 2.社会福祉の政策的動向を踏まえ、特に児童、障害児者への生活支援を理解する。 3.社会福祉の支援体制における連携について理解する。	
授業内容	第1回	自己理解・他者理解(目標1)
	第2回	自分生活と社会福祉(目標1)
	第3回	低所得者問題 ①(目標1・2)
	第4回	低所得者問題 ②(目標1・2)
	第5回	現代の家族について(目標1・2)
	第6回	障害のある子の保育(目標1・2)
	第7回	社会的養護①(目標1・2)
	第8回	社会的養護②(目標1・2)
	第9回	学童保育について(目標1・2)
	第10回	ノーマライゼーションについて(目標1)
	第11回	人権尊重について、自己選択・自己決定(目標1)

	第12回	地域に暮らすということ(目標3)
	第13回	障害のある子が地域に暮らす(目標3)
	第14回	障害のある子のいる家庭を地域で支える(目標3)
	第15回	ソーシャルサポートのネットワークの構築について(目標1・2・3)
予習・復習の内容	予習	普段から現代社会の現状や福祉問題に関心を持ち、関連した報道を理解する。
	復習	授業の中で課題として捉えた問題に関して、資料等で再考する。
	展開	実際に問題をかかえる子ども、家庭を支援する知識、技術を習得する。
成績評価	評価の基準	障害者を支援する者として、福祉の理念、視点を理解し、考察して深め、意見として伝えることができる。
	評価の方法	試験 50% レポート50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	統合保育論
科目責任者	木下 勝世
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35001601 木3
教室	講義室5
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1.特別な支援を必要とする子を受け入れる意味を理解する。 2.特別な支援を必要とする子を包含する新しい保育創りの意義と課題を考える。 3.インクルーシブ保育について自分なりの考えを形成できるようにする。																						
学生の達成目標	1.インクルーシブ保育の意義を理解し、保育のあり方を考える。 2.インクルーシブ保育の実際を、体験を通して学ぶ。 3.「私のインクルーシブ保育論」をもてるようになる。																						
授業内容	<table><tr><td>第1回</td><td>授業者・受講者の自己紹介と本授業への期待（目標1,2,3）</td></tr><tr><td>第2回</td><td>インクルーシブ保育への歩みとインクルーシブ保育の意味（目標1）</td></tr><tr><td>第3回</td><td>インクルーシブ保育に関する資料研究（目標1）</td></tr><tr><td>第4回</td><td>特別な支援を必要とする子と保育の果たすべき役割（目標1）</td></tr><tr><td>第5回</td><td>新しい保育づくりとしてのインクルーシブ保育（目標1）</td></tr><tr><td>第6回</td><td>実践上の課題① 子ども同士の関係の育ち（目標1）</td></tr><tr><td>第7回</td><td>実践上の課題② 保護者支援から共生社会づくりへ（目標1）</td></tr><tr><td>第8回</td><td>インクルーシブ保育実践現場体験①－日程は別途相談－（目標2）</td></tr><tr><td>第9回</td><td>インクルーシブ保育実践現場体験②－日程は別途相談－（目標2）</td></tr><tr><td>第10回</td><td>インクルーシブ保育実践現場体験③－日程は別途相談－（目標2）</td></tr><tr><td>第11回</td><td>インクルーシブ保育実践現場体験④－日程は別途相談－（目標2）</td></tr></table>	第1回	授業者・受講者の自己紹介と本授業への期待（目標1,2,3）	第2回	インクルーシブ保育への歩みとインクルーシブ保育の意味（目標1）	第3回	インクルーシブ保育に関する資料研究（目標1）	第4回	特別な支援を必要とする子と保育の果たすべき役割（目標1）	第5回	新しい保育づくりとしてのインクルーシブ保育（目標1）	第6回	実践上の課題① 子ども同士の関係の育ち（目標1）	第7回	実践上の課題② 保護者支援から共生社会づくりへ（目標1）	第8回	インクルーシブ保育実践現場体験①－日程は別途相談－（目標2）	第9回	インクルーシブ保育実践現場体験②－日程は別途相談－（目標2）	第10回	インクルーシブ保育実践現場体験③－日程は別途相談－（目標2）	第11回	インクルーシブ保育実践現場体験④－日程は別途相談－（目標2）
第1回	授業者・受講者の自己紹介と本授業への期待（目標1,2,3）																						
第2回	インクルーシブ保育への歩みとインクルーシブ保育の意味（目標1）																						
第3回	インクルーシブ保育に関する資料研究（目標1）																						
第4回	特別な支援を必要とする子と保育の果たすべき役割（目標1）																						
第5回	新しい保育づくりとしてのインクルーシブ保育（目標1）																						
第6回	実践上の課題① 子ども同士の関係の育ち（目標1）																						
第7回	実践上の課題② 保護者支援から共生社会づくりへ（目標1）																						
第8回	インクルーシブ保育実践現場体験①－日程は別途相談－（目標2）																						
第9回	インクルーシブ保育実践現場体験②－日程は別途相談－（目標2）																						
第10回	インクルーシブ保育実践現場体験③－日程は別途相談－（目標2）																						
第11回	インクルーシブ保育実践現場体験④－日程は別途相談－（目標2）																						

	第12回	現場体験の振り返りと話し合い（目標2）
	第13回	「私の保育論」提案と協議①（目標3）
	第14回	「私の保育論」提案と協議②（目標3）
	第15回	「私のインクルーシブ論」まとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	推薦図書を含むインクルーシブ保育に関する書籍や、様々な障害とその幼児期に関する書籍を読む。 愛隣幼稚園ホームページを閲覧する。
	復習	毎回の授業の内容や保育実践現場体験を振り返り、自分なりの考えを形成する資料として整理する。
	展開	インクルーシブ保育の目指すものは新しい保育創りであり、共生社会の実現であることに考えを至らせ、その担い手としての基礎を確立する。
成績評価	評価の基準	授業への参加度と発言の内容 実践現場体験への積極的取り組み 自分なりの考えを形成する思考
	評価の方法	授業内容に関する小レポート 30% 実践現場体験での見取り 10% 期末レポートの内容 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	インクルーシブ保育っていいね
	著者名	小山望，太田俊己，加藤和成，河合高鋭
	出版社	福村出版
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-571-12121-0
参考URL	愛隣幼稚園ホームページ http://www.airinyoutien.com	
備考	インクルーシブ保育実践現場体験は愛隣幼稚園で行う。日程については幼稚園と受講者間の都合で相談の上決定するが、調整に協力してもらいたい。	

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005601 土3
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	知的障害のある子どもの心理や発達の特徴と生理・病理について学び、知的障害のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。	
学生の達成目標	1. 知的障害のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2. 知的障害のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 3. 具体的な事象や事例から、知的障害のある子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	知的障害観の変遷と知的障害の定義（目標1・2）
	第2回	知能と知能検査（目標1・2）
	第3回	知的障害の子どもの認知特性（目標1）
	第4回	知的障害の子どもの社会性の発達（目標1）
	第5回	知的障害と自閉症（目標1・2）
	第6回	知的障害の子どもの心理（目標2・3）
	第7回	けいれんのある子どもの病理（目標1）
	第8回	けいれんの対応（目標1）

予習・復習の内容	予習	知的障害の子どもに関する本を読む。
	復習	知的障害に関するキーワードを整理する。
	展開	知的障害の子どもと関わるボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	小テスト及びレポートの課題を理解したうえで、自分の考えや意見を、具体的、説得的に自分の言葉で書くことができること。
	評価の方法	小テスト80%, レポート20%
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005701 土4
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について学び、肢体不自由のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

学生の達成目標

1. 肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。
2. 肢体不自由のある子どもに関する最新の研究知見を知る。
3. 具体的な事象や事例から、肢体不自由のある子どもの行動背景を考えられるようになる。

授業内容	第1回	肢体不自由の定義 (目標1)
	第2回	肢体不自由の子どもの教育と心理 (目標1・3)
	第3回	肢体不自由の子どもの教育と心理 (目標1・3)
	第4回	重複障害児・者の生活 (目標1・3)
	第5回	重複障害児・者の心理 (目標1・3)
	第6回	重度心身障害と医療的ケア (目標1・2)
	第7回	病態生理1 嚥下障害における理解 (目標1)
	第8回	病態生理2 具体的な事象や事例から対応を学ぶ (目標1)

予習・復習の内容	予習	肢体不自由の子どもに関する本を読む。
	復習	肢体不自由に関するキーワードを整理する。
	展開	肢体不自由の子どもに関わるボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	小テスト及びレポートの課題を理解したうえで、自分の考えや意見を、具体的、説得的に自分の言葉で書くことができること。
	評価の方法	小テスト80%, レポート20%
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005801 土4
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	病弱の子どもの心理・生理・病理について学び、病弱の子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。	
学生の達成目標	1. 病弱の子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2. 病弱の子どもに関する最新の研究知見を知る。 3. 具体的な事象や事例から、病弱の子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	病弱の教育上の定義 (目標1)
	第2回	病弱児・者の生活 (目標3)
	第3回	病弱児・者の心理 (目標3)
	第4回	病弱児・者の進路 (目標2)
	第5回	院内学級・訪問学級 (目標1・2)
	第6回	障害受容について (目標1・2・3)
	第7回	神経解剖 (基礎1)
	第8回	神経解剖 (基礎2)
予習・復習の内容	予習	病弱の子どもに関する本を読む。

	復習	病弱の子どもに関するキーワードを整理する。
	展開	病弱の子どもの指導案を考え作成する。
成績評価	評価の基準	小テスト及びレポートの課題を理解したうえで、自分の考えや意見を、具体的、説得的に自分の言葉で書くことができること。
	評価の方法	小テスト80%, レポート20%
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

幼児の生理と健康

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	幼児の生理と健康
科目責任者	熊谷 仁
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35004801 月3
教室	講義室2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・ 幼児の生理や健康について学習し理解を深める。 ・ 幼児の健康問題に目を向け、解決方法について考える。	
学生の達成目標	1. 幼児の発育の過程，成人との生理機能の相違について学習する。 2. 健康問題に関する理解を深め，健康指導に関する知識を深める。	
授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	幼児の健康（目標1）
	第3回	呼吸・循環・血液（目標1）
	第4回	体温調節反応（目標1）
	第5回	免疫とアレルギー（目標1）
	第6回	体性感覚（目標1）
	第7回	自律神経（目標1）
	第8回	睡眠（目標1）
	第9回	肥満とやせ（目標2）
	第10回	運動機能・運動時の身体の適応①（目標2）
	第11回	運動機能・運動時の身体の適応②（目標2）
	第12回	食行動・栄養①（目標2）
	第13回	食行動・栄養②（目標2）

	第14回	講義（10-13回）についての考察（目標2）
	第15回	講義全体のまとめ（目標2）
予習・復習の内容	予習	シラバスの内容に関して事前に勉強しておく。
	復習	授業時に配布した資料を熟読する。
	展開	ヒトの生理機能や健康問題に興味を持ち、実践を通して理解を深める。
成績評価	評価の基準	学習態度，ミニレポート，期末レポートを総合して評価する。
	評価の方法	学習態度（20％）ミニレポート（30％）期末レポート（50％）を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	小児生理学
	著者名	馬場一雄/監修 原田研介/編集
	出版社	へるす出版
	価格	6,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89269-636-7
参考URL		
備考		

発達障害と自閉症

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達障害と自閉症
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35005001 月2
教室	ラーニング・モンズ2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	自閉症を中心と発達障害の幼児、児童の心理、生理などについて理解を図る。 特に理解されにくい知的障害を伴わない広汎性発達障害の認知特性については理解を深め、望ましい教育的支援の方法について考える。	
学生の達成目標	1, 自閉症を含む発達障害の特性について理解する 2, 自閉症スペクトラム等のアセスメントや認知特性に応じた支援の方法を理解し、子どもたちの内面理解も深める 3, 学習内容や実習の経験をふまえて、適切な支援方法を考え、発表することができる	
授業内容	第1回	オリエンテーション、発達障害について（目標1）
	第2回	自閉症の概念の変遷(目標1)
	第3回	発達障害の原因（目標1,2)
	第4回	発達障害の定義と診断（目標1,2,3)
	第5回	アセスメントの実際（目標1,2,3)
	第6回	アセスメントの実際 演習（目標1,2,3)
	第7回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援 ①社会性について（目標1,2,3)
	第8回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援 ②コミュニケーションについて（目標1,2,3)
	第9回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援 ③こだわりや想像力について（目標1,2,3)

	第10回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援 ④その他の困難について（目標1,2,3）
	第11回	自閉症スペクトラム障害に伴いやすい障害について（目標1,2,3）
	第12回	自閉症スペクトラム障害の子どもたちが抱える困難について（目標1,2,3）
	第13回	事例検討①グループ協議（目標1,2,3）
	第14回	事例検討②グループ協議（目標1,2,3）
	第15回	学習のまとめ／実習 現場実践 研究発表会 参観などの報告 意見交換等を行い学習を共有する(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	日頃より、発達障害について、関心を持ち、情報の収集に努めること 学習した事柄、教育実習での経験、研究発表会などで得た知見を通して具体的な教育方法を考える
	復習	自分の実習、ボランティア体験をまとめ、学習した知識と関連づけておくこと
	展開	研究所参観、授業参観等で積極的に新しい知識や教育方法などを学んでいくこと
成績評価	評価の基準	発達障害や自閉症について正しい知識を身につけていること、望ましい教育支援の方法を具体的に考え、発表できることを基準とする
	評価の方法	授業参加態度（協議、発言等）40% 発表30% レポート等提出物30% を総合して評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	自閉症児のための絵で見る構造化
	著者名	佐々木正美
	出版社	学研
	価格	1,995円
	ISBN・ISSN	4054021867
推薦図書等	書籍名	高機能自閉症・アスペルガー症候群入門
	著者名	内山登紀夫他
	出版社	ケーアンドエイチ
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	I S B N 4-8058-2185-X C0037
参考URL		
備考	外部講師によるアセスメントの演習、知的障害を伴う自閉症の子供たちに対して教育を行っている特別支援学校の参観を予定している。 実習参観などの時期により順を入れ替えることもある。	

児童相談事例研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	児童相談事例研究
科目責任者	田村 光子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35005201 月5
教室	講義室2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 子どもの視点から暮らしを見る力を養い、地域子育て支援と其中で必要な相談支援について事例を通して考える

学生の達成目標 1.地域子育て支援と相談支援について知る
「子どもの貧困」をテーマに文献研究に取り組む
2.実践的な地域子育て支援や障害のある子どもへの支援の現場に赴く

授業内容	第1回	ガイダンス（目標1，2）
	第2回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標1）
	第3回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標1）
	第4回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標1）
	第5回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標1）
	第6回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標1）
	第7回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標1）
	第8回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標1）

	第9回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標 2）
	第10回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標 2）
	第11回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標 2）
	第12回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標 2）
	第13回	事例研究～「いま求められる子育て支援」とは（目標 1、2）
	第14回	事例研究～「いま求められる子育て支援」とは（目標 1、2）
	第15回	事例研究～「いま求められる子育て支援」とは（目標 1、2）
予習・復習の内容	予習	事前に指示する内容についてレポートを作成する。 その内容について当日発表できるようにしておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	子どもの貧困や社会的排除に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業への参加状況、態度、およびレポート提出等を総合して評価する
	評価の方法	授業への取り組み（30%） レポートの作成（50%） 授業への参加態度（20%）
教科書		
推薦図書等	書籍名	「子どもの貧困」
	著者名	阿部 彩
	出版社	岩波新書
	価格	886円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4004311577
推薦図書等	書籍名	「子どもの貧困白書」
	著者名	湯澤直美、中西新太郎
	出版社	明石書店
	価格	3,024円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4750330358
参考URL		
備考		

障害論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害論
科目責任者	堀 彰人
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30004901 水2
教室	講義室2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	WHO（世界保健機構）が提唱した新しい障害観を基に、あたためて障害とは何か、障害をどう理解し、どう定義するかを検討する。さらに、新しい障害観に立って、障害への基本的対応のあり方について考える。	
学生の達成目標	目標①：障害の見方・考え方は、多様で多面的であることを知る。 目標②：障害観は、個人に属する問題よりも、環境的側面を重視するようになったことを学ぶ。 目標③：最新の障害定義を学び、新しい障害観に立つ、障害への基本的対応のあり方について考える。	
授業内容	第1回	障害の三つの階層・側面－Impairments, Disabilities, Handicapsについて（目標①）
	第2回	障害の三つの階層・側面－Impairments, Disabilities, Handicapsについて（目標①）
	第3回	障害の三つの階層・側面－Impairments, Disabilities, Handicapsについて（目標①）
	第4回	社会的不利益を重要視する障害観－障害を「社会的に負わされた不利益」ととらえる障害観。社会的不利益を最重要視し、それへの対応を最優先する教育観（目標②）
	第5回	社会的不利益を重要視する障害観－障害を「社会的に負わされた不利益」ととらえる障害観。社会的不利益を最重要視し、それへの対応を最優先する教育観（目標②）

	第6回	障害とは何か、障害をどう定義するか－発達に障害があって、そのため生じる社会的不利を解消するには、特別な教育的支援を必要とする状態（目標②）
	第7回	障害とは何か、障害をどう定義するか－発達に障害があって、そのため生じる社会的不利を解消するには、特別な教育的支援を必要とする状態（目標②）
	第8回	教育上問題にされる各障害－視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、内部障害、言語障害、自閉症、ADHD、LD等々（目標③）
	第9回	教育上問題にされる各障害－視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、内部障害、言語障害、自閉症、ADHD、LD等々（目標③）
	第10回	能力の劣弱と教育的対応－視力、聴力、知能、運動能力等が劣ることと、それらを支える対応（目標③）
	第11回	社会的不利と教育的対応－障害から生じる社会的不利と、社会的不利の解消を優先する教育。 「できる状況づくり」としての支援（目標③）
	第12回	障害と関わる特別な教育的ニーズ－障害観と教育的ニーズ、障害と教育的ニーズ（目標③）
	第13回	ICFの障害観と対応の変化（目標③）
	第14回	ICFの障害観と対応の変化（目標③）
	第15回	要点の整理及びまとめ
予習・復習の内容	予習	配付プリントや参考文献にあらかじめ目を通し、疑問点等を明らかにしておく。
	復習	授業内容のポイントについて整理をする。
	展開	新しい障害観をもとに、障害のある人への福祉・教育のありようを考える。
成績評価	評価の基準	授業参加の姿勢、レポート等課題の提出状況や期末テストの評点を基に、総合的に評価する。
	評価の方法	授業参加の姿勢10%、レポート等課題の提出状況20%、期末テストの評点70%を基に、総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	ICF 国際生活機能分類
	著者名	世界保健機関（WHO）
	出版社	中央法規
	価格	3,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-4417-5
	書籍名	発達障害指導事典第2版
	著者名	編集代表小出進
	出版社	学習研究社
	価格	15,000円＋税
	ISBN・ISSN	4-05-401096-2

書籍名	知的障害 定義、分類および支援体系
著者名	AAMR米国精神遅滞協会
出版社	日本知的障害者福祉連盟
価格	6,000円＋税
ISBN・ISSN	4-902448-0107

参考URL

備考

障害教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育課程論
科目責任者	山本 邦晴
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35007001 木4
教室	ラーニング・ジェム2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 特別支援学校学習指導要領及び解説書を中心教材として教育課程編成の基礎的理解を深める。 2. 講義を中心とするが、特別支援学校・特別支援学級等を実際に参観・体験したり調べたりして、障害種別ごとの教育課程編成の在り方と特色について理解する。 3. 望ましい教育課程の編成について、自分なりに考察する。
学生の達成目標	1.教育課程の基準（特別支援学校学習指導要領等）についての基礎的理解を深める。 2.県内の特別支援学校を中心に、教育課程編成について調べ、その特色について確認し理解を深める。 3.望ましい教育課程の在り方について、自分の考えをレポートとしてまとめ、発表し合いより理解を深める。
授業内容	第1回 <学習指導要領における教育課程の基準>（目標1・2）① 学校教育関連法規・学習指導要領との関係② 特別支援学校学習指導要領の特色③ 特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容④ 知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤ 特別支援学級の教育課程 第2回 <学習指導要領における教育課程の基準>（目標1・2）① 学校教育関連法規・学習指導要領との関係② 特別支援学校学習指導要領の特色③ 特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容④ 知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤ 特別支援学級の教育課程

第3回	＜学習指導要領における教育課程の基準＞（目標１・２）① 学校教育関連法規・学習指導要領との関係② 特別支援学校学習指導要領の特色③ 特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容④ 知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤ 特別支援学級の教育課程	
第4回	＜学習指導要領における教育課程の基準＞（目標１・２）① 学校教育関連法規・学習指導要領との関係② 特別支援学校学習指導要領の特色③ 特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容④ 知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤ 特別支援学級の教育課程	
第5回	＜学習指導要領における教育課程の基準＞（目標１・２）① 学校教育関連法規・学習指導要領との関係② 特別支援学校学習指導要領の特色③ 特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容④ 知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤ 特別支援学級の教育課程	
第6回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標１・２）① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。② 特別支援学級についても同様に行う。	
第7回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標１・２）① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。② 特別支援学級についても同様に行う。	
第8回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標１・２）① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。② 特別支援学級についても同様に行う。	
第9回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標１・２）① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。② 特別支援学級についても同様に行う。	
第10回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標１・２）① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。② 特別支援学級についても同様に行う。	
第11回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標１・２）① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。② 特別支援学級についても同様に行う。	
第12回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標１・２）① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。② 特別支援学級についても同様に行う。	
第13回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞。（目標１・２）① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。② 特別支援学級についても同様に行う。	
第14回	＜望ましい教育課程編成の在り方＞（目標１・２・３）第 13回までの授業を踏まえて、望ましい教育課程について発表を行う。（目標１・２・３）	
第15回	＜望ましい教育課程編成の在り方＞（目標１・２・３）第 13回までの授業を踏まえて、望ましい教育課程について発表を行う。（目標１・２・３）	
予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、特別支援学校学習指導要領及び解説書に目を通し、下調べをするとともに疑問点等をまとめておく。
	復習	授業内容に応じて、教育課程編成の在り方や特色について、必要に応じて関係文献や参観校の資料等で再確認し、より理解する。
	展開	特別支援学校の教育課程について、学んだことや調べたことをまとめ、特別支援教育の理解を深めるとともに、今後の予定されている教育実習にスムーズに取り組めるようにする。

成績評価	評価の基準	授業への参加姿勢や発表、小テスト・レポート提出など、理解度等を確認して総合的に評価する。
	評価の方法	授業への参加姿勢 20%、小テスト 30%。レポート発表 50%、この比率をもとに総合的に評価する。
教科書	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂
	価格	440円
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
教科書	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂
	価格	450円
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
推薦図書等	書籍名	新しい教育課程と学習活動 Q & A
	著者名	全国特別支援学校知的障害教育校長会
	出版社	東洋館出版社
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	978-4-491-02550-6
参考URL		
備考		

障害教育指導法研究Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育指導法研究Ⅰ
科目責任者	佐藤 慎二
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30005001 水1
教室	講義室2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 特別支援学校(主に知的障害教育)における指導法について体験的に学び、子どもに寄り添う支援の在り方を学ぶ。

学生の達成目標 1.知的障害教育の指導法の理解
2.遊びの指導の計画・展開・評価を実際に行う。

授業内容	第1回	教育課程と指導法概説(目標1)
	第2回	教育課程・指導計画と個別の指導計画(目標1)
	第3回	個別の指導計画と授業計画(目標1)
	第4回	個別の指導計画と個別移行支援計画、個別の教育支援計画(目標1)
	第5回	学校生活づくりと「できる状況づくり」(目標1)
	第6回	知的障害教育に関連する様々な指導法・指導技法の概説(目標1)
	第7回	知的障害教育と「合わせた指導」(目標1)
	第8回	「遊びの指導」の理論(目標1.2)
	第9回	「遊びの指導」の実際の展開の要因(目標1.2)
	第10回	遊び場の構想の流れ(目標1.2)
	第11回	遊び場づくりの実際(目標1.2)
	第12回	子どもを招待して遊ぶ(目標1.2)
	第13回	子どもの遊びを高めるための補助的遊具・教師の支援(目標1.2)

	第14回	遊び場の片付け(目標1.2)
	第15回	「遊びの指導」の有用性の検証・評価(目標1.2)
予習・復習の内容	予習	遊びの指導に関心を持ち、図書館の書籍や雑誌に事前に目を通しておくこと。
	復習	授業の要点をまとめておくこと。
	展開	ボランティアに際して、子どもとの遊びの中で確かめること。
成績評価	評価の基準	指導法の理解度及び遊びの指導の計画・展開・評価の習得度
	評価の方法	授業参加の意欲(80%)レポート等の内容(20%)を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育指導法研究Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育指導法研究Ⅱ
科目責任者	山本 邦晴
担当教員	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30005101 月4
教室	ラーニング・スペース 2
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 特別支援教育の理念について学び、全ての学校（通常学級～特別支援学校）で特別支援教育の推進・充実を図る必要について理解する 2. 教育実習の事前・事後において、学習指導案の作成及び具体的な指導・支援の方法等を協議検討し、模擬授業や教材の制作等を行い、より理解を深める。
学生の達成目標	1.特別支援教育の理念を学び、多様な場（小・中学校等）で特別支援教育が推進され、適切な指導・支援体制の確立が求められている現状を理解する。 2.子どもたちが生き生きと取り組む授業づくりを想定して、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、実践的に理解を深める。 3.各校の公開研究会等に参加して、実際の教育現場の授業づくりから学び、より理解を深める。
授業内容	第1回 「特別支援教育」の理念について（目標1） 第2回 個別の指導計画（目標1・2） 第3回 学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1・2・3） 第4回 学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1・2・3） 第5回 学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1・2・3） 第6回 学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1・2・3）

	第7回	学習指導案の作成（目標1・2・3）
	第8回	学習指導案の作成（目標1・2・3）
	第9回	学習指導案の作成（目標1・2・3）
	第10回	指導支援の実際を想定した教材の制作（目標1・2・3）
	第11回	指導支援の実際を想定した教材の制作（目標1・2・3）
	第12回	模擬授業と協議（目標1・2・3）
	第13回	模擬授業と協議（目標1・2・3）
	第14回	模擬授業と協議（目標1・2・3）
	第15回	学校指導案の作成と模擬授業のまとめ（目標1・2・3） ※実習、研究会などの時期により、順を入れ替えることがあります。
予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、関係文献や資料等に目を通して理解を深めるとともに疑問点等をまとめる。
	復習	授業内容に応じて、関係文献や資料等で再確認し、より確実に理解を深める。
	展開	実習の事前・事後において、学習指導案の作成や模擬授業を行い、活用できるようにする。
成績評価	評価の基準	授業への参加姿勢や発表、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	授業への参加姿勢20％、小テスト30％・レポート提出・発表50％。この比率をもとに総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	「特別支援の「子ども理解」」
	著者名	太田俊己 高倉誠一 中坪晃一 監修
	出版社	K & A
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	978-4-9905553-2-0
	書籍名	大好きな先生に出会えたら
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会（発行）
	価格	450円
	ISBN・ISSN	—
	□上記の図書等は市販されていません。	
参考URL		
備考		

知的障害教育 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害教育 I
科目責任者	中坪 晃一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005901 土1
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 特別支援学校教諭二種免許状取得の必修科目であり、知的障害教育に関する歴史的変遷や現状及び学習指導要領と教育課程の考え方・編成等について学び、知的障害教育の在り方や進め方について理解を深める。

学生の達成目標 1.知的障害教育の歴史的変遷や現状について理解する。
2.知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成及び実際の状況等について理解する。
3.知的障害特別支援学校・特別支援学級における望ましい教育課程編成について自分の考え定める。

授業内容	第1回	知的障害教育の歴史的変遷と現状等(目標1)
	第2回	知的障害教育における学習指導要領と教育課程編成(目標2) 知的障害教育における教育課程編成の考え方・編成手順(目標2)
	第3回	知的障害教育の教育課程の特色(目標1・2・3) 知的障害特別支援学級の教育課程(目標1・2・3)
	第4回	知的障害教育における教科の内容・指導のあり方(目標1・2・3)
	第5回	知的障害教育と自立活動(目標1・2・3)
	第6回	知的障害教育と特別活動・「総合的な学習の時間」(目標1・2・3)
	第7回	個別の教育支援計画と個別の指導計画(目標1・2・3)
	第8回	知的障害特別支援学校・特別支援学級の望ましい教育課程編成(目標3)

予習・復習の内容	予習	授業内容に合わせて、特別支援学校学習指導要領等教科書に目を通し、理解を深めるとともに、不明な点・疑問点等を確認する。
	復習	授業内容に応じ、知的障害教育の在り方や進め方について、関係文献や実習校の教育課程資料を調べ再確認をし、一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の実習事前・事後に、実習校の教育課程について特色等を理解、説明する。
成績評価	評価の基準	知的障害教育の学習指導要領や教育課程等に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること、授業内容を基に自らの考えをもち、それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末テスト80%、授業への参加姿勢20%（小テスト等を含む）。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q&A」
	著者名	子ども主体の教育研究会編
	出版社	K&H
	価格	2,160円(税込み)
	ISBN・ISSN	ISBN4-9901197-6-2 C3037
	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440円(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0902
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	450円(+税)
	ISBN・ISSN	MEXT1-0902
推薦図書等	書籍名	「生活中心教育の理念と方法」
	著者名	小出進
	出版社	K&H
	価格	1,900円(+税)
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-9901197-2-0 C3037
	書籍名	「特別支援学校学習指導要解説総則編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版

価格 740円(+税)
ISBN・ISSN MEXT1-0906

書籍名 「特別支援学校学習指導要解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
著者名 文部科学省
出版社 海文堂出版
価格 200円(+税)
ISBN・ISSN MEXT1-0903

参考URL

備考

知的障害教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害教育Ⅱ
科目責任者	山本 邦晴
担当教員	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006001 土1
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義プラス実践現場の活動を織り込んで行う。朝の会や生活単元学習、ボッチャ等のスポーツ競技など、実際に活動し、できるだけ具体的な事例を多くして、知的障害教育のあり方について理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の指導法の特色である「合わせた指導」の生活単元学習と作業学習について理解する。
2. 朝の会やボッチャ等のスポーツ競技、リトミックなど、学校現場での活動を想定して実際に行い、進め方・展開についての理解を深める。
3. また進路指導・キャリア教育の在り方や進め方について、卒業後の課題等も含め理解を深める。

授業内容	第1回	知的障害とは何か？改めて、考える！（目標１・２・３）
	第2回	「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方（目標１・２・３）
	第3回	朝の会の計画と指導の実際１（目標１・２）
	第4回	生活単元学習の計画と指導の実際１（目標１・２）
	第5回	生活単元学習の計画と指導の実際２（目標１・２）
	第6回	作業学習の計画と指導の実際（目標１・２・３）

	第7回	障害者のスポーツ「ボッチャ」及びリトミックを実践する（目標1，2）
	第8回	進路指導・キャリア教育と卒業後の課題（目標3）
予習・復習の内容	予習	教科書として使用している「知的障害教育・基礎知識Q & A」等に通し予備知識を備えるとともに、疑問点等を自分なりにまとめておく。
	復習	毎授業の終わりに、授業の要点を確認するとともに、必要に応じてレポートの提出や小テストを行い、一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の教育活動を想定して、指導・支援上の留意点などについて理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業への取り組み態度や発表、必要に応じて実施する小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	授業への取り組み態度や発表20%、小テスト50%、レポート提出30%。この比率をもとに総合的に評価する。
教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q & A」
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校編
	出版社	K & H
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	—
	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
教科書	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
教科書	出版社	教育出版
	価格	450円+税
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
推薦図書等	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	740円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12412-0

書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	200円+税
ISBN・ISSN	978-4-303-12432-8

参考URL

備考

肢体不自由教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由教育
科目責任者	小久保 元
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006101 土2
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

- 授業のねらい・概要
1. 教育現場との関わりを大切にし、具体的事例を基に授業を進める。
 2. 肢体不自由児の視点に立って教育活動を考える。
 3. レポートやグループ討議を通して、指導者としての心構えや基礎力を培う。

- 学生の達成目標
1. 特別支援教育の一環としての肢体不自由教育について知る。
 2. 教育職として必要な心構えを身につけるために教育内容や指導方法について学ぶ。

授業内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 肢体不自由の子どもについて考える(講義及びレポートの視点として)(目標1, 2) |
| 第2回 | 子ども観・指導観・教育観について見つめ直す(目標1) |
| 第3回 | 子どもの自立と学力について考える(目標1, 2) |
| 第4回 | 子どもの自立と個別の教育支援計画が果たす役割について考える(目標1, 2) |
| 第5回 | 子どもの自立に向けて、個別の指導計画をどのように作成すればよいか考える(目標2) |
| 第6回 | 子どもの自立に向けて、個別の指導計画の活用のかたを実践事例から学ぶ(目標2) |
| 第7回 | 肢体不自由児の教育課程(カリキュラム)について考える(目標1, 2) |
| 第8回 | 学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標2) <教科> |

	第9回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標2)＜総合的な学習＞
	第10回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標1, 2)＜自立活動・個の成長＞
	第11回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標1, 2)＜自立活動・コミュニケーション＞
	第12回	コミュニケーション支援の具体的な方法を探る(目標1, 2)
	第13回	医療的ケアの現状と課題について知る(目標1)
	第14回	医療的ケアについて, 教育としての取り組みの実践事例から心構えを学ぶ(目標2)
	第15回	訪問教育の置かれている現状と課題について考える(目標1, 2)
予習・復習の内容	予習	肢体不自由児の生活について考えたり, 調べたりしておくこと。 (特に困難さ, 不便さについて)
	復習	毎回の授業のねらいについて, 自身の考えとしてレポートにする。
	展開	肢体不自由児の学習姿勢を確立させるための工夫や実際を実践報告や研究報告で調べ, 知識や理解を深めると同時に教育観を練る。
成績評価	評価の基準	肢体不自由児教育について授業で扱った基礎的な内容が理解できたかどうか。肢体不自由児教育を通して特別支援教育について, 自らの考えを持ち, それを教育観としての確に説明できるかどうか。を合格基準とする。
	評価の方法	毎回提出するレポートの内容(70%), 授業への取り組み姿勢(30%)等を考慮し, 総合的に判断する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	新たな肢体不自由教育実践講座
	著者名	全国肢体不自由養護学校長会 編著
	出版社	ジアーズ教育新社
	価格	2,381円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-47-2
参考URL		
備考	授業内容に応じて, グループ学習, ディスカッション, ロールプレイ等の参加型, 双方向授業を実施し, 児童の側に立った授業の工夫を実践していく。	

病弱教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱教育
科目責任者	昆 俊雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006201 土1
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義を中心とするが、レポートやグループ討議等で考える機会を設けていく。	
学生の達成目標	病弱教育の歴史や意義,病弱の子どもの心理特性,医療と教育・学校との関係,病弱教育の現代的課題等,概観しながら教育内容・指導法等について学び,基礎的理解を深める。	
授業内容	第1回	病弱教育の歴史
	第2回	病弱治療における教育の役割
	第3回	病弱の子の理解・子どもの病弱と心のケア
	第4回	病弱の特別支援学校における教育の実際 喘息,慢性疾患,肥満,小児ガン,心身症,心臓疾患,重症心身障害,腎疾患,筋ジス等の筋疾患,等の教育
	第5回	院内学級,特別支援教室等の教育の実際
	第6回	病弱教育の教育課程
	第7回	医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携
	第8回	病弱教育の指導法とまとめ
予習・復習の内容	予習	教育内容に示しているキーワード等、事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	授業後の要旨をまとめ、整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

	展開	授業内容に関連する事項などに関し、教科書や配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	試験，レポート等で総合的に評価
	評価の方法	試験20%，レポート等80%で成績を総合する。
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会/編著 丹羽登/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」PART V（病弱教育の視点からの医学事典）
	著者名	西間三馨/監修 横田雅史/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	6,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-20-5
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	視覚・聴覚障害教育総論
科目責任者	伊藤 和男 松本 末男
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006301 土2
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	視覚障害教育総論（伊藤和男） 見えない見えにくい児童の教育は、個々の視機能を考慮すると共に、触覚や聴覚などを活用して指導することが必要である。本授業では、この基本的立場を念頭に、現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶと共に、特別支援教育下における盲学校のあり方と視覚障害児に適した教育の場についても考える。講義形式。 聴覚障害教育総論（松本末男） 聴覚障害に関わる生理・病理・心理について基礎的な内容を理解し、聴覚障害児のニーズに合わせた指導を理解し、支援を進めるための基本的な資質を養う。	
学生の達成目標	（伊藤和男） 1. 視覚障害教育を概括的に学習し、視覚障害児の特性と指導法を理解する。 2. 特別支援教育における視覚障害教育の意義と今後の広がりについても学習する。 （松本末男） 1. 聴覚障害についてその障害の現れ方や、コミュニケーションの方法を理解する。 2. 言語を獲得する乳幼児期から幼児期、学齢以降の言語指導について、支援の方法を学ぶ。	
授業内容	第1回	（伊藤和男） 【視覚障害教育の概要】 視覚機構と視覚障害 視機能の検査（教育的評価） 視覚障害児童生徒の実態と教育の場（目標1）

	第2回	【教育課程と指導法】 教育課程・指導計画の作成 盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮 視覚障害児のための教材・教具（教科書）（目標1）
	第3回	【自立活動の基本と指導】 視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義 特設時間における指導の進め方と指導内容（目標1）
	第4回	【乳幼児期における支援】 盲学校幼児部の歩みと現状 幼児部における教育と視覚障害児の指導内容 幼稚園や保育所等に通う視覚障害児の援助（目標1,2）
	第5回	（松本末男） 「聴覚障害の生理、病理、心理面の理解」 聴覚器官の構造、聴覚障害の原因と分類、聴力検査、聴力レベルとオーディオグラム、聴覚補償、難聴体験を通じた活動のあり方
	第6回	「乳幼児期の支援」 AABRによる周産期の障害発見から母親への支援、乳児への支援のあり方
	第7回	「幼児期の指導」 言語獲得期の言語指導のあり方、聴覚の活用のための支援、人工内耳装用児への支援、発音指導、絵日記の活用
	第8回	「聴覚障害児、生徒のコミュニケーション」 教科指導、聴覚口話方、手話法、指文字、トータルコミュニケーション、バイリンガル・バイカルチャルアプローチ、普通学級の聴覚障害児への支援
予習・復習の内容	予習	（伊藤和男） 予めテキストを読み、関連事項を図書館等で調べるなどして授業に備える。 （松本末男） 教科書を目を通して、問題点を把握、疑問点の整理をしておく。
	復習	（伊藤和男） 授業で配布されたプリントやノートを読み直すと共に、実践例などを視覚特別支援学校のホームページや関連参考書で確認して定着を図るように心がける。 （松本末男） 当日配られた資料を読み、要点をまとめていく。
	展開	（伊藤和男） それぞれが興味を持った内容について、視覚障害教育の専門書により、さらに学習を深める。 （松本末男） 興味に合わせて、専門書を紹介するので、より深く学習をする。
成績評価		
	評価の基準	（伊藤和男） 視覚障害児の特性を理解したうえで、視覚障害教育における自立活動や教科指導の基本的な事項を習得することを目的に行う指導であることから、その学習に対する意欲や態度、理解度などを総合的に勘案して評価する。 （松本末男） 聴覚障害の特徴を理解し、聴覚障害児の教育について講義した内容を概括でき、理解しておくこと。講義を通して考えた聴覚障害児教育のあり方をまとめ、自らの考えを持ち、説明できる。
	評価の方法	（伊藤和男） 授業態度40点、レポート60点、合計100点として評価する。 （松本末男）

毎回の授業時のレポート40%，最終レポート60%を原則とする。但し，この比率は若干変更することもありうる。

教科書

書籍名	視覚障害教育に携わる方のために
著者名	香川邦生/編著
出版社	慶應義塾大学出版会
価格	3,000円+税
ISBN・ISSN	978-4-7664-1781-4
書籍名	改訂版聴覚障害教育の基本と実際
著者名	中野善達・根本匡文
出版社	田研出版
価格	2,500円+税
ISBN・ISSN	978-4-86089-018-6

推薦図書等

参考URL

備考

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	学習障害・重複障害等教育総論
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006401 土3
教室	講義室14
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	発達障害等の障害特性について基本的な理解を図り、望ましい教育的支援の方法について学ぶ 重複障害について基本的な理解を図り、望ましい教育的支援の方法について学ぶ	
学生の達成目標	1.発達障害、重複障害について基本的な内容を説明することができる 2.得た知識をもとに、障害のある子どもたちへの支援方法を考えることができる	
授業内容	第1回	発達障害の理解（目標1）
	第2回	LDの基本的理解（目標1）
	第3回	LDの教育的支援（目標1，2）
	第4回	ADHDの基本的理解（目標1）
	第5回	ADHDの教育的支援（目標1，2）
	第6回	ASD等の理解と支援（目標1，2）
	第7回	重複障害の理解と教育的支援の方法（目標1，2）
	第8回	早期発見・早期支援 学習のまとめ（目標1，2）
予習・復習の内容	予習	1年次に学んだ障害関係の授業について復習をしておくこと 関連のある報道について理解をし、自分の考えを持っておくこと
	復習	得た知識を教科書で確認する さらに深く広く知識を得ること

	展開	協議で出た意見については聞き流すことなくまとめておくこと 授業で学んだことと実習など現場で学んだことを関連づけて考えること
成績評価	評価の基準	・発達障害、重複障害等について基礎的な内容が理解できていること ・協議に積極的に参加し、的確に自分の考えを述べ、さらに深めることができていること
	評価の方法	発言・発表（30％）提出物（20％）定期試験（50％） この比率は最終的に若干変更する可能性もある
教科書	書籍名	はじめての特別支援教育 改訂版
	著者名	柘植雅義他
	出版社	有斐閣
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	978-4-641-22038-6
推薦図書等	書籍名	LD ADHD&ASD（季刊誌）
	著者名	上野一彦
	出版社	明治図書
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	特別支援教育研究（月刊誌）
	著者名	全日本特別支援教育研究連盟
	出版社	東洋館出版
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	LD ADHD等関連用語集
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1,190円
	ISBN・ISSN	4-8210-7333-1
参考URL		
備考		

言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	言語障害教育総論
科目責任者	堀 彰人
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006501 土1,2
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義を中心とするが、その中で事例の紹介や、指導に関する実技等も含めて理解を深めていく。	
学生の達成目標	1.構音障害,吃音,言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。 2.子どもの言語障害に関する指導について,事例を通して学ぶ。 3.学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。	
授業内容	第1回	オリエンテーション及び言語やコミュニケーションの発達の基礎について学習する。(目標①)
	第2回	言語発達の遅れ, 言語性学習障害等に関するアセスメント, 指導(AACを含む)について学習する。(目標②)
	第3回	構音障害の基礎について学習する。(目標①)
	第4回	構音障害に関するアセスメント, 指導について学習する。(目標②)
	第5回	吃音の基礎について学習する。(目標①)
	第6回	吃音に関するアセスメント, 指導について学習する。(目標②)
	第7回	言語障害教育の歴史や指導の場、現状と課題について概観する。(目標③)
	第8回	学習のまとめ(目標①②③)
予習・復習の内容	予習	子どもとのコミュニケーションやその支援について、自らの体験を通した課題意識をもち、それを整理して表現できるようにしておくこと。

	復習	毎回の授業の内容を振り返り、ポイントを整理しておくこと。
	展開	毎回の授業の内容を振り返り、ポイントを整理しておくこと。
成績評価	評価の基準	子どもに日常的に関わる専門職として、子どもの言語障害とその支援について、授業で扱った基礎的な内容を理解できていること。
	評価の方法	1. 毎回の小テスト等の提出50%, 2. 期末テスト50%。 ただし、この比率は、授業への参加態度を加味することを含め、最終的に若干の変更を行う場合がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	子どもがどもっていると感じたら
	著者名	広 島 忍・堀 彰 人 編
	出版社	大月書店
	価格	1,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-272-40322-6
参考URL	http://hangen.jp http://forum.nise.go.jp/kotoba/htdocs/ http://zengenren.org/ http://kituonkenkyu.org/ http://www.kitsuon-portal.jp/	
備考	推薦図書は随時紹介する。	

統合保育研究 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	統合保育研究 I
科目責任者	大木 みわ
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35008001 月3
教室	講義室3
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 障害を持つ子どもも含めた子どもたち一人ひとりが見たり感じたりする枠組みについて共感的に理解することを通して、保育者の専門性について考える。

学生の達成目標

- 1.事例研究や制作、体験活動を通して、障害を持つ子どもを含めた子どもたち一人ひとりに合った援助について考え、インクルーシブ保育の理解を深める。
- 2.幼児における障害理解について学ぶ。

授業内容

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価について |
| 第2回 | インクルーシブ保育における「遊び」とは(1) (目標1) |
| 第3回 | インクルーシブ保育における「遊び」とは(2) (目標1) |
| 第4回 | インクルーシブ保育における「遊び」とは(3) (目標1) |
| 第5回 | 季節を感じる・時間の流れを感じる(1) (目標1) |
| 第6回 | 環境による保育とは(1) (目標1) |
| 第7回 | 環境による保育とは(2) (目標1) |
| 第8回 | 障害理解教育とは(1) (目標2) |
| 第9回 | 障害理解教育とは(2) (目標2) |
| 第10回 | インクルーシブ保育の実践(1) (目標1.2) |
| 第11回 | インクルーシブ保育の実践(2) (目標1.2) |
| 第12回 | インクルーシブ保育の実践(3) (目標1.2) |

	第13回	インクルーシブ保育の実際（4）（目標1.2）
	第14回	季節を感じる・時間の流れを感じる（2）（目標1）
	第15回	インクルーシブ保育について，これまで学んだことを各自まとめ，発表する（目標1.2）
予習・復習の内容	予習	子どもや保育について関心を持ち、必要に応じて調べる。
	復習	授業で配布されたプリントを整理して、重要な内容について確認する。
	展開	特別支援学校での実習を保育の視点から見つめ学びを深める。
成績評価	評価の基準	・積極的に授業に参加している ・意見を交換しながら課題に対する理解を深めることができる ・授業の内容を理解することができる ・課題に対する自己の考えを適切に述べるることができる
	評価の方法	授業への取り組み態度35% 授業で取り上げた内容の理解65%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育研究Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	統合保育研究Ⅱ
科目責任者	田村 光子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35008101 木2
教室	講義室5
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	「まち」と「子ども」をテーマに子ども主体の生活づくりにおける地域との連携について考える。障害のある子どもの地域での生活支援に参加し、必要な支援について考える。	
学生の達成目標	1.子ども主体の生活の視点を学ぶ 2.実践を通して、地域における子どもへの支援について考える	
授業内容	第1回	ガイダンス（目標1，2）
	第2回	子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から（目標1）
	第3回	子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から（目標1）
	第4回	子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から（目標1）
	第5回	子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から（目標1）
	第6回	子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から（目標1）
	第7回	子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から（目標1）
	第8回	子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から（目標1）
	第9回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標2）

	第10回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標2）
	第11回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標2）
	第12回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標2）
	第13回	事例研究 いま求められる子育て支援とは（目標1，2）
	第14回	事例研究 いま求められる子育て支援とは（目標1，2）
	第15回	事例研究 いま求められる子育て支援とは（目標1，2）
予習・復習の内容	予習	事前に指示する内容についてレポート作成する。 その内容について当日発表できるようにしておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	子ども主体の生活づくりや地域子育て支援に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業を通してレポート発表、提出を重視する。 またその他加点として、レポートや発表の内容や、意欲等をもって判断する。
	評価の方法	レポート作成 60% レポート発表 30% その他加点 10%
教科書	書籍名	「子どもの道くさ」
	著者名	水月昭道
	出版社	東信堂
	価格	756円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4887136830
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育研究Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	統合保育研究Ⅲ
科目責任者	黒田 静江
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35008201 月4
教室	セミナー室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育や教育現場における音楽活動・音楽療法の果たす役割を考え、指導法を研究したり、指導計画立案・発表・討議を行う。また、統合保育が行われている保育現場へ見学参加実習に行き、統合保育に対する理解を深める。	
学生の達成目標	1.身体表現活動を通して、表現力・社会性やコミュニケーション力が養われることを学ぶ。 2.幼児の様々な音楽活動について、実技を通して学び、実践力を養う。 3.統合保育がどのように行われているのかを理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	統合保育とは何か（目標1）
	第3回	子どもの発達（目標1）
	第4回	音楽と動き（1）リトミック（目標1）
	第5回	音楽と動き（2）リズム運動（目標1）
	第6回	音楽と動き（3）あそび歌（目標1）
	第7回	音楽と動き（4）わらべうた（目標1）
	第8回	幼稚園における統合保育（見学・参加実習）（目標1）
	第9回	幼稚園における統合保育（見学・参加実習）（目標1）
	第10回	こども園における統合保育（見学・参加実習）（目標2）
	第11回	こども園における統合保育（見学・参加実習）（目標2）

	第12回	音楽療法（１）基本的考え方（目標３）
	第13回	音楽療法（２）特別支援学校の事例から（目標３）
	第14回	課題（目標３）
	第15回	発表・まとめ
予習・復習の内容	予習	簡単な曲をピアノで弾けるようにしたり，音楽活動を引き出す音を各自で準備する。また、毎回出される課題に対して指導計画を準備をする。
	復習	学習内容をノートにまとめたり,学んだことを実践できるよう準備したり，弾けるようになったピアノ曲を時々弾いてみる。
	展開	今後の実習の中で,積極的に音楽活動を取り入れ実践する。
成績評価	評価の基準	レポート・研究発表・授業への意欲などを総合的に評価する。
	評価の方法	レポート（40％） 研究発表（40％） 授業への意欲（20％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	子どもの世界をよみとく音楽療法
	著者名	加藤 博之 著
	出版社	明治図書
	価格	2,400円＋税
	ISBN・ISSN	10-4180584204
推薦図書等	書籍名	必ずラポールは築ける50のリズム歌あそび
	著者名	城谷 敬子 著
	出版社	あおぞら音楽社
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	10-4904437020
参考URL		
備考		

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習
科目責任者	堀 彰人
担当教員	松原 敬子 大木 みわ 中坪 晃一 佐藤 慎二 山本 邦晴 漆澤 恭子 黒田 静江 田村 光子 相磯 友子 根本 曜子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30016601
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	特別支援学校での教育実習を通して、特別支援学校の教員としての資質・能力を高める。
学生の達成目標	次の3点を達成目標とする。 ①特別支援教育で求められる専門的な知識・技能を身につけ、 ②子どもへの適切な指導・支援を学び実践するとともに、 ③教員の職務とその使命を理解する。
授業内容	この科目は後期10月にて行う。 1. 特別支援学校の学校生活の計画と実際を理解する。 ・ 一日、一週間、一年間の生活の流れ ・ 教育課程の概要 など（目標3） 2. 指導・指導計画の作成や授業の進め方を学ぶ。 ・ 各授業の年間計画や単元計画の実際 ・ 指導計画や支援（指導）案の作成 ・ 授業計画の実際 など（目標1,2）

3. 障害のある子どもへの適切な指導・支援を学ぶ。
 - ・子ども個々の様子の把握の仕方
 - ・個別の指導（支援）計画
 - ・支援の実際―「できる状況づくり」の工夫
 - ・授業中の声かけや手助け など（目標1,2）
4. 教師のあり方やなすべき様々な仕事の理解
 - ・望ましい教師の姿
 - ・教材準備や学級便り作成等、教師の仕事の実際 など（目標3）

予習・復習の内容	予習	実習配属先の学校要覧を取り寄せ、実習先の方針や児童生徒の概要の把握に努める。
	復習	授業のポイントを整理し、指導案・支援案の作成に生かす。
	展開	個々の様子の把握、個々に応じた支援・指導の工夫を、他の実習等に生かす。
成績評価	評価の基準	実習中の姿勢や意欲、指導案等書類の作成も含めた実習先の評価を参考に評価する。
	評価の方法	実習先からの評価表90%と実習に関わる記録簿、指導案等の課題の提出10%をもとに評価を行う。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	堀 彰人
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30006801 前期：土5 後期：土4
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。 2. 特別支援教育の教育課程の特色及び指導法の他、実習校の概要の理解を深める。 3. 支援（指導）案、記録簿の書き方や、子どもの様子の把握と支援等について学ぶ。	
学生の達成目標	次の3点を達成目標とする。 ①特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通して、 ②特別支援学校教育従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、 ③専門的な知識・技能を身につける。	
授業内容	第1回	実習の意義と目的（目標②③）
	第2回	実習の意義と目的（目標②③）
	第3回	特別支援学校の概要の理解（目標①②）
	第4回	特別支援学校の概要の理解（目標①②）
	第5回	児童・生徒への支援的対応について（目標①③）
	第6回	児童・生徒への支援的対応について（目標①③）
	第7回	実習における態度・実習における自己目標の設定（目標②）
	第8回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標③）
	第9回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標③）

	第10回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標③）
	第11回	実習先での事前訪問とオリエンテーション（目標②③）
	第12回	実習先での事前訪問とオリエンテーション（目標②③）
	第13回	実習校との手続き（目標①②）
	第14回	実習日誌の整理・実習の自己評価（目標①②③）
	第15回	意見交換と反省・まとめ（目標①②③）
予習・復習の内容	予習	実習先の学校要覧をもとに、実習先のカリキュラムや児童生徒の概要の把握をする。
	復習	授業のポイントについて整理をする。
	展開	実際の特別支援学校での実習で学んだことを生かす。
成績評価	評価の基準	授業の参加姿勢の他、レポート等課題の提出状況を総合して評価する。
	評価の方法	授業の参加姿勢50%、レポート等課題の提出状況50%とする。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	特別支援学校学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	462円
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編等
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	473円
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
	書籍名	支援案の書き方 個別の支援計画
	著者名	太田俊己監修 千葉大学教育学部附属養護学校著
	出版社	K&H
	価格	1,995円
	ISBN・ISSN	978-4-99001197-3-7
推薦図書等	書籍名	感じ合い 分かり合い 支え合い
	著者名	小出進
	出版社	－
	価格	1,000円
	ISBN・ISSN	－
		□上記の図書等は市販されていません。

参考URL

備考

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	中坪 晃一
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009101
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って修了研究をまとめ、障害児者支援についての理解を一層深める。
学生の達成目標	1.知的障害等のある子どもや青年・大人の生活の場－特別支援学校や各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア活動等を積み重ね、生活の整え方や障害のある人への支援のありようについて理解を深める。 2.各自が設定したテーマに沿って、論文としてまとめる。
授業内容	○授業は通期で行います。 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。（目標1） 第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。（目標1） 第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。 第34回 各自の研究課題の発表・協議。（目標1・2） 第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。（目標1・2） 第50回 中間発表。（目標1・2） 第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。（目標1・2） 第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。（目標1・2） 第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出。（目標1・2） 第60回 修了研究発表会。（目標1・2）
予習・復習の内容	設定したテーマに沿って、参考文献等をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うとともに、ボランティア活動等調査・研究活動の事前準備を行い、実際の状況を把握する。

	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査・研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連するテーマや他施設等の情報等を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果・考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10% 調査・研究活動への取り組み10%。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	※必要な資料・文献等を適宜紹介する。	

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	佐藤 愼二
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009102
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを重視する。 2. テーマや進路先とも関連させながらの個別的な支援を丁寧に行うことを重視する。	
学生の達成目標	保育や教育の場、あるいは、学校教育卒業後の場における、発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症等）、知的障害等のある子ども・青年の理解や支援に関連したテーマで実践研究に取り組み、修了研究をまとめる。	
授業内容	○授業は通期で行います。 第1回 オリエンテーション-修了研究の進め方や年間の見通しについての確認 第2回～第4回 各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談 第5回～第8回 修了研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討 第9回～第30回 資料収集・文献研究 第31回 各自の研究課題の発表と協議 第32回～第49回 資料整理・論文執筆 第50回 中間発表会 第51回～第59回 論文の加筆・修正・提出 第60回 修了研究発表会	
予習・復習の内容	予習	○積極的に関連の資料を収集する。 ○自発的に収集した資料をまとめる。
	復習	授業で確認された点をすぐに論文作成に反映すること。
	展開	自発的に周辺領域の文献・資料にあたること。

成績評価	評価の基準	修了研究への意欲・熱意，修了研究の成果等を総合的に評価する。
	評価の方法	修了研究への意欲・熱意(50%)，修了研究の成果等(50%)を総合的に評価する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		学生のテーマに合わせて，参考文献・資料等を紹介する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	山本 邦晴
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009103
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	障害児者の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って修了研究をまとめ、障害児者支援についての理解を一層深める。
学生の達成目標	1.障害のある子どもや青年・大人の生活の場～特別支援学校や各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア活動等を積み重ね、生活の整え方や障害のある人の支援のありようについて理解を深める。 2.各自が設定したテーマに沿って、論文としてまとめる。
授業内容	○授業は通期で行います。 第1回 オリエンテーションー修了研究の進め方や年間の見通しについての確認。（目標1・2） 第2回～第4回 各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。（目標1・2） 第5回～第8回 修了研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。（目標1・2） 第9回～第30回 資料収集・文献研究。（目標1・2） 第31回 各自の研究課題の発表と協議。（目標1・2） 第32回～第49回 資料整理・論文執筆。（目標1・2） 第50回 中間発表会。（目標1・2） 第51回～第59回 論文の加筆・修正・提出。（目標1・2） 第60回 修了研究発表会。（目標1・2）
予習・復習の内容	予習 設定したテーマに沿って、参考文献等をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うとともに、ボランティア活動等調査研究活動を行い実際の状況を把握する。

	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連する他施設等の情報等を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果・考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み10%ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		
教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
推薦図書等		
参考URL		
備考		
必要な資料・文献等を適宜紹介する。		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009104
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・実際の教育場面に関わりをもち、これまでの学修を活かし、自ら問題意識を高め研究活動を行うこと
学生の達成目標	1.発達障害のある子どものやりにくさを理解し、望ましい支援について試行する 2.周りの子や、学級の理解・啓発について考える 3.これらに関する各自が設定したテーマで研究活動に取り組み修了研究としてまとめる
授業内容	○授業は通期で行います。（目標1,2,3） 【第1回～第13回】 ○オリエンテーション 研究の進め方や年間の見通しについて ○協議①各自の興味関心について意見交換し、課題設定について検討する ○協議②各自の興味関心について意見交換し、課題設定について検討する ○テーマに基づき、研究方法を考える① ○テーマに基づき、研究方法を考える② ○各自の研究方法に添って研究活動を行う① 文献研究、調査研究、参観研究、ボランティア体験等 ○個別相談を随時行う 【第14回～第16回】 ○中間発表 協議 執筆について（構成、体裁、倫理等） 【第17回～第40回】 ○研究活動 個別相談を随時行う 並行し執筆活動 【第41回～第50回】 ○執筆活動 個別相談を随時行う 【第51回～第53回】 ○発表会 協議 【第54回～第57回】

○加筆 修正
【第58回～第60回】
○修了研究発表会

予習・復習の内容	予習	自身の研究の目的を明らかにし、それに向かって進めること
	復習	協議で出た意見についてまとめ、様々な見方、考え方を知ること 協議では、自分の論説が他にわかりやすいかどうか、正しく伝わるかなども確認する
	展開	研究にあたっては、仮説を持ち臨むこと 常に情報を収集すること
成績評価	評価の基準	取り組みの姿勢 論理性 論文構成
	評価の方法	論文80%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み10%ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	必要とする参考文献等は随時紹介する	

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2016年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 堀 彰人

授業形態 演習

開講時期 集中（内容・期間は別途入力します）

登録コード・曜日・時限 35009105

教室

卒業要件 特別支援教育専攻： 必修

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 障害のある人の生活の場に関するテーマを設定し、調査・研究を行って修了研究をまとめ、障害児者の支援について理解を一層深める。

学生の達成目標 目標①：知的障害のある子ども、青年、大人の生活の場－幼稚園、保育所、特別支援学校、各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア等を積み重ねて、生活の整え方や障害のある人への支援について理解を深める。
目標②：各自が設定したテーマに沿って、論理的に整理・考察を加える。

授業内容 ○授業は通期で行います。（すべて目標①②）
第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
第34回 各自の研究課題の発表・協議。
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。
第50回 中間発表。
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出。
第60回 修了研究発表会。

予習・復習の内容 予習 設定したテーマにそって、参考文献をもとに、関係資料の収集や文献研究を行うと共に、ボランティア活動等、調査研究活動を行い、実際の状況を把握する。

	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため、関連する他施設等の情報を調べたりして、内容を深める。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・結果・考察等の妥当性・成果及び、取り組み姿勢・態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文70%、授業への参加姿勢10%、調査研究活動への取り組み20%。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		
教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	黒田 静江
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009106
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻； 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもの音楽や表現活動に関する研究テーマを設定し、文献や保育・教育現場でのボランティア等から、情報収集して分析・検討を行い、報告書にまとめる。保育・教育の場に関わりをもって、自らの問題意識を高めることを重視する。
学生の達成目標	1. 各自が抱えている問題意識や関心事の中から、研究テーマを設定し、様々な情報収集を行う。 2. 保育・教育現場での実習やボランティアなどを経験しながら研究を深める。 3. 研究結果を適切にまとめる。
授業内容	○授業は通期で行います。 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方） 第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討（目標1） 第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む（目標1・2） 第34回 各自の研究課題の発表・協議（目標3） 第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究（目標1・2） 第50回 中間発表（目標3） 第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標3） 第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援（目標3） 第58回～第59回 論文の加筆・修正論文の提出（目標3） 第60回 修了研究発表会（目標3）
予習・復習の内容	興味や関心のあることに関連した著書を読んだり、情報収集を行う。 予習 う。またボランティア活動などを経験し、音楽が果たしている役割について考える。

	復習	発表・討議を通して学んだことや気づいたことを整理し，積極的に研究活動を行う。		
	展開	研究したことを実践できる機会を設ける。		
成績評価	評価の基準	自分なりにテーマに向き合い，努力して研究を進められたか。また意見や助言を受けとめ意欲的に研究できたかなども考慮し，研究報告の成果を総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（50%）	研究過程（30%）	授業への意欲（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	各自のテーマに合わせて，参考文献を紹介する。			
推薦図書等	書籍名	よくわかる卒論の書き方		
	著者名	白井 利明 著		
	出版社	ミネルヴァ書房		
	価格	2,500円＋税		
	ISBN・ISSN	10-4623065723		
参考URL				
備考				

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009107
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・幼児の運動や健康に関する内容など、各自が自ら設定したテーマで研究に取り組み、修了研究をまとめる。
学生の達成目標	1. 自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定していく。 2. 調査・研究活動に取り組む。 3. 発表・協議を重ね、報告書にまとめていく。
授業内容	○授業は通期で行います。 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）（目標1） 第2回～第3回 一人ひとりの関心等について意見交換し、課題設定について検討する。（目標1） 第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。（目標2） 第34回 各自の研究課題の発表・協議（目標2・3） 第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究（目標2・3） 第50回 中間発表（目標2・3） 第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標3） 第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援（目標3） 第58回～第59回 論文の加筆・修正 論文の提出（目標3） 第60回 修了研究発表会（目標3）
予習・復習の内容	予習 関連する図書を読んだり、報道について理解しておくこと。 復習 毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 展開 最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	取り組みへの姿勢を考慮し、研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	修了研究（60％）・研究過程（20％）・授業への参加態度（20％）
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		各自のテーマに合わせて、参考書籍を紹介する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	大木 みわ
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009108
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 幼稚園、保育所等の子どもの生活や保育者の援助に関する研究テーマを設定し、研究活動に取り組み、論文の作成を通してテーマに関連する知識・理解を深める。

学生の達成目標 1.各自の興味関心と関連する文献調査から、研究テーマを設定する。
2.研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。
3.発表・協議を重ね、修了研究を作成する。

授業内容 ○授業は通期で行います。
第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）
第2回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討する（目標1）
第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討する（目標1）
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む（目標2）
第34回 各自の研究課題の発表・協議（目標2）
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究（目標2）
第50回 中間発表（目標3）
第51回 論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標3）
第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標3）
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援（目標3）
第58回 論文の加筆・修正（目標3）
第59回 論文の加筆・修正 論文の提出（目標3）
第60回 修了研究発表会（目標3）

予習・復習の内容

予習	各自の研究テーマを明確にするために、関心のあることについて調べる。
復習	研究テーマに関する進捗状況や毎回の授業の要旨をまとめる。

	展開	課題を見つけて対応していく態度を身につけ、卒業後保育・教育現場でテーマを持って取り組めるようにする。
成績評価	評価の基準	修了研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
	評価の方法	修了研究の内容と作成過程70% 発表、討論への参加状況等30%
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		各自のテーマに合わせて、参考文献を紹介する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2016年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期 集中（内容・期間は別途入力します）

登録コード・曜日・時限 35009109

教室

卒業要件 特別支援教育専攻： 必修

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 地域での子育て支援および相談支援にかかわる研究テーマを設定し、各自研究に取り組み、修了研究としてまとめる。

学生の達成目標 1.実際の生活の場にかかわりをもって、自ら問題意識を深める
2.個別の支援・指導を基本に、中間発表会等全体で集まる機会を適宜設ける

授業内容は通期で行います。
第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）（目標1、2）
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討（目標1、2）
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む（目標1、2）
第34回 各自の研究課題の発表・協議（目標1、2）
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究（目標1、2）
第50回 中間発表（目標2）
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標1、2）
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援（目標1、2）
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出（目標1、2）
第60回 修了研究発表会（目標2）

予習・復習の内容

予習 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組み、わかったことについてまとめておくこと。

復習 経過的指導を受けられるようにまとめておく。
また、指導を受けた内容についても、ポイントを整理し、論文に加筆・修正できるようにしておく。

展開 中間発表では、これまで研究の経過や明らかにしたい研究目的について明確にしておくこと。

成績評価	評価の基準	レポートの作成過程とその内容
	評価の方法	修了研究の過程における評価（30%） 修了論文の内容における評価（60%） 授業への参加意欲・態度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	随時参考文献など紹介する	

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	相磯 友子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009110
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	特別なサポートを必要とする子ども・青年・成人に関する事象について、各自が設定したテーマで研究活動に取り組み、論文の作成を通してテーマに関連する知識・理解を深める。調査等の実施方法、論文の作成方法を習得する。
学生の達成目標	1.興味関心に添って自ら研究テーマを設定し、先行研究を整理する。 2.研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。 3.研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ修了研究を作成する。
授業内容	○授業は通期で行います。 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）（目標1） 第2～3回 興味関心に基づいて研究課題を探す（目標1） 第3～5回 研究課題に関する文献を収集する（目標1） 第6～7回 研究課題に関する文献を読み込む（目標1） 第8～9回 研究課題の明確化（目標1） 第10～12回 研究課題に即した研究方法を検討する（目標2） 第13～32回 研究課題に関する文献またはデータの収集（目標2） 第33～37回 文献の整理（目標1・2） 第38～42回 データの分析（目標2） 第43～52回 修了研究の執筆（目標3） 第53～55回 修了研究についての助言・相談支援（目標3） 第56～58回 修了研究の修正（目標3） 第59回 修了研究の提出（目標3） 第60回 修了研究発表会の実施（目標3）

予習・復習の内容	予習	本学における文献収集の方法を調べる。（図書館の蔵書検索、Ciniiでの論文検索等）
	復習	自らの興味・関心に合わせて、文献を収集・整理し課題を明確にする。
	展開	研究成果をわかりやすくまとめプレゼンテーションする。
成績評価	評価の基準	自分で修了研究の課題を設定し、適切な方法で研究を行い、修了研究を作成することができること。
	評価の方法	修了研究60%,修了研究の作成過程40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自の研究テーマに合わせて参考文献を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009111
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもをとりまく様々な課題の中から、興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組み、発表・協議を行い、修了研究としてまとめる。	
学生の達成目標	1.実習、ボランティアなど実際にに関わり、自ら問題意識を深める。 2.研究テーマに基づき、資料を収集するなど研究を進める。 3.研究したテーマを論文にまとめる。	
授業内容	○授業は通期で行います。 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。（目標2） 第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。（目標1） 第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。（目標2） 第34回 各自の研究課題の発表・協議。（目標2） 第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。（目標2） 第50回 中間発表。（目標2） 第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。（目標3） 第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。（目標3） 第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出（目標3） 第60回 修了研究発表会（目標1,2,3）	
予習	各自の研究テーマについて、日常的に関心を高め、資料収集に努める。	
予習・復習の内容	復習	資料に基づき、自らの考えを深め考察をする。
	展開	中間発表などを通し、互いの研究を確認、再考する。

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（ 50%）	研究過程（ 30%）	授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門基礎科目
授業科目名	キャリアガイダンス
科目責任者	川村 博子
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 中西 正人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12001105 水2
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。	
学生の達成目標	1.自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。 2.将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション、自己理解を深める、職業選択について (目標1)
	第2回	進路について考える (キャリアについて・職場定着について) (目標2)
	第3回	情報収集 (目標1)
	第4回	グループワーク (目標1)
	第5回	グループワーク (目標1)
	第6回	アサーティブ講座 (目標2)
	第7回	卒業生のお話を聞く会 (目標2)
	第8回	講演会 (目標2)
	第9回	ストレスマネジメント講座 (目標2)

	第10回	ライフプラン（保険）講座（目標2）
	第11回	職場定着のための労働・社会保障関係法の知識（目標2）
	第12回	ハラスメント講座（目標2）
	第13回	グループ面談（進路希望）（目標2）
	第14回	グループ面談（進路希望）（目標2）
	第15回	現場の話しを聞く会（目標2）
予習・復習の内容	予習	授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	指示されたレポート課題等を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等。
	評価の方法	提出レポート（80％）授業参加態度等（20％）を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	進路ガイドブック（本学キャリア支援委員会 編）	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護保険制度とその他の諸制度

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護保険制度とその他の諸制度
科目責任者	松井 奈美
担当教員	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20000301 金5
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護福祉実践の主な根拠法である「介護保険制度」および「障害者総合支援法」の仕組みや内容を把握し、介護を必要とする利用者の生活実態や介護福祉従事者の業務、役割などを理解する。
-----------	--

学生の達成目標	1.介護保険制度の仕組みとサービス内容を理解する。 2.障害者総合支援法の仕組みとサービス内容を理解する。 3.その他関連する諸制度の目的を理解したうえで、利用者の生活や多職種連携の状況がイメージできる。
---------	--

授業内容	第1回	オリエンテーション:社会保障制度の概要を確認（復習）する。（目標1）
	第2回	我が国の介護保険制度創設の背景と目的，変遷について理解する。（目標1）
	第3回	介護保険制度の仕組みを理解する。（目標1）
	第4回	介護保険サービス利用の流れと介護サービスの種類を把握する。（目標1）
	第5回	日本の介護保険制度の課題と展望について考察する。（目標1）
	第6回	介護保険制度と関連諸制度との関係及び各専門職の役割を理解する。（目標1,3）

	第7回	障害者総合支援法創設の背景と目的、動向を理解する。（目標2）
	第8回	障害者総合支援法の仕組み①（自立支援給付・利用者負担・障害福祉事業者・施設・専門職と役割について学ぶ）（目標2）
	第9回	障害者総合支援法の仕組み②（障害者福祉サービス利用の流れ・種類と内容、組織・団体の役割について学ぶ）（目標2）
	第10回	介護福祉実践に関連する諸制度①（日常生活自立支援事業・成年後見制度等を理解する）（目標1,3）
	第11回	介護福祉実践に関連する諸制度②（高齢者虐待防止法・高齢者保健医療制度を理解する）（目標1,3）
	第12回	介護福祉実践に関連する諸制度③（介護予防施策・難病対策・感染症予防などの制度を理解する）（目標1,3）
	第13回	介護福祉実践に関連する諸制度④（生活保護法等、生活を支える諸制度の概要を理解する）（目標3）
	第14回	介護福祉実践に関連する諸制度⑤（高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度の概要の理解及び諸外国の社会保障制度を確認する）（目標3）
	第15回	介護福祉専門職が諸制度を理解することの必要性を確認する（まとめ）（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	授業前にテキストの該当ページに目を通し、学習概要を把握しておくこと
	復習	レジュメやテキストを用いて重要であると説明された内容や用語をノートに整理すること
	展開	各制度の仕組みやサービスが、介護を必要とする人々の生活とどのようにかかわっているか、また、日本における各制度の課題等を理解することができる
成績評価	評価の基準	担当コマ数と評価持ち点を比例させる形で、教員2名の点数を加算して評価する 【評価持ち点】松井：80点、川村：20点
	評価の方法	松井：定期テスト（60%） ミニテスト（20%） 川村：定期テスト（20%）
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座2『社会と制度の理解』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規出版
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5110-4
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書2『人間と社会－社会の理解』
	著者名	小澤温・秋元美世（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3191-0

参考URL

備考

- ・ 第1～第6回/第10～第15回：松井担当
 - ・ 第7回～第9回：川村担当
〈松井〉
 - ・ ミニテストは4回実施する予定
-

介護福祉特論 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2016年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護福祉特論 I

科目責任者 中西 正人

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
松井 奈美
山田 美知代

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 31002701 水2,3

教室 講義室7

卒業要件 介護福祉専攻： 必修

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護福祉士に必要な知識について、基礎的な学力を身につける。

学生の達成目標
1.自身の苦手分野を理解することができる。
2.前期修了科目については、基礎的な学力を身につけられる。

授業内容	第1回	模擬試験①（目標1）
	第2回	模擬試験②（目標1）
	第3回	生活支援技術①（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）（目標2）
	第4回	生活支援技術②（生活支援技術Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ）（目標2）
	第5回	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション（目標2）
	第6回	発達と老化の理解（目標2）
	第7回	こころとからだのしくみ（目標2）
	第8回	コミュニケーション技術（目標2）
	第9回	介護過程（目標2）

	第10回	認知症の理解（目標2）
	第11回	障害の理解（目標2）
	第12回	介護の基本①（介護の基本Ⅰ・Ⅱ）（目標2）
	第13回	介護の基本②（介護の基本Ⅲ）（目標2）
	第14回	社会の理解（目標2）
	第15回	総合問題（目標2）
予習・復習の内容	予習	模擬試験前：各科目のキーワードについて確認しておくこと。 模擬試験後：試験問題の正答について調べておくこと。
	復習	毎回の授業で示されたポイントについて整理すること。
	展開	模擬試験を通じて卒業時共通試験について理解を深める。 最新の図書等で知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	各科目の内容が理解できていること。各科目における内容についての的確に説明ができることを合格基準とする。
	評価の方法	授業への取り組み20%、レポート80%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	介護福祉士 受験ワークブック
	著者名	介護福祉士受験ワークブック編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	3,024円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5003-9
参考URL		
備考		

介護福祉特論Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2016年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護福祉特論Ⅱ

科目責任者 中西 正人

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
松井 奈美
山田 美知代

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 31002801 金2,3

教室 講義室14

卒業要件 介護福祉専攻： 必修

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護福祉士に必要な知識について、全般的に理解を深め、専門職として活躍するための力を身につける。

学生の達成目標 これまでに学習した各科目について理解を深めることができる。

授業内容	第1回	模擬試験①
	第2回	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション
	第3回	介護の基本①（介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）
	第4回	介護の基本②（介護の基本Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ）
	第5回	発達と老化の理解
	第6回	認知症の理解
	第7回	障害の理解
	第8回	こころとからだのしくみ
	第9回	社会の理解

	第10回	コミュニケーション技術
	第11回	生活支援技術①（環境、移動、食事、入浴）
	第12回	生活支援技術②（身じたく、排泄、睡眠・終末期）
	第13回	介護過程
	第14回	医療的ケア
	第15回	総合問題
予習・復習の内容	予習	模擬試験前には、各科目の振り返りを行っておくこと。 模擬試験後は、各科目の授業において示されたキーワードについて調べておくこと。
	復習	模擬試験の正答について調べておくこと。 毎回の授業で示されたポイントについて整理すること。
	展開	介護福祉士国家試験に関する資料などを参考に各科目毎の理解を深める。
成績評価	評価の基準	各科目において基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	授業への取り組み20%、試験での得点80%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	見て覚える！ 介護福祉士国士ナビ
	著者名	いとう総研資格取得支援センター
	出版社	中央法規
	価格	2,592円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5014-5
推薦図書等		
参考URL		
備考		

音楽療法

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	音楽療法
科目責任者	池田 仁美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11003001 月3,4
教室	講義室5
卒業要件	介護福祉専攻： 選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	高齢者の機能維持・改善，生活の質の向上に向けて，意図的・計画的に活用する音楽療法を学ぶ。	
学生の達成目標	入所施設・通所施設利用者が楽しめる音楽活動を身につける。	
授業内容	第1回	音楽療法とは
	第2回	精神科病院・高齢者施設・通所施設での音楽療法
	第3回	季節の歌を使った音楽療法
	第4回	唱歌を使った音楽療法
	第5回	ナツメロを使った音楽療法①
	第6回	ナツメロを使った音楽療法②
	第7回	楽器を使った音楽療法
	第8回	まとめ－高齢者が楽しめる音楽活動を想定し発表する。
予習・復習の内容	予習	高齢者の好きな歌（唱歌・ナツメロ等）を想定し，毎回1～2曲歌えるように練習する。
	復習	授業の中で使用した曲は歌詞を見ないで歌えるようにする。
	展開	高齢者と楽しめる音楽活動を提供できるように，より多くの曲を覚える。

成績評価	評価の基準	授業参加への意欲・姿勢等，試験，レポートの内容等を考慮して総合的に評価する。
	評価の方法	試験（40％），レポート（30％），授業内での発表等（30％）
教科書	書籍名	歌の宝石箱
	著者名	呉竹英一 編
	出版社	ドレミ音楽出版社
	価格	2,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-285-14276-1
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書については，必要に応じて紹介する。	

介護の基本 I（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本 I（介護福祉論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010505 水1
教室	講義室3
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護の歴史を踏まえての現状把握、新しい法改正下の介護福祉士の役割と義務が理解できるようにする。諸外国の状況から自国の課題を見出せるようになる。

学生の達成目標

1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を理解できる。
2. 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。
3. 介護におけるチームケア等について、理解する。

授業内容

第1回	ガイダンス 介護福祉士を取り巻く状況、介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化{目標1}
第2回	現代社会と介護—介護問題の背景① —日本の高齢化の特徴、家族形態、家族機能 {目標1、2}
第3回	現代社会と介護—介護問題の背景② —老老介護、孤独死、高齢者虐待、認知介護 {目標1、2}
第4回	尊厳を支える介護 福祉の主要理念（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援個別ケア、ICF）{目標2}
第5回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法 ①定義、倫理、養成制度、プライバシーの保護{目標1}
第6回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法 ②専門職団体の活動、職業倫理{目標1}
第7回	介護実践における連携①多職種連携 —チームの種類と機能、連携の意義と目的 {目標3}

	第8回	介護実践における連携② ―他の福祉職の機能と連携 {目標3}
	第9回	介護実践における連携③ ―保健医療職との連携、医療行為 {目標3}
	第10回	介護実践における連携④地域連携 ―地域連携の意義と目的 {目標3}
	第11回	介護実践における連携⑤ ―インフォーマルな社会資源の重要性 {目標3}
	第12回	介護実践における連携⑥ ―地域包括支援センターの機能と役割、行政 {目標3}
	第13回	海外における介護福祉の動向{目標1}
	第14回	今後の介護福祉の課題 {目標1, 2}
	第15回	今後の介護福祉の課題とまとめ {目標1, 2}
予習・復習の内容	予習	家族介護について書かれている本を読み, 「介護」についての関心をもつ。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	介護の専門性について最新の図書を調べ, 知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について, 授業内容を踏まえ適確に説明できること又は, 実践できることを基準とする。
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3190-3 C 3336
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅱ（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅱ（介護対象論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010601 火2
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から解説し、それらの人とどう向き合うか考えていく。

学生の達成目標

- 1.介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を知る。
- 2.その人への介護（特に尊厳を支える介護・自立への介護）について考える。
- 3.介護者の在り方について学びを深める。

授業内容	第1回	ガイダンス VTR {目標3}
	第2回	介護を必要とする人の理解 I－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史） {目標1}
	第3回	介護を必要とする人の理解 I－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式） {目標1}
	第4回	介護を必要とする人の理解 I－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動） {目標12}
	第5回	介護を必要とする人の理解 I－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用） {目標1}
	第6回	介護を必要とする人の理解 I－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ） {目標12}
	第7回	介護を必要とする人の理解 I－⑥障害のある人の暮らし（生活を支える基盤） {目標12}

	第8回	介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域の存在そのI {目標3}
	第9回	介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域の存在その2 {目標3}
	第10回	介護を必要とする人の理解 II－①高齢者の身体的・心理的特徴 {目標1}
	第11回	介護を必要とする人の理解 II－②障害者の身体的・心理的特徴 {目標1}
	第12回	介護を必要とする人の理解 II－③終末期にある人の理解 I {目標1}
	第13回	介護を必要とする人の理解 II－④終末期にある人の理解 II {目標1 2}
	第14回	介護を必要とする人の理解 II－⑤終末期にある人の理解 III {目標1 2 3}
	第15回	学生による発表と討議 {目標1・2・3}
予習・復習の内容	予習	・自らの暮らし、高齢者の暮らし、関心を持ち、一日記録してみる。 ・参考図書を読み、「介護を必要とする人」について理解しておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	高齢者、障害者、そして終末期にある人の心理について関連図書を読み、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3190-3 C 3336
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）
科目責任者	今井 訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20010705 火3
教室	講義室5
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 具体的な事例をもとにグループワークを取り入れ、リスクマネジメント、セーフティマネジメントを考える。介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防対策について知識を深める。

学生の達成目標 1.リスクマネジメントの目的を理解する。
2.介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。
3.施設介護、在宅介護の場における事故についての知識を深め、その予防法について学ぶ。

授業内容	第1回	ガイダンス、リスクマネジメントの考え方（目標1）
	第2回	セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保）（目標1）
	第3回	リスクコントロール・リスクファイナンス（目標1,2）
	第4回	介護における安全確保とリスクマネジメント ①ケアマネジメントとリスクマネジメント（目標2）
	第5回	介護における安全確保とリスクマネジメント ②ヒヤリハット事例の分析（目標2,3）
	第6回	介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策（目標2,3）
	第7回	介護における安全確保とリスクマネジメント ④施設内の事故の特徴と対策（目標2,3）
	第8回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防（目標2,3）

	第9回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時・医療対応時の対応（目標2,3）
	第10回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク（目標2,3）
	第11回	認知症高齢者の事故対策（目標2,3）
	第12回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ①心の健康管理（スーパービジョンの存在）（目標2）
	第13回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ②腰痛等身体の健康管理（福祉用具の活用）（目標2）
	第14回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ③感染予防の対策と労働安全（関係法規）（目標2）
	第15回	まとめ・マニュアル作成（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	過去に起こった介護事故についてその経緯を調べ、対策を考えておくこと。
	復習	授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	利用者、介護者それぞれの視点でのリスクマネジメントを理解する。
成績評価	評価の基準	テスト、課題レポート・作成マニュアル 授業態度により評価する。
	評価の方法	試験70%、レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書3 介護の基本
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3192-7
推薦図書等	書籍名	介護分野におけるリスクマネジメント
	著者名	金子努
	出版社	中央法規出版株式会社
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-2614-0
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）
科目責任者	宮崎 陽夫
担当教員	山崎 敦
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010801 木4
教室	講義室2
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 リハビリテーション医学から高齢者の疾患・障害像を把握し、介護におけるリハビリテーションの考え方を理解する。

学生の達成目標

- 1.高齢者の肢体不自由をきたす疾患・障害についての知識を身につける。
- 2.リハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を客観的,科学的な思考ができるようにする。

授業内容

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | リハビリテーション概論(目標1.2) |
| 第2回 | 障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖）(目標1.2) |
| 第3回 | 障害の医学的基礎知識（神経・生理学）(目標1.2) |
| 第4回 | 脳血管疾患に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| 第5回 | 進行性疾患に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| 第6回 | 骨折に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| 第7回 | 運動麻痺に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| 第8回 | 言語・排尿・嚥下障害に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| 第9回 | 脊髄損傷・切断に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| 第10回 | 廃用症候群に対するリハビリテーション(目標1.2) |
| 第11回 | 認知症に対するリハビリテーション(目標1.2) |

	第12回	終末期に対すリハビリテーション(目標1.2)
	第13回	地域リハビリテーション(目標2)
	第14回	シーティングについて(目標2)
	第15回	リハビリテーション論のまとめ
予習・復習の内容	予習	毎授業内容に関するテーマを事前に調べておくこと
	復習	毎授業に配布する関係資料の理解を深めること
	展開	臨床実習においてリハビリテーション知識を応用できること
成績評価	評価の基準	授業内容の基礎的理解 毎授業の小レポート内容
	評価の方法	期末筆記試験（90%） 小レポート（10%）
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論
	著者名	編集 澤村誠志
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	¥ 2730
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3157-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	毎授業ごとに必要な資料は配布する。	

介護の基本Ⅴ（レクリエーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅴ（レクリエーション）
科目責任者	八鍬 拓
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010901 月2
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 福祉的視点に立ったレクリエーションの基礎理論を概説し、介護現場におけるレクリエーション援助の方法を理解する。

学生の達成目標 1.「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。
2.「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるために、生活の一部であるレクリエーション援助の実践のための知識を習得する。

授業内容

第1回	ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）（目標1・2）
第2回	講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解①（目標1・2）
第3回	講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解②（目標1・2）
第4回	講義：レクリエーションの活動領域と意義①（目標1・2）
第5回	講義：レクリエーションの活動領域と意義②（目標1・2）
第6回	講義：レクリエーション活動の主体（目標1・2）
第7回	講義：レクリエーション計画作成及び実施（目標1・2）
第8回	講義：レクリエーション指導者の配慮（目標1・2）
第9回	講義：レクリエーション活動の実践（目標1・2）
第10回	講義：高齢者・障害者レクリエーションの実際（目標1・2）

	第11回	講義：レクリエーションワークの指導法（目標1・2）
	第12回	集団レク援助実習 1 レク計画作成（目標1・2）
	第13回	集団レク援助実習 2 レク計画作成（目標1・2）
	第14回	集団レク援助実習 3 レク計画作成（目標1・2）
	第15回	福祉レクリエーション援助のまとめ
予習・復習の内容	予習	レクリエーション（余暇活動）に関心をもち、生活の中でどのような役割を果たすかを理解しておく。
	復習	指示されたレポートの提出。 援助実習における実践。
	展開	高齢者・障害者に対するレクリエーションの必要性を考察し、理解・知識を深める。
成績評価	評価の基準	高齢者・障害者のレクリエーション（余暇活動）について、基礎的な内容が理解できていること。また、レクリエーション計画作成及び実施の方法を理解すること。
	評価の方法	レポート課題（20%）、期末筆記試験（70%）、授業への取り組み態度（10%）
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本VI（介護サービス事務）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本VI（介護サービス事務）
科目責任者	大塚 克巳
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011001 月3,4
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	社会保険制度のひとつである介護保険制度の仕組みを理解するとともに、介護報酬算定の実務知識の習得を図る。	
学生の達成目標	1.介護保険制度の仕組みやサービス種別の内容を学ぶとともに、介護給付費に関わる請求事務に精通する。 2.介護保険事務に関わる実務全般を習熟し、即戦力として請求事務に従事できるスキルを養う。	
授業内容	第1回	テキスト第1章 共通事項 サービス全般にわたる共通事項 (目標1)
	第2回	テキスト第1章 共通事項 サービス全般にわたる共通事項 (目標1,2)
	第3回	テキスト第2章 居宅サービス 1.訪問介護・介護予防訪問介護 2.訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護 (目標1,2)
	第4回	テキスト第2章 居宅サービス 3.訪問看護・介護予防訪問看護 4.訪問リハビリテーション・介護予防訪問リハビリテーション (目標1,2)
	第5回	テキスト第2章 居宅サービス 5.居宅療養管理指導・介護予防居宅療養管理指導 6.通所介護・介護予防通所介護 (目標1,2)
	第6回	テキスト第2章 居宅サービス 7.通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション 8.福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与 (目標1,2)

予習・復習の内容	第7回	テキスト第2章 居宅サービス 9.短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護 10.短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護 (目標1,2)
	第8回	テキスト第2章 居宅サービス 11.特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護 12.居宅介護支援・介護予防居宅介護支援 (目標1,2)
	第9回	テキスト第3章 地域密着型サービス (目標1,2)
	第10回	テキスト第3章 地域密着型サービス テキスト第4章 施設サービス (目標1,2)
	第11回	テキスト第4章 施設サービス (目標1,2)
	第12回	テキスト第5章 介護給付費の請求方法 (目標2)
	第13回	練習問題 様式第二、様式第八の事例問題 解答・解説 (目標2)
	第14回	練習問題 様式第二、様式第八の事例問題 解答・解説 (目標2)
	第15回	練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説及び振り返り (目標2)
	予習	・介護給付費単位数等サービスコード表の活用にあたり、インデックス等を活用し各サービス種類を検索しやすいようにしておくこと。 ・各回の項目に沿ってテキストの事前の読み込みを行っておくこと。
	復習	・介護保険の仕組みについて理解するため、現住所地あるいは最寄りの市町村の介護保険にかかるパンフレットを取得するなど、講義内容と照らし合わせながら今一度の振り返りを行うこと。
	展開	・事前のテキストの読み込みで介護保険制度の大枠や仕組み並びにサービス種別の内容を理解できるようにする。 ・介護請求事務の実践に欠かすことができない、介護給付費単位数等サービスコード表の活用を迅速かつ適切に行うことができるようにする。 ・適宜、各サービス種別における介護報酬算定について実際の算定方法を理解できるようにする。
成績評価	評価の基準	全15回の学習の中で、達成目標に対する到達の度合いを評価することを基本とします。
	評価の方法	介護保険事務士認定試験において60点以上を要する。
教科書	書籍名	介護保険事務士養成テキスト（実務編）（学科編）(介護給付費単位数等サービスコード表)
	著者名	一般財団法人 つしま医療福祉研究財団 編集
	出版社	中央法規出版株式会社
	価格	5,000円
	ISBN・ISSN	—
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書は必要に応じて随時資料配布	

コミュニケーション技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	コミュニケーション技術 I
科目責任者	古川 繁子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20001105 金1
教室	講義室14
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義形式ではあるが、全体的に事例と演習を豊富に交えながら、介護の場面に即応したコミュニケーション技術が習得できる。

学生の達成目標 1.介護と必要とする者の理解や援助の関係・援助的コミュニケーションについて理解する。
2.利用者や利用者家族、あるいは多職種協働する際のコミュニケーション能力を身につける。

授業内容		
	第1回	介護コミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を知る。(目標1)
	第2回	利用者・家族との関係づくり（波長合わせ・ラポールの取り方）(目標2)
	第3回	介護の場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際（話を聞く技法、利用者の感情表現を察する技法－気づき、洞察力、その他）(目標1,2)
	第4回	利用者・家族とのコミュニケーションの実際（非言語的コミュニケーション）(目標1,2)
	第5回	利用者・家族とのコミュニケーションの実際（納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他）(目標1,2)
	第6回	利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際（感覚機能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他）(目標1)

	第7回	記録による情報の共有化（介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類記録の技法－方法、留意点）（目標1,2）
	第8回	記録による情報の共有化（記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化）（目標1）
	第9回	情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報保護、活用。（目標1）
	第10回	介護におけるチームコミュニケーション報告の意義・目的（報告・通知・相談の方法・留意点）（目標1,2）
	第11回	会議の意義と目的（会議の種類・方法・留意点。その他）（目標1,2）
	第12回	話を聞く技法②（傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く）（目標1）
	第13回	話を聞く技法③（家族とのコミュニケーションの実際）（目標1）
	第14回	記録の技法②（マッピング：ジェノグラム・ソシオグラム）（目標1,2）
	第15回	記録の技法③（評価：アセスメント・エバリュエーション・モニタリング）（目標1,2）
予習・復習の内容	予習	授業で指示された語句や事柄を調べる。
	復習	予習内容を含め、自分のノートを作成し、授業内容を整理する。整理しながら、関連する項目を独自に調べ、「コミュニケーションノート」を作る。
	展開	対人援助職として、介護場面に限らず、援助場面でコミュニケーションを図ることができる。 必要な事柄を自分で調べ、まとめ、プレゼンテーションすることができる。
成績評価	評価の基準	提出物・演習レポート・定期試験により評価
	評価の方法	提出物・演習レポート(30%)定期試験(70%)により評価
教科書	書籍名	新介護福祉士養成講座 5 「コミュニケーション技術」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
	出版社	中央法規出版
	価格	2,200円(税別)
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3769-6
推薦図書等	書籍名	コミュニケーション技術－人間関係の形成と実践技術
	著者名	黒澤他編著
	出版社	建帛社
	価格	2,200円(税別)
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3353-5
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	コミュニケーション技術Ⅱ
科目責任者	高橋 恵子 唯野 玲子
授業形態	演習
開講時期	後期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	20001205 水1,土2
教室	(水1)講義室1 (土2)講義室5
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	手話（唯野玲子） 聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話技術の基礎を身につけ、さらに、聴覚補償やさまざまな視覚情報を活用してコミュニケーションを充実させる方法を習得する。あわせて、聴覚障害全般についての理解を深める。 点字（高橋恵子） 基本的な点字を誰でも難しく考えることなく学ぶ。その他、手引き介助については、実践的に学んでいく。
学生の達成目標	（唯野玲子） 1. 手話や指文字を使った基本的な表現の読み取りができるようになる。 2. 手話や指文字を使った基本的な表現の表出ができるようになる。 3. 聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーションの方法を理解する。 （高橋恵子） 点字の基本的な学習を行い、視覚障害を持つがゆえの特性を考慮した介護技術、視覚障害者に関する諸問題、視覚障害リハビリテーションなど、視覚障害全般について学習する。理論だけでなく、実際に役立つ事項を多く学習する。
授業内容	（唯野玲子） 第1回 手話実技：あいさつ、天気／季節の表現（目標1,2） 講義：聴覚障害の原因と二次障害、三次障害の表れ方(目標3) 第2回 手話実技：家族、質問の表現（目標1,2） 講義：聴覚障害者のコミュニケーションの方法(目標3) 第3回 手話実技：好き／嫌い、数／月日の表現(目標1,2) 講義：手話の種類、構造、特徴(目標3)

	第4回	手話実技：時間，過去／現在／未来の表現(目標1,2) 講義：聴覚補償の実際(目標3)
	第5回	手話実技：動き，食べ物／味覚の表現(目標1,2) 講義：文字や視覚情報の活用(目標3)
	第6回	手話実技：形容，気持ちの表現(目標1,2) 講義：聴覚障害者の社会生活(目標3)
	第7回	手話実技：思考，可能／必要の表現(目標1,2) 講義：聾重複障害者，盲聾者の支援(目標3)
	第8回	手話実技：復習とまとめ(目標1,2) 講義：聴覚障害者の生活の質の向上(目標3)
	第9回	(高橋恵子) 視覚障害とは。発生原因・視覚判定の方法
	第10回	視覚障害者補助器具の種類と機能
	第11回	視覚障害とコミュニケーション。情報伝達方法
	第12回	視覚障害の歴史と視覚障害教育の歴史・制度
	第13回	視覚障害者の暮らし
	第14回	点字技術演習（1）
	第15回	点字技術演習（2）
	第16回	総括・討論
予習・復習の内容	予習	(唯野玲子) テキストに目を通し，授業の概要を把握する。 (高橋恵子) テキスト『初めての点訳第2版』56ページからの「視覚障害者の状況」の項を読み，視覚障害のための不自由さ等について関心を持つとともに，当事者である講師に対し，質問を準備する。
	復習	(唯野玲子) 授業で学習した手話表現の練習を繰り返す。 (高橋恵子) テキストの点字一覧表を繰り返し読み，演習問題に取り組むことにより，点字の読み書きがスムーズにできるようにする。
	展開	(唯野玲子) 友人との間で，学習した手話を使ったコミュニケーションを行う。 可能であれば，実際に聴覚障害者と会ってコミュニケーションを行う。 (高橋恵子) 公共施設内の点字表示や食品，家電製品などに書かれている点字を読んでみる。また，視覚障害者を見かけたら，積極的に声をかけて援助する。
成績評価	評価の基準	(唯野玲子) 基本的な手話表現の読み取りと表出ができること，聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーション手段について理解し，それを説明できることを合格基準とする。 (高橋恵子) 点字の歴史と，視覚障害者にとっての点字の意義について説明できること。また，点字の仕組みと仮名遣いを理解し，簡単な読み書きができること。
	評価の方法	(唯野玲子) 小レポート20%，受講態度20%，試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。 (高橋恵子) 受講態度(40%)と試験または課題採点結果(60%)の成績を総合的に評価する。

教科書	書籍名	NHKテレビテキスト「みんなの手話」2014年10月～12月
	著者名	早瀬憲太郎/著
	出版社	NHK出版
	価格	362円+税
	ISBN・ISSN	978-4-14-910893-3
	書籍名	初めての点訳 第2版
	著者名	全国視覚障害者情報提供施設協会/編集
	出版社	全国視覚障害者情報提供施設協会
	価格	1,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-907272-05-0
推薦図書等	書籍名	新日本語－手話辞典
	著者名	全国手話研修センター日本手話研究所/編集 米川明彦/監修
	出版社	全日本聾唖連盟
	価格	22,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3450-3
参考URL	http://www.nhk.or.jp/heart-net/syuwa/	
備考		

生活支援技術Ⅰ（参加・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅰ（参加・環境）
科目責任者	山田 美知代
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 中西 正人
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011105 水4,木3
教室	(水4) 講義室7, 介護実習室 (木3) 講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 生活支援にむけて、利用者の住環境や環境づくりについて理解する。 2. 生活行為場面（後期開講科目の「睡眠」「排泄」「清潔・入浴」）について、基本を理解する。
学生の達成目標	1. 介護を必要とする方の生活や生活しやすい環境整備のあり方について理解することができる。 2. 居住環境整備の一つとして、ベッドメイキングをすることができる。 3. 生活支援におけるICFや社会参加について理解することができる。また、生活行為場面ごとの支援のあり方について理解する。
授業内容	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、生活形成のプロセス（ライフサイクル）や生活行動（生活経営）について（目標1） 第2回 生活支援について（支援対象者、支援対象者の住まい、居住環境について）（目標1） 第3回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習1）（目標2） 第4回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習2）（目標2） 第5回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習3）（目標2）

	第6回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習4）（目標2）
	第7回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習5）（目標2）
	第8回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習6）（目標2）
	第9回	ICFと生活支援について1（ICFの構成要素、ICFの生活支援への活用）（目標3）
	第10回	ICFと生活支援について2（参加に向けて；自己実現、生きがい、地域への参加）（目標3）
	第11回	居住環境の整備に向けて1（安全な住まい、快適な室内環境、課題や問題点）（目標1）
	第12回	居住環境の整備に向けて2（暮らし易さへの工夫・方法、福祉用具の活用、住宅改修事例）（目標1）
	第13回	居住環境の整備に向けて3（施設における工夫、認知症高齢者への環境支援、ユニバーサルデザイン）（目標1）
	第14回	生活行為への支援（身じたく、清潔・入浴）（目標3）
	第15回	生活行為への支援（睡眠、排泄）とまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	・障害（心身機能の状態による違い）のある方が生活しやすい環境や福祉用具にどのようなものがあるかを調べる。 ・障害のある方だけでなく、障害のない方にも便利なものについても調べておく。
	復習	・適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	・ベッドメイキングの習得では、介護実習室があいている時間に、各自が都合のつく時間を利用して自己練習をする。 ・福祉用具に関する最近の動向を調べ、知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	・参加状況（態度や意欲など）、課題レポート、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）（10%）、課題（レポートほか）（10%）、試験（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書5 生活支援技術 I
	著者名	川井太加子 編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史・三好春樹
	出版社	講談社
	価格	3,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-06-282462-0
参考URL		

備考

・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き）、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[ネックレス、イヤリング、ブレスレットなど]は着用しないなど）こと。

生活支援技術Ⅱ（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅱ（移動）
科目責任者	山田 美知代
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 中西 正人
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011305 月5,水4
教室	講義室7, 介護実習室
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	移動に関する課題を学生が主体的に調べ発表と批判をし合いながら理解を進められる機会を設ける。移動に関するプラス面と安全の大切さについてグループワークを通じて学ぶ機会を設ける。	
学生の達成目標	1. 利用者の視点で移動や移乗介助の必要性を理解することができる。 2. 移動や移乗介助に必要な知識と技術を理解することができる。 3. 利用者・介護者にとって安全で安心できる移動や移乗介助を実践することができる。	
授業内容	第1回	移動の意義と目的（目標1・2）
	第2回	移動の介護の基本（目標1・2）
	第3回	移動に関するアセスメントと目標設定（目標1・2）
	第4回	安全で気兼ねなく動けることを支える介護（目標1・2）
	第5回	安全で的確な移動介助の方法① 基本的留意点（ボディメカニクス）（目標2）
	第6回	安全で的確な移動介助の方法② 基本的留意点（環境整備）（目標2）
	第7回	安全で的確な移動介助の方法③ 体位変換（目標2）

	第8回	移動介助演習①（体位変換）（目標3）
	第9回	安全で的確な移動介助の方法④ 歩行介護（目標2）移動介助演習② 歩行介護（目標3）
	第10回	安全で的確な移動介助の方法⑤ 車いすの移乗（目標2）
	第11回	移動介助演習③ 車いすの移乗（目標3）
	第12回	安全で的確な移動介助の方法⑥ 車いすの移動（目標2）
	第13回	移動介護演習④ 車いす移動（目標3）
	第14回	移動介護演習⑤ 振り返り演習（目標3）
	第15回	利用者の状態・状況に応じた移動の介護の留意点、他の職種の役割と協働について（目標1・2）
予習・復習の内容	予習	障害を持つ人の移動について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	移動や移乗介助に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	移乗や移動に関する介護に関して、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験60％、授業への取り組み20％、課題（レポート）20％の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8
推薦図書等	書籍名	看護・介護を助ける姿勢と動作
	著者名	小川鑪一
	出版社	東京電機大学出版局
	価格	2,300円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-501-41860-1
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅲ（食事）
科目責任者	山田 美知代
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 中西 正人
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011405 火5,水4
教室	(火5) 講義室7 (水4) 講義室7, 介護実習室
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。	
学生の達成目標	1. 食べることが、人間らしく生きることといかに深い関係をもつ行為であるかについて理解する。 2. 食事介護の基本的な進め方について理解する。 3. 安全に、おいしく食事を摂るための介護について理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意義と目的（目標1）
	第2回	食事に関する利用者のアセスメントⅠ（目標1・2・3）
	第3回	食事に関する利用者のアセスメントⅡ（目標1・2・3）
	第4回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫Ⅰ（目標1・2・3）
	第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫Ⅱ（目標1・2・3）
	第6回	安全で的確な食事介助（目標2・3）
	第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）（目標2・3）
	第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）（目標2・3）

	第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）（目標2・3）
	第10回	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点（目標2・3）
	第11回	脱水予防（目標1）
	第12回	食事介助(1)（演習）（目標2・3）
	第13回	食事介助(2)（演習）（目標2・3）
	第14回	他職種との役割と協働（経管栄養を行っている人の介護の留意点）（目標1・2・3）
	第15回	演習後レポートからの気付き、重要項目の再確認（目標1・2・3）
予習・復習の内容	予習	嚥下の仕組みについて学習しておく。 おいしい食事につながる環境についてまとめる。
	復習	授業の要旨をまとめる。
	展開	「ここからだのしくみ」の授業とあわせ、理解を深める。
成績評価	評価の基準	講義演習を通して、食事の意義や目的、方法を述べるができる。 演習で学んだ技術を習得している。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書5 生活支援技術Ⅰ
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円＋税
	ISBN・ISSN	9784839231453
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）
科目責任者	山田 美知代
担当教員	今井 訓子 清宮 宏臣 中西 正人
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011505 金4
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 支援の必要な方の「清潔・入浴」について支援のあり方を理解する。（講義および演習を行う。演習では一般的な家庭浴槽や寝台機械浴槽などに実際に入る。そのほか、寝たまま行う全身掃拭や洗髪について演習を行う）

学生の達成目標 1. 清潔・入浴に関する意義や目的、介護の必要な方の支援の方法を理解できる。
2. 演習を通じて、清潔保持（ベッド上での清拭や洗髪など）や入浴支援をすることができる。

授業内容	
第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、支援を要する利用者や清潔について（意義と目的）（目標1）
第2回	洗髪、足浴、全身清拭について（演習にむけて）（目標1）
第3回	洗髪（演習）（目標2）
第4回	洗髪（演習、上記続き）（目標2）
第5回	足浴（演習）（目標2）
第6回	入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点と爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴（目標1）
第7回	全身入浴について（演習にむけて）（目標1）
第8回	全身清拭（演習）（目標2）

	第9回	全身入浴（家庭浴槽、寝台機械浴槽、簡易浴槽）の介護（演習）（目標2）
	第10回	全身入浴（家庭浴槽、寝台機械浴槽、簡易浴槽）の介護（演習、上記続き）（目標2）
	第11回	グループワーク（演習の振り返り）（目標1、2）
	第12回	個別浴槽の種類や設置について（入浴環境整備）（目標1）
	第13回	入浴における物理作用（効果とリスク）（目標1）
	第14回	入浴における留意事項（高齢者の特徴を踏まえて、水分の重要性）（目標1）
	第15回	感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例を通して）（目標1）
予習・復習の内容	予習	普段当たり前に行っている清潔保持や入浴行為について、その意義や目的、諸動作について考えてみる。
	復習	適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	自宅の入浴環境（脱衣室も含む）について、心身機能の状況に応じた使い勝手を考え、理解を深める。
成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）、課題（レポートほか）、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）（10%）、課題（レポートほか）（10%）、試験（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書6 生活支援技術Ⅱ
	著者名	川井太加子 編集
	出版社	メジカルフレンド社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3154-5
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史
	出版社	講談社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-06-282462-0
参考URL		
備考	技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き）、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[イヤリング、ネックレス、ブレスレットなど]は着用しないなど）こと。	

生活支援技術Ⅴ（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅴ（身じたく）
科目責任者	山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011605 月1
教室	講義室1
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	身じたく・整容に関する理解と自立にむけた介護援助に関する技術を身につける。	
学生の達成目標	1. 日常生活における身じたくの介護の意義と目的が理解できる。 2. 身じたくに関して必要な知識と技術が理解できる。 3. 利用者の能力に応じた身じたく・整容行動の介助方法を知り、その介護技術を身につけることができる。	
授業内容	第1回	ガイダンス、自立に向けた身支度の介護：身じたくの意義と目的（目標1）
	第2回	身じたくに関する基礎知識（目標1・2）
	第3回	身じたくの介護の基本（目標1・2）
	第4回	身じたくに関するアセスメントと目標設定（目標1・2）
	第5回	生活習慣と装いの楽しみを支える介護（目標1・2）
	第6回	整容行動、衣生活の介助の技法①（衣服の着脱）（目標2）
	第7回	衣服の着脱の介助（事例検討）（目標2）
	第8回	衣服の着脱（演習）（目標2・3）
	第9回	衣服の着脱（実技試験）（目標2・3）
	第10回	整容行動、衣生活の介助の技法②（洗面・口腔ケア・整髪）（目標2）
	第11回	洗面・口腔ケア・整髪（演習）（目標2・3）

	第12回	整容行動、衣生活の介助の技法③（ひげ・爪・化粧）（目標2）
	第13回	ひげ・化粧・爪の手入れ（演習）（目標2・3）
	第14回	障害別にみた身じたくについて（目標1・2・3）
	第15回	他職種の役割と協働、まとめ（目標1・2・3）
予習・復習の内容	予習	日常生活の中で、身じたく・整容に関して関心を持ち、観察する視点を身につける。 テキストは、最低限予習し、疑問点を明らかにしておく。
	復習	授業とテキストの内容について、自己の学びを深める。 指示されたレポート課題は期限までに提出すること。
	展開	基礎的な学びを通して、さまざまな事例について自ら考え調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。 演習時は、身だしなみを整え、積極的に授業に取り組むこと。
	評価の方法	筆記試験60%、レポート 20%、授業へ取り組み10%、実技試験10%の成績を統合する。ただしこの比率は、最終的に変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書5 生活支援技術 I
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅵ（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅵ（排泄）
科目責任者	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011705 木1
教室	講義室6
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 利用者に行われている排泄介護の状況が適切かどうか考えることができる。
2. 日常生活の機能拡大が図れるような排泄の具体的な工夫ができる。

学生の達成目標

1. 学生自身の体験を取り入れながら排泄について考えることができる。
2. 利用者がその人らしい生活を過ごすことができるような排泄の介護が考えられる。

授業内容

第1回	ガイダンス、排泄の意義、目的、排泄の解剖・生理的機序（目標1）
第2回	ガイダンス、排泄の意義、目的、排泄の解剖・生理的機序（目標1）
第3回	おむつ着用による排泄と生活体験（課題）のグループワークと発表、正常な排泄とできる条件について（課題）（講義、演習）（目標1、2）
第4回	気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習）（目標1、2）
第5回	気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習）（目標1、2）
第6回	気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習）（目標1、2）

	第7回	安全的確な排泄の介助の技法（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ）（講義）（目標2）
	第8回	排泄ケア用品の理解と排泄に関する公的制度の活用（講義）（目標2）
	第9回	数種類のおむつの吸水実験と排泄の介護の技法（演習）（目標2）
	第10回	数種類のおむつの吸水実験と排泄の介護の技法（演習）（目標2）
	第11回	その人らしい生活のためのよりよい排泄のケアになっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習）（目標2）
	第12回	その人らしい生活のためのよりよい排泄のケアになっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習）（目標2）
	第13回	その人らしい生活のためのよりよい排泄のケアになっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習）（目標2）
	第14回	他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、留置カテーテル含む）（講義、演習）
	第15回	他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、留置カテーテル含む）（講義、演習）（目標2）
予習・復習の内容	予習	日常生活の中で排泄に関して関心を持ち、観察する視点を身につけられるようにする。 テキストは、最低限予習し、疑問点を明らかにしておく。
	復習	課題、発表を通して、他者の学びも共有し、さらに自己の学びを深めるようにする。
	展開	基礎的な学びを通して、さまざまな事例について自ら考え調べ、知識・理解を深める。 演習は、必要時授業展開を修正し増やす場合もある。
成績評価	評価の基準	テスト及び課題発表により評価する。
	評価の方法	テスト（70%） 課題レポート（30%）
教科書	書籍名	最新介護福祉全書6 生活支援技術Ⅱ
	著者名	川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2808円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3154-5
推薦図書等	書籍名	よくわかる排便・便秘のケア
	著者名	河井啓三・大沼敏夫
	出版社	中央法規出版
	価格	2,160円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-1515-9
参考URL		
備考	推薦図書等については、適宜提示する。	

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）
科目責任者	山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011805 月2
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	睡眠に関するアセスメントができ良眠を促す支援ができる。緊急時の対応を理解すると共に、在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて考えることができる。	
学生の達成目標	1. 人間にとって睡眠がどのような意味があり、また良眠を得るための介助方法について理解できる。 2. 終末期の身体的・社会的・精神的・霊的な苦痛を理解し、介護の役割がわかる。またグリーフケアが理解できる。 3. 緊急時の対処方法を理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的（目標1）
	第2回	睡眠に関するアセスメント（目標1）
	第3回	安眠のための介護、安眠を促す介護の技法（目標1）
	第4回	睡眠にかかわる福祉用具の活用 介護における他職種の役割と協働（目標1）
	第5回	安眠を促す介護の技法 電法、マッサージ（演習）（目標1）
	第6回	緊急時のアセスメント（目標3）
	第7回	緊急事故時の状況観察と応急手当（演習）（目標3）
	第8回	終末期における介護の意義と目的（目標2）
	第9回	終末期の介護の基本（目標2）
	第10回	終末期に関するアセスメントの視点と目標設定（目標2）

	第11回	終末期における介護の具体的展開（目標2）
	第12回	臨終時の介護（目標2）
	第13回	エンゼルケア（演習）（目標2）
	第14回	看取りのための制度（目標2）
	第15回	グリーフケア・まとめ（目標2）
予習・復習の内容	予習	良眠を促す条件をまとめておくこと。 ターミナルケアについて図書を読んでおくこと。
	復習	授業とテキストの内容について、自己の学びを深める。
	展開	基礎的な学びを通して、さまざまな事例について自ら考え調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	睡眠の意義や目的、安眠を促す方法を述べることができる。在宅ターミナルケアや介護施設の看取りについて自分の考えを文章にできる。
	評価の方法	試験 70%、レポート20% 授業態度10% ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 6 生活支援技術Ⅱ
	著者名	編集 川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3154-5
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書等は、適宜紹介する。	

生活支援技術Ⅶ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅶ（障害別）
科目責任者	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011905 月4
教室	ラーニング・ジェム1
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	心身の障害を持つ人々の状況を理解し、障害に応じた生活支援について考えることができる。	
学生の達成目標	1.心身の障害とその障害を持つ人々の状況を理解できる。 2.障害に応じた生活支援が理解できる。 3.課題学習についてプレゼンテーションができ、事例について自分の考えを述べる ことができる。	
授業内容	第1回	ガイダンス
	第2回	運動機能障害のある人の生活支援（目標1、2）
	第3回	内部障害のある人の生活技術の基本（目標1、2）
	第4回	心臓の機能障害のある人の生活支援（目標1、2）
	第5回	呼吸器の障害のある人の生活支援（目標1、2）
	第6回	腎障害のある人、排泄障害のある人の生活支援（目標1、2）
	第7回	視覚機能障害のある人の生活支援（目標1、2）
	第8回	聴覚機能障害のある人の生活支援（目標1、2）
	第9回	言語に障害を認める人の生活支援1（目標1、2）
	第10回	言語に障害を認める人の生活支援2（目標1、2）
	第11回	学習作業日、課題（目標1、2、3）
	第12回	精神障害のある人への生活支援（目標1、2）

	第13回	高次機能障害のある人の生活支援（目標1, 2）
	第14回	全介助を要する人および難病の生活支援（目標1, 2）
	第15回	課題学習発表、まとめ（目標1, 2, 3）
予習・復習の内容	予習	授業の内容に示している項目内容について、事前に調べておくこと。事前に決定したテーマについて調べ、発表できるようにする。
	復習	他教科で学んだことも総合して深めることが望ましい。
	展開	プレゼンテーションを通して学びを深める。 事例について学習したことを総合して考える。
成績評価	評価の基準	テスト及び課題レポート、発表を総合する。
	評価の方法	テスト70%, 課題レポート・発表30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 別巻4 障害別生活支援技術
	著者名	谷口敏代他
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3348円
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3155-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

家事生活支援技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家事生活支援技術 I
科目責任者	廣橋 比刀美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002001 木2
教室	被服工芸室
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	家事の意義や目的、洗濯、掃除、裁縫、家庭経営等に関する知識と介助を学ぶ。	
学生の達成目標	1. 自立に向けた家事の援助・介助に関する知識と技術を身につける。 2. 自分自身の生活のなかで自立して家事全般ができること。 3. 快適で豊かな生活を送るにはどうすればよいか考えることができる。	
授業内容	第1回	授業オリエンテーション、注意事項、自己紹介 家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント(目標3)
	第2回	被服・繊維について…繊維の講義、繊維の実験の準備(目標3)
	第3回	被服・繊維について…繊維の実験(燃焼性・吸水性)(目標2)
	第4回	被服・繊維について…繊維の実験・しみ抜き準備(目標2)
	第5回	しみ抜きの実習(目標2)
	第6回	洗濯の実習(セーターの洗濯)(目標2)
	第7回	しみ抜き・洗濯のまとめ(目標1)
	第8回	被服実習…基本の縫い方・繕いについて(目標2)
	第9回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う(ボタンづけの練習など) (目標2)
	第10回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う(ボタンづけの練習など) (目標2)
	第11回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う(ボタンづけの練習など) (目標2)

	第12回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタンづけの練習など） （目標2）
	第13回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタンづけの練習など） （目標2）
	第14回	快適な室内環境（目標1,3）
	第15回	まとめ…家事援助に求められる事（目標3）
予習・復習の内容	予習	授業で学んだ事を自宅でも実践する。
	復習	授業で行った家事技術を自宅でも再度行ってみる。
	展開	日々の家事を行う事で授業内容を確実なものとし、自分の生活、家事援助へつなげていく。
成績評価	評価の基準	試験60％，レポート・製作物40％
	評価の方法	試験60％，レポート他40％
教科書	書籍名	最新介護福祉全書5 生活支援技術 I
	著者名	川井太加子/編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3145-3
推薦図書等	書籍名	介護福祉のための家政学
	著者名	中川英子/編著 石川周子/〔ほか〕共著
	出版社	建帛社
	価格	2,100円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3575-1
	書籍名	介護福祉のための家政学実習
	著者名	中川英子/編著 大塚順子/〔ほか〕共著
	出版社	建帛社
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3605-5
参考URL		
備考		

家事生活支援技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2016年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家事生活支援技術Ⅱ

科目責任者 三幣 周子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002101 水4

教室 調理実習室

卒業要件 介護福祉専攻： 必修

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 日常生活の支援方法が確実に自己の学習内容として実践できる。

学生の達成目標

1. 高齢者，障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させる。
2. 食生活の中での栄養学，食品学，調理学等の知識を養い，実践的な技術を学び，支援が個々の生活に対応できる能力を養う。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 食生活の意義（健康と栄養，状態別の栄養（年齢と栄養）（目標1,2） |
| 第2回 | 高齢者の心身の特性を知った上での形態別の配慮と対応のあり方（生活習慣病の予防も含む）（目標1,2） |
| 第3回 | 献立と調理（摂食者の状況にあった献立作成と調理法）（目標1,2） |
| 第4回 | 調理実習（1）…日常食から介護職への展開（目標1,2） |
| 第5回 | 調理実習（1）…日常食から介護職への展開（目標1,2） |
| 第6回 | 調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）（目標1,2） |
| 第7回 | 調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）（目標1,2） |
| 第8回 | 調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）（目標1,2） |
| 第9回 | 調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）（目標1,2） |

	第10回	調理実習（４）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて）（目標１,２）
	第11回	調理実習（４）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて）（目標１,２）
	第12回	調理実習（５）…郷土食（目標１,２）
	第13回	調理実習（５）…郷土食（目標１,２）
	第14回	調理実習（６）…支援したい食事をグループで作る。（目標１,２）
	第15回	家事生活支援技術まとめ（目標１,２）
予習・復習の内容	予習	後期の授業内容に基づき、調べる。普段から自分の食事についても関心を持ち、介護に関係するニュース、新聞、雑誌などの記事に目をむけて読み、内容を記録する。
	復習	毎回授業内容をまとめて、きちんとノートに整理しておく。ノート・プリント等の提出あり。
	展開	生活技術全般の総合理解をもとに、その人の生活歴を含め知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	内容は広範囲になるが、授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	期末テスト80%、欠席レポート提出10%、授業態度10%
教科書	書籍名	介護福祉士養成テキスト11 生活支援技術Ⅳ
	著者名	川村佐和子/編著 後藤真澄/編著 他
	出版社	建帛社
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3357-3
	書籍名	これからの調理 授業に組みこめる実験・実習
	著者名	西村敬子/著
	出版社	教育図書
	価格	3,301円+税
	ISBN・ISSN	978-4-87730-017-3
推薦図書等		
参考URL		
備考	その他必要に応じてプリントを配布	
	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明します。	

介護過程Ⅰ（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅰ（総論）
科目責任者	松井 奈美
担当教員	川村 博子 清宮 宏臣 根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20012205 金5
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護過程の意義や目的、介護過程の各段階の内容を理解する。	
学生の達成目標	1.他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う。 2.介護過程の意義、目的、内容、展開方法について学ぶ。	
授業内容	第1回	介護過程とは、意義と目的（目標2）
	第2回	介護過程の必要性、視点（VTR、ICFの視点、新しい介護）（目標2）
	第3回	介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護課程、介護課程のプロセス説明）（目標2）
	第4回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法（目標1,2）
	第5回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法（目標1,2）
	第6回	アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて）（目標1,2）
	第7回	アセスメントとは（情報収集、記録、ジェノグラム、エコグラム）（目標1,2）
	第8回	計画の立案とは、目標の設定（目標1,2）

	第9回	計画の立案の実践（目標1,2）
	第10回	実施とは、準備と留意点（目標1,2）
	第11回	評価とは（目標1,2）
	第12回	事例に基づく介護課程の展開の実際（目標1,2）
	第13回	事例に基づく介護課程の展開の実際（目標1,2）
	第14回	介護課程の展開の実際（2年生の発表会出席）（目標1,2）
	第15回	介護課程の展開の実際（2年生の発表会出席）/ まとめ（目標1,2）
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	授業目標の達成度評価をレポートで行い、学習意欲を授業態度で評価する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%の割合で総合的な評価を行う。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5112-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅱ（演習）
科目責任者	松井 奈美
担当教員	川村 博子 清宮 宏臣 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	20012305 金3,4
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身体障害および精神障害、施設および在宅介護等の事例の介護過程を展開する。

学生の達成目標 1.様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考える。
2.自分の考える介護について説明することができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション 介護過程の理解（目標1,2）
	第2回	オリエンテーション 実習事例のプロセスレコード作成（目標1,2）
	第3回	ガイダンス、事例Aの説明（目標1,2）
	第4回	ガイダンス、事例Aの説明（目標1,2）
	第5回	アセスメント（目標1,2）
	第6回	アセスメント（目標1,2）
	第7回	計画・実施・評価（目標1,2）
	第8回	計画・実施・評価（目標1,2）
	第9回	ガイダンス、事例Bの説明（目標1,2）

	第10回	ガイダンス、事例Bの説明（目標1,2）
	第11回	アセスメント（目標1,2）
	第12回	アセスメント（目標1,2）
	第13回	計画・実施・評価（目標1,2）
	第14回	計画・実施・評価（目標1,2）
	第15回	ガイダンス、事例Cの説明（目標1,2）
	第16回	ガイダンス、事例Cの説明（目標1,2）
	第17回	アセスメント（目標1,2）
	第18回	アセスメント（目標1,2）
	第19回	計画・実施・評価（目標1,2）
	第20回	計画・実施・評価（目標1,2）
	第21回	ガイダンス、事例Dの説明（目標1,2）
	第22回	ガイダンス、事例Dの説明（目標1,2）
	第23回	アセスメント（目標1,2）
	第24回	アセスメント（目標1,2）
	第25回	計画・実施・評価（目標1,2）
	第26回	計画・実施・評価（目標1,2）
	第27回	発表準備（目標1,2）
	第28回	発表準備（目標1,2）
	第29回	発表（目標1,2）
	第30回	発表（目標1,2）
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにする。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	レポート、授業態度により学習目標達成度を評価する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%の割合の基準で、4人の担当教員が評価したものを統合させる。 教員の持ち点：1人25点
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座9『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5112-8
推薦図書等	書籍名	「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用
	著者名	大川 弥生
	出版社	中央法規
	価格	1,800円（税別）

参考URL

備考

グループワークを基本とする。4教員が各グループを担当し、諸事例を用いて介護過程の展開を行う。

介護過程Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅲ（チームアプローチ）
科目責任者	松井 奈美
担当教員	川村 博子 清宮 宏臣 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012405 火4
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 事例展開を通して、チームアプローチの方法や必要性を考える。

学生の達成目標
 1.他職種の役割や機能を理解する。
 2.介護場面におけるチームアプローチの必要性を理解する。
 3.チームの一員としての介護職の役割や実践課題を理解する。

授業内容	第1回	ガイダンス、グループ分け（目標2）
	第2回	看護業務：役割と連携について（目標1,2,3）
	第3回	ケアマネージャーの役割と連携について（目標1,2,3）
	第4回	作業療法士（OT）の業務・役割と連携について（目標1,2,3）
	第5回	理学療法士（PT）の業務・役割と連携について（目標1,2,3）
	第6回	歯科医又は言語聴覚士（ST）の業務・役割連携について（目標1,2,3）
	第7回	OJT等について（目標3）
	第8回	研究事例発表大会参加とまとめ（目標1,2,3）
	第9回	研究事例発表大会参加とまとめ（目標1,2,3）
	第10回	研究事例発表大会参加とまとめ（目標1,2,3）

	第11回	研究事例発表大会参加とまとめ（目標 1, 2, 3）
	第12回	教科書以外から学ぶチームアプローチ（目標 1, 2, 3）
	第13回	チームアプローチの事例（目標 1, 2, 3）
	第14回	チームアプローチの事例（目標 1, 2, 3）
	第15回	チームアプローチの理解・まとめ（目標 1, 2, 3）
予習・復習の内容	予習	事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	授業目標の達成度をレポートと授業態度で評価する。
	評価の方法	レポート（80％）、授業態度（20％）の割合で評価する。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 9 『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5112-8
推薦図書等		
参考URL		
備考	・各専門職の業務や役割を他者に説明できるようになることを目指す。 ・外部講師の講義日は特に真摯に傾聴するとともに、積極的に質問することを心掛けてほしい。	

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅳ（事例研究）
科目責任者	松井 奈美
担当教員	井口 ひとみ 布施 千草 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 中西 正人 山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012501 火5
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	Ⅲ・Ⅳ段階の実習で展開した事例のまとめとクラス全体での発表。	
学生の達成目標	実習での事例を振り返り、介護過程展開の意義や方法の理解を深める。	
授業内容	第1回	ガイダンス（全体）
	第2回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り（実習担当教員のグループで行う）
	第3回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り（実習担当教員のグループで行う）
	第4回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り（実習担当教員のグループで行う）
	第5回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り（実習担当教員のグループで行う）
	第6回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）

	第7回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
	第8回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
	第9回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
	第10回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
	第11回	発表準備・印刷（全体）
	第12回	発表準備・製本（全体）
	第13回	発表（全体）
	第14回	発表（全体）
	第15回	まとめ、感想文（実習担当教員のグループで行う）
予習・復習の内容	予習	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり。
	復習	実習で受け持った利用者の介護過程の展開を記録として起こす。
	展開	介護過程の展開について図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護総合演習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅰ
科目責任者	山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002605 火3
教室	ラーニング・モンスタ*1
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 実習先である施設やそこで生活する利用者について理解する。また介護実習が効果的に行えるように実習に必要な知識を身につける。

学生の達成目標

1. 介護実習の意義と目的を理解することができる。
2. 実習施設の種別ごとの理解ができる。
3. 介護実習Ⅰ・Ⅱにむけて必要な準備を整えることができる。

授業内容	
第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方、実習の時期や概要など）（目標1・3）
第2回	認知症高齢者グループホーム実習に向けて（1）（法的根拠・位置づけなど）（目標2・3）
第3回	認知症高齢者グループホーム実習に向けて（2）（意義目的・目標設定、実習課題について）（目標2・3）
第4回	入居生活施設実習に向けて（1）（意義、目的、心得など）（目標2・3）
第5回	入居生活施設実習に向けて（2）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）（目標2・3）
第6回	実習Ⅰおよび実習Ⅱへの準備（学生個人票、実習目標など提出書類の作成）（目標3）
第7回	児童福祉施設実習に向けて（1）（意義、目的、心得など）（目標2・3）

	第8回	児童福祉施設実習に向けて（２）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）（目標２・３）
	第9回	居宅介護実習に向けて（１）（意義、目的、心得など）（目標２・３）
	第10回	居宅介護実習に向けて（２）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）（目標２・３）
	第11回	実習先別学内オリエンテーション（介護実習Ⅰ・Ⅱ）（目標１・２・３）
	第12回	記録の書き方（記録の意義や目的、基本的な書き方や文体など）（目標３）
	第13回	実習全体の確認事項（実習課題の取り組み方、カンファレンスへの臨み方など）（目標３）
	第14回	実習において予測される諸問題（リスクマネジメント・個人情報・ターミナルケアなど）、まとめ（目標１・２・３）
	第15回	介護実習Ⅰの直前オリエンテーション（目標１・２・３）
予習・復習の内容	予習	障がいを持つ児童や高齢者について日常から関心をもち、関連記事や図書をみる。 事前に指示するテーマについて調べ、発表できるように準備をする。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出する。
	展開	施設や関係法令に関することを調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	介護実習に関して、授業で学んだ内容が理解できていること。
	評価の方法	テスト50％ レポート40％、授業への取り組み10％などを総合的に評価する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3195-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護総合演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	山田 美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20002705 月3,5
教室	(月3) ラーニング・モジュール1 (月5) 講義室1
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護実習を振り返り、介護福祉士として必要な知識や技術の習得と介護観の構築を目指す。	
学生の達成目標	1. 介護実習Ⅱに向けて必要な準備や確認を行うことができる。 2. 介護福祉士として必要な知識・技術を習得することができる。 3. 介護実習Ⅰ・Ⅱを振り返り、自己の介護観を構築する。	
授業内容	第1回	実習Ⅱの実習直前学内オリエンテーション（目標1）
	第2回	オリエンテーション（授業の進め方）実習課題提出（目標2・3）
	第3回	実習Ⅰの振り返り（1）（児童福祉施設実習）（目標2・3）
	第4回	実習Ⅰの振り返り（2）（認知症高齢者グループホーム実習）（目標2・3）
	第5回	実習Ⅱの振り返り（3）（居宅介護実習）（目標2・3）
	第6回	実習Ⅱの振り返り（4）（入居生活施設実習）（目標2・3）
	第7回	介護実習Ⅱのまとめ反省会（目標2・3）
	第8回	実習で課題となった生活支援技術について 移動・排泄（目標2）
	第9回	介護事故とリスク管理（目標2）
	第10回	介護過程の展開（1）（グループで事例を作成）（目標2）
	第11回	介護過程の展開（2）（上記事例を展開）（目標2）
	第12回	アクティビティの定義（目標2）

	第13回	アクティビティの計画・作成（目標2）
	第14回	介護福祉における研究の視点（問題意識や課題提起に関連した先行研究、事例研究について）（目標2・3）
	第15回	実習全体を通しての学び（「介護観」について）・まとめ（目標2・3）
予習・復習の内容	予習	障がいを持つ人や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 介護実習課題をまとめておくこと。
	復習	事前に提示したレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	介護実習の経験をもとにグループワークを実施し、自身の課題や介護観などについて明確にすること。
成績評価	評価の基準	提出レポートと発表の内容・授業への取り組みなどを総合的に評価する。
	評価の方法	レポート80%と発表の内容・授業への参加や取り組み20%などを総合的に評価する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3195-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習 I
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 中西 正人 松井 奈美 石原 富子 山田 美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20002905
教室	
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 実習の手引きと教員からの指示に基づきつつ、実習先の指導方針と実習方法に従って実習する。 2. 学校の巡回指導担当教員と実習先の実習指導者に実習状況について報告・連絡・相談し指導と支援を得られるようにする。 3. 利用者のプライバシーにかかわり学んでいくことから、敬意と感謝の念を常に忘れず責任ある態度をもって保秘は厳守する。
学生の達成目標	1.福祉施設において利用者はどのような介護ニーズをもって生活しているか理解する。 2.福祉施設において職員は利用者の介護ニーズに応えるためにどのような支援をしているか理解する。 3.心身に関して介護を要する児童の利用者が福祉施設においてどのように日中を過ごしているか理解する。

授業内容	* 実習時期 ・ 児童福祉施設：8月～9月 ・ 認知症高齢者グループホーム：8月～9月 * 実習日数 ・ 児童福祉施設において1日の実習をおこなう。 ・ 認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）において5日の介護実習をおこなう。 * 実習先と実習形態（学校で指定した実習先に学生を配属する） ・ 児童福祉施設における実習：肢体不自由や知的障害のある児童が通ったり居住したりする福祉施設における日勤時間帯の実習 ・ 認知症高齢者グループホーム：1ユニット9人以下で利用者が共同生活するグループホームにおける日勤時間帯の実習	
予習・復習の内容	予習	グループホーム・児童福祉施設について調べておくこと。介護総合演習での学びを生かし実習目標を作成しておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	グループホーム・児童福祉施設に関する最新の情報を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者(50%)と教員(50%)の評価に基づき決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き（本学実習委員会編）	
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3195-8
参考URL		
備考		

介護実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅱ
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 川村 博子 清宮 宏臣 中西 正人 松井 奈美 石原 富子 山田 美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20003005
教室	
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 実習の手引きと教員からの指示に基づきつつ、実習先の指導方針と実習方法に従って実習する。 2. 学校の巡回指導担当教員と実習先の実習指導者に実習状況について報告・連絡・相談し指導と支援を得られるようにする。 3. 利用者のプライバシーにかかわり学んでいくことから、敬意と感謝の念を常に忘れず責任ある態度をもって保秘は厳守する。
学生の達成目標	1.介護過程の展開実習を通して利用者を全人間的に支援するかわりの重要性を理解する。 2.実際に真のニーズを理解しそれに応えていくために生活支援技術をいかに生かしていったらよいかを理解する。 3.ホームヘルプ、デイサービス、ショートステイなどの居宅生活支援事業の重要性を理解する。

授業内容	* 実習時期：10月（定められた実習期間が終了し次第後期授業開始となる） * 実習日数：合計20日 {目標1・2・3} ・入居生活する福祉施設において30日の期間中に18日の介護過程の展開実習をおこなう。 ・ホームヘルパーと同行するなどして介護過程の展開実習と同じ30日の期間中に2日の居宅介護実習をおこなう。 * 実習先と実習形態（学校で指定した実習先に学生を配属する） ・介護過程の展開実習：入居生活する福祉施設における、早番、遅番、夜勤などの勤務時間の違う実習 ・居宅介護実習：訪問介護または訪問入浴介護事業所からの同行訪問、支援センターでの支援業務のいずれかの実習 ※なお、上記と同じ期間において、実習先の状況や学生の学習状況によって、デイサービスやデイケアなどの通所事業所の実習を実施する場合もある。	
予習・復習の内容	予習	介護過程についての事前学習を振り返る。介護技術の総点検を行い、自分の課題を明確にしておく。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	「介護観」として「介護論」理解のため、文献学習を行い、知識の定着をはかる。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者(50%)と教員(50%)の評価に基づき決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き(本学実習委員会編)	
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪田孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3195-8
参考URL		
備考		

発達と老化の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達と老化の理解 I
科目責任者	丹羽 真里
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003301 土1,2
教室	中講義室
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 高齢者の特徴を心理学的知見をもとに概説し、高齢者の生活支援の環境や支援者のありかたについて理解する。

学生の達成目標 1.高齢者の心理学的特徴を理解する。
2.高齢者支援の環境や課題を理解する。
3.高齢者支援に関わる支援者のあり方を理解する。

授業内容

第1回	講義及びレポート等のガイダンス、高齢社会と高齢者の心理(目標1)
第2回	高齢社会と高齢者の心理学 高齢者の健康、長寿とライフスタイル(目標1,2)
第3回	老化と認知症について ビデオを観て学ぶ(目標1,2,3)
第4回	高齢者の認知症と精神疾患(1)(目標1,3)
第5回	高齢者の認知症と精神疾患(2)(目標1,3)
第6回	身体・生理・心理機能の加齢変化(目標1)
第7回	高齢者支援に関わる支援者(1)ビデオを観て学ぶ(目標3)
第8回	高齢者支援に関わる支援者(2)ビデオを観て学ぶ(目標3)
第9回	高齢者の知能・創造性・知恵の発達(目標1)
第10回	高齢期の人格、自己概念の特徴(目標1)
第11回	適応理論とサクセスフルエイジング(目標1)

	第12回	高齢期の家族，対人関係と社会生活(目標 1)
	第13回	高齢者の支援(1)(目標 1, 2, 3)
	第14回	高齢者の支援(2)(目標 1, 2, 3)
	第15回	発達と老化の理解のまとめ
予習・復習の内容	予習	高齢者に関わる事象に日常から関心を持ち，関連する資料や報道について理解する。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	授業で扱った事柄の中から，興味や関心を持った領域についてさらに調べ，理解を深める。
成績評価	評価の基準	高齢者の心理・社会的状況を理解する。授業の内容をもとに高齢者支援の基本的な知識の有無を成績評価の基準とする。
	評価の方法	平常点50%，レポート50% ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	発達と老化の理解
	著者名	(編集)介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3422-0
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達と老化の理解Ⅱ
科目責任者	井口 ひとみ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003405 木2
教室	ラーニング・ジェムズ 1
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。学生は、課題学習もしながら、主体的な学びができるようにする。

学生の達成目標

1. 老化による身体的変化やライフサイクルの中における老年期について理解できる。
2. 高齢者に起こりやすい疾病の特徴および日常生活での留意点などが理解できる。
3. 他職種との連携について理解できる。

授業内容

第1回	ガイダンス 人間の成長と発達の理解 (目標1)
第2回	身体機能の発達 (目標1)
第3回	心理社会的発達社会 (目標1)
第4回	社会からみた老年期 社会は老年期をどうとらえてきたか (目標1)
第5回	社会からみた老年期 (目標1) 高齢者施策の推移
第6回	社会からみた老年期 (目標1) 今日の老年期をめぐる問題
第7回	ライフサイクルの中の老年期 (目標1)
第8回	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 老化に伴う心身の変化 (目標2)

	第9回	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 日常生活への影響（目標2）
	第10回	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 機能低下の予防（目標2）
	第11回	高齢者に多い症状と日常生活での留意点（目標2）
	第12回	高齢者に多い病気と日常生活での留意点（1）（目標2）
	第13回	高齢者に多い病気・日常生活での留意点（2）（目標2）
	第14回	要介護高齢者にかかわる介護福祉士と保健・医療職との連携（目標3）
	第15回	要介護高齢者の介護で出合う病気 まとめ（目標1～3）
予習・復習の内容	予習	日常生活の中で「発達」「老化」に関心を持ち、考えを深めることができる。 テキストは最低限予習し、疑問点を明らかにする。
	復習	他の教科(前期)で学んだことも統合できるよう学びを深める。
	展開	老化について理解を深め、特徴を理解したうえで日常生活での留意点について知識を深める。
成績評価	評価の基準	テスト及び課題レポートを総合する。
	評価の方法	テスト70%、課題レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書9
	著者名	林泰史他
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2592円
	ISBN・ISSN	9 7 8 - 4 - 8 3 9 2 - 3 1 9 6 - 5
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解 I
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003505 火1
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	認知症のある人を取り巻く社会環境を知るとともに、医学的視点に基づく認知症の症状理解を行う。認知症のある人および家族支援について学ぶ。
学生の達成目標	1 認知症ケアの歴史を理解する。 2 医学的視点に基づく認知症の症状・検査診断を理解する。 3 認知症のある人と家族への支援について学ぶ。

授業内容	第1回	認知症ケアの歴史的変遷（認知症の疫学、施策も含む）その I {目標1}
	第2回	医学的側面からの認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴） {目標2}
	第3回	認知症の検査や治療法を理解 {目標2}
	第4回	中核症状と周辺症状の特徴的理解 その I 記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他 {目標2}
	第5回	中核症状と周辺症状の特徴的理解 その II 徘徊・妄想・食行動異常・その他 {目標2}
	第6回	認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性） {目標2, 3}
	第7回	コミュニケーション障害としての認知症 {目標2, 3}
	第8回	認知症のある人が抱える心理的な問題（不快、不安、混乱、被害感等） {目標2, 3}

	第9回	認知症のある人にみられるさまざまな行動（徘徊，異食，妄想，介護拒否等）〔目標2，3〕
	第10回	BPSDの出現原因，介護者との関係〔目標2〕
	第11回	認知症のある人の家族の心理と障害受容〔目標3〕
	第12回	認知症のある人を介護する家族への支援〔目標3〕
	第13回	若年性認知症のある人と家族の支援 そのⅠ〔目標3〕
	第14回	若年性認知症のある人と家族の支援 そのⅡ〔目標3〕
	第15回	学生による発表と討論〔目標1・2・3〕
予習・復習の内容	予習	認知症に関連する報道に関心を持ち，学習すること。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。
	評価の方法	レポート提出（20％）期末テスト（80％）
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解Ⅱ
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003605 月1
教室	講義室3
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	認知症ケアの実際と今後の課題について学習する。 最新の認知症ケアの取り組みにも触れ、家族介護者に対するアドバイスもできるように授業展開をする。
-----------	--

学生の達成目標	1.認知症ケアに関する基礎的知識を習得する。 2.認知症ケアの今後の展望について理解する。 3.認知症の心理療法・予防について理解する。
---------	--

授業内容	第1回	認知症ケアの理念について {目標1}
	第2回	パーソンセンタードケアについて そのⅠ {目標1}
	第3回	パーソンセンタードケアについて そのⅡ {目標1}
	第4回	ユマニチュードそのⅠ {目標1}
	第5回	ユマニチュードそのⅡ {目標1}
	第6回	認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 そのⅠ {目標1}
	第7回	認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 そのⅡ {目標1}
	第8回	認知症の心理療法 {目標3}Ⅰ
	第9回	認知症のある人のケアマネジメント センター方式 {目標1}
	第10回	認知症介護ひも解きシート {目標1}
	第11回	認知症の予防 {目標3}

	第12回	認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 そのⅠ {目標2}
	第13回	認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 そのⅡ {目標2}
	第14回	認知症ケアの今後の課題 {目標2}
	第15回	学生による発表と討論 {目標1・2・3}
予習・復習の内容	予習	認知症に関連する報道に関心を持ち、学習すること。テキスト（特に認知症のケアの部分）を事前に読むこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果、図書や研究成果、国の政策などを調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。
	評価の方法	テスト（20％）小論文（80％）により評価する。
教科書	書籍名	新・介護福祉士講座12 認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害の理解

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解
科目責任者	川村 博子
担当教員	松井 奈美
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003805 火2
教室	講義室5
卒業要件	介護福祉専攻：必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	障害の概念、障害者福祉の理念、身体障害、精神障害・知的障害等の種類と原因及び障害特性、家族への支援のあり方を理解する。	
学生の達成目標	1.障害のある人の心理に関する基礎的知識を学ぶ。 2.障害のある人の日常生活上の課題を理解する。 3.本人および家族を含めた生活支援の留意点・自立に向けた介護のあり方を理解する。	
授業内容	第1回	障害の概念 (目標1)
	第2回	障害福祉の基本理念 (目標1)
	第3回	障害福祉の基本理念 (目標1)
	第4回	視覚障害のある人の理解 (目標2)
	第5回	聴覚・言語障害、重複障害のある人の理解 (目標2)
	第6回	肢体不自由のある人の理解 (目標2)
	第7回	内部障害のある人の理解 (目標2)
	第8回	難病のある人の理解 (目標2)
	第9回	障害のある人の介護の留意点の理解 (目標2)
	第10回	精神障害のある人の理解 (目標2)

	第11回	精神障害のある人の理解 (目標2)
	第12回	高次機能障害のある人の理解 (目標2)
	第13回	発達障害のある人の理解 (目標2)
	第14回	家族への支援 (目標2)
	第15回	地域におけるサポート体制、まとめ (目標2)
予習・復習の内容	予習	事前にテキストで授業範囲を確認し、一読しておくこと。
	復習	レジュメや講義内容をメモした自筆ノートを再読すること。
	展開	障害当事者が書いた書籍を読み理解を深める。
成績評価	評価の基準	定期試験、レポート、受講態度により総合的な評価を行う。 【担当教員の評価割合】 川村：60% 松井：40%
	評価の方法	定期試験100%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座13 障害の理解」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5115-9
推薦図書等	書籍名	最新 介護福祉全書11 『障害の理解』
	著者名	谷口 敏代（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3198-9
参考URL		
備考	・ 第1回～第3回、第10回～第15回の授業担当者：川村 ・ 第4回～第9回の授業担当者：松井 ・ 定期試験は全授業終了後に実施する。	

こころとからだのしくみ I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみ I
科目責任者	大野 孝則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004005 金2
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	こころとからだのしくみの基礎と代表的疾患について講義。
学生の達成目標	こころとからだのしくみの基本と代表的障害を学び，care workerとして必要な知識を習得する。

授業内容	第1回	欲求，自己概念，尊厳，自己決定
	第2回	細胞，生体膜，核，DNA，ATP
	第3回	組織（上皮，支持，筋，神経）
	第4回	血液，ホメオスタシス
	第5回	皮膚，骨格，筋系の解剖と生理
	第6回	循環器系，呼吸器系の解剖と生理
	第7回	消化器系の解剖と生理
	第8回	腎・泌尿器系，内分泌系の解剖と生理
	第9回	脳・神経系の解剖と生理
	第10回	脳・神経系の解剖と生理
	第11回	脳・神経系の解剖と生理
	第12回	感覚器系の解剖と生理
	第13回	疾病（障害）と介護（感染症，免疫）

	第14回	疾病（障害）と介護（悪性腫瘍，虚血系心疾患，脳血管障害）
	第15回	疾病（障害）と介護（高血圧，糖尿病など）
予習・復習の内容	予習	講義の最後に，次回講義の予告をする。予告したものを予習する。
	復習	講義の最後にまとめたものを復習する。
	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験（100%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	樋口隆，河田光博
	出版社	南江堂
	価格	3,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-524-22054-0 C3047
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅡ
科目責任者	井口 ひとみ
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004105 金1
教室	テニグ・JEN1
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できる。
-----------	--

学生の達成目標	1.人体各部の名称と、日常生活に関連した身体の仕組みと心について理解できる。 2.将来的に介護技術を行う際に身体の仕組みやこころについて関連付けて考えることができる。
---------	--

授業内容	第1回	人体部位の名称、生命の維持のしくみ（目標1）
	第2回	人体部位の名称、生命の維持のしくみ（目標1）
	第3回	移動に関連した解剖生理（目標1）
	第4回	移動に関連したこころのしくみ・ボディメカニクス（目標2）
	第5回	食事に関連した解剖生理（目標1） 機能低下が食事に及ぼす影響
	第6回	栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点（目標2）
	第7回	入浴、清潔保持に関連した解剖生理 皮膚のしくみ・頭髮のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響（目標1）
	第8回	入浴、清潔保持の実際（目標2）
	第9回	身じたくの関連した解剖生理 機能低下が身じたくに及ぼす影響（目標1、2）

	第10回	身じたくの関連したところのしくみ（目標2）
	第11回	排泄に関連した解剖生理（目標1） 機能低下が排泄に及ぼす影響
	第12回	排泄に関連したところのしくみ（目標2）
	第13回	睡眠の構造と睡眠障害 睡眠に関連したところのしくみ（目標1，2）
	第14回	終末期の心身の状況・死後の変化 死に対するところの理解（目標1，2）
	第15回	疑似体験を通して相手の立場を理解する（目標1，2）
予習・復習の内容	予習	生活を行ううえでの身体の仕組みや心について，関連する図書を読んだりしておく。 テキストも事前に目を通しておくこと。
	復習	解剖生理と介護援助を関連づけて考えることができるようにする。
	展開	機能低下が日常生活に及ぼす影響について，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	テスト及び課題レポートを総合する。
	評価の方法	テスト（70%），課題レポート（30%）
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第12巻ところとからだのしくみ
	著者名	小坂橋喜久代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3456円
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3199-6
推薦図書等	書籍名	カラー人体解剖学
	著者名	F. H. マティアーニ他
	出版社	西村書店
	価格	7,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8913-305-5
参考URL		
備考		

医療的ケア I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	医療的ケア I
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 山田 美知代
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014501 火4,木5
教室	講義室7, 介護実習室
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	医療的ケアの概要・基本的な知識の理解ができる。 福祉職が医療的ケアを行う意義そして医療職との連携の重要性が理解できる。	
学生の達成目標	1. 医行為における介護者の役割がわかる。 2. 医療的ケアの基礎知識について理解できる。 3. 医行為を安全に行うためのリスクマネジメントについて理解できる。	
授業内容	第1回	人間と社会 {目標1}
	第2回	健康状態の把握 {目標1.2}
	第3回	消化器のしみ {目標2}
	第4回	消化、吸収とよくある症状・経管栄養について {目標2}
	第5回	経管栄養のしくみ・注入する内容について {目標2}
	第6回	経管栄養実施上の留意点・こどもの経管栄養 {目標2.3}
	第7回	こどもの経管栄養・感染予防 {目標2.3}
	第8回	利用者、家族の気持ちの理解・安全確認 {目標2.3}
	第9回	事故発生予防、対策 {目標1.3}
	第10回	呼吸器のしくみ {目標2}

	第11回	呼吸の異常と対策 {目標 1.2}
	第12回	人工呼吸器と吸引 {目標 1.2.3}
	第13回	子どもの吸引」・家族の気持ち {目標 2}
	第14回	喀痰吸引によって生じる危険、安全確認 {目標 1.2.3}
	第15回	喀痰吸引によって生じる危険、安全確認 {目標 1.2.3}
予習・復習の内容	予習	既習の関連科目に目を通し、確認しておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめること。
	展開	介護職への医行為導入に至る社会情勢について理解する。 医療的ケアⅡとあわせて知識を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、レポート 30%
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,376円 (税込)
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3944-7
推薦図書等		
参考URL		
備考		

医療的ケアⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2016年度
科目区分	専門科目
授業科目名	医療的ケアⅡ
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子 山田 美知代
授業形態	講義・演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20014601 (前期)木5 (後期)木4,5
教室	(前期) 講義室7, 介護実習室 (後期) 講義室7
卒業要件	介護福祉専攻： 必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 医療的ケアにおける安全対策がとれ、手技・手順が理解できる。

学生の達成目標
 1.医療的ケアについて介護職の役割と連携が理解できる。
 2.シュミレーターを用いて経管栄養が効果的に行える。
 3.シュミレーターを用いて喀痰吸引が効果的に行える。

授業内容	第1回	保健医療チーム制度、法律とチーム医療{目標1}
	第2回	チーム医療と介護職員の連携・喀痰吸引、経管栄養の安全な実施 {目標1.2.3}
	第3回	経管栄養の安全な実施 {目標2}
	第4回	救急蘇生法 {目標2.3}
	第5回	救急蘇生法 (演習) {目標2.3}
	第6回	感染予防{目標1.2.3}
	第7回	滅菌と消毒 (演習) {目標2.3}
	第8回	健康状態の把握、利用者・家族の気落ちの理解、安全確認 {目標1.2.3}
	第9回	経管栄養で用いる器具・器材とその仕組み {目標2}

	第10回	経管栄養の技術とその留意点 そのⅠ {目標2}
	第11回	経管栄養の技術とその留意点 その2 {目標2}
	第12回	経管栄養の技術とその留意点その3 {目標2}
	第13回	経管栄養に必要なケア・記録・報告 その1 {目標1.2}
	第14回	経管栄養に必要なケア・記録・報告 その2 {目標1.2}
	第15回	経管栄養の技術(演習) その1 {目標1.2}
	第16回	経管栄養の技術(演習) その2 {目標1.2}
	第17回	経管栄養の技術(演習) その3 {目標1.2}
	第18回	喀痰吸引に用いる器具・器材とその仕組み {目標3}
	第19回	喀痰吸引の技術と留意点 その1 {目標3}
	第20回	喀痰吸引の技術と留意点 その2 {目標3}
	第21回	喀痰吸引の技術と留意点 その3 {目標3}
	第22回	喀痰吸引に伴うケア・記録・報告 その1 {目標1.3}
	第23回	喀痰吸引に伴うケア・記録・報告 その2 {目標1.3}
	第24回	喀痰吸引の技術(演習) その1 {目標1.3}
	第25回	喀痰吸引の技術(演習) その2 {目標1.3}
	第26回	喀痰吸引の技術(演習) その3 {目標1.3}
	第27回	評価について{目標1.2.3}
	第28回	技術演習(演習) {目標1.2.3}
	第29回	技術演習(演習) その1 {目標1.2.3}
	第30回	技術演習(演習) その2 {目標1.2.3}
予習・復習の内容	予習	「既習の関連」科目に目を通し、確認をしておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	介護職への医行為導入に至る社会情勢を理解する。 医療的ケアⅠと合わせて理解を深め、技術の習得を目指す。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について、授業内容を踏まえ適確に説明できること又は、実践できることを基準とする。
	評価の方法	筆記・実技試験(100%)で判定する。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 15医療的ケア
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,376円(税込)
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3944-7
推薦図書等		
参考URL		
備考		